

職務 職權調査 處分

二五三條ノ犯罪ヲ構成ス(大判)..... 刑法五六

○專賣局池田製造所琴平支所長タル被告ニ於テ其管内ニ於ケル煙草元賣捌人指定ノ申請ニ付キ適否ノ意見ヲ附シ之ヲ專賣局長官ニ進達スル職務ヲ有スルモノト判示シタル原判決ハ相當トス(大判)..... 刑法九〇

職權調査

○貸地料ノ延滞等有之候ハハ差引殘額返戻可致候猶貴殿ニ於テ別紙契約ニ背キ勝手ノ行爲アリタルトキハ違約金トシテ拙者ニ沒收シ毫モ返金ノ義務無之契約ナリトアルハ契約ノ解釋ニ關スル原院ノ職務ニ專屬ス(大判)..... 民法二二  
○事實タル商慣習ハ所謂實踐上ノ原則ニ屬ス實踐上ノ原則ハ法律規則ト等シク上告裁判所ノ判斷ニ屬ス(東控)..... 民訴五五  
○裁判官ノ認定ニ當リテハ事實タル慣習ハ慣習法ト異ナリ裁判官カ職權上調査スヘキ事項ニ在ラス其認定ヲ誤リタル裁判官ノ認定ヲ誤リタルモノニ非サレハ上告ニ適用ナリ(鳩山學士、竹田學士)..... 民訴五七

書記

○控訴審ニ於テハ新ナル請求ナリヤ否ヤハ裁判所ノ職權調査ニ屬ス(大判)..... 民訴八〇

處分

○「讓渡」ヲモ見ヨ  
○權利者ノ同意ヲ得テ無權利者ノ爲シタル處分行爲ハ有效ナリ(石坂博士)..... 民法八九  
○相當ノ期間内自己ノ所有物ヲ處分セザル旨ノ契約ハ有效ナルモノトス(東控)..... 民法九一  
○契約ヲ以テ地上權ノ賣買ヲ禁スルカ如キハ地上權者ノ權利ヲ制限シタルモノトス而シテ此制限ハ公益ヲ害セザルニ付當事者ハ有效ニ新カク契約ヲ締結シ得ヘク唯之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルニ過キス(大審院)..... 民法九二  
○契約ヲ以テ永久ニ所有物ノ處分ヲ禁スルハ所有者及其子孫ヲシテ絕對ニ所有者タルノ實ヲ失ハシムルノミナラス物ノ改良融通ヲ阻遏スルニ至リ社會經濟上ノ利益ヲ害スルヲ以テ公益ニ反スル契約トシテ無効ナリ(大判)..... 民法九二  
○親權ヲ行フ母ハ第六〇二條貸借借借ニ所

謂處分ノ能力又ハ權限ナキ者ニ非ス(東地)..... 民法四一一  
○處分ノ權限ナキ者トハ管理行爲ノモヲ委任セラレタル代理人權限ノ定メナキ代理人ノ類ヲ云フ(横田博士)..... 民法四一二  
○差押物ニ對スル處分行爲ハ絕對的無効ニアラサルモ差押債權者ニ對シテ何等效力ヲ生セス競落ノ結果競落人ハ之ニヨリテ完全ナル所有權ヲ取得ス第三者若クハ轉得者其所有權ヲ喪失ス(東地)..... 民訴一三九  
○地上權ヲ設定スルハ明治六年布告第二四九號同九年教部省第三號ノ所謂處分ニ包含ス(大審院)..... 諸法四八

書記

○特別ノ規定ナキ限り契印ハ書類ノ作成者ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ足り豫審調査ハ裁判所書記ノ契印ニテ足ル(大判)..... 民法一〇二  
○豫審調査ヲ閱スルニ書記代署ト記載シアルハ之ヲ無効トナス可キモノニ非ス(大判)..... 刑訴二六  
○送致書ニ付テハ一定ノ形式ヲ裁判所書記カ之ニ署名捺印スルコトハ必要ノ條

除却權

○民法第四一四條第三項ノ規定モ亦強制執行ノ方法ヲ定メタルニアラスシテ第二項ト同シク創設判決及ヒ其權利保護要件ヲ定メタルモノト解ス(雄本博士)..... 民法三八

○學者ハ民訴法第七三三條ノ規定ヲ以テ強制執行ノ方法ヲ定メタル規定ナリト解スルチ常トス吾人ハ小數學者ト共ニ本條ヲ以テ強制執行ニ關スル規定ナリト雖モ執行方法ヲ定メタル規定ニハアラス強制執行ノ代用トナリ之ヲ省略スル方法ナリト解ス(雄本博士)..... 民法三九

○民訴法第七三三條ノ決定ニ依リテ代答權除却權又ハ適當ナル處分ヲ爲ス權利カ創設セラレタル場合ニ於テ債權者カ此權利ニ基キテ自ら代答作爲除却行爲若クハ適當ナル處分ヲナシ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルハ論ナシト雖モ夫レハ執行行爲ニアラス(雄本博士)..... 民法四〇

署名

○偽造署名ノ行使ニ付テハ(コ)ヲ見ヨ

シ 除却權 署名

○尙ホ「偽造」ヲモ見ヨ

○署名ハ氏名ヲ以テスルチ本則トスルモ商號ヲ以テスルモ不可ナク字義ニ拘泥シテ署名ト云ヘルカ故ニ商號タル能ハスト云フヘカラス(松波博士)..... 商法三〇二  
○署名偽造罪ノ署名ハ法律事項ニ關セザルモ成立ヲ妨ケス(大判)..... 刑法三〇  
○雅號ノ偽造モ署名偽造ト云フコトヲ得(大判)..... 刑法三〇  
○書畫ノ落款偽造ハ署名偽造ナリ(大判)..... 刑法五二  
○保證文句ノ記載ナキ借用證書ニ保證人ト肩書シテ或氏名ヲ偽造シタルハ署名偽造ノミニ非ラス文書偽造ナリ(大判)..... 刑法六八  
○印章若クハ署名ヲ使用シテ有價證券ヲ偽造シタル者ハ有價證券偽造罪ノミニ問擬シ御國屋又ハ御名ヲ使用スル等手段タル行爲ニ對スル罪重キトキハ第一六四條ノ刑ニ從ヒ處斷ス(大場博士)..... 刑法一〇八  
○商號ノ使用モ亦刑法第一五九條ニ所謂他人ノ署名ノ使用ニ該當スルモノトス(大判)..... 刑法一七一

○苟モ一定ノ人カ自己ヲ表彰スル爲メ用フル處ノ名稱ナル以上ハ其氏名ヲ記載スルト商號其他ノ符號ヲ記載スルトト問ハス刑法上之ヲ署名ト認ムヘキモノナリ(大審院)..... 刑法一七二

○本罪ノ客體タルヘキ署名ハ自署ノミニ非ラスシテ一般ニ人格者ノ氏名又ハ名稱ノ記載ナリ(大場博士)..... 刑法一七二  
○印鑑證明ヲ受クル爲メ紙片ニ他人ノ氏名ヲ肩書シ上部ニ其者ノ實印ヲ捺シタル者ハ刑法第一五九條第一項ヲ以テ處斷スヘキモノトス(大判)..... 刑法二一九  
○單ニ落款ヲ偽造シ偽印ヲ押用シタルノミノ繪畫ヲ行使シタルハ印章署名ノ偽造行使トナルモ文書圖畫ノ偽造又ハ行使トナルコトナシ(大判)..... 刑法二八三  
○文人墨客カ額又ハ掛物ノ書畫ニ用フル落款又ハ雅號若クハ藝人ノ用フル藝名ノ如キハ法律ノ保護スル印章又ハ署名ニアラス(山岡ドクトル)..... 刑法二八四  
○署名ハ法律上關係アル事實認證ノタメ自署シタル名義ナリ(泉二學士)..... 刑法二八五  
○私人ノ署名トハ自然人ノ氏名ノ記載若

署名 署名捺印 庶子

書狀 私訴

私訴

○公務所ニアラサル法人ノ名稱ノ記載  
ナク(大場博士)……………刑法二八五  
○甲書工アリ玉章ノ落款ヲ偽造シテ或繪  
畫ヲ描寫シ之ヲ乙ニ賣却シタリトセハ結  
局刑法第二四六條第一項詐欺取財罪ヲ以  
テ論スルヲ正當トス(宮本英雄氏)……………  
刑法四三一

署名ノミノ裏書

○裏書ヲ見ヨ

署名捺印

○繪畫ニ題シタル贊チ某ノ時、所ニ於テ  
爲シタルコトヲ記載シ且ツ其署名捺印ヲ  
偽造スルハ第一五九條ノ罪ヲ成立ス(大  
判)……………刑法五一

庶子

○私生子庶子ト雖モ養子トナスコトヲ得  
(法曹)……………民法二二二

書狀

○匿名書狀ヲ踏切番監督職權ヲ有スル糸  
時保線區主任ニ宛郵送到着セシメタル被  
告ノ所爲ヲ誣告罪ナリト問擬シタルハ相  
當ナリ(大判)……………刑法一一〇  
下調處分  
○「重罪」ヲ見ヨ

私訴 持續犯 實印 失火 實用新案 執達吏

テ控訴裁判所カ第一審判決ノ記載ヲ授用  
シテ當事者ノ事實ノ摘要ニ代ヘタルハ相  
當ナリ(大審院)……………刑訴一三五  
○私訴ヲ公訴ニ附帯セシムル以上ハ公訴  
ト共ニ之ヲ進行セサル可カラサルヲ以テ  
從テ民事訴訟法ニ從フコトヲ原則ト爲ス  
サ得サルヘシ私訴ハ本法ニ從フヲ原則ト  
シ本法ニ規定ナキモノハ條理ニ依ルヘキ  
モノナリトス(豊島博士)……………刑訴一三五  
○刑事訴訟法ニ於テ特ニ民事訴訟法ニ依  
ルヘキコトヲ定メタル場合ヲ除キ他ノ諸  
點ニ關シテハ私訴ニ付キ凡テ公訴ニ關ス  
ル規定ヲ適用セサル可カラス公訴ニ關ス  
ル規定ヲ以テ解決シ能ハサル點(例之私  
訴當事者ノ訴訟能力)ハ條理ニ由リテ之  
ヲ解決スル外ナシ(富田學士)……………  
刑訴一三五

○第一審ノ私訴判決相當ニシテ控訴理由  
ナキ場合ニ於テ大審院カ第二審判決ヲ破  
毀シ直チニ判決ヲナスヘキトキハ刑訴法  
第二六一條第一項ニ依リ控訴棄却ノ旨渡  
シ爲スヘキモノトス(大判)……………刑訴一六五  
○公訴事實ニ付キ無罪ノ旨渡シ爲ス場合  
ニ於テモ私訴ニ付テハ當事者間ノ實體的  
權利關係ニ付キ審判スヘキモノトス(大  
判)……………刑訴一七七  
○大赦ハ刑法上ノ效果ヲ全減スルノミニ  
シテ犯罪ニ依ル被害事實ヲ消滅セシムル  
コト能ハサルカ故ニ被害者ノ損害賠償權  
ヲ奪スルモノニ非ス(泉二學士、山岡ドク  
トル、藤本博士、小崎學士)……………諸法一三七

○連續犯ト等シク一罪ヲ構成スル行爲ニ  
シテ而カモ其性質ヲ異ニスルモノアリ所  
謂持續犯及集合犯之レナリ所謂集合犯ト  
ハ同種類ノ數個ノ行爲ノ存在スルコト若  
クハ同種類ノ數個ノ行爲カ目的トサレタ  
ルコトヲ成立要件トスル犯罪ヲ謂フモノ  
ニシテ營業犯職業犯及慣行犯ノ三種ヲ包  
括ス(泉二學士)……………刑法二四五  
○家政不如意ノ爲メ家出セル夫カ不在中  
其實印ヲ妻ニ所持セシメ置キタルニ妻カ  
夫ノ實印ヲ使用シテ不動産ノ賣渡抵當ヲ  
爲シタルトキニ於テハ其行爲ノ相手方ハ  
妻ニ當該行爲ノ代理權アリト信スヘキ正  
當ノ理由ヲ有シタルモノナリトス(東控)  
……………民法七三三

失火

○火災其他ノ物ヲ爆發セシメ因テ損害ヲ  
生セシメタル場合ノ賠償責任ハ失火ノ例  
ニ依ラス(大判)……………民法六二  
○爆發ヨリ生セル強壓力ノ作用ニ因ル財  
産ノ破砕毀損モ同ク失火ニ原因ス(石坂  
博士)……………民法三〇一

實用新案

○實用新案權者カ他人ノ實施スル考案ヲ  
以テ自己ノ權利範圍ニ屬スルモノナリト  
主張シ其範圍確認審判ヲ請求シタル場合  
ニ於テハ審判ノ當時ニ在リテハ現ニ係争  
ノ考案ヲ實施シ居ラサルトキト雖モ尙ホ  
權利範圍確定ノ必要アリ(大判)……………  
諸法四四

執達吏

○執達吏カ強制執行ヲ爲スニ際シ遵守ス  
ヘキ手續ニ背キ執行ヲ爲スモ適當ノ時期  
ニ異議ノ申立ナキトキハ該執行ヲ爲ハ確

○刑事訴訟法上告訴又ハ告發ノ方式ニ適  
セサル場合ニ於テモ刑訴第一三條ノ適用  
ヲ受ク(大判)……………民法三三七  
○私訴ノ時効期間ハ公訴ノ時効期間ト同  
一ナリト云フ可カラス(長野地)……………  
民法三七四  
○請求者カ立證上文書ヲ偽造シテ之ヲ提  
出行使シ行政裁判所ノ當該吏員ヲ錯誤ニ  
陷レ因テ勝訴ノ判決ヲ受クルニ於テハ因  
テ生シタル損害ハ文書偽造行使ノ非行ヲ  
爲シタル者ニ於テ賠償ノ責ニ任セサル可  
ラス(大判)……………刑法四二  
○私訴ハ其手續ニ於テ民事訴訟法ニ依ラ  
スト雖モ其性質ハ民事訴訟ナリ只便宜上  
公訴ニ附帯スルコトヲ得セシメタルニ過  
キサレハ之レカ爲メニ其性質ヲ變更スヘ  
キモノニ非ス(大判)……………民訴三三一  
○單一其免訴又ハ無罪ノ旨渡アリタル場  
合ノミニ限ラス不起訴處分若クハ執行猶  
豫ノ場合モ亦刑訴第一三條中ニ包含ス可  
キモノトス(大判)……………民法三三七  
○告訴告發ニ對シテ國家刑罰權ノ實行ヲ  
容易ナラシムル爲メ其犯罪申告ヲ獎勵ス

ヘキ性質ノモノニシテ之カ申告者ニ惡意  
若クハ重過失存スルニアラスハ縱シ全  
然不實又ハ過當ノ訴追ナリトスルモ之カ  
要價ヲ求ムルヲ得サルコトハ刑訴第一三  
條ニ明文アリ(横濱地)……………刑訴五  
○犯罪ニ因ル損害ノ賠償トシテ辯護士ニ  
支拂フヘキ告發委任ノ報酬ヲモ請求シ得  
ヘシ(大判)……………刑訴一九  
○受託者ヲ欺罔シ受託物ヲ騙取シタル場  
合ハ委託者カ之ニ因リテ生シタル損害賠  
償ヲ私訴ニヨリテ請求シ得ヘキハ勿論ナ  
リ(大判)……………刑訴七二  
○商行為ノ代理人ニ對スル詐欺ニ於テ其  
本人ハ被害者ナルヲ以テ私訴ヲ提起スル  
コトヲ得(大阪控)……………刑訴七四  
○私訴ニ付キ訴訟代理權ヲ有セサル者ノ  
爲シタル訴訟行爲ヲ追認シ將來ニ向テ代  
理權ヲ附與スルコトハ刑事訴訟法ノ明文  
ヲ俟タスシテ法理上當然認容スルヲ得ヘ  
キモノニシテ民事訴訟法第四五條ヲ適用  
スヘキモノニアラス(大判)……………刑訴一三三  
○公訴ニ附帯スル私訴ハ其性質並ニ刑事  
訴訟法ノ規定上反對ノ結果ヲ生セサル限  
リ民事訴訟ノ手續ニ依ルコトヲ妨グス從

シ 執達吏 會社 失踪 私通 失權 實驗則

定スルヲ以テ後日之カ取消ヲ求ムルコトヲ得ス(弘前區)..... 民法二一九

失踪

○失踪宣告ハ權利能力喪失ノ原因ナリ(石坂博士)..... 民法一九

私通

○事實上ノ夫婦トシテ同様シタル結果婦ノ勤務ニ對シ財産上ノ給付ヲ爲スヘキ旨ヲ約シタル場合ハ之ヲ報酬ト解スルヲ得

失權

○我民法ニ在リテハ婚姻外ノ同衾ヲ爲シタル男女間ニ身分上又ハ契約上ノ權利義務發生スルコトナキハ勿論別段ノ規定ニ

私通

○事實上ノ夫婦トシテ同様シタル結果婦ノ勤務ニ對シ財産上ノ給付ヲ爲スヘキ旨ヲ約シタル場合ハ之ヲ報酬ト解スルヲ得

失權

○我民法ニ在リテハ婚姻外ノ同衾ヲ爲シタル男女間ニ身分上又ハ契約上ノ權利義務發生スルコトナキハ勿論別段ノ規定ニ

私通

○事實上ノ夫婦トシテ同様シタル結果婦ノ勤務ニ對シ財産上ノ給付ヲ爲スヘキ旨ヲ約シタル場合ハ之ヲ報酬ト解スルヲ得

失權

○我民法ニ在リテハ婚姻外ノ同衾ヲ爲シタル男女間ニ身分上又ハ契約上ノ權利義務發生スルコトナキハ勿論別段ノ規定ニ

私通

○事實上ノ夫婦トシテ同様シタル結果婦ノ勤務ニ對シ財産上ノ給付ヲ爲スヘキ旨ヲ約シタル場合ハ之ヲ報酬ト解スルヲ得

失權

○我民法ニ在リテハ婚姻外ノ同衾ヲ爲シタル男女間ニ身分上又ハ契約上ノ權利義務發生スルコトナキハ勿論別段ノ規定ニ

シ 實驗則 實父 執行 執行異議 執行方法

命令ナルト明示法ナルト默示法ナリトナ間ハ其之ニ關スル規則ハ皆法則ニ屬ス

實父

○家ヲ同シクセサル者ハ假令實父ト雖モ其同居スル所ノ子ヲ代表スル權限ナシ

執行

○給付判決ノ場合ニ執行シ能ハサル判決ハ之ヲ爲スコト能ハスト考フルカ如キハ

執行異議

○他人ニ其身元保證金トシテ提供ス可ク貸與シタル有價證券ノ所有者ハ其證券ヲ

執行方法

○執行方法若クハ執行行為ニ付キ法律違背ナ理由トシテ不服ヲ主張スルコトヲ執

ニ之ヲ證明スルノ必要ナキモノトス(大審院)..... 民法五三

○舉證ノ責任ハ爭ト爲リタル事實ニシテ證明ノ必要アルモノナラサル可ラス從テ

執行異議

○他人ニ其身元保證金トシテ提供ス可ク貸與シタル有價證券ノ所有者ハ其證券ヲ

執行方法

○執行方法若クハ執行行為ニ付キ法律違背ナ理由トシテ不服ヲ主張スルコトヲ執

執行異議

○他人ニ其身元保證金トシテ提供ス可ク貸與シタル有價證券ノ所有者ハ其證券ヲ

執行方法

○執行方法若クハ執行行為ニ付キ法律違背ナ理由トシテ不服ヲ主張スルコトヲ執

執行異議

○他人ニ其身元保證金トシテ提供ス可ク貸與シタル有價證券ノ所有者ハ其證券ヲ

執行方法

○執行方法若クハ執行行為ニ付キ法律違背ナ理由トシテ不服ヲ主張スルコトヲ執

執行異議

○他人ニ其身元保證金トシテ提供ス可ク貸與シタル有價證券ノ所有者ハ其證券ヲ

執行方法

○執行方法若クハ執行行為ニ付キ法律違背ナ理由トシテ不服ヲ主張スルコトヲ執

執行異議

○他人ニ其身元保證金トシテ提供ス可ク貸與シタル有價證券ノ所有者ハ其證券ヲ



實子

○實子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス(明治三一年一月司法省民刑局長回答)...

○實子ト雖之ヲ養子ト爲スニ付法定ノ利益アリ且法規ニ違反セサルニ於テハ之ヲ爲スニ何ノ妨カ之レアラザル(牧野學士)...

實質

○登記官吏ハ専ラ形式ノ事項ヲ調査ス可キモノニシテ重利ノ契約ハ有效ナリヤ否ヤ及抵當權ノ效力ノ及フ範圍如何ト謂フカ如キ實質上ノ事項ヲ審査シテ申請ノ許否ヲ決ス可キモノニ非ス(大判)...

○判決ハ其實質ニ不法アルモ當然無効ニ非ス(大判)...

○判決ハ假令其實質ニ不法アルモ確定スルニ於テハ之ヲ執行スルコトヲ得ヘクシテ當然無効ノモノニ非ス(大判)...

知ラサル過失

○過失ヲ見ヨ

○白地裏書

實子 實質 社員 借地

社員

○私法的社團法人ノ設立行爲者ハ其設立ト同時ニ當然其社員タル地位ヲ取得ス(松本博士)...

○社團法人設立後ニ於テ新ニ其社員タルノ地位ヲ取得セント欲スル者ハ必スヤ之ト法人トノ間ニ於テ或行爲ヲ爲ササル可カラズ此行爲ハ法律行爲ニシテ契約ナリ(松本博士)...

○合名合資會社ノ社員又ハ株式合資會社ノ無限責任社員ノ入社行爲ハ契約ナリ(松本博士)...

○社員ト爲ルノ結果ハ法人ノ規定タル定款ニ依リテ拘束セラルヘシト雖モ之ヲ契約ノ條款トスルノ意味ニ非ス(松本博士)...

○法人ノ社員權關係ハ債權關係ニ非ス(松本博士)...

○社員權契約ハ債權契約ニ類似スル所少カラサルヲ以テ契約ニ關スル民法ノ規定ノ大部分ヲ類推シテ入社契約ニ適用シテ可ナリ(松本博士)...

○合名會社ノ社員カ其社員タル資格ヲ離レ第三者タル地位ニ立テテ會社ト買賣其他ノ取引ナシ之ニ因リテ會社ニ對シテ得タル債權ニ付テハ他ノ社員ハ商法六三ノ連帶責任ナシ(松本博士)...

○社員カ社員タル資格ニ關係ナクシテ會社ニ對シテ純然タル債權者ノ地位ニ立テタルトキハ其會社ニ對スル關係ニ於テハ第三者ノ會社ニ對スル關係ト異ナルコトナシ故ニ此場合ニハ其社員ハ第三者タル資格ニ於テ會社無資力ノ場合ニ他ノ社員ニ對シテ連帶責任ヲ負擔セシメ得サルヘカラス(青木博士)...

○社員ハ會社債權者ト爲ル原因ハ之ヲ二大別スルコトヲ得其一ハ會社關係ヲ離レタル別箇獨立ノ原因ニ因リテ會社債權者トナル場合ニシテ例ハ通常ノ買賣又ハ賃貸借ニ因リテ債權ヲ生シタル場合ノ如キ是ナリ此場合ニ付キ他ノ社員ノ責任ヲ問フコトヲ得ルニ付テハ多數學說始ント一致シ今ヤ疑ヲ袂ムモノナシ(片山學士)...

○地上權及賃貸借ヲ見ヨ

○甲地ニ存スル建物トシテ登記シタル場

借地

○地上權及賃貸借ヲ見ヨ

合ニ實際上甲乙兩地ニ跨リテ存在スルトキハ乙地ハ建物保護法ノ適用ヲ受ケサルモノトス(大判)...

借用金

○消費貸借ヲ見ヨ

社寺

○寺社ヲモ見ヨ

○所轄官署ノ許可ヲ得スシテ社寺所有ノ不動産ニ設定シタル抵當權ハ無効ナリトス(大判)...

事物管轄

○裁判籍ヲ見ヨ

時効

○中斷ニ付テハ(子)ヲ見ヨ

○取得時効ニ付テハ(取得)ヲ見ヨ

○消滅時効ニ付テハ(消滅)ヲ見ヨ

○公訴時効ニ付テハ(公訴)ヲ見ヨ

○除斥期間ハ不變期間ニシテ何等ノ事由ニ依ルモ延長セラルコトナシ...

○期間ト除斥期間ヲ區別スル標準ハ法文ノ字句ニヨルノ外ナシ民法カ「時効ニ因リテ」ト云フ文字ヲ使用シタルモノハ前者ニ屬シ此文字ナキモノハ後者ニ屬ス(鳩山學士、富井博士、梅博士)...

○民法六七

社寺 時効

○破産手續參加トハ：財團ノ配當ニ加ハル爲メ催告ニ應ジテ債權ノ申出ヲ爲スコトヲ謂フ此時効中斷ノ效力ハ債權届出ノ效果トシテ破産決定ノ取消ハ其效力ニ影響ナシ及ホスコトナシ(富井博士)...

○私訴ノ時効期間ハ公訴ノ時効期間ト同一ナリト云フ可カラズ(長野地)...

○保證人ハ主タル債務ニ關スル消滅時効ヲ援用スルニヨリテ直接ニ其債務ヲ免ルコトヲ得ヘキニ由リ所謂當事者ニ該當シ主タル債務ノ消滅時効ヲ援用スルコトヲ得ルモノトス(長崎地)...

○保證人カ債權者ニ對シ主タル債務ノ時効ノ利益ヲ拋棄スヘキ意思ヲ表示シタリトスルモ主タル債務者ニ對シテ何等ノ效力ヲ生セス又保證債務ノ時効利益ヲ拋棄シタリトスルモ既ニ主タル債務力時効ニ罹レル以上ハ保證人ハ尙時効ノ援用ヲ爲スコトヲ得(長崎地)...

○民法第一四五條ニ所謂當事者トハ時効ニ因リ直接ニ利益ヲ受クヘキ者ヲ指稱ス從テ抵當權ヲ設定シタル第三者ノ如キ債

權ノ消滅時効ニ付テ間接ニ利益ヲ受クル者ハ之ニ包含セス(大審院)...

○當事者本人時効ニヨリテ權利ヲ得義務ヲ免ルル者其代理人及其承繼人ヲ包含ス其他時効ノ完成ニ因リ利益ヲ受クヘキ者ハ皆時効ヲ援用スルコトヲ得即チ連帶債務者保證人等ノ者ハ自己ノ權利ニ基キ時効ヲ援用スルヲ得ルヲ以テ本人時効ヲ援用セサルモ又ハ之ヲ拋棄スルモ尙ホ援用ノ權利アリ(岡松博士)...

○時効ノ當事者ハ時効ニ因リテ第一次ニ利益ヲ得タル者之ヲ失ヒタル者ヲ謂フ取得時効ニ在リテハ權利ヲ得タル者及之ヲ失ヒタル者消滅時効ニ在リテハ權利ヲ失ヒタル者及其權利ノ制限ヲ免レタル者ヲ當事者トス人タルト法人タルト間ハス(川名博士)...

○時効ニ因リ利益ヲ受クヘキ人ニハ主タル利益ヲ受ク可キ人ト從タル利益ヲ受ク可キ人ト在リ主タル債權ノ消滅時効ノ爲メニ保證人連帶債務者ノ受ク可キ利益ハ之ヲ從タル利益ト稱スルヲ得可シ(鳩山學士)...

○時効ノ拋棄ハ讓渡又ハ新ナル債務ノ負

時効 自己ノ財産 指定 支店長

權ニ非スト雖モ之ト殆ソト同一ノ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ其能力又ハ權限アルコトヲ要スルハ疑ナキ所トス(富井博士)……民法八一〇

○債務者ノ債權者占有者ノ債權者保證人ノ爲メ完成シタル時効ヲ援用スルヲ得ス尤モ第四二三條ニ則リ債務者ノ權利ヲ行ヒ得ル場合ニハ此限ニ在ラス(中島博士)……民法八一〇

○取得時効ニ於テハ占有者ヲ意味シ債權ノ消滅時効ニ於テハ債務者ヲ意味シ取消權解除權ノ如ク一方ニ義務者ナキ權利ノ消滅時効ニ於テハ其權利ノ消滅ニヨリ直接ニ法律上ノ利益ヲ受ク可キモノ例ヘハ取消シ得ヘキ行爲ノ相手方又ハ解除セラレ可キ契約ノ相手方ヲ意味ス(中島博士)……民法八一〇

○完成セル時効ノ拋棄ハ權利其モノノ拋棄ニハアラス然レトモ權利ノ取得ヲ爲シ得ヘキ法律上ノ地位ニ在ル者カ其取得無カリシモノトスル意思表示ヲ爲スモノナルカ故ニ其結果ニ於テハ權利其モノノ拋棄ト違フコトナシ故ニ之ヲ爲スノ權限及

能力ニ付テハ管理ノ權限又ハ能力ヲ以テ足ラス(鳩山學士)……民法八一〇

○時効ノ進行中法規ニ改正アリタルトキハ其時効ハ新法ニ依ルヘキモノトス(東松博士)……民法一〇四

自己ノ財産

○自己ノ財産ニ對スル強制執行ニ於テ他人ト共謀シ虛偽ノ債權ヲ作リ之ニ依リテ配當要求ヲ爲シ競賣得金ヲ騙取セントシタル者ニ對シテハ刑法第二四六條二五〇條ノ外二五一條二四二條ヲ適用スヘキモノトス(大判)……刑法七八

指定

○意思能力ナキ未成年ノ戶主カ家督相續人ヲ指定スル場合ハ其法定代理人ノ同意ヲ必要トス(法曹)……民法六二二

○未成年者ハ法定代理人ノ同意ナク相續人ヲ指定スルコトヲ得ス(民事局長回答)……民法六二五

○意思能力ナキ未成年者ハ法定代理人ニ依ルモ家督相續人ヲ指定スルヲ得ス(民事局長回答)……民法六二五

○家督相續人ノ指定ニ付テハ民法第九百七十九條ニ規定スルカ如ク法定ノ推定家

督相續人アルノ一事ニ因リテ指定權ヲ妨ケラル、ノ外ハ何人ヲ指定スルトモ一ニ被相續人ノ意思如何ニ左リ指定ノ範圍ニ付テハ法律上何等ノ制限ヲ受クル所アルナシ或ハ曰ク現ニ他家ノ戶主又ハ法定ノ推定家督相續人タル者ヲ指定スルヲ得スト、又曰ク有夫ノ婦ハ之ヲ家督相續人ニ指定スルヲ得スト共ニ非ナリ(牧野學士)……民法八八二

○相續ノ承認及ヒ拋棄ハ相續權ノ作用ニ外ナラサルヘキカ故ニ相續權ヲ取得シタル指定相續人カ承認拋棄ノ選擇ヲ爲シ得ヘキハ深ク論スルノ要ナカルヘシ即チ指定相續人カ戶籍法ノ届出ヲ爲シ後ニ至リ民法第十七條ノ期間内ニ承認又ハ拋棄ヲ爲シ得ヘキコト明ナル所ナリトス(牧野學士)……民法八八四

○商法改正前法律上保險金受取人タル資格ニ於テ欠クル所ナキ以上ハ偶々其續柄ニ付誤謬ノ點アリシモノトスルモ爲メニ該指定ヲシテ全然無効トシラシム可キモノト解スルヲ得ス(東地)……商法一五七

支店長

○遠隔ノ地ニ在ル支店ニ在職セル支店長

カ金額五〇〇圓以上ノ手形割引其他金圓貸付等ヲ爲スニ際シ一々其土地ノ事情ニ通曉セサル本店頭取又ハ取締役ノ承認ヲ經サル可ラサル如キ事務ノ進行ヲ阻害シ彼活ヲ主トスル商ノ實際ニ適セサル規約ヲ設クルカ如キハ到底彼活ヲ尙フ現時取引界ノ事情ニ鑑ミ首肯シ得サル所ナリ(東地)……商法七四

資産

○資産ハ法人ノ根本規定タル定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル抽象的ニ表示シタル法人ノ有スヘキ財産ヲ指稱シ之ニ反シ財産ハ法人ノ現實ノ財産ニシテ具體的ニ法人ノ有スル財産ナリ(西川學士)……民法二一四

自殺

○患者ノ要求ヲ容レ死期ヲ早メタルカ如キハ自殺補助罪ナリ(山岡博士)……刑法八三

敷金

○所謂敷金ナルモノアリ是レ賃貸借關係ニ因リテ貸賃人カ賃借人ニ對シテ有スル債權トノミ相殺ス可キモノト定メタル賃借人ノ有スル一種ノ債權ナリ(岡松博士、

仕切書

○賣買仕切書トハ代價ノ標準ヲ定メテナシタル商品ノ賣買ニ付當事者ノ一方ヨリ相手方ニ對シ其確定價額ヲ表示シテ決算ヲ證明スル書面ヲ謂フ(法曹)……諸法一

○賣買取引ニ開スル決算ヲ表示スル事カ其作成ノ目的ノ全部又ハ一部タル場合ニ非サレハ假令書面ノ記載ニシテ賣買取引ニ關スル決算ヲ表明スルニ足ルトモ之ヲ以テ仕切書ナリト謂フ事ヲ得サルナリ(法曹)……諸法一

○賣買當事者ノ一方ヨリ其相手方ニ通知スル爲メ賣買ヲ結了シ其決算ヲ表明スル文書ニシテ……財産權ノ創設移轉變更消滅又ハ財産權ニ關スル追認ヲ證明ス可キ證書ノ一種ナリ(大坂控)……諸法二

○確定シ得可キ代價ヲ以テ賣買又ハ委託販賣ヲ完成シタル場合ニ於テ其代價ノ數額ヲ確定スルコトヲ仕切ト云ヒ又確定代

取得時効

○善意ノ意義ハ(七)ヲ見ヨ

○過失ハ(カ)ヲ見ヨ

○地役權ニ付テハ(チ)ヲ見ヨ

○所有者ノ取得時効ニヨリ入會權ハ當然消滅セス(長野地)……民法一六

○取得時効ニ付所謂過失無カリシトノ意義ハ客觀的標準即チ一般取引上ノ觀念ニヨリ定ムヘキモノトス(大判)……民法一六四

○占有者ノ善意ナルコト過失ナキコトヲ謂フ所謂善意トハ他人ノ所有物ナルコトヲ知ラサルヲ謂フ又過失ナキトキトハ其事ヲ知ラサルニ付普通人ノ爲スヘキ法

シ 資産 自殺 敷金 仕切書 取得時効

取得時効 主犯 受託

意ヲ缺キタルコトナキニ意味ス(富井博士)
○無過失ハ占有ノ事實ニ關スルモノニ非シテ前述ノ意義ニ關スル即チ過失ナクシテ善意ナルヲ要スルノ義ナリ過失ノ程度ハ客觀的標準ニヨリ之ヲ決ス代理人ニヨル場合ニ於テハ代理人ニ付キ之ヲ定ム(中島博士)
○無過失トハ占有者カ所有權アリト信スルニ付過失無キコトヲ謂フ即チ善良ナル管理者ニ非サルコトヲ知り得ザリシコトヲ謂フ(鳩山學士)
○既ニ消滅シタル質權ノ目的物ヲ所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ一〇年若クハ二〇年繼續占有スルモノヲ以テ所有權ヲ取得スルコトヲ得サルモノトス(法曹)
○不動產物權ノ取得中ニハ時効ニ因テ原來的取得ノ場合ヲ包含シ時効取得ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ登記ヲナスコトヲ要スト解セサルヘカラス(東註)
○取得時効ハ繼續セル占有ヲ要件ト爲スモ一旦完了シタル後ニ在リテハ其必要ナ

受託判事

キコト言ハ俟タスサレハ登記ノ必要ナシト云フヲ得ス(富井博士、梅博士、乾學士)
○不動產ノ取得時効ノ完成シタル後ニ保存登記ヲ爲シタル前所有者ヨリ其不動產ヲ買得シテ所有權ノ取得登記ヲナシタル者ハ取得時効ニ由ル取得登記ノ欠缺ヲ主張スルヲ得ス(大審院)
○民法第一七七條ハ承繼取得ニノミ適用アリ故ニ原始取得ニ關スル時効取得ニハ適用ナシ(横田博士、岡松博士)
○幼者ノ法定代理人ノ權限ニ欠缺アリヤ否ヤヲ知ラザリシハ過失ニシテ十ヶ年ノ取得時効ノ適用ナシ(大判)
○取得時効ニ於テ善意及過失ノ有無如何ハ其占有ヲ爲ス當時ニ在リテ之ヲ審究スヘキモノナルコトハ占有者ノ承繼人カ其前主ノ占有ヲ併セテ主張スルトキト雖モ異ナル所ナシ(大判)
○不動産ニ關スル短期取得時効及ヒ動産ニ關スル即時取得ノ基本タル占有ハ正權原ノ占有タルコトヲ要ス(横田博士)

主犯

○主犯タル犯罪ニシテ現行犯ニ係ル以上ハ本件從犯モ亦現行犯トシテ處分ス可キモノト謂ハサルヲ得ス(大判)
○刑罰一三二

受託

○容器内若クハ封中ニ存在セル他人ノ物ハ包裝ノ占有者カ自己ニ支配シ得ル狀態ニ在ラス故ニ占有者カ其内容物ヲ自己ノ占有ニ移スニ於テハ茲ニ其物件ニ付物盜罪成立ス(大判)
○刑罰三三

受託判事

○無効ノ囑託書ニ基ク受託判事ノ訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供スルハ違法ナリ(大判)
○證人訊問ノ囑託書ト其回答書トハ各別ニ之ヲ作成ス可キコトヲ命シタル規定ナケレハ受託判事カ囑託書末尾ノ空白ヲ利用シテ回答書ヲ作成スルモ其書類ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ(大審院)
○受託判事ハ囑託セラレタル者ニ限リ之ヲ訊問ス可キモノニシテ其囑託以外ノ者

ヲ證人トシ訊問ノ上作成シタル調書ハ正當ニ成立セシ證人訊問調書ナリト云フヲ得ス(大審院)
○刑罰三二

手段

○牽連犯ヲ見ヨ

出版

○「著作」ヲ見ヨ
○銅版寫眞帖ナルモノハ出版法ニ所謂寫眞夫レ自體ニ非シテ寫眞ヲ材料トシ銅版ニ依リテ印刷製出シタル一種ノ圖書ナレハ其出版ハ出版法第一條ニ該當スルヲ以テ同法第三條第七條ニ依ルヘキモノトス(大判)
○諸法一一四
○出訴期限モ亦民法ノ消滅時効ト同シク債務者ノ承認ニ因リ中斷セラルモノトス(青森地)
○民法三五五

出生

○出生トハ出生ノ完成即チ母體ヨリ全部脱出シタルコトヲ云フ臍帶ノ切斷ヲ要セストスルコト民法上ノ通説ナリ(安藤惣七氏)
○民法九四四

出世證文

○期限ヲ見ヨ

出版 出訴期限 出生

從犯

○詐欺賭博ノ見張ヲ爲ス行爲ハ從犯ニ非ス正犯ナリ(大判)
○刑罰一四
○補助行爲ハ正犯ノ罪ヲ容易ナラシム可キ一切ノ援助行爲ヲ包含ス例ヘハ犯罪ノ用ニ供スル器具ヲ給與シ又ハ誘導指示スルカ如キ其他有形ノ手段タルト精神的ノ助言タルトナ問ハス實行行爲ニ非サル一切ノ應援ハ補助行爲タルヲ得可シ(泉學士)
○諸法三一
○從犯ハ犯人ノ犯罪ニ附屬シタル加擔ナルカ故ニ補助ヲ受クル者ノ行爲ハ犯罪行爲タルコトヲ要ス但正犯ノ行爲ハ苟モ處罰ノ程度ニ達シタル以上ハ既遂タルト未遂タルトナ問ハサルナリ從犯ニ依テ與ラレタル所ノ補助ハ正犯カ犯罪ニ着手スル以前又ハ着手シタル後ニ於テモ之ヲ與フルコトヲ得可シ(小嶋學士)
○諸法三一
○從犯ハ大多數ノ場合ニ於テ補助ハ豫備行爲ナリ從犯ハ決シテ犯罪實行ノ一部タルヲ許サス從犯ハ獨立シテ成立スル犯罪ニアラス正犯ニ從屬スルモノナリ(山岡ドクトル)
○諸法三一

收入役

從犯 收入役 重利 終了

拾得

○遺失物ヲ見ヨ

重利

○收入役トシテ業務上保管シタル金員ト村長ヨリ委託ヲ受ケタル村有基本財産ニ屬スル金員トナ混一シ保管中數個ノ連續行爲ヲ以テ横領シタルトキハ一括シテ其重キ業務上ノ横領罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス(大判)
○刑罰三二二
○重利ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ延滞シタル利息ハ法理上最早利息ノ性質ヲ有スルモノニ在ラス(大判)
○民法三七六
○抵當權設定登記ヲ爲ス場合ニ於テ重利ノ契約ヲ併セ登記スルモ民法三七四條ノ規定ニ抵觸スルモノニ在ラスト雖トモ元本ニ組入レラレタル金額及之ニ對スル利息ニ付抵當權ヲ行フコトヲ得ルヤノ問題ナシ(大判)
○民法三七六
○重利ノ契約ハ我國法ノ禁スル所ニ在ラサルヲ以テ其契約ノ有效ナルハ論ヲ俟タス(大判)
○民法三七六

終了

○毀賣ノ完結シタルノミニテハ強制執行ハ終了シタルモノト云フヲ得ス(東註)

收賄

○專賣局池田製造所平支所長タル被告ニ於テ其管内ニ於ケル煙草元賣捌人指定ノ申請ニ付キ適否ノ意見ヲ附シ之ヲ專賣局長官ニ進達スル職務ヲ有スルモノト判示シタル原判決ハ相當トス(大判)...

收用

○職務執行ヲ終リテ之ヲ要求シ收受シ若クハ約束スルハ收賄トナラス(即チ本罪ノ所謂收賄トハナラス單ニ懲戒處分トナルヘシ)...

(東地) 諸法六九 ○土地收用ニ因ル損失補償ハ不當利得ニアラズ又不法行為ニ基クモノニアラス即チ法律規定ニヨリ賠償ヲ命スルモノナラ...

スル擔保ノ義務追索擔保ノ義務ノ如キハ被收用者之ヲ負ハサルナリ(ト杉博士)...

○公用徵收ヲナスニ對シテ起業者ノ支拂フヘキ損失賠償金ハ公法上ノ義務ナリ(市村學士)...

○宅地カ一部收用ニ因リテ狭少トナリタル爲メ經濟上ノ效用ヲ減少セラレタルコトハ之ヲ想像シ得ヘキモ殘餘ノ損失ヲ定ムルニハ收用ノ目的タル事業ノ其土地ノ價格ニ及ホス影響等ヲ斟酌シテ之ヲ決スヘキモノナリ(東地)...

○土地收用審査會ノ決定シタル損失補償額ニ對スル訴ニ於テハ裁判所ハ單ニ其補償額ノ相當ナルヤ否ヲ判断シ得ヘキニ止マリ如何ナル權利者トシテ該請求權ヲ有スルヤ即チ賃借權者ナリヤ否ヲ審査スヘキ權能ナシトス(大判)...

收用

○土地收用ニ因ル損失ノ補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル收用地ノ價格ヲ標準ト爲スヘキコトハ當院判決來判例トシテ是認スル所ナリ(大判)...

重要ナル事由

○生命保險ヲ見ヨ

重要物産同業組合

○重要物産同業組合ハ公法人ナリ(東地)

○重要物産同業組合ノ經費並ニ過怠金ノ徵收權ハ公權ニシテ其請求ノ當否ハ司法裁判所ニ於テ審理裁判ヲ爲スコトヲ得ス(東地)

集合物

○獨逸法ノ解釋トシテハ物集ハ其民法施行ノ前後ヲ問ハス之ヲ組織スル各個物ヲ離レタル別箇ノ一物ヲ形成スルモノニ非ス從テ之ヲ目的トスル一個ノ權利ヲ存スルコトナキハ我民法ニ於ケルト同シ(松本博士)

集合犯

○集合犯ハ何レノ場合ニ於テモ連續犯タルコトナキモノトス(山岡トクトル)

重罪

○第一審裁判所ハ重罪ノ手續ニ依ラスシテ審理ヲ遂ケ且公判員ノ文書變造行使ノ事實ヲ認メス被告ヲ懲役八月ニ處シタルモノレカ爲メニ事件ノ性質ヲ變更ス可キモノニアラサレハ原審ハ公判開廷前重罪下調ノ手續ヲ履踐セサル可ラサリシモノナリ(大判)

重要物産同業組合 集合物 集合犯 重罪



シ 重罪 從參加人

○業務の横領罪ニ加功シタル其身分ナキ者ニ對シテハ公判前ノ下調處分ヲナス要ナシ(大判)……………刑訴一四〇

○重罪事件ニ於テ準備手續ヲ爲サ、リシハ違法ノ手續ナリ(大判)……………刑訴四七

○下調ハ公判ノ準備手續ニシテ公判ノ一部ヲ爲スモノニ非サレハ爾後同事件ヲ裁判ス可キ部ニ變更アリタルトキト雖モ下調ヲ更新スルノ要ナシ(大判)……………刑訴五七

○重罪事件ノ下調ハ公判ノ準備手續ニシテ公判ノ一部ヲ爲スモノニ非サレハ爾後同事件ヲ裁判ス可キ部ニ變更アリタルトキト雖モ下調ヲ更新スルノ要ナシ(大判)……………刑訴五七

○既ニ有效ニ成立シタル下調ノ無効ニ歸ス(大判)……………刑訴五七

○刑事被告ノ人違ニ非サルコトヲ認メタル以上ハ年齢身分等ヲ訊問セサルモ下調手續トシテ違法ニ非ス(大判)……………刑訴八〇

○豫審終結決定ニ於テ舊刑法ノ重罪ナリトシテ公判ニ附シタル事件ハ縱令爾後舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ相當スル刑ニ處スル判決アリタリトスルモ其判決ノ確定スルマテハ事件力何レノ審級ニ屬スルニ關シテハ

ス之ヲ重罪トシテ取扱ハサルヘカラス(大判)……………刑訴一四六

○被告事件カ重罪トシテ第一審公判ニ於テ訴追セラレタルトキハ地方裁判所ニ於テ輕罪又ハ違警罪若クハ無罪ナリト判決シタル場合又ハ其判決ニ對スル控訴力不成立ナル場合ニ於テモ亦第二三七條ノ手續ヲ履行セサルヘカラス(豊島博士、板倉學士)……………刑訴一四六

○豫審終結決定ニ依リ舊刑法ノ重罪ト看做シ取扱フヘキモノトシテ公判ニ付セラレタル事件ニ付第一審裁判所ニ於テ被告ノ性質ヲ變スヘキモノニ非サレハ第二審裁判所ハ第一審同シク舊刑法ノ重罪ト看做シ其取扱ヲ爲ササル可カラス(大審院)……………刑訴一四七

○重罪トシテ取扱フヘキ事件ノ欠席判決ニ對スル故障ノ申立ニシテ適法ナルトキハ先ツ刑事訴訟法第二三七條ノ下調手續ヲ履踐シ然ル後公判期日ヲ開キテ審理ヲ爲スヘク故障ヲ受理スヘキモノト決シタル後ニ於テ下調手續ヲ爲スヘキモノニ非ス(大判)……………刑訴二〇四

○故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘキモノニシテ其更新スヘキ審理手續ハ公判ナルト公判前ノ準備手續ナルトテ區別セサルカ故ニ關席判決前ノ下調手續ハ故障受理後ノ公判ニ其效力ヲ及ホスモノニ非ス(大審院)……………刑訴二〇七

○業務上ノ横領罪ハ舊刑法ノ重罪ト看做スヘキモノナルヲ以テ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノトス故ニ區裁判所力之ヲ受理審判シタルハ違法ナリ(大判)……………刑訴三〇一

○從參加人ハ中間確認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス(雄本博士)……………民訴一七

○從參加人カ民法ノ規定ニ從ヒ債權者トシテ主たる當事者ノ權利ヲ行使シ得ヘキ場合即チ民事訴訟法第五四條但書ノ場合ニ若シ從參加人ノ陳述及ヒ行爲ト相抵觸スルトキハ從參加人ノ陳述及ヒ行爲ヲ以テ標準トナスヘキハ同但書ノ規定スルトコロナリ(長崎控)……………民訴三八六

○民事訴訟法第五四條第二項但書ニ所謂

シ 從參加人 戒器 從業者

民法ニ於テ之ト異ナル規定アルトキトハ判決力(一)廣ク第二者ニ效力ヲ及ホスカ爲メ自然從參加人ト相手方トノ關係ニ於テモ效力ヲ及ホス場合及ヒ(二)廣ク第三者ニ及ハサルモ恰モ從參加人タル特定人ニ效力ヲ及ホス場合ヲ謂フ(前田學士)……………民訴三八六

○當事者ノ陳述又ハ行爲ノミニ限リ效力ヲ有スルモノト解ス(然レトモ之ニ異ナル私法ノ規定アルトキハ此限リニアラス(仁井田博士)……………民訴三八七

○戒器

○明治三三年内務省令第三六號ハ治安警察法第一八條適用ノ一例ニシテ同省令但書ノ場合ニ該當セサル限リ又法律上行爲ノ違法性ヲ阻却スル原因ノ存セサル限リハ止ムヲ得サル事情ノ下ニ在テモ右禁令違反ノ行爲ハ治安警察法第三一條ノ處罰ヲ免ルヘキニ非ス(大判)……………諸法一五九

○衆議院議員

○選舉法違反ニ付テハ(選舉)ヲ見ヨ

○從業者

○鐵業權讓渡ノ契約ヲ爲シ其登錄手續ヲ爲ササル間ニ從業者力違反行爲ヲナシタ

ル場合ノ責任負擔者ハ依然現名義人ナリ(大判)……………諸法二〇

○收受

○贓物ナルコトヲ知りテ贓ニ取リタルモノハ故買ニ非ス唯疑問トナルハ收受寄藏何レニ屬スヘキカニ在ルモ故買ニ比スヘキモノナルカ故ニ收受ト云ハシヨリハ寄藏トシ以テ同一ノ重キ刑科スルヲ以テ立法ノ趣旨ニ適フ(藤本博士)……………刑法三一

○所謂收受トハ贓物ヲ買受ケタル場合ハ勿論運搬寄藏故買牙保ノ目的ヲ以テ受領スル場合ノ外總テ廣ク贓物ヲ受領スル場合ヲ包含ス故ニ贓物トシテ受領スルカ如キ場合モ收受ナリト解スルヲ相當トス(大場博士)……………刑法三一

○收受トハ汎ク贓物ノ保有ヲ得ルコトヲ意味シ其名義ノ如何ハ問フ所ニアラス例ヘハ交換、質取、受贈ノ類ヲ云フ(小崎學士)……………刑法三二

○自由心證

○裁判所カ當事者ノ主張セル事實ヲ立證スル爲メニ提出セラレタル證據ニ對シ其主張事實ヲ認ムルヲ得サル旨ヲ判斷スルハ專權行使ニシテ右證據ニ據リテ裁判所

カ認メタル他ノ事實ハ必スシモ當事者ノ執レカニ於テ主張シタルモノニ限ルヘキモノニアラス(大判)……………民訴三一

○住職

○久遠寺カ右ノ如ク被告等ノ寄附ニヨリ係争ノ株式ヲ取得スルトキハ其行爲ハ同寺ニ執リテハ一面債務負擔ノ行爲トナルヲ以テ檀家總代ノ同意ヲ要ス又此ノ場合總代ノ同意無カリシトスルモ住職ノ私債トナラス(東地)……………商法七七

○修繕

○船舶所有者カ船舶全部ノ修繕契約ヲ爲シ船長ニ對シ船籍港以外ノ船籍港ニ廻船ヲ命ジ船長ハ之ニ應ジ船籍港ニ至リタルニ船舶力航海ニ堪能ナラサルコトヲ發見シ且修繕ニ多大ノ日子ヲ要シ船積期間ヲ遵守スルヲ得サルモノト認メタルトキハ右修繕契約ヲ解除スルヲ得ヘシ(東地)……………商法八一

○受繼

○訴訟受繼手續ニ不法アルモ相手方ニ於テ異議ナク其裁判ヲ受ケタル場合ニ於テハ自己ノ承繼手續ノ不法ヲ理由トシテ上告ノ理由トナスコトヲ得ス(大判)……………

シ 受繼 主參加 受命判事 授受 受益者 酒精 贖身

..... 民法三九三  
 ◎第一審判決送達後未タ控訴ノ提起アラサル間ニ訴訟手續中斷シタル場合ニ於テハ訴訟手續受繼ノ申立ハ訴訟ノ繫屬スル第一審裁判所ニ之ヲ爲ス(東控)..... 民訴四二  
 ◎判決送達後ニ訴訟手續中斷シタル場合ニ於テハ現ニ繫屬スヘキ裁判所ト認ムヘキモノナキヲ以テ上訴ヲ受テヘキ裁判所ニ受繼ノ申立ヲ爲スヘキモノト謂ハサル可ラス(東控)..... 民訴四二  
 ◎受繼ノ手續ヲ爲サシテ訴訟手續ノ開始進行ヲナシタルハ違法ナリ(大判)..... 民訴六七  
 ◎訴訟手續ヲ受繼キタリトノ關断判決ハ中間判決ナリ(菅原學士)..... 民訴一五四

主參加

◎地方裁判所ノ事物ノハ轄ニ屬スル訴訟物ニ付テハ支拂命令アリタルトキノ主參加ノ訴ハ後ニ起サルヘキ地方裁判所ニ提起スヘキモノトス(前田學士)..... 民訴四七  
 ◎主參加訴訟ノ續繼スル間ニ本訴訟ノ權利拘束カ訴ノ取下又ハ其他ノ事由ニ依リテ消滅スルモ主參加訴訟ニ何等ノ影響ナシ

受命判事

◎合議裁判所カ受命判事ニ依リ和解ヲ試ムルニ方リテハ特ニ其判事ヲシテ和解ヲ試ムル旨ノ文書ヲ作成シ又ハ公廷ニ於テ其旨ヲ言渡スコトヲ必要トセス(大判)..... 民訴三二一  
 ◎前拂ノ利息ニ相當スル金額ニ付テハ現

金ノ授受ナキモ尙ホ消費貸借成立ス(大判)..... 民法八三  
 ◎不法行為ノ責任ニ付テハ(フ)ヲ見ヨ

受益者

◎受益者ニ對シテ取消ノ訴ヲ起ストキハ債務者ニ對シ其法律行為ノ取消ヲ求ムル必要ナシ(東控)..... 民法七三

酒精

◎酒精及酒精含有飲料製造法第一六條ノ違反罪ノ成立ニハ單ニ其製造石數ノ査定ヲ免レタル事實アルヲ以テ足レリトセス更ニ其査定ヲ免ルルニ至リタルハ其免許ヲ受ケタル者ノ詐偽其他ノ不正所爲ニ原因スルコトヲ要スルモノトス(大判)..... 諸法一三九

贖身

◎毛髮鬚ノ切斷ハ傷害罪ナリ(大場博士)..... 刑法一八

巡査

◎巡査ノ作成シタル聽取書ハ無効ニ非ス(大判)..... 諸法八一

準禁治產者

◎保佐人ニ付テハ(ホ)ヲモ見ヨ  
 ◎商人タル準禁治產者ノ支配人選任ハ保佐人ノ同意ニヨリ行フコトヲ得(松本博士)..... 民法九  
 ◎蓄妾ハ必スシモ準禁治產ノ原因トナラス(東控)..... 民法五二  
 ◎準禁治產者ヨリ訴ヲ受ケタルコトアル者ハ保佐人タルコトヲ得ス(大判)..... 民法二一五

準消費貸借

◎偽造シタル韓國白銅貨ノ賣買代金ヲ準消費貸借ト爲スハ無効ナリ(東控)..... 民法九八  
 ◎消費貸借ニ因リ金錢其他ノ物ヲ給付スルノ債務存在スル場合ニ當事者ノ意思ヲ以テ之ヲ新ナル消費貸借トナスコトハ第五八八條ヨリ推理シ所謂勿論解釋ニ依リ法律上可能ナリト判斷ス(大判)..... 民法五九  
 ◎準消費貸借成立前ニ商事債權タリシモノハ其成立後ニ於テモ亦商事債權ナリ

(東控)

◎買主カ賣主ニ支拂フヘキ代金ヲ以テ消費貸借ノ目的物ト爲シ公正證書ヲ作成シタル場合ニ於テハ假令其貸借ノ内容ヲ記載セサルモ之カ爲メニ契約ノ成立ニ影響ナシ及ホスコトナキハ勿論該證書ノ記載事項ヲ目シテ實際ノ事實ニ符合セザルモノト云フヲ得ス(大審院)..... 民法一五六  
 ◎他ノ原因ニ基キ給付スヘキ金錢ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スニ依リ消費貸借ノ成立シタル場合ニ之ヲ證スル爲メ作成セラレタル證書ニ用ヒタル貨渡及ヒ受取ノ文字ヲ以テ直チニ現實金錢ヲ授受シタルノ意義ニ用キタルモノト解スルハ實驗法則ニ反スルモノトス(大判)..... 民法六六一

準備手續

◎公判ノ準備手續ニ於テ證據決定ヲ爲スナ妨ケス(大判)..... 刑訴一六  
 ◎重罪事件ノ下調ハ公判ノ準備手續ニシテ公判ノ一部ヲ爲スモノニ非ス從テ爾後

氏名

部員ニ變更ヲ生シ其下調ヲ爲シタル判事カ公判及判決ニ干與セザリシトテ之カ爲メ既ニ有效ニ成立シタル下調ノ無効ニ歸スヘキ謂レナシトス(大審院)..... 刑訴五七  
 ◎公判ノ手續ニハ二個ノ階段アリ(一)公判開廷準備ノ手續(二)公判開廷ノ手續是レナリ..... 然レトモ豫審終結決定ト公判開廷ノ間ニ行ハルル手續ハ悉ク公判ノ準備手續ナリト誤解スルコトナキヲ要ス彼ノ公判ニ於テ保釋ヲ許シ責付ヲ爲スカ如キハ準備手續ナリト云フコトヲ得サルナリ(豊島博士)..... 刑訴五七

指名

◎贓物還附ニ付キ氏名ヲ以テ犯人ヲ表示セサル判決ハ違法ニ非ス(大判)..... 刑訴一四  
 ◎犯罪人ノ氏名ニシテ詳カナラサルトキハ之ヲ判文ニ明記セサルモ固ヨリ不法ニ非ス(大審院)..... 刑訴七  
 ◎債權讓渡ノ解除ニ付テハ(讓渡)ヲ見ヨ

レ 巡査 準禁治產者 準消費貸借 準備手續 指名證券

指名證券

◎證券上ノ權利ノ行使カ容易ニシテ又其存續ハ短カルヘク且取引界ニ於テ其證券

シ 指名證券 事實 事實參考人 死傷 寺院

ノ價值ハ證券上ノ權利ヲ行使スルニアリト爲ス指名證券ハ債權トシテノ執行ニ服ス(雄本博士)……………民訴一四二

◎指名證券ニ付テモ亦指名證券上ノ權利カ長ク存続スヘキ性質ノモノニシテ且引界ニ於テ其價值ハ隨時ニ賣却シ得ルコトニ存ストナス證券ハ社員證券タルト債權證券タルトヲ問ハス有體動産トシテ金錢債權ノ執行ニ服ス(雄本博士)……………民訴一四二

事實

◎證人トアルヲ保證人ト解スヘキヤ又ハ立會人ト解スヘキヤハ事實問題ナリトス(大判)……………民訴一四一

◎事實ノ確定ハ中間確定ノ訴ノ訴訟物トナスコトヲ得ス(雄本博士)……………民訴一四一

◎其ノ人夫數及人夫賃ノ認定ニシテ誤謬ナシトセハ人夫賃ノ合計ハ金六圓五十錢トナルコト數理上實ニ明瞭ナルニ付キ會計係ヲシテ金六圓五十錢ヲ支拂ハシメタル旨ノ認定ト相容レザルハ 違法ナリ(大判)……………刑訴四三

◎座席洋燈ノ位置カ疊ヨリ僅ニ二尺位ノ高サナリシコトヲ認メ此事實ヨリ燈光

事實參考人

◎判決ノ證據理由ノ部ニ於テ事實參考人ヲ證人ナリト判定シタルハ探證ノ法則ニ關スル不法アリ(大判)……………刑訴五五

自助責却

◎供託ヲ見ヨ

死傷

◎強姦行爲ノ手段タル行爲ニ着手シタル上ハ未タ姦淫行爲其ノモノニ着手セザルモ之ニ因リテ生シタル死傷ノ結果ニ付テモ同一ノ責ニ任セザルヘカラス(大場博士)……………刑法一三七

◎姦淫行爲又ハ暴行脅迫ノ行爲ニ因リ死傷ノ結果ヲ生シタル場合ハ特ニ第一八一條ノ罪トシテ其刑ヲ重クシ且之ヲ非親告

寺院

◎社寺ヲモ見ヨ

◎檀家ナキ寺院ノ住職カ信徒總代ノ連署ヲ以テ貸借ヲ爲スハ寺借トシテ有效ナリ(大判)……………民法一一一

◎寺院ハ法人タル實質ヲ具有シ適法ノ代表機關ヲ以テスレハ特ニ法令ノ禁止セザル限り通常法人ノ爲シ得ヘキ法律行爲ハ總テ之ヲ爲ス能力ヲ有ス(大判)……………民法一一一

◎官廳ノ許可ナキカ爲メ社寺有財產買賣豫約債務者カ其義務ヲ履行スル能ハサル場合ハ官廳ノ許可ナキカ爲メ社寺有財產買賣豫約債務者カ其義務ヲ履行スル能ハサル場合ハ損害賠償ヲ爲ス責任ナシ(東地)……………民法三九六

◎官廳ノ許可ヲ得シテ爲シタル社寺有財產ノ買賣豫約ハ無効ナリトス(東地)……………民法三九六

◎久遠寺カ右ノ如ク被告等ノ寄附ニヨリ保爭ノ株式ヲ取得スルトキハ其行爲ハ同

シ 寺院 自首 自筆證書

寺ニ執リテ一面債務負擔ノ行爲トナルヲ以テ檀家總代ノ同意ヲ要ス又是ノ場合總代ノ同意無カリシトスルモ住職ノ私債トナラス(東地)……………商法七七

◎借入行爲當時ニ於テ檀家總代ノ連署ナキトキハ絕對ニ之ヲ爲シタル僧侶ノ私債ト認定スルノ趣旨ト解スルヲ相當トス總代ノ追認ヲ爲スニ至ルマテ僧侶ノ爲シタル行爲ノ效力ヲ浮動シナラシムルモノニアラス(東地)……………諸法一六

◎檀家總代ハ追認ヲ爲スヲ得ス(東地)……………諸法一六

◎寺院所有ノ土地建物等ニ對シ強制處分ヲ爲スニ當リテモ亦該官署ノ許可ヲ受クヘキモノト爲シタル規定ニ非ス(大審院)……………諸法四八

◎地上權ヲ設定スルハ明治六年布告第二四九號同九年教部省第三號ノ所謂處分ニ包含ス(大審院)……………諸法四八

自首

◎自首減輕ヲ與フルト否トハ裁判所ノ專權ニ屬シ之ヲ與フルヲ適當ナラストスルトキハ縱令自首ノ事實アリトスルモ特ニ之ヲ判示スルノ要ナキモノトス(大判)……………

自筆證書

◎自筆證書ニ依ル遺言書ニ所謂氏名ノ自書トハ遺言者ノ何人ナルカハ明確ナラシムル記載アルヲ以テ足ル故ニ偶其姓名記載セザルコトアルモ直チニ無効ナリト言フヲ得ス(東地)……………民法七七六

私生子

◎認知ハ(ニ)ヲ見ヨ

◎母カ家ニアル一五歳未満ノ私生子ヲ自己ノ養子ト爲スニハ同法第八四六條第七七二條第三項ニ則リ之レカ手續ヲ爲ス可キモノトス(東地)……………民法二二一

◎私生子ヲ改メテ養子トナスモ亦法ノ禁スル所ニ在ラス(牧野學士)……………民法二二二

◎私生子庶子ヲ養子トナスコトヲ得(法曹)……………民法二二二

審判

◎現ニ製造ヲ爲シ居ラサルモ嘗テ製造中保爭ト爲リタルトキハ特許無効ノ審判ヲ請求スルニ付利害ノ關係ヲ有ス(大判)……………諸法五二

侵入

◎隣地ニ侵入シタルニ依リ截取シタル竹

私生子 審判 侵入 信徒 心裡留保

信徒

◎檀家ナキ寺院ノ住職カ信徒總代ノ連署ヲ以テ貸借ヲ爲スハ寺借トシテ有效ナリ(大判)……………民法一一一

心裡留保

◎契約當事者ノ一方ノ眞意ニ在ラサル意思表示ヲ爲シ其相手方ハ眞意ヲ以テ承諾ヲ爲シタル買賣契約ハ有效ナリ(東地)……………民法一八二

◎表示者カ一定ノ意思ヲ表示シタルトキハ善意ナル第三者ハ其意思表示ヲ信シテ諸般ノ行爲ヲ爲ス可キハ當然ナレハ表意者ニ於テ後日ニ至リ自己ノ眞意ニ非サリシコト若クハ他ニ格段ナル特約アルコト

木ノ根ハ竹木所有者ニ屬ス(三浦學士)……………民法二〇

◎人ヲ毆打スル爲メ其家屋ニ侵入シタルトキハ刑法第五四條第一項ニ依リ該侵入行爲ハ傷害ノ行爲ト相合シ一罪トシテ處分セラルヘキモノナレハ其毆打ノ事實ニ對スル起訴ニハ當然家宅侵入ノ行爲ヲ包含ス(大審院)……………刑法一一一

◎殺人ノ目的ニテ家宅ニ侵入スル行爲ハ所謂犯罪ノ手段ナリ(大判)……………刑法二五

シ

心裡留保 森林竊盜

人格 人格權

主張シテ其意思表示ノ效力ヲ左右スルコトヲ得ス(大審院)……民法一八三

◎本條但書ニハ明カニ相手方カ眞意ヲ知リ云々ト規定ス故ニ但書ハ相手方アル意思表示ニノミ適用セラル可シト爲スヲ通説トス然レトモ如此ハ不都合ナル場合ヲ生スルコトナキニ非ス例之戲ニ遺言書ヲ作リ又ハ所有權ヲ拋棄ス是等ノ場合ニ其行爲ノ效力ハ如何、意思表示ノ性質ヨリ謂ヘハ皆ナ相手方ナキ意思表示ナリ若シ通説ノ如クニ解セハ本條但書ノ適用ナキ以上ハ遺言、所有權ノ拋棄皆ナ有效タラサルヲ得ス然レトモ如斯ハ極メテ不都合ナル結果ト云ハサルヲ得ス(中島博士)……

◎強迫ヲ受ケテ眞意ニアラサル意思表示ヲ爲シタルトキハ其心裡留保ノ意思表示ナル點ニ於テハ民法第九三條ノ適用ヲ受ケ強迫ニ因ル意思表示ナル點ニ於テハ同法第九六條第一項ノ適用ヲ受ケルモノトス(嘉山學士)……民法七三五

◎強迫ヲ受ケテ眞意ニ非サル意思表示ヲ爲セル者アル場合ニハ本條ヲ適用スヘキカ第九六條ニ依リテ取消シ得ヘキモノト

森林

◎下辰ニ付テハ(サ)ヲ見ヨ

森林竊盜

◎森林ノ竊盜ノ如キ贓物ヲ以テ科刑ノ標準ト爲ス犯罪ヲ連續シテ數回ニ實行シタル場合ニ於テ各行爲ノ目的及ヒ其贓物ノ數額カ明カナラサルトキハ裁判所ノ自由ナル裁量ヲ以テ起頭ヨリ終局ニ至ル犯行ノ時期及ヒ贓物ノ總額ヲ判示スルヲ以テ足ルモノトス(大判)……諸法一二五

◎森林竊盜ニシテ其贓額ヲ確定セザレハ罰金ノ範圍ヲ定ムルコト能ハサル案件ナルニ贓物ノ價格ヲ明示セスシテ罰金ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ(大審院)……

妨害排除

◎妨害排除ヲ見ヨ

人格權

◎胎兒ハ民法上制限的權利能力者ニシテ一ノ人格者ナリ但シ民法上其權利ヲ行使スル機關ナシ(松本博士)……民法七二七

◎人ハ其出生前ニ在リテハ母體ノ一部ヲ成シ未タ獨立ノ存在ヲ有スルモノニ非ス故ニ胎兒ハ權利ノ主體タルコトヲ得サルナリ(富井博士、川名博士)……民法七三〇

◎胎兒ノ權利能力ハ法律上ノ解除條件付ナリ若シ死體ニテ生レタル場合又ハ出生セサル場合(例ヘハ母ノ死亡ニヨリ)ニ於テハ之レヲ保護ス可キ理ナキ故ニ始メヨリ權利能力者ニ非サリシモノトナル(中島博士)……民法七三〇

◎人格ヲ有セサル團體ノ名義ヲ僞リテ文書ヲ作成スルモ文書僞造罪ナリ(大判)……

◎被相續人ノ人格權侵害ト相續トノ關係ニ付テハ(相續)ヲ見ヨ

◎債權ハ第三者之ヲ侵害スルヲ得サルモ不法行爲ノ客體タル權利トシテ一種ノ財產不可侵權タル人格權ヲ認ムルヲ相當トス(松本博士)……民法七二五

身體拘束

信託行爲

◎公廷ノ木彫ハ被告ノ身體拘束ト云フ可キニアラス(大判)……刑訴三

◎賣渡抵當ニ付テハ(サ)ヲ見ヨ

◎東京控訴院ハ信託の權利讓渡ノ場合ニ於テハ權利ハ外部關係ニ於テハ債權者ニ移轉スルモ内部關係ニ於テハ依然トシテ債務者ニアリトナス不幸ニシテ此誤謬ナル見解ハ大審院ノ採用スル所トナリ吾司法界ヲ荼毒ス(松本博士)……民法一四一

◎信託行爲(賣渡抵當)ヲ解シテ外部關係ニ於テハ所有權移轉シ内部關係ニ於テハ移轉セストスルハ絕對ニ非ナリ半存半吐的ノ移轉ハ法律ノ認ムル所ニアラス又關係的所有權ナル觀念ハ法律ノ認ムル所ニアラス(松本博士)……民法一四二

◎動産ノ賣渡抵當契約ハ脫法行爲トシテ無効ナリ蓋シ質權ノ要件ヲ備ヘスシテ擔保ノ目的ヲ達セントスルモノナレハナリ(松本博士)……民法一四五

◎信用行爲ハ二個ノ行爲ヨリ成ル一方ニ於テハ財產移轉行爲アリ他ノ一方ニ於テハ其財產ヲ一定ノ目的以外ニ濫用セサル

シ 身體拘束 信託行爲

可シトスル債權存スルモノナリ(中島博士)……民法一四八

◎關係の權利ナルモノハ如斯既ニ成法ノ認ムル所ナル以上ハ又理論上之ヲ排斥スルコトヲ得ス素ヨリ例外ノ場合ニ屬スト雖モ既ニ此形式ヲ許ス以上ハ又此形式ヲ利用シテ法律關係ヲ説明スルモ不當ニ非サルヘシ而シテ此關係の權利ノ方法ニ依リ信託行爲ヲ説明シ受信者ハ第三者ニ對シテハ權利者タリ與信者ニ對シテハ權利者ニ非サルモノト見ハ最モ能ク公平ニ適シ且法律的論理ヲ枉ケサルノ好結果ヲ得ルモノニ非サルカ(岡松博士)……

◎表意者カ財產ヲ他人ニ讓渡サント欲スル意思表示ヲ爲シ而カモ經濟上ニ於テハ之ヲ讓渡ササルト同一ナル終局ノ結果ヲ收メント欲スルコトアリ之ヲ信託行爲ト稱ス(川名博士)……民法一四九

◎信託行爲ナル觀念ハ内外ニ關係ヲ區別セシテハ之ヲ説明スルヲ得スト雖モ其内部關係ニ特殊ナルハ權利移轉ノ點ニハ非スシテ當然生スル效果ヲ當事者間ニ於テ制限セントスル債權關係ニアリ信託行

爲カ虛偽表示ニ非スト云フハ唯タ此意義ニ於テノミ正當ナリ(鳩山學士)……

◎所有權ハ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ債權者ニ移轉スルモ當事者ノ内部關係ニ於テハ移轉スルコトナク債務者ハ依然所有權ヲ有スルモノト爲スヲ至當トス(東控)……民法一五三

◎信託行爲ノ效力ハ當事者間ノ意思表示ノ内容ニ因リテ定ムルヘキモノニシテ法律上一定セス買戻ノ方法ニヨルトキハ内部關係ニ於テモ所有權移轉ス(東控)……

◎擔保ニ供シタル財產ノ處分ヲ容易ナラシムルコトヲ目的トスル當事者間ノ信託行爲ニ基因スルコトアリ此場合ニ於テハ財產ノ所有權ハ第三者ニ對スル關係ニ於テ所有名義人トナリタル債權者ニ移轉スルモ當事者間ニ於テハ之ヲ擔保ニ供シタル債務者又ハ第三者ニ於テ其所有權ヲ保有ス(大判)……民法四七八

◎債務ヲ擔保スル爲メ所謂信託的讓渡シテ爲ス場合ニ於テハ第三者ニ對スル關係ニ於テ所有權讓渡ノ效力ヲ有スルモ當事

シ 信託行爲 身體 身代限 親族 親族會

者間ニ於テハ其效力ヲ生セスシテ讓渡人ハ依然權利者タルヲ通常トス(東控)...

俟タス(東控) 〇虚偽ノ意思表示ニ基ク漁業權ノ取得登錄ヲ恰モ正當ニ成立シタルモノノ如ク認...

〇親族家族間ノ寄託(絶對的免除)ハ罪アリトモ刑科セザル場合ナリ(山岡トク)

シ 親族會

不服ノ訴在ラサルトキハ其決議法律ニ違背スルモ效力確定スルヲ原則トス然レト...

會ノ決議ト雖モ當然無効ニ非ス(大判) 〇三名ノ親族會員中其一名ニ對シ適法ノ...

以テシタルモノナリ(東控) 〇所謂決議ヲ爲スコト能ハサルトキトハ親族會員中意見數派ニ岐レモ多數ヲ...

親族會

◎選定ノ家督相續人カ缺格者トナリタル場合其相續人ヲ選定シタル親族會ハ既ニ消滅シタルモノトス(長崎控)……………  
 ◎裁判所ハ親族會員ノ適格者中相當ト認ムル者ハ何人ナリトモ之ヲ親族會員ニ選任スルコトヲ得故ニ選任ノ決定ニ對シテハ親族會員タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテノミ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(大判)……………  
 ◎被告トシテ單ニ訴訟ヲ提起セラレタルニ止マリ之ニ應訴セザリシ者ト雖モ苟モ訴訟ノ當事者タリシ以上ハ親族會員タルヲ得サルモノトス(大判)……………  
 ◎親族會ノ決議事項ニ付キ決議書ノ作成ヲ必要トスル法規存セス(東控)……………  
 ◎親族會員カ自己ノ利害ニ關係ナキハ親族會員カ自己ノ利害ニ關係ナキハ親族會員タルヲ得サルモノトス(大判)……………  
 ◎親族會員ハ親族會ノ議事ニ付キ直接ニ自己ニ利害關係アルニ非サレハ表決權ヲ喪フコトナキモノトス(故ニ實買代金カ債務ノ辨濟ニ充當セラルルニヨリ會員カ保證債務ヲ免レタリトテ利害關係アリト云フヲ得ス(東控)……………  
 ◎親族會員ノ家族又ハ子ヲ他人ノ相續人ト爲スヘキヤ否ヤヲ議スルハ其家族又ハ子ノ利害ニ關係スル議事ナレトモ之ヲ以テ直ニ戸主若クハ親權者タル會員其人ノ利害ニ關係スル議事ナリト云フヲ得ス(大審院)……………  
 ◎親族會員カ自己ノ利害ニ關係スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハリタルトキハ該決議ハ無効ナリ(大阪控)……………  
 ◎直接ノ利害關係アル者カ表決ニ加ハリタル場合ト雖モ必スシモ其決議全體カ無効トナルニ非ス利害關係アル者ノ爲シタル表決(例ハ投票)ノミ無効トナル(奥田博士)……………  
 ◎間接ノ利害關係ニ至リテハ親族會員タル可キ者ハ皆多少其關係ナキ有セザルナシ自己ノ親族ニ關係スル重大ノ事件ハ自己モ亦其利害ヲ感スルコト當然ナレハナリ(奥田博士)……………  
 ◎親族會ノ會員ニシテ民法九四七第二項

喪フコトナキモノトス故ニ實買代金カ債務ノ辨濟ニ充當セラルルニヨリ會員カ保證債務ヲ免レタリトテ利害關係アリト云フヲ得ス(東控)……………  
 ◎親族會員ノ家族又ハ子ヲ他人ノ相續人ト爲スヘキヤ否ヤヲ議スルハ其家族又ハ子ノ利害ニ關係スル議事ナレトモ之ヲ以テ直ニ戸主若クハ親權者タル會員其人ノ利害ニ關係スル議事ナリト云フヲ得ス(大審院)……………  
 ◎親族會員カ自己ノ利害ニ關係スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハリタルトキハ該決議ハ無効ナリ(大阪控)……………  
 ◎直接ノ利害關係アル者カ表決ニ加ハリタル場合ト雖モ必スシモ其決議全體カ無効トナルニ非ス利害關係アル者ノ爲シタル表決(例ハ投票)ノミ無効トナル(奥田博士)……………  
 ◎間接ノ利害關係ニ至リテハ親族會員タル可キ者ハ皆多少其關係ナキ有セザルナシ自己ノ親族ニ關係スル重大ノ事件ハ自己モ亦其利害ヲ感スルコト當然ナレハナリ(奥田博士)……………  
 ◎親族會ノ會員ニシテ民法九四七第二項

ノ規定ニ違反シ自己ノ利害ニ關係スル議事ニ付表決ノ數ニ加ハリタルトキハ當ニ其會員ノ表決ヲ無効トスヘキノミナラス親族會ノ決議其モノヲ無効トスヘキノモノトス(大審院)……………  
 ◎親族會員選定及ヒ親族會召集決定力會員中ノ或者ニ告知セラレザリシトスルモ其者ニ對スル決定ノ無効ハ敢テ直チニ他ノ適法ナル告知ヲ受ケタル親族會員ニ對スル裁判ノ無効ヲ惹起スルモノニ非ス又告知ヲ受ケタル會員カ法定ノ最小限ヲ充タスニ足ルトキハ其間ニ爲サレタル決議ハ全然無効ノモノニ非ス(東地)……………  
 ◎三名ノ親族會員中其一名ニ對シ親族會召集ノ通知ヲ爲サスシテ他ノ二名ノミニテ開キタル親族會ノ爲サレタル決議ハ無効ナリ(大審院)……………  
 ◎三名ノ親族會員中一名ニ對シ適法ノ手續ヲ爲サスシテ開キタル親族會ノ決議ハ不服ノ訴ニ因リ無効ノ宣告ヲ受クヘキ素質ヲ具フレトモ當然無効ノモノニ非ス(大審院)……………  
 ◎親族會ノ決議取消ノ訴ハ權利關係カ總

親族會 親族相續 親權

ノ共同訴訟人ニ對シ合一ニノミ確定スヘキモノトス(東控)……………  
 ◎親族會カ法定ノ推定家督相續アル場合ニ於テ家督相續人ヲ選定シ又ハ法定ノ後見人アル場合ニ於テ後見人ヲ選定シタルトキハ其決議ハ當然無効ニシテ民法第九五一條ノ不服ノ訴ニヨリ宣言ヲ俟テ始メテ無効タルヘキノモノニ非ス(大審院)……………  
 ◎親族會ノ決議カ當然無効ナル場合ハ無効確認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス(東控)……………  
 ◎親族相續者ハ遺棄判事ハ免訴ノ決定ヲ爲シ公判判事ハ告訴ヲ缺クトキハ公訴不受理又取下一トキハ免訴ノ旨渡ヲ爲スヘシ(清水學士)……………  
 ◎新缺席判決  
 ◎缺席判決ヲ見ヨ  
 ◎母ニ付テハ(ハ)ヲ見ヨ  
 ◎未成年戸主ノ親權者カ戸内婚姻ヲ爲サントスル場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ要ス(法曹)……………

◎親權ヲ行フ母カ婚姻又ハ入籍ニ因リ其家ヲ去ルニ付實際其者ト未成年戸主ト利益相反スル場合ナルニ於テハ特別代理人ヲ選任シ其者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(法曹)……………  
 ◎民法第八八條第一項ニ利益相反スル行為ヲ包含ス(法曹)……………  
 ◎民法第八八條ニ權利ノ喪失ヲ目的トスル行為トハ直接ニ權利ノ喪失トナルモノノミナラス消費貸借又ハ消費寄託ノ如キモノヲ包含ス(大判)……………  
 ◎通俗ニ所謂後見ナル語ハ無能力者ノ法定代理人タル意味ニ用ヒラルモノトス(東地)……………  
 ◎親權者タル實母カ實子ニ代ハリテ訴訟行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ要セス(大判)……………  
 ◎親權ヲ行フ實母カ未成年者ニ代ハリテ訴訟行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要セザルモノトス(大判)……………  
 ◎民法第八八條ニ所謂利益トハ單ニ財

產上ノ利益ノミヲ指稱スルモノニ非スシテ又身分上ノ利益ヲ包含スルモノトス即チ親權者カ自己ト或者ト婚姻ニ付キ未成年ノ子ヲ代表シテ與フル同意ノ場合ヲ包含ス(大判)……………  
 ◎親子カ同一ノ地位ニ立テテナス行為即チ兩者連帶シテ金錢ノ借入レテ無擔保又ハ各自ノ所有財產ヲ擔保ニ供シテナシ其他親子カ俱ニ契約者ノ一方トナリテ他ト契約ヲ爲シ連帶ノ責任ヲ負フカ如キ場合ニハ利害ノ關係ハ固ヨリ之アルモ決シテ利益相反スルモノニアラス(民刑局長回答)……………  
 ◎民法第八八條ニ所謂利益相反スル行為トハ必スシモ双方行為タルコトヲ要セス單獨行為タルトモ特定ノ相手方アリテ双方ノ利益相反スルモノナラシメハ之カ適用アルヘキハ疑ヲ容レザル所ナリ然レトモ數人ノ子ニ對シ父若クハ母カ親權ヲ行フ場合ニ於テモ遺產相續ノ拋棄ニ付キ民法第八八條第二項ニ依リ特別代理人ノ選任ヲ必要トスト論スルヲ得ス(大判)……………  
 ◎未成年者ノ特別代理人カ其權限内ニ於

親權 新聞

テ締結シタル契約ヲ履行シ公正證書ヲ作成スル如キハ未成年者ト親權者トノ利益相反スル行爲ニアラスシテ親權者力當然ナスヘキ行爲ナリトス(大審院)...

新聞

名譽毀損力専ラ公益ノ爲メナリトノ立證ヲ新聞紙法第四五條ニ依リ許シタルモ之カ確證ヲ得ス處罰スル場合ニ於テハ必ラスシモ判文ニテ之カ説明ヲ要セス(大判)...

起スルコトヲ得サルヤ否ヤニ關シテ二説アリ第一説ハ檢事ハ誹毀ナル事實ヲ認ムル以上ハ公訴ヲ提起セザル可ラストシ事實ノ證明ハ單ニ裁判所カ之ヲ許スノ機能ヲ有スルノミト解ス此ノ説ヲ採ル(牧野學士)...

新親 親告罪 新舊兩法

警察廳處罰令第二條第八號ニ所謂申込ナキ新聞紙雜誌其他ノ出版物トハ新聞紙雜誌及其以外ノ出版物ハ總テ之ヲ包含スルモノトス所謂代金ヲ請求ストハ其強請ヲ必要トスルモノニアラス(大判)...

親告罪

又ハ間接ニ安樂秩序ヲ紊スヘキ事項ヲ表明シタルモノニ非サルトキハ起算者ノ眞意如何ニ拘ハラズ新聞紙法第四一條ニ概觸スルコトナキモノトス(大判)...

新親

發明ニ付テハ(特許)ヲ見ヨ 新舊兩法 時効ノ進行中法規ニ改正アリタルトキ其時効ハ新法ニ依ルヘキモノトス(東控)...

加刑タル沒收又ハ之ニ代ハルヘキ罰金モ亦舊法ニ從フ(大判) 法律改正ノ場合ニ於テ新舊兩法ヲ比照スルニハ新法ノ主刑ト舊法ノ主刑トヲ對照シ刑法第一〇條ノ規定ニヨリ其輕重ヲ定ムヘキモノトス(大判)...





被害者 被用者 日附

以書文書ノ性質如何ニヨリ被害法益ヲ異ニスルモノニ非ラス(大判) 刑法二四〇

被害者

○列車轉覆等ノ如キ場合ニ於テハ後ニ至リテ同型ノレハ被害者ノ行為ナカリセハ新車ヲ損害ヲ生ゼサルヘカリシ場合ト雖モ行為當時ノ状況ヨリ判斷シテ相當ト認メタル場合ニ於テハ被害ニ過失アリト云フヘカラス(東控) 商法五一

病院 漂流物 表見代理 日附 ○小切手ニ後レタル日附ヲ記載シテ振出スモ無効ニ非ス(大判) 商法九二

ハ其行為ニ拘束セラレ恰モ代理權アルト同等ノ效果ヲ生ズルヲ意味スルニ外ナラス(川名博士、中島博士) 民法四一五

○民法第一〇九ニ於ケル「責ニ任ス」ト云フ適用セラルヘキ規定ナリ(東控) 民法一九二

○現行犯ニ付テハ「ケ」ヲ見 被用者 ○不法行為ニ付テハ「フ」ヲ見

被告

○捜査ニ付テハ「ヨ」ヲ見 ○受益者ニ對シテ取消ノ訴ヲ起ストキハ債權者ニ對シテ其法律行為ノ取消ヲ求ムル必要ナシ(東控) 民法七三

○勾留中ノ被告人ハ身體ヲ拘束セサル旨ヲ公判始末書ニ記載セサルハ違法ナリ(大判) 刑訴三〇

○現行犯ニ付テハ「ケ」ヲ見 ○現行犯ニ付テハ「ケ」ヲ見

被告

○被告ノ提起スル中間ノ確認ノ訴ハ反訴タル性質ヲ有スルモノナルカ故ニ其提起ニ關スル一經ノ原則ニ從ヒテ之ヲ提起スヘキモノトス(仁井田博士) 民訴一二四

○被告ニシテ保釋中ノモノナルトキハ公判始末書ニ特別ノ記載ナキ以上ハ公判廷ニ於テモ拘束ヲ受ケザリシモノナルコト明カナリ(大審院) 刑訴三二

○被告ノ提起スル中間ノ確認ノ訴ハ反訴タル性質ヲ有スルモノナルカ故ニ其提起ニ關スル一經ノ原則ニ從ヒテ之ヲ提起スヘキモノトス(仁井田博士) 民訴一二四

七 被告 被告ノ陳述 被告事件 引換

ルコトハ其決定ノ範圍ニ屬セサルヲ以テ之ヲ被告人ニ示シタル以上ハ決定ハ完全ニ履行セラレタルモノトス(大判)……

○被告ノ利益ノ爲メニ取寄セタル書類ノ如キハ之ヲ公判ニ顯出スルヲ以テ足リ特ニ被告ノ答辯辯解ヲ費スルノ要ナキモノナレバ縱令公判始末書ニ之カ記載ヲ缺クト雖モ之ヲ以テ證據決定ヲ違法ニ履踐セサルモノト云フヲ得ス(大審院)……

○裁判所ニ於テ事實認定ノ資料トシテ必要ナリト認メタル證據物件ニ付キテハ被告人ノ意見ノ有無ヲ問フノ要ナキモノトス(大判)…… 刑訴一六九

○不拘留ノ繼續ヲ受ケタル者ハ判決言渡期日ニ於テモ任意ニ出廷シタル者ト認メ得ヘク公判期日ノ始末書中特ニ被告人カ身體ノ拘束ヲ受ケスシテ出廷シタル旨ノ記載ナシトスルモ毫モ其裁判ヲ違法トス可キ理由ナシ(大判)…… 刑訴一七一

○刑事訴訟法第一九八條第二項ノ規定ハ被告人ニ對シテ不利ナル證據ハ之ヲ被告人ニ示シテ辯解セシムヘキ旨趣ナリトス

從テ利益ノ證據ハ之ヲ被告人ニ示シテ辯解セシムルノ必要ナシ(大審院)……

○被告ニシテ保釋中ノ者ナルトキハ公判始末書ニ特別ノ記載ナキ以上ハ公判延ニ於テ拘束ヲ受ケサリシモノナルコト明ナリトス(大審院)…… 刑訴一七二

○被告カ不可分の供述ヲ爲シタル場合ニ其趣旨ヲ變更シテ判斷ノ資料ニ供スルハ不法ナリトス(大判)…… 刑訴一八一

○證據ノ取捨ハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルカ故ニ被告等ノ供述カ分割ヲ許ササル場合ハ格別然ラサレハ其一部ヲ採リ他ノ一部ヲ捨ツルコトハ一ニ事實審ノ判斷ニ待ツヘキモノニシテ上告審ニ於テ其當否ヲ判定スヘキモノニアラス(大判)…… 刑訴一八二

○沒收スヘキ物ト雖モ罪證ニ供セサル限リハ刑事訴訟法第一九八條第二項ニ所謂證據物件ニ非サルカ故ニ之ヲ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシムル必要ナシ(大判)…… 刑訴一八五

○金二二圓二二錢ヲ費消シタルヤトノ問ニ對シ被告ハ毫モ爭フ處ナク單純ニ「夫

モ費消セリ」ト答ヘタル場合ニ被告カ金二二圓二二圓(二厘ノ差)ヲモ包含シテ全部其犯行ヲ自認セサルモノト爲スモ之ヲ以テ證據解釋權行使ニ付キ想スヘカラサル失當アルモノト斷スルヲ得ス(大判) 刑訴二〇四

被告ノ陳述

○民事訴訟ニ付キ和解ヲ爲シタルトキハ假差押ハ當然解除セラルルモノト信シ差押ノ爲メ執達吏ノ附セシ標目ヲ制取リタリトノ被告ノ陳述ハ罪ヲ犯スノ意思アリテ本件行爲ヲ爲シタル旨ヲ自白シタルモノト解スルヲ得ス故ニ之ヲ以テ犯罪事實ヲ認定シタルハ不法トス(大判)…… 刑訴一三九

被告事件

○檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シトノ規定ハ第二審ノ公判ニ於テハ必スシモ之ニ準據スルコトヲ要セス(大判)…… 刑訴六八

引換

○荷物ト引換ニ支持ヲ爲ストハ荷物ヲ受取ト同時ニ且同所ニ於テ之ト交換ノニ支

引受

○債權ノ讓渡相續ニ依リ債權債務ノ移轉ヲ許ス法制ノ下ニ在リテハ債務ノ引受ノ可能ナルコト多辯ヲ俟タス(東地)…… 民法一八九

○第三者カ從來ノ債務者ト並ヒ債務ヲ負擔スル所附加的債務ノ引受ヲ合ムモノト解セサル可ラス(東地)…… 民法一一九

○債務者カ他人ヲシテ其債務ヲ引受ケシムヘキコトヲ契約セル場合ニ於テ債權者カ其他人ニ對シテ直接ニ債務ノ履行ヲ請求スルニハ自己モ又契約一般ノ規定ニ從ヒ該契約ノ當事者ニ加入シタル事實ナカル可ラス(大審院)…… 民法一二〇

○債務引受契約ハ債權者ト引受人トノ契約ニヨリテ有效ニ成立セシメ得ヘキモノト云ハサル可ラス(東地)…… 民法一二〇

○債務者及新舊債權者間ノ契約ニ因リ他人ノ債務ヲ引受クルコトヲ得(法曹)…… 民法一二一

○我國法ニ在リテモ債務引受ハ債務者ノ意思ニ基クコトヲ要セス債權者引受人ノ

引換

契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得サルカ故ニ債務者ハ引受ニ反對スルノ意思ヲ表示シ以テ引受人ノ擔保者タル責任ヲ免ルルコトヲ得(石坂博士)…… 民法一二一

○債務關係ヲ其儘存續セシメテ債務者ヲ變更スルノ契約ハ有效ナリト斷定セザルヲ得ス何ントナレハ其契約ハ債務ノ性質ニ反セズ又毫モ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ヲ害スルモノニ非サレハナリ故ニ我民法ノ下ニ在リテモ債務者ノ更替ニ因リ更改ノ外ニ尙ホ債務ノ引受ヲ認ムルコトヲ得ヘシ(横田博士)…… 民法一二一

○債務ハ債權者ト債務者及新タニ債務者ト引受クヘキ第三者トノ合意ニヨリテノミ之ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得舊債務者ト新債務者トノ法律行爲ニ因リテハ讓渡ヲ爲スヲ得ヌ又債權者ト新債務者トノ法律行爲ニ因リテ之ヲ爲スヲ得ス前記三箇ノ當事者ノ合意アリテ始メテ債務ハ之ヲ當事者ノ一人タル第三者ニ移轉スルヲ得ルノミ(立石學士)…… 民法一二一

○債務引受契約ハ保證ヲ消滅セシム(西

引換

川學士)…… 民法一二一

○第三者ノ設定セル質權抵當權及保證ハ其擔保スル債務ノ引受ニ依リ消滅スルモノト解ス(石坂博士)…… 民法一二三

○債權ノ爲メニ設定シタル保證質權抵當權ニ對シテハ如何ナル效力ナクホスヘキカ保證人抵當物質物ナル所有力讓渡(引受)行爲ノ當事者トシテ其存續ヲ承諾シタル場合ノ外ハ當然ニ消滅ニ歸スルト謂ハサルヲ得ス(立石學士)…… 民法一二三

○株式ノ申込ハ社員タル資格ヲ取得ヲ目的トスル一方的行爲ナリ(岡野博士)…… 民法一一五

○株式ノ引受ハ契約ナリ(松波博士)…… 民法一一五

○株式申込ノ法律上ノ性質ハ株式申込人ノ發起人ニ對スル契約ノ申込ナリ(青木博士)…… 商法一一五

○發起人ハ株式ノ割當ヲ爲スニ付自由ヲ有スルヲ本則トス(片山學士)…… 商法一一六

○裏書人又ハ振出人カ債權ヲ爲シタルトキハ引受人ハ之ニ對シテ債權金額ノ支持ヲ爲ス義務ヲ負フ(松本博士)…… 商法一一六

七 引受

七モ 引受 美術品 費消 非訟事件 持分

○引受人ハ主たる債務者トシテ當ニ其引受ナル時ノ所持人ニ對スルノミナラス其後ノ取得者及其前ノ被裏書人ニ對シテモ手形金額若クハ償還金額支拂ノ債務ヲ負擔ス(岡野博士)……商法一二五

○荷爲替手形金ノ支拂ハ荷爲替代金ノ支拂ニシテ其手形ヲ引受ケタルノミニテハ未ダ以テ荷爲替物品代金ノ支拂ト認テ得ス(大判)……商法一五四

○株式引受ノ法律上ノ性質如何由來學說ノ歧ルルトコロナルモ余ハ全部ニ付キテ契約既ノ至當ナルヲ信セント欲ス(片山博士)……商法一八三

○無能力者ヲ特ニ保護シ總令會社設立ノ手續力完了シタルトキト雖モ株式申込引受ノ取消ヲ爲スコトヲ得(岡野博士)……商法一八六

○株式ノ申込亦一種ノ法律行為ナリ故ニ一般ノ原則ニ因リテ之ヲ取消スコトヲ得ルハ論ナシ從テ未成年者禁治產者準禁治產者及妻ノ爲シタル申込ハ之ヲ取消スコトヲ得(片山博士、青木博士、松本博士)……商法一八六

美術品

○繪畫ニ題シタル贊チ某ノ時、所ニ於テ爲シタルコトヲ記載シ且ツ其署名捺印ヲ偽造スルハ第一五九條ノ罪ヲ成立ス(大判)……刑法五一

○書畫ノ落款偽造ハ署名偽造ナ(大判)……刑法五二

費消

○領得以後該目的ニ對スル處分行為ノ如キハ更ニ別罪ヲ構成ス(大審院)……刑法八八

○費消者カ之ヲ辨濟スル實力又ハ意思ヲ有スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ(大審院)……刑法八八

非訟事件

○非訟事件手續トハ民事訴訟ニアラスシテ國家カ吾人ノ私權ヲ保護スル爲メ私法ノ法規ヲ適用スル手續ヲ謂フ(黒田誠氏)……民訴一八

○非訟事件ニ於ケル行為能力ハ訴訟能力ニ準ス可キモノナリ(東地)……諸法四九

○競賣法ニ依ル競賣事件ハ非訟事件ナリ(東地)……諸法四九

○競賣法ハ非訟事件ナリ(仁井田博士、大審院)……諸法五〇

七モ

○會社ハ社員ノ持分ニ對シ所有權ヲ有スルモノニ非ス又其讓渡又ハ引渡ヲ妨クル權利ヲ有スルモノニ非ザルカ故ニ社員ノ持分ノ差押ニ對シ會社ハ異議ヲ主張シ得サルモノトス(東地)……商法四四六

○正確ナル定議トシテ合名會社ニ於ケル審院)……諸法五〇

○競賣法ハ非訟事件ニ非ス(岩田博士)……諸法五〇

持分トハ社員カ會社ニ對シテ有スル權利義務ノ包括ヲ言フヘシ(松本博士)……商法四四八

○余ノ債スル所ニ依レハ第五九條ニ所謂持分トハ社員カ社員タル資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル權利義務ノ集合ヲ謂フ(松本博士)……商法四四八

○持分ハ財產權ナルヲ以テ性質上讓渡シ得ルモノニアラス(中略)讓渡當事者間ニテハ單ニ其間ノ合意ノミニテ持分移轉ノ效力ヲ生スヘシト雖モ會社ニ對シテ有效ナラシムルニハ他ノ社員ノ承諾ヲ得サルヘカラス(青木博士)……商法四四八

三モ

○毛髮毀傷ノ切斷ハ傷害罪ナリ(大場博士)……刑法一一八

○申請ヲ見ヨ

○申請ノ擴張

○抵當權ノ確認ノ請求ヲ爲シタル後ニ至リ併セテ其抵當權ノ登記書入ヲ請求スルカ如キハ所謂申請ノ申立ノ擴張ナリト雖モ不動産登記法實施後ニ於テハ抵當權確認訴訟判決シミニ基キ直チニ登記ヲ申請シ

目論見書

○我商法ノ下ニ於テハ假令目論見書ナルモノニ不實ノ記載事項ヲ後日濫リニ變更スルモ又其記載事項ニ違背スルモ民法上ノ故意又ハ過失ニヨリ不法行為トシテノ責任若クハ刑法上ノ詐欺トシテ論スヘキ場合ハ自ラ別トシテ單ニ目論見書ニ記載シタル事項ヲ變更シタル場合トカ錯誤ニヨリ不實ノ記載ヲ爲シタル場合ニハ全然無責任ナリト論斷セサルヲ得ス(花岡學士)……商法五五六

○會社カ取引關係上其取引先ナル他人ヲ

持分 毛髮 申立ノ擴張 目論見書 目的

得キニ付別ニ之カ登記書入ヲ請求スルノ必要之ナキモノトス(大審院)……民訴二七二

○所有權確認ノ訴ニ於テ更ニ有權登記手續ノ請求ヲ爲スハ所謂申立ノ擴張タルニ過キス(東地)……民訴二七一

○物理上所謂物ト法律上所謂物トノ間ニ常ニ必スシモ一致シテ居ララスト思フナテアル(三浦博士)……民法八五八

○有體物ヲモ見ヨ

救済スル爲メ會社ノ目的タル事業ヲ遂行スルニ必要ナルトキハ該行為ハ會社ノ目的ノ範圍内ニ屬スルモノトス而シテ反證ナキ限り營業ノ爲メニ爲シタルモノト推定スヘシ(東地)……商法三一

○會社事業ノ目的ハ其定款ニ於テ定ムル所ナリ然レトモ之ハ唯會社ノ營業ヘキ事業ノ範圍ヲ示スニ止マルモノニシテ會社ノ權利能力カ其目的ノ範圍内ニ屬スル事項ニ限ラレタルヲ言フモノニアラス余ハ會社ハ其目的ノ外ノ行為ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ヘク之ニ因リテ權利ヲ取得シ義務ヲ負擔スルヲ得ヘキモノト信ス(青木博士)……商法三二

○會社カ營業ノ爲メニ爲スコトヲ得ルモノハ其目的ノ範圍内ニ在ルモノナルコトヲ要シ然ラサルモノハ總令之ヲ營業ノ爲メニ爲スコトハ之ニ因リ權利ヲ有シ義務ヲ負フコトヲ得サルモノナリ(大判)……商法一六九

○電氣軌道會社ノ代表者カ其營業ノ爲メニ振出シタル手形ハ有效ナリ(大庭地)……商法一七〇

文字

七 文字 正犯 税法

○刑事訴訟法ニ所謂文字ノ挿入トハ文字  
ヲ其行ノ字列以外ニ記載スル場合ノミナ  
云フ(大判)……………刑訴一〇五

七

正犯  
○詐欺賭博ノ見張ヲ爲ス行爲ハ從犯ナリ  
(大判)……………刑法一四  
○強盜ヲ爲サンコトヲ共謀シ其實行ノ場  
所ニ於テ見張ヲ爲シタル所爲ハ他ノ共犯  
カ爲シタル殺人ノ行爲ニ付テモ亦實行正  
犯トシテ其責任ヲ負フヘキモノトス(大

税關 正當防衛

○正犯ト從犯トノ區別ニ付キ學說分カル  
ト雖モ少クトモ新刑法ノ解釋トシテハ客  
觀主義ヲ採リ犯罪ノ實行行爲ニ加擔スル  
ト否トニ依リテ之ヲ區別シタルモノト解  
ス我大審ハ客觀主義ヲ採レルモ其適用ニ  
就テハ往往誤レルモノアリ(小嶋博士)  
○現行刑法ノ解釋トシテハ實行行爲ヲ分  
擔スルモノハ共同正犯ニシテ實行以外ノ  
行爲ヲ以テ正犯ヲ補助スルモノハ從犯ナ  
リト解スルナ至當トス(泉二學士)  
○如何ナル行爲ヲ以テ正犯行爲ト認ムヘ  
キヤニ付キ三說アリ實行ノ謀議ニ參與シ  
若クハ見張ヲナシタル者ノ如キハ從犯タ  
ルニ過キス(山岡博士)……………刑法一五  
○被告庄吉ニ於テ助勢ヲ爲シ以テ殺害ノ  
實行ヲ爲サンコトヲ謀議シタル結果ニ係  
ルヲ以テ自ラ殺害ノ實行行爲ニ干與セザ  
リシトスルモ正犯ナリ(大判)……………  
○國稅徵收法ニ所謂財産脫漏罪ノ補助ハ  
豫備ノ程度以上ノ行爲ヲ以テスルモ尙ホ

七

正犯ニ非ラス補助罪ヲ構成ス(大判)……………  
○正犯ノ數行爲カ單純一罪ヲ構成スルト  
キハ補助者ノ數行爲モ亦連續犯タルコト  
ナシ(大判)……………諸法二八  
税法  
○税法又ハ專賣法違犯者ニ對シテハ通告  
處分ヲ爲シタル後告發アルニ非サレハ公  
訴權發生セス(清水學士)……………刑訴八五  
税關  
○明治廿五年大藏省令第二號ニ所謂税關  
司掌事務ハ單ニ税關官制ニ據クル司掌事  
務ノミナラス其他法律命令又ハ性質ニヨ  
リ税關ノ事務タルヘキモノヲモ包含スル  
カ故ニ税關所屬石塀ノ保管上ニ過失アリ  
タルニ因リ損害賠償請求ノ訴ニ於テハ税  
關長カ國ノ代表者トシテ訴訟ヲ爲スヘキ  
モノトス(大判)……………民訴三四六  
正當防衛  
○前ノ侵害者ニ復讐的ニ害ヲ加ヘントス  
ルトキハ前ノ侵害者ハ此復讐者ニ對シ緊  
急防衛ヲ行フコトヲ得(泉二學士)……………  
○不正ノ侵害者カ逃走セントスルヲ捕ヘ

七 正當防衛 正當理由 政談 生存 成立 制限

怒ニ乘シテ之ヲ傷害シタル者ハ所謂正當  
防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ニアラス全ク  
獨立ナル犯罪行爲ナリ(宮本學士)……………  
○正當防衛ノ要件ハ總テ客觀的ニ之ヲ完  
備スルコトヲ必要トス防衛者ニ於テ此條  
件ヲ完備セルコトヲ知覺シタルト否トハ  
正當防衛ノ存在ニ付關係ナシ(小嶋學士)  
○相手方ノ實行スル正當防衛權ニ基ク侵  
害ハ權利ノ實行ナレハ不正ノ侵害ナリト  
斷ラザルハ從テ自己ハ之ニ對シテ防衛權  
ナシ(大嶋博士)……………刑法八六  
○急迫不法ノ侵害カ防衛者ノ不正ナル行  
爲ニ依リテ挑發セラレタル場合ニ於テモ  
之ニ對シ緊急防衛ヲ行フコトヲ得然レト  
モ緊急防衛ニ藉口シテ人ヲ害スル目的ヲ  
以テ急迫ナル侵害ヲ誘致シ其侵害アルヲ  
待テ加害行爲ヲ爲スハ犯罪ヲ構成ス(泉  
二學士)……………刑法八六  
○最初ヨリ不正ノ侵害者ヲ殺害セントス  
ル目的ヲ以テ自ラ正當防衛ノ機會ヲ作ル  
カ如キハ全ク正當防衛權ノ濫用ニ外ナラ  
ス(宮本學士)……………刑法八五

○正當防衛又ハ緊急避難行爲ヲナスニ當  
リ程度ヲ超エタルモ刑ヲ免除スヘキ者ニ  
對シ公訴提起ノ時ハ豫審判事ハ公判ニ附  
スル決定ヲ爲スヘク公判判事ハ免訴ノ判  
決ヲ爲スヘシ(清水學士)……………刑訴六〇  
正當理由  
○代理人ニ非サル者ノ行爲ニ就テハ假令  
第三者カ代理權限アリト信シタル場合ト  
雖モ民法第一一〇條ノ適用ナキモノトス  
(大判)……………民法二四二  
○右ノ外代理ヲ見ヨ  
正當ノ事由  
○家督相続人廢除ニ付テハ(廢除)ヲ見ヨ  
政談  
○單ニ街頭ニ於テ政談ニ紛ハシキ口演ヲ  
爲シタルニ止ル場合ハ治安警察法上罪ト  
ナラサルモノニシテ之ニ對シ同法ニ因リ  
既ニ廢止トナリタル明治二六年警察令第  
一號ヲ適用スルコトヲ得ス(大判)……………  
生存  
○鑑定人伊藤萬太郎ノ鑑定ニ依レハ三一  
歳ノ普通ノ健康ヲ有スル男子ノ生存シ得  
ヘキ年齢ハ生存保險ノ統計表ヨリシテ平

均六十二歳三ヶ月ナリト算出シ得ヘキコ  
トヲ認ム(東控)……………商法五四  
成立  
○公益社団法人ハ主務官廳ノ許可アリタ  
ル時成立ス(大阪控)……………民法二〇三  
○親族ノ關係ニ基ク免刑ハ對人的ニ刑ヲ  
免除スルニ止マルモノニシテ犯罪ノ成立  
ヲ阻却セルモノニ非ス(泉二學士)……………  
制限  
○相當ノ期間自己ノ所有物ヲ處分セザル  
旨ノ契約ハ有效ナルモノトス(東控)……………  
○契約ヲ以テ永久ニ所有物ノ處分ヲ禁ス  
ルハ所有者及其子孫ヲシテ絕對ニ所有者  
タルノ實ヲ失ハシムルモノナルノミナラ  
ス物ノ改良融通ヲ阻遏スルニ至リ社會經  
濟上ノ利益ヲ害スルヲ以テ公益ニ反スル  
契約トシテ無効ナリ(大判)……………民法九二  
○契約ヲ以テ地上權ノ賣買ヲ禁スルカ如  
キハ地上權者ノ權利ヲ制限シタルモノト  
ス而シテ此制限ハ公益ヲ害セザルニ付當  
事者ハ有效ニ斯ル契約ヲ締結シ得ヘク唯  
之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ

七 制限 清算

得サルニ過キス(大審院)……民法九二  
 ○権利者カ成人ニ對シテ殊ニ權利ノ讓受人カ讓渡人ニ對シテ其權利ヲ更ニ他人ニ讓渡セサル義務ヲ負フコトヲ妨ケサル點ハ多數ノ學說及立法例ノ一致スル所ナリ(乾學士)……民法九二

**清算**  
 ○清算ノ場合ニ於テ株金拂戻並ニ積立金ノ配當ノ如キハ會社債務ト云フヲ得ス(大判)……商法一九  
 ○破産會社ノ清算人ハ假令債務清算ノ爲メト雖モ新ニ消費貸借契約ヲ爲スカ如キ制限ヲ有セス(奈良地)……商法二〇  
 ○清算會社ノ株主總會ニ於テ功勞アル社員ニ報酬金贈與ノ決議ヲ爲スハ會社債務ノ處理ニシテ清算行爲ニ外ナラス(東控)……商法一一二  
 ○清算會社ニ於テ債權申出ノ催告ヲ爲シ之ニ應ジテ債權ノ申出ヲ爲シタル者ハ清算繼續中ハ時效完成スルコトナシ(東地)……商法一五六  
 ○株主總會ノ決議ニシテ清算ノ目的ト一致セス若シクハ清算ニ關スル強行法規ニ違背スル場合ニ在リテハ清算人ハ之ヲ無

效ト看做シ之ヲ無視スルコトヲ得(東地)……商法一七八  
 ○株式會社カ解散シタル場合ニ清算行爲ノ一部トシテ解散前ノ社員ニ對シ功勞金ヲ支出スルハ差支ナシトス(大判)……商法一九三  
 ○株式會社ニ於テ任意解散ヲ爲スニ當リ清算手續トシテ其營業及營業用財産ヲ個別ニ換價スルト之ヲ一括シテ換價スルトハ會社ノ自由ナリトス(大判)……商法二一七  
 ○商法第二二七條ハ會社財産ノ換價處分ヲ爲スヘキ時期ニ付キ制限ヲ如ヘタルモノニ非サルヲ以テ清算人ハ該條ノ手續履行前ト雖モ右處分ヲ爲スコトヲ得(大判)……商法二一七  
 ○一旦確定シタル清算人ノ報酬ハ會社株主總會ニ於テ減額ノ決議ヲ爲シタル場合ニ之ヲ無視スルモ直ニ重要ナル事由トシテ清算人ノ解任ヲ爲スヘキモノニ非ラス(大判)……商法二六一  
 ○清算人ハ株主總會ノ決議ニ從フコトヲ要スルモノナルモ法令又ハ定款ニ違反スルカ如キ當然無效ノ決議ニ從フ義務ナキ

コト固ヨリ論ヲ俟タス故ニ清算人タル者ハ常ニ自ラ總會ノ決議ノ有效ナリヤ否ヤヲ審査シ之ニ從フヘキヤ否ヤヲ決スヘキモノトス(大判)……商法二六二  
 ○會社解散後ニ至リ清算手續トシテ其財産ヲ一括シテ讓渡スルハ有效トス又會社存続中ト雖モ解散ノ場合ヲ豫想シ其解散ト同時ニ效力ヲ生スヘキモノトシテ爲ス營業財産ノ包括讓渡ハ有效トス(毛戶博士)……商法三七八  
 ○組合全員ノ合意ヲ以テスルトキハ其清算前ニ於テモ組合財産ノ分割ヲ爲スコトヲ得(大判)……民法四二六  
 ○會社カ解散後ニ於テ會社ニ功勞アリタルモノヲ認メタル場合ニ方リ株主總會ニ於テ之ニ對シ報酬金贈與ノ決議ヲ爲スカ如キ之レ即チ會社債務ノ處理ニ外ナラサルカ故ニ此種ノ決議ハ所謂清算ノ目的ノ爲メニ必要ナル行爲ノ一ニ屬スルコト疑ナ容レヌ(東控)……商法四六四  
 ○清算會社ノ株主總會ニ於テ解散前ノ功勞社員ニ對シ其報酬トシテ慰勞金贈與ノ決議ヲ爲スハ所謂會社債務ノ處理ニシテ清算目的ノ範圍内ニ屬スルモノトス(毛

七 清算 請求ノ原因

戸博士)……商法四六四  
 ○會社財産ヲ以テスル債務ノ完済不能ニ付破産宣告ノ申立ヲ爲スハ支拂停止ヲ要セス(大阪控)……商法八  
 ○會社債務ノ完済後ニ財産カ殘存スルトキハ清算人ハ之ヲ社員ニ分配スヘシ……法文ニハ債務清算ト云ヒ免済ト云ハサルモ其趣意ハ適法ノ手續ニ依リ正當ノ時期ニハ債務ヲ悉ク清算シタル後ニ非サルハ財産ヲ分配シ得ストルニ在リ(松波博士)……商法一九  
 ○清算人ハ會社ノ債務ヲ清算シタル後ニ非サルハ會社債務ヲ社員ニ分配スルヲ得サルナリ(吉本博士)……商法一九  
 ○債務ヲ清算シテ尙剩餘財産ヲ生スル見込確實ナルトキト雖モ豫メ分配スルコトヲ得ス(柳川學士)……商法一九  
 ○破産會社ノ清算人ハ假令債務清算ノ爲メト雖モ新ニ消費貸借契約ヲ爲スカ如キ制限ヲ有セス(奈良地)……商法二〇  
 ○理由ナク清算人ノ報酬ヲ減額スル決議カ清算事務ノ進行ヲ阻害スル目的ヲ以テ爲サレタルトキハ清算人ニ於テ該決議ヲ無効トナルコトハ不當ノ處置ト謂フ可カ

ラヌ又第二二八條第二項ニ所謂重要ナル事由ニ當ラス(東地)……商法一七八  
 ○清算人ノ法律上ノ地位ニ付テハ其清算ノ實質的行爲ノ内容ニ照シ内部ニ於テハ之ヲ業務執行者トシ外部ニ對シテハ之ヲ會社ノ法定代理人ト論スルヲ正當トス(片山學士)……商法三六四  
 ○清算人ハ其職務ヲ行フ爲メ必要アルトキハ金員ヲ借受クル權限ヲ有スルモノトス(大阪控)……商法四〇四  
 ○組合ノ清算人ノ權限ヲ制限スルコトハ法ノ禁セサル所ナリトス(大判)……刑訴一三四

**請求**  
 ○訴狀ニ於テ爲セル履行ノ請求ニ因リ生シタル遲滯ノ效力ハ訴ノ取下ニ因リ消滅セサル旨説明シタルハ正當ナリ(大判)……民法四〇四  
 ○拒絶證書作成ノ要件タル請求ハ其拒絶證書作成ノ際之ト同行シタル手形所持人タル債權者ノ代理人カ呈示シ請求セハ足レルモノトス(東控)……商法四三  
 ○無期限ノ消費貸借ニ付キ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ請求ヲ爲スコトハ絕對條件

ニ非ス(大判)……民法八四  
 ○商法第五一五條第二號ニ於テ拒絕者ニ對シテ爲シタル請求ハ執達吏自身ナルト所持人又ハ其代理人ナルトナ間フヲ要セサルモノトス(大判)……商法八六

**請求ノ原因**  
 ○株主タル控訴人カ株金拂込ヲ爲ササルヲ以テ其支拂ヲ求ムト謂フト株金ノ拂込ヲ爲ササルニ因リ終ニ株主タル權利ヲ失ヒタル場合其從前ノ株主トシテ不足額ノ支拂ヲ求ムト謂フトハ其ニ控訴人ニ對スル株金ノ拂込ヲ求ムル趣旨ニ外ナラサルヲ以テ結局訴ニ變更ナモノトス(東地)……商法三三一  
 ○消費貸借ヲ準消費貸借ニ變更スルモ訴ノ原因變更ニ非ラス(浦和地)……民訴四三  
 ○最初單純ナル消費貸借ニ基キ請求ヲ爲シ後ニ至リ宿泊料支拂ノ義務ヲ民法第五八八條ニ依リ消費貸借ノ目的ト爲シタルモノヲ原因トスルトキハ請求原因ノ變更アリタルモノトス(東地)……民訴四四  
 ○法律關係ノ基本タル事實ヲ變更スレハ法律關係ノ變更ヲ求ムト否トナ間ハ訴ノ變更ナリ例ヘハ民五八七ニ因ル消費

七 請求ノ原因

貸借ノ原因トシテ主張シタルニ後ニ至リ  
民法五八八ノ消費貸借ナリト主張スル  
ハ訴ノ變更ナリ(岩田學士)……民訴四四  
○訴ノ原因ニ變更ナシトノ中間判決ハ其  
裁判所ヲ變更スルヲ以テ之ト相反スル終  
局判決ヲ爲スハ違法ナリトス(東控)……  
○最初訴外人トノ契約ニ因リテ地上權ヲ  
取得シタル旨ヲ主張シ後ニ被告トノ契約  
ニ因リテ得タル旨ヲ陳述スルハ訴ノ原因  
ヲ變更シタルモノトス(東控)民訴一四八  
○擔保ノ目的ヲ以テセル賣買ナルコトヲ  
主張シタル事實明カナル以上ハ最初虛偽  
ノ賣買ナリト主張シ後ニ信託ノ賣買ナリ  
ト陳述スルモ訴ノ原因ヲ變更シタルモノ  
ト謂フナ得ス(東控)……民訴一四八  
○訴ノ原因ハ相互ニ矛盾セザル限リハ二  
個以上併セテ主張スルモ原因不定ト謂フ  
可カラス例之時及ヒ設定行爲ニ因リテ  
地役權ヲ取得シタルト主張スルカ如シ  
(大阪地)……民訴一五二  
○貸買人カ貨物ノ明渡ヲ求ムルニ當リ  
數個ノ理由ヲ生シタルトキハ之ヲ併セテ  
請求ノ原因ト爲スモ違法ニ非ラス(大審

院)……民訴一五三  
○消費貸借ニ非サレハ寄託契約ナリト云  
フカ如キハ何レノ原因トスル訴ナルヤ不  
確定ナルヲ以テ一定ノ原因ニ非ラス(岩  
田學士)……民訴一五三  
○債權消滅確認ノ訴ニ於テ債權ハ辨濟ニ  
因リテ消滅シタリ假ニ然ラズトスルモ時  
效ニヨリテ消滅シタリト主張スルハ訴ノ  
原因不定ト云フコトヲ得ス(板倉學士)……  
○一定トハ一個ヲ謂フモノニ非ラス例ハ  
離婚ノ訴ニ於テ配偶者ヨリ同居ニ堪ヘ  
サル處待テ受ケタルコトト配偶者カ自己  
ノ直系尊屬ニ對シテ處待テ爲シタルコト  
ヲ原因トスルカ如キハ請求ノ原因一定セ  
ルナリ(岩田學士)……民訴一五三  
○消滅時効ノ完成ニ因ルヤ債務ノ免除ニ  
因ルヤハ異議ノ理由アルコトヲ示スヘキ  
原因ニシテ異議自體ニハ非ス從テ消滅時  
效ノ完成ニ因ルトナシタル後改メテ免除  
ニ因ルトナスハ訴ノ原因ニ變更ニ非ス  
(雄本博士)……民訴一六五  
○訴ノ原因ノ變更ハ被告カ異議ヲ述ヘサ  
ルトキハ第一審ニ限り許サルモノナレ

ハ假令訴提起ノ當時ニ於テ主張セザルモ  
ノト雖モ被告カ何等ノ異議ヲ止メザルニ  
於テハ更ニ異議ヲ追加スルヲ妨ケザルモ  
ノトス(大審院)……民訴一六六  
○控訴審カ訴ノ原因ニ變更ナシトスル裁  
判ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ス(東  
控)……民訴二四五  
○第一審ニ於テハ競落ニ因リテ所有權ヲ  
取得シタル旨ヲ主張シ第二審ニ於テ更ニ  
民法第一九二條即時取得ニ因リテ所有權  
ヲ得タル旨ヲ附加主張スルモ訴ノ原因ヲ  
變更シタルモノニ非ラス(東控)……  
○第一審ニ於テハ現實金員ヲ貸與シタル  
債權即消費貸借ナリト主張シ第二審ニ於  
テハ他人ヨリ讓受ケタル債權ナリト主張  
スルハ訴ノ原因變更ニ非ラス(東控)……  
○消費貸借ノ法律行爲ヲ請求ノ原因トス  
ル者カ第一審ニ於テハ其ノ貸借ノ目的ヲ  
ル舊債務ハ賣買代金ナリシ事實ヲ主張シ  
第二審ニ於テハ其舊債務ハ債權者ノ交替  
ニ因ル更改ニ因リテ自己ノ債權ニ歸シタ  
ル旨ヲ主張スルモ請求ノ原因ヲ變更シタ

七 請求ノ原因 生命保險

ルモノト謂フナ得ス(大審院)民訴二三四  
○控訴裁判所ニ於テ訴ノ原因ニ變更ナシ  
トセル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコ  
トヲ得サルモノトス(大判)……民訴三一六  
○賣主ヨリ賣買契約履行ノ請求ヲ爲セシ  
ニ後其目的物ニ付キ抵當權者カ賣買ヲ違  
行セシ爲メ該物件ヲ引渡シ代金ヲ得ル能  
ハサルニ至リシ場合ニ之ヲ目的物ノ滅盡  
トシ賠償請求ヲ爲スハ所謂訴ノ變更ニ非  
ス(東控)……民訴三四五  
**生命保險**  
○生命保險契約ニ於テ被保險者カ保險契  
約者ノ義弟ナリヤ將タ雇人ナリヤハ所謂  
重要ナル事項ニアラス(大判)……商法四八  
○改正前ニ於テハ保險受取人ノ指定アル  
モ親族關係ナキトキハ無効ナリ(東地)……  
○商法改正前法律上、其保險金受取人カ  
資格ニ於テ欠ケタル所ナキ以上ハ偶々其續  
柄ニ付誤謬ノ點アリシモノトスルモ爲メ  
ニ該指定ヲシテ全然無効トラシム可キモ  
ノト解スルヲ得ス(東地)……商法一五七  
○保險費ノ過失ニ因リ知ラザリシ事項ハ  
契約者ニ告知義務ナシ(東地)……

商法一六五  
○生命保險契約當事者カ惡意又ハ重大ナ  
ル過失ニヨリ重要ナル事實ヲ告ケザリシ  
時ハ契約ヲ無効トストノ特約ハ有效ナリ  
故ニ契約前結核性流注膿瘍ニ罹リ數日間  
入院シ手術ヲ受ケタルコトアルヲ隱蔽シ  
タルカ如キ場合ニハ假令他ノ死因ニヨリ  
テ死亡シタリトスルモ保險金支拂ノ義務  
ナシ(東地)……商法三九七  
○生命保險契約ノ當事者ハ特約ヲ以テ告  
知義務ニ關スル規定ヲ變更スルコトヲ得  
ルヤ此問題ニ關シテハ種々ノ說ヲ生ス我  
商法ハ許スモノナラン少ナク特約ヲ  
許スナ原則ト解シテ可ナラン(松波博士)

モ若シ保險契約者カ雇人ヲ義弟ナリト爲  
リ爲メニ保險者カ暇取アル意思表示ヲ爲  
シタルトキハ保險者ハ之ヲ取消スコトヲ  
得ルモノトス(東控)……商法四二〇  
○生命保險ノ目的ハ慰籍ナリ慰藉トハ精  
神的缺損即チ精神上ノ不安ヲシテ融和セ  
シムルヲ指ス(青山學士)……前四九二  
○保險契約者又ハ生命保險ニ於ケル被保  
險者以外ノ者ハ告知義務ヲ負フコトハナ  
イノテアル例ハ告知義務者ノ父兄其他  
ノ親族、使用人、家醫等ノ第三者ハ告知  
義務ニ關係ナシスルモノトハナイ從テ是  
等ノ第三者カ事實ヲ告ケス又ハ不實ノ事  
ヲ告ケタルトキト雖モ之ニ因テ直チニ保  
險者ノ解除權ヲ生スルコトハナイノテア  
ル唯第三者ノ行爲ヲ以テ法律上告知義務  
者ノ行爲ト觀ルヘキ場合ハ勿論此限リテ  
ハナイ(松本博士)……商法五〇四  
○不告知又ハ不實ノ告知ハ全然客觀的ニ  
觀察スヘキモノナルヲ不告知ナル事  
實アラハ知ツテ告ケサルト知ラスシテ告  
ナサル中間ハナイ又不實ノ告知ニ付テモ  
同一ナリ(松本博士)……商法五〇七  
○大酒家ニ對シ大酒家ナルカ否カナ問セ

七 生命保険 正式裁判

タルニ自己ノ意見ニヨレハ敢テ大酒家ニ  
非スト信スト答ヘタ場合人如キ不實ノ告  
知アルモノト謂ハネハナラヌ(松本博士)  
..... 商法五〇七  
◎重大ナル過失ニヨル不告知ハ三ノ場合  
ニ存在シ得(一)重要ナル事實ノ存在及其重  
要ナル事實ニ關スルコトヲ知ツテ告ケサ  
リシトキ(二)重要ナル事實ノ存在ヲ知ツテ  
而モ重大ナル過失ニ因テ其重要ナル事實  
ニ關スルコトヲ知ラサルカ爲メ之ヲ告ケ  
サリシトキ(三)重大ナル過失ニ因テ其重要  
ナル事實ノ存在ヲ知ラサルカ爲メ之ヲ告  
ケサリシトキ是レナリ又重大ナル過失ニ  
ヨル不實ノ告知ニ付テモ之と同様三ノ場  
合アリ(松本博士)..... 商法五〇八  
◎保險者カ過失ニ因リテ其事實ヲ知ラス  
トハ相當ノ注意ヲ用ヒタランニハ之ヲ知  
得ヘカリシコトヲ謂フ法文ハ重大ナル  
過失トハ書イテ居ナイノテアルカヲ輕過  
失ノ場合ヲモ包含スヘキテアル(松本博  
士)..... 商法五一  
◎民法第百一條ハ或事情ノ不知ニ關ス  
ル規定テアルカ告知義務ニ關スル規定ハ  
不知知以上ニ於テ告知義務ニ關ルモノ

ナル併シ乍ラ此ノ如ク解釋スルトキハ  
甚ダ奇異ナル結果ヲ來スノテアルカラ民  
法第百一條第一項ハ或ハ所謂擴張解釋ノ  
方法ニ依ルカ或ハ類推解釋ノ方法ニ依リ  
告知義務違反ノ有無ニ付テモ其適用アル  
モノト解サネハナラヌ又保險者ノ不知不  
ノ問題ニ付テモ然リ(松本博士).....  
..... 商法五一三  
◎代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒ保險契約ヲ  
爲スニ非サル場合ニハ本人ノ不知ハ解  
除權ニ何等ノ影響サモホササルモノト  
斷定セネハナラヌ(松本博士).....  
..... 商法五一四  
◎告知義務ハ法律カ保險契約ノ特質ニ基  
キテ設ケタル特殊制度テアルカラ苟モ告  
知義務ニ關スル特別規定ニ依テ保險契約  
ノ解除ヲ爲スコトヲ得ヘカラサル場合ニ  
於テハ保險者ハ危險測定ニ關スル事項ニ  
關シ錯誤又ハ詐欺アリタルノ理由ニヨリ  
民法ノ規定ヲ援用シテ保險契約ノ無効ヲ  
主張シ又ハ其取消ヲ爲スコトヲ得サルモ  
ノテアル(松本博士)..... 商法五一五  
◎實際ノ慣行ヲ見ルニ普通保險約款ハ保  
險證券ノ裏面ニ記載セラルルモノトス而

シテ又其保險證券ハ契約成立後ニ於テ交  
付セラルルノミナラス第一回保險料拂込  
後一定ノ時期ノ後ニ交付セラルル生命  
保險ノ慣行トス如斯方法ニ因リ保險證券  
ノ交付カ保險契約者ノ法律上ノ權利  
關係ニ影響ヲ及ホシ得ルモノト爲スハ不  
當ナリ(水口博士)..... 商法五一八  
◎我商法ハ生命保險ニ付キ被保險者ニ告  
知義務ヲ課シ其違背ノ場合ニ契約ヲ解除  
セシメナカラ(四二九)損害保險ニ付キ全  
然被保險者ヲ度外視シ保險契約者ノミニ  
告知義務ヲ課シ被保險者ニ之ヲ認メス  
(水口博士)..... 商法五二〇  
**正式裁判**  
◎即決ニ對シ司法裁判所ニ向ツテ正式裁  
判ノ請求アレハ即決處分ハ直ニ其效力ヲ  
失フト同時ニ既ニ該處分ニ因リテ公訴範  
圍ノ定マレル其事實ハ別ニ檢事ノ公訴提  
起ノ手續ナクシテ當然刑事事件トシテ區  
裁判所ニ繫續スルコトヲ定メタル趣旨ナ  
リト解ス可シ(大判、豊島博士)刑訴七八  
◎違背罪ノ即決ニ對シ正式裁判ノ請求ア  
リタルトキハ即決ハ其請求アルト同時ニ  
效力ヲ失ヒ檢事ノ通常ノ事件ト同一ニ此

事件ヲ調査シ更ニ起訴不起訴ノ處分ヲ決  
スヘキモノナルヲ以テ此ノ事件ハ直チニ  
區裁判ノ公判ニ繫屬スヘキモノニ非ラス  
(富田博士)..... 刑訴七九  
◎違背罪即決ニ對シ正式裁判請求アリタ  
ルトキハ其事件ハ當然區裁判所ニ繫屬ス  
(岡田博士)..... 刑訴九五  
◎警察官吏及告發書及即決書遺書ニ警察  
署ノ印ヲ捺捺セサルモ無効ニアラス假  
シテ無効トスルモ遺書ノ無効ハ即決書  
遺書ノ效力ニ關シテ即決書遺書ハ無効ハ  
正式裁判ノ申立ヲ妨ケサルモノトス(大  
判)..... 刑訴一八七  
◎正式裁判ノ申立ニ對シ即決書遺書ニ對シテ  
爲サレタル印ハ苟モ即決書遺書ト認ムヘ  
キモノアルハ是リ即決書遺書ノ存在ヲ要  
スルモノニアラス(大判)..... 諸法九七  
◎正式裁判請求書ハ其内容記載カ適式ニ  
作成セラレアル以上ハ宛名ノ記載ヲ誤リ  
タルハトテ餘斷不受領ノ裁判ヲ爲スヘキ  
モノニ非ス(大判)..... 諸法一〇〇  
**精神障害**  
◎精神障害ハ必ラスシモ精神病ニ基ク  
トシテ一時ノ精神障害モ亦等シク實

任能力ヲ阻却ス反之殺人狂、放火狂、窃盜  
狂、色情狂ノ如キハ必ラスシモ心神喪失  
者タルコトヲ意味スルモノニ非ラス(泉  
二學士)..... 刑法六七  
**世話人**  
◎世話人カ其資格ニ於テ證書名宛人  
トナリ居ル權利義務ハ相続人ニ於テ承繼  
ス可キモノニ非ラス(東松)..... 民法二九五  
**窃盜**  
◎窃盜教唆罪ト贓物買置罪トハ法律上其  
罪質ナ同シフセサルカ故ニ縱令被告カ人  
ヲ教唆シテ物取セシメタル贓物ヲ買置シ  
タリトスルモ其故買ノ所爲ハ窃盜教唆罪  
ニ吸收セラレ可キモノニ非ス(大審院).....  
..... 刑法三三  
◎他人ノ所有ニ屬スル借用證書ノ用紙ヲ  
盜取シ之ニ盜難ニ罹リタル本人ノ實印ヲ  
盜取シ之ヲ使用シ本人名義ノ借用證書ヲ  
備置シタル場合ハ窃取ノ行爲ハ文書偽造  
ニ對シ獨立ノ一罪ヲ構成シ文書偽造其行  
使及詐欺ト盜取又ハ盜捺ノ行爲トノ間ニ  
ハ刑法第五四條ノ適用ナク反テ盜取ト文  
書偽造其行使及詐欺トナ併合罪トシテ同  
法第五五條ヲ適用ス(大判)..... 刑法一

シテ又其保險證券ハ契約成立後ニ於テ交  
付セラルルノミナラス第一回保險料拂込  
後一定ノ時期ノ後ニ交付セラルル生命  
保險ノ慣行トス如斯方法ニ因リ保險證券  
ノ交付カ保險契約者ノ法律上ノ權利  
關係ニ影響ヲ及ホシ得ルモノト爲スハ不  
當ナリ(水口博士)..... 商法五一八  
◎我商法ハ生命保險ニ付キ被保險者ニ告  
知義務ヲ課シ其違背ノ場合ニ契約ヲ解除  
セシメナカラ(四二九)損害保險ニ付キ全  
然被保險者ヲ度外視シ保險契約者ノミニ  
告知義務ヲ課シ被保險者ニ之ヲ認メス  
(水口博士)..... 商法五二〇  
**正式裁判**  
◎即決ニ對シ司法裁判所ニ向ツテ正式裁  
判ノ請求アレハ即決處分ハ直ニ其效力ヲ  
失フト同時ニ既ニ該處分ニ因リテ公訴範  
圍ノ定マレル其事實ハ別ニ檢事ノ公訴提  
起ノ手續ナクシテ當然刑事事件トシテ區  
裁判所ニ繫續スルコトヲ定メタル趣旨ナ  
リト解ス可シ(大判、豊島博士)刑訴七八  
◎違背罪ノ即決ニ對シ正式裁判ノ請求ア  
リタルトキハ即決ハ其請求アルト同時ニ  
效力ヲ失ヒ檢事ノ通常ノ事件ト同一ニ此  
◎受託ノ封書中ニ在ル金圓ヲ取出シタル  
所爲ハ窃盜罪ナリ(大判)..... 刑法三二  
◎受託者ハ容器在中ノ物件ニ付番人トシ  
テ看守スルニ止マリ之カ保管アルコトナ  
シ故ニ受託者カ容器在中ノ物件ヲ領得ス  
ルノ行爲アルトキハ横領罪ニ非ス窃盜罪  
ナリ(大場、勝本、江本諸博士)..... 刑法三三  
◎嚴封シテ他ニ委託シタル場合ニ受託者  
カ其封ヲ破リ物品ヲ取出シテ發消シタル  
場合ハ如何ニ處分ス可キカ我大審院ニ於  
ケル多數ノ判例ハ窃盜ヲ以テ論セリ然レ  
トモ此場合ハ全部委託アリタル物件ニシ  
テ之ヲ取出シテ發消スルハ受託物發消罪  
ヲ成ス(岡田博士)..... 刑法三三  
◎郵便運配人カ信書ヲ開封シテ小爲替券  
ヲ窃取シ虚偽ノ氏名ヲ記入シテ郵便局ヨ  
リ額面金ヲ受領シタル場合ハ窃盜及詐欺  
取財ナリ(法曹)..... 刑法四〇  
◎親族家族間ノ窃盜(絶對的免除)ハ罪ア  
レトモ刑ヲ科セサル場合ナリ(山岡博士)  
..... 刑訴六一  
◎放火狂窃盜狂ノ如キ個狂モ情狀如何ニ  
依リ伴狂ニ非サルヤ又他ノ精神の疾患ニ  
原因スルニ非サルヤヲ調査シ或ハ之ヲ心

七 正式裁判 精神障害 世話人 窃盜

七 設立

神喪失ナリト爲サザルヲ得サル場合少カラサル可シ(大場博士)……刑法六四  
 ◎家屋ノ崩テ構成スル材料ヲ窃取スル手取トシテ先ツ崩テ破壊シ然ル後之ヲ窃取スルトキハ刑法第五四條第一項後段ニ依リ一罪ヲ成スモノトス(泉二學士)……  
 ◎窃盗ノ目的ヲ以テ婦人ノ頭髪ヲ切斷スルトキハ窃盗罪ヲ構成スルモノト解スルヲ得ヘシ是レ恰モ不働産ハ動カシ得ヘキモノニ非サレハ窃盗罪ノ客體タルコト能ハサレトモ之ヲ取毀シテ窃取シ得ルト其理ヲ同フス(大場博士)……刑法二二二  
 ◎窃盗犯者カ抛棄スルノ意思ヲ以テ物ヲ遺棄シタル場合ト雖モ其遺棄シタルハ自己ノ所有物ニ非スレテ其窃取シタル物品ヲ構成シタル行爲ニ該當スルモノトス(大場博士)……刑法三一三  
 ◎窃盗犯者カ犯罪ノ場所ニ置去リタル物ヲ横領シタル者ハ刑法第二五四條ヲ以テ處斷スヘキモノトス(大場博士)……刑法三一三

◎窃盗罪ニ於ケル故意ノ内容ハ(一)目的物カ他人ノ財物ナルコト(二)他人ノ意思ニ反シテ所持ヲ奪ヒ財産ヲ横領スル意思アルコトヲ要ス(泉二學士)……刑法三一四  
 ◎窃盗ノ行爲ト強盗ノ行爲トカ同一ノ意思發動ニ因リ連續シテ實行セラレタルトキハ刑法第五五條ニ依リ一個ノ連續犯ト以テ之ヲ論スヘキモノトス(大判)……  
 ◎強盗罪ハ窃盗罪ノ加重ノ情アル場合若クハ程度ノ高キ場合ニ外ナラサルカ故ニ窃盗罪ハ強盗罪ノ中ニ吸收セラレ強盗罪ノ一罪トシテ處斷スヘキモノトス(藤本博士)……  
 ◎使用窃盗即チ一時使用シテ後返還スルノ意思ヲ以テ他人ノ財物ヲ持去ル場合ニ關シ多數說ハ之ヲ窃盗ニ非スト爲スモ余輩ハ反對說ヲ妥當ナリト解ス蓋シ所持ノ安全ト云フコトハ社會ヲ維持スル要件ナリ(牧野學士)……刑法三二二  
 ◎刑法第二四五條電氣ヲ財物ト看做ストノ規定ハ窃盗ノ目的物ヲ有體物ニ限ルト爲ス例外規定ニ在ラス即チ冷蔵庫中ノ冷氣即チ一種ノ「エネルギー」不當使用ハ窃

盗罪ナリ(牧野學士)……刑法三二五  
 ◎刑法ハ原則トシテ民法ノ主義ニ從フト雖モ窃盗及強盗ノ罪詐欺及恐喝ノ罪ニ付テハ電氣モ亦財物ト看做スヘキコトヲ規定シタリ(泉二學士)……刑法三二七  
 ◎窃盗罪ノ構成要件ノ一トシテ有體物タルコトヲ要ス敢ニ無形ノ財産即チ權利ハ本罪ノ物體タラス液體氣體モ其ニ有體物ナリ電氣ハ法律ニ於テ物ト看做スコトハ既ニ述ヘタルカ如シ(山岡ドクトル)……刑法三二七  
 ◎法人設立許可後二週間内ニ理事ヲ選任セザル場合ニ於ケル設立登記期間ハ理事選任後直チニ爲スヘキモノトス(大阪控)……民法二〇三  
 ◎創立總會終結シタル時ハ假令引受ナキ株式又ハ第一回株金ノ拂込ナキ株式アルモ會社ノ設立ヲ無効ナラシムルモノニ非ス(東控)……商法一二七  
 ◎社團法人ノ設立行爲ハ余ハ之ヲ單獨行爲ナリトス多數ノ設立行爲者ニ依リテ其合的ニ爲サレタル一種ノ單獨行爲ナリ(松本博士)……商法一八一

設立

◎株式會社ノ發起人間ニハ會社ノ設立ノ目的、ル組合契約アリ(松本博士)……  
 ◎株式會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケル場合ハ其引受ニヨリテ成立シ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサルトキハ創立總會ノ終結ニヨリテ成立スルモノナレハ設立登記ノ申請ニ定款ノ添附ナカリトスルモ株主ハ之ヲ以テ會社ノ成立ヲ否認シ得ヘキニ非ス(東控)……商法一八九  
 ◎設立行爲トハ設立者カ法律ノ規定ニ從ヒ法人タル團體ヲ組織シ各自ノ社員ト爲ランコトヲ目的トスル契約ニシテ此契約ノ實行行爲トシテ法律ニ定ムル一切ノ設立手續ヲ謂フ(柳川學士)……商法二六五  
 ◎會社ハ事業ニ着手シタル後其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ社員ハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張スルコトヲ得(九九ノ二)其訴ハ會社ヲ被告トス(松本博士)……商法三六二

◎接骨行爲ハ人體ノ創傷ヲ治療スヘキ手術ノ一種ナルハ常業トシテ之ヲ爲ストキハ醫業ノ範圍ニ屬ス(大判)……諸法一三七  
 ◎明治一八年三月内務省甲第七號達實施前ヨリ接骨業ヲ爲ス者ハ格別其他ノ者ハ總テ醫師ノ免許ヲ受クルニ非サレハ該業ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(大判)……諸法一三八  
 ◎絶交ヲ以テスル脅迫ニ付テハ(キ)ヲ見ヨ  
 ◎絶交ノ通告ニヨリ脅迫罪ノ成立ヲ見ルコトアリ(大判)……刑法七  
 ◎絶家ノ再興ハ相續ニ非サルヲ以テ相續ニ關スル規定ニ依テ之ヲ律ス可カラサルハ民法施行ノ前後ニ通シテ同一ナリ(大判)……民法四〇九  
 ◎絶家ノ再興者ハ特別事由アルニアラサレハ廢絶前ノ戸主ノ有セシ權利義務ヲ承繼セス(大判)……民法四〇九

◎未拂込株金ニ對スル發起人ノ責任ハ請求ヲ受ケタルトキヨリ遲滞ニ附セル、モノトス……定款ニ於テ定メタル株金未拂込ノ時ニ於ケル損害賠償ニ關スル規定ハ發起人ヲ專屬ス(東地)……商法六六  
 ◎責任加重  
 ◎苟モ株主全員ノ同意カアル以上ハ株主ノ責任ヲ加重スルモ敢テ違法ヲ以テ目スヘキモノナナイ(松本博士)……商法四六八  
 ◎責任能力者ノ得タル「贓物」ニ付テハ(ソ)ヲ見ヨ  
 ◎我刑法典ハ各國立法例ト同シク負責能力ナキ者若クハ負責能力ニ欠缺アル者ヲ定メ間接ニ負責能力ヲ定ム而シテ我刑法ノ定ムル負責能力ナキ者又ハ斯カル能力ノ欠缺アル者ハ心神喪失者、心神耗弱者、癡癡者及幼年者ノ四者ナリ(大場博士)……刑法六二  
 ◎心神喪失者トハ所爲ノ當時事實上全然負責能力ナキ者ヲ指稱ス詳言スレハ行爲者カ行爲ノ當時事實上自己ノ外界及所爲ノ事實上道德上並ニ法律上ノ意識ヲ辨識スルノ能力ナキ又ハ現ニ存スル動機ニ關シ

節操

◎儀式ヲ舉ケナカラ婚姻ノ届出ヲ爲サス婦人ノ名譽權ヲ侵害シタリトノ事件ニ於テモ過失ノ有無ヲ審究スルノ要アリ(東

絶交

◎絶交ノ通告ニヨリ脅迫罪ノ成立ヲ見ルコトアリ(大判)……刑法七

責任

◎心神喪失者トハ所爲ノ當時事實上全然負責能力ナキ者ヲ指稱ス詳言スレハ行爲者カ行爲ノ當時事實上自己ノ外界及所爲ノ事實上道德上並ニ法律上ノ意識ヲ辨識スルノ能力ナキ又ハ現ニ存スル動機ニ關シ

◎株式會社ノ發起人間ニハ會社ノ設立ノ目的、ル組合契約アリ(松本博士)……  
 ◎株式會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケル場合ハ其引受ニヨリテ成立シ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサルトキハ創立總會ノ終結ニヨリテ成立スルモノナレハ設立登記ノ申請ニ定款ノ添附ナカリトスルモ株主ハ之ヲ以テ會社ノ成立ヲ否認シ得ヘキニ非ス(東控)……商法一八九  
 ◎設立行爲トハ設立者カ法律ノ規定ニ從ヒ法人タル團體ヲ組織シ各自ノ社員ト爲ランコトヲ目的トスル契約ニシテ此契約ノ實行行爲トシテ法律ニ定ムル一切ノ設立手續ヲ謂フ(柳川學士)……商法二六五  
 ◎會社ハ事業ニ着手シタル後其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ社員ハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張スルコトヲ得(九九ノ二)其訴ハ會社ヲ被告トス(松本博士)……商法三六二  
 ◎接骨行爲ハ人體ノ創傷ヲ治療スヘキ手術ノ一種ナルハ常業トシテ之ヲ爲ストキハ醫業ノ範圍ニ屬ス(大判)……諸法一三七  
 ◎明治一八年三月内務省甲第七號達實施前ヨリ接骨業ヲ爲ス者ハ格別其他ノ者ハ總テ醫師ノ免許ヲ受クルニ非サレハ該業ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(大判)……諸法一三八  
 ◎絶交ヲ以テスル脅迫ニ付テハ(キ)ヲ見ヨ  
 ◎絶交ノ通告ニヨリ脅迫罪ノ成立ヲ見ルコトアリ(大判)……刑法七  
 ◎絶家ノ再興ハ相續ニ非サルヲ以テ相續ニ關スル規定ニ依テ之ヲ律ス可カラサルハ民法施行ノ前後ニ通シテ同一ナリ(大判)……民法四〇九  
 ◎絶家ノ再興者ハ特別事由アルニアラサレハ廢絶前ノ戸主ノ有セシ權利義務ヲ承繼セス(大判)……民法四〇九  
 ◎未拂込株金ニ對スル發起人ノ責任ハ請求ヲ受ケタルトキヨリ遲滞ニ附セル、モノトス……定款ニ於テ定メタル株金未拂込ノ時ニ於ケル損害賠償ニ關スル規定ハ發起人ヲ專屬ス(東地)……商法六六  
 ◎責任加重  
 ◎苟モ株主全員ノ同意カアル以上ハ株主ノ責任ヲ加重スルモ敢テ違法ヲ以テ目スヘキモノナナイ(松本博士)……商法四六八  
 ◎責任能力者ノ得タル「贓物」ニ付テハ(ソ)ヲ見ヨ  
 ◎我刑法典ハ各國立法例ト同シク負責能力ナキ者若クハ負責能力ニ欠缺アル者ヲ定メ間接ニ負責能力ヲ定ム而シテ我刑法ノ定ムル負責能力ナキ者又ハ斯カル能力ノ欠缺アル者ハ心神喪失者、心神耗弱者、癡癡者及幼年者ノ四者ナリ(大場博士)……刑法六二  
 ◎心神喪失者トハ所爲ノ當時事實上全然負責能力ナキ者ヲ指稱ス詳言スレハ行爲者カ行爲ノ當時事實上自己ノ外界及所爲ノ事實上道德上並ニ法律上ノ意識ヲ辨識スルノ能力ナキ又ハ現ニ存スル動機ニ關シ



責任能力

正則ニ其意思ヲ決定スルノ能力ナキヲ謂フ(大場博士)……………刑法六二  
 ◎一時的原因ニ依リ一時意識ノ瀾濁状態若クハ稍々甚シキ不正則状態ニ陥ルコトアリ斯カル心理状態ヲ稱シテ一時の心神喪失ト云フ失神睡遊半眠半醒麻痺泥酔又ハ催眠術等ニヨリ意識ノ瀾濁又ハ不正則状態ニ在ル者ハ之ニ屬ス(大場博士)……………刑法六三  
 ◎所爲ノ當時心神喪失ノ状態ニアリシトキハ縱令此状態ハ行爲者ノ故意又ハ過失ニ出テタル場合ト雖モ之ニ刑法上ノ責任ハシムヘキモノニ非ス然レトモ行爲者カ故意ニ依リ心神喪失ト爲ルコトノ觀念中ニ其斯カル状態ニ在ル間ニ爲サル可キ故意又ハ過失ニ基ク犯罪ヲ包含スル場合ハ之カ論結ヲ異ニス(大場博士)……………刑法六四  
 ◎放火狂竊盜狂等情狀如何ニ依リ伴狂ニ非サルヤ又他ノ精神的疾患ニ原因スルニ非サルヤヲ調査シ或ハ之ヲ心神喪失ナリト爲ササルヲ得サル場合少カラサル可シ(大場博士)……………刑法六四  
 ◎心神耗弱トハ薄弱ナル自責任能力ナキ有ス

ル者ノ心理状態ヲ云フ行爲者カ行爲ノ當時自責任能力ニ必要ナル辨識及意思ニ異常アリタルモ異常ノ程度薄弱ニシテ心神喪失ト爲スニ至ラサル者ハ我法典ノ所謂心神耗弱者ナリ(大場博士)……………刑法六五  
 ◎自責任能力者ノ所爲ハ犯罪構成要件ヲ缺クテ以テ斯カル者ノ犯罪タル所爲ニ因テ得タル物ハ之ヲ贓物ト云フヲ得ヌ又犯罪タル所爲アリタル自責任能力者ヲ藏匿スルモ敢テ犯人藏匿罪ヲ構成スルコトナシ(大場博士)……………刑法六五  
 ◎一四歳未満ノ幼年者ハ自責任能力者ニシテ一四歳以上ノ幼年者ハ完全ナル自責任能力者ナリ我法典ハ幼年者ニ關シ相對的自責任能力及減輕スヘキ自責任能力者ナルモノヲ認メス(大場博士)……………刑法六六  
 ◎痲痺者トハ明瞭ナル發音ヲ聽ク能力及言語ヲ話ス能力ヲ先天的ニ有セス又幼年ニ於テ喪ヒタル者ヲ謂フ聽官語言ノ中其一ノ一有スル者又ハ二者共ニ有セスモ聽キ又ハ話ス能力ヲ有シタル後之ヲ失ヒタル者ハ法典ノ所謂痲痺者ニ屬セス(大場博士)……………刑法六六  
 ◎自責任能力ハ法律カ違法行爲ニ付本人ヲ

シテ法律上ノ制裁ヲ負擔セシムルニ必要ナル主觀的資格ナリ故ニ前述ノ如ク自責任能力ハ意思責任ヲ有シ得ル能力ニ在ラスシテ所謂責任ニ任スル能力即チ刑罰制裁ヲ負擔スルノ能力ナリ而シテ犯罪ハ刑罰ヲ科セラル可キ行爲ナルカ故ニ刑罰ニ付テ自責任能力ナキ者ハ犯罪ヲ犯スノ能力ナキコト疑ヒテ容レヌ(大場博士)……………刑法六七  
 ◎自責任能力ハ知覺ニ關スル精神作用ノ成熟シ且ツ健全ナル人ニ存ス換言スレバ觀念ノ正則ナル内容ト正則ナル原動力ハ自責任能力ノ實質ヲ構成スルモノトス(小嶋學士)……………刑法六七  
 ◎精神障害ハ必ラスシモ精神病ニ基クコトヲ要セス一時ノ精神障害モ亦等シク自責任能力ヲ阻却ス反之殺人狂放火狂竊盜狂等情狀ノ如キ必スシモ心神喪失者タルコトヲ意味スルニ非ラス(泉二學士)……………刑法六七  
 ◎犯罪能力ノ本質ハ自然上ニ於ケル心意ノ力ナリ之ヲ精言セハ決意ノ能力又ハ遠因ニヨリ正式ニ決定スルヲ得可キ精神上ノ力ナリ(山岡トクトル)……………刑法六七

責任能力 石村 善意

◎行爲者ニ自責任能力ナキカ爲メ犯罪不成立トナル場合ニ於テ斯カル行爲ニ依リテ領得シタル財産ハ之ヲ贓物ト謂フヲ得ス(大場博士)……………刑法一二〇

**石村**  
 ◎請負工事ニ關シテ切取リタル石材ノ所有權カ請負人ニ歸屬スヘキ慣習存セス(安濃津地)……………諸法六五

**善意**  
 ◎取得時効ニ付善意トハ他人ノ所有物ナルコトヲ知ラサルヲ謂フ又過失ナキトキトハ其事實ヲ知ラサルニ付キ普通人ノ爲スヘキ注意ヲ缺キタルコトナキヲ意義ス例ヘハ登記簿ヲ閱覽スルコトヲ怠リタルカ如キハ通常其過失アルモノト見ルコトヲ得ヘシ(富井博士)……………民法四二三  
 ◎取得時効ニハ完全ナル所有權ヲ取得セリトノ積極的信認アルヲ要ス(岡松博士)……………民法四二三  
 ◎取得時効ニハ占有取得ニ付キ實質上不正行爲ヲナサストノ積極的信認アルヲ以テ足ル過失ノ程度ハ客觀的標準ニヨリ之ヲ決ス過失ナキコトハ占有ノ初メニ於テノミ必要ナル條件ナルコト明ナリ(中島

博士)……………民法四二三  
 ◎汎ク善意ノ占有ト云フハ占有者カ占有ヲ正當トスルノ本權アリト誤信シテ爲セル占有ヲ謂フ然レトモ取得時効ニ善意ト言フハ之ニ比シ稍狹義ニシテ唯所有權アリト信シテ爲セル占有ヲ指シテ謂フ(鳩山博士)……………民法四二三  
 ◎占有者ノ善意トハ消極的ニ或事實(本權若クハ占有スル權若クハ占有ヲ正當トスル權若クハ占有ノ權原タル權ノ不在)ノ不知ヲ意味ス(乾學士)民法四九九  
 ◎占有者カ善意タルニハ或事實ノ不知ノミヲ以テ足レリトセス進シテ其反對事實ノ確信ヲ要スルモノトセンカ法カ善意占有者ニ對シ特別ノ保護ヲ與フル所以ノ精神ヲ遺憾ナク貫徹スルコト能ハサルニ至ラン(乾學士)……………民法五〇一  
 ◎占有ニ關シ善意トハ惡意ニ對シテ云ヒ自ラ其所有者タルコトヲ信スルヲ云フ(富井博士)……………民法五〇二  
 ◎占有ニ關シ古來ノ通説ハ權利ヲ有スルコトノ確信ヲ必要トセルニ在リ固ヨリ反對説ニモ多少ノ理由ナキニ非スト雖モ余輩ハ寧ろ通説ニ從フヲ妥當トスル者ナリ

シテ法律上ノ制裁ヲ負擔セシムルニ必要ナル主觀的資格ナリ故ニ前述ノ如ク自責任能力ハ意思責任ヲ有シ得ル能力ニ在ラスシテ所謂責任ニ任スル能力即チ刑罰制裁ヲ負擔スルノ能力ナリ而シテ犯罪ハ刑罰ヲ科セラル可キ行爲ナルカ故ニ刑罰ニ付テ自責任能力ナキ者ハ犯罪ヲ犯スノ能力ナキコト疑ヒテ容レヌ(大場博士)……………刑法六七  
 ◎自責任能力ハ知覺ニ關スル精神作用ノ成熟シ且ツ健全ナル人ニ存ス換言スレバ觀念ノ正則ナル内容ト正則ナル原動力ハ自責任能力ノ實質ヲ構成スルモノトス(小嶋學士)……………刑法六七  
 ◎精神障害ハ必ラスシモ精神病ニ基クコトヲ要セス一時ノ精神障害モ亦等シク自責任能力ヲ阻却ス反之殺人狂放火狂竊盜狂等情狀ノ如キ必スシモ心神喪失者タルコトヲ意味スルニ非ラス(泉二學士)……………刑法六七  
 ◎犯罪能力ノ本質ハ自然上ニ於ケル心意ノ力ナリ之ヲ精言セハ決意ノ能力又ハ遠因ニヨリ正式ニ決定スルヲ得可キ精神上ノ力ナリ(山岡トクトル)……………刑法六七

(富井博士)……………民法五〇一  
 ◎善意ノ占有トハ不正當ノ占有者カ其權原ノ瑕疵アルヲ知ラス正當ノ權利アリト信シテ物ヲ占有スルヲ云フ(横田博士)……………民法五〇二  
 ◎不動產ノ占有者カ其占有ノ始善意(所有ノ信念ヲ有シ)ニシテ且ツ過失ナカリシトキ(所有ノ信念ヲ有スルニ至リタルコトカ其不注意ニ基カサルトキ)ハ其期間八十年ナリ(川名博士)……………民法五〇二  
 ◎善意ノ占有ハ占有者カ占有ヲ爲スノ權利アリト確信シテ爲シタル占有ナリ故ニ占有者カ消極的ニ其占有ヲ爲ス權利欠缺ヲ知ラサル事實(不法確信ノ不在)ハ善意ノ占有者タルニ足ラス(松岡學士)……………民法五〇二  
 ◎善意ノ觀念ニ就テハ(一)積極的ニ所有權者トナリタル確信ヲ要ストナシ(二)消極的ニ不正ニ占有ヲ取得シタルトノ自覺ナキヲ以テ足ルコトナシ(三)占有取得ニ付キ實質上不正行爲ヲナサストノ積極的的確信ヲ要ストナス第三說ヲ以テ正シトナス(中島博士)……………民法五〇三  
 ◎汎ク善意ノ占有ト云フハ占有者カ占有

七 善意 善意無過失 占有

ナ正當トスルノ本權アリト誤信シテ爲セ  
ル占有ヲ謂フ然レトモ茲ニ善意ト云フハ  
之ニ比シ稍狹義ニシテ唯所有權アリト信  
シテ爲セル占有ノミヲ謂フ(鳩山學士)……  
………民法五〇三  
◎占有ニ善意ハ之ヲ消極的ニ權利取得ヲ  
妨クル故障ヲ知ラサルノ意義ニ解セサル  
ヘカラス(石坂博士、平沼博士)………  
………民法五〇四  
◎監査役ノ承認ヲ必要條件トシ之ニ違背  
シタル取引ヲ無効トナスモノナレハ此無  
效ハ何人ニモ對抗シ得ヘク第三者ノ善意  
無過失ナルト否トチ問ハサルナリ(大阪  
地)………商法一一七

善意無過失

◎手形ノ後裏書(拒絕證書作成期間經過  
後ノ裏書)ニ對シテハ商法第四四一條ノ  
適用ナシ(乾學士)………商法四八  
一

占有

◎動産質借人カ其質借物ヲ第三者ニ賣却  
シ尙ホ其物ヲ買主ヨリ賃借シテ之カ占有  
ヲ持續セリ此ノ場合ニ所有權ハ依然トシ  
テ前所有者ニ在リトス(石坂博士)………  
………民法八九

七 占有

ルコトヲ得可シ(梅博士)………民法二六五  
◎民法第一九二條ノ占有ノ原因タル事實  
ニ關シテハ讓渡行爲ノ場合ノミニ限ル可  
ク善意ノ對象タル事實ニ關シテハ讓渡人  
ノ無權利ノ場合ノミニ限ル(石坂博士、當  
井博士)………民法四五九  
◎民法第一九二條ノ規定ハ尙讓渡行爲ノ  
瑕疵ニ關スル善意ノ場合ニモ適用アルノ  
ミナラス自ラ相續人ナリト誤信シテ相續  
財産ニ屬スル動産ノ占有ヲ始メタル場合  
ニモ適用アリ加之原始取得ノ場合特ニ先  
占ノ場合ニモ適用アリト信ス(乾學士)………  
………民法四五九  
◎第一九二條ノ規定ヲ縮小解釋セサルト  
キハ讓渡人ノ無能力者タルコトヲ知ラサ  
ル讓受人ハ其讓受行爲カ無能力ノ原因ニ  
依リ取消サレタル場合ニ於テモ同條ニ依  
リ所有權ヲ取得スルカ故ニ結局無能力者  
ヲ保護スルコト能ハサルニ至ルヘシ(富  
井博士、石坂博士)………民法四六二  
◎動産ニ關スル第一九二條ノ權利取得ハ  
失踪宣言ニ因ル財産取得者ニ付テハ適用  
ヲ生スルコトナシ何トナレハ第一九二條  
ハ讓渡人ノ權利ノ場合ニ於テ善意無過失

ノ占有者ニ權利ヲ取得セシムルコトヲ定  
メタル規定タルニ過キサレハナリ(松本  
博士)………民法四六四  
◎民法第一九二條ノ規定ハ真正ノ權利者  
ト正權原ノ占有者トノ關係ヲ規定シタル  
モノニシテ無効又ハ取消ノ原因ノ存スル  
法律行爲ニ基キ動産物ノ引渡ヲ受ケテ之  
ヲ占有シタル者ニ之ヲ適用スルコトヲ得  
ス(橫田博士)………民法四六四  
◎占有者ト無權利者トノ間ニ占有動産上  
ニ行使スル權利ノ取得ヲ目的トスル法律  
行爲(占有動産ノ賣買質入賃借等)又ハ之  
ト同視スヘキ訴訟行爲(強制執行ニ因ル  
競賣)成立スルコトヲ要ス故ニ無主物ト  
信シテ他人ノ動産ヲ占有シタル各人ハ所  
有權ヲ取得スルコトヲ得ス(松岡學士)………  
………民法四六四  
◎取テ有價ナルコトヲ要セス然レトモ該  
行爲カ無價ナルトキハ占有者ハ不當ノ利  
得ヲ爲シタルモノナリ故ニ占有者ハ一方  
ニ在テハ動産權ヲ取得スト雖モ他面ニ在  
リテハ舊權利者ニ對シ不當利得ノ返還ヲ  
ナス債務ヲ負フ(松岡學士)………民法四六四  
◎相手方カ取消シ得ヘキ行爲ノ目的タル

物ヲ善意無過失平穩且公然ニテ占有シ其  
動産ノ上ニ即時ニ權利ヲ取得スヘキ條件  
ヲ具ヘタル場合ニ於テ尙取消ノ場合ニ其  
目的物ヲ返還スルヤ否ヤ解釋上議論アリ  
ト雖モ余ハ返還ヲ要スルモノト解ス(鳩  
山學士)………民法四六四  
◎民法第一九二條ハ無權利者ノ權利者ノ  
權利讓渡ノ場合ニモ適用アリヤ將タ讓  
渡行爲ニ瑕疵アル場合(無能力又ハ無効  
等)ニモ適用アリヤ余ハ讓渡人ノ無權利  
者ナル場合ニモ適用アルモノト解スル  
ヲ正當ト信ス(飯島學士)………民法四六四  
◎動産ノ取得カ繼續取得ナルヤ否ヤハ問  
フ所ニアラス(大審院)………民法四六七  
◎占有者ノ善意トハ消極的ニ或事實(本  
權若クハ占有スル權若クハ占有ヲ正當ト  
スル權若クハ占有ノ權原タル權ノ不存  
在)ノ不知ヲ意味ス(乾學士)民法四九九  
◎若シ占有者カ善意タルニハ或事實ノ不  
知ノミヲ以テ足レリトセス進ンテ其反對  
事實ノ確信ヲ要スルモノトセンカ法カ善  
意占有者ニ對シ特別ノ保護ヲ與フル所以  
ノ精神ヲ遺憾ナク貫徹スルコト能ハサル  
ニ至ラン(乾學士)………民法五〇一

◎本條(一九二)ニ因ル權利取得ノ要件タ  
ル占有ハ現實ノモノニ限ルヤ法律ニ特別  
ノ規定ナキ限りハ此見解(現實占有ニ現  
定ス)ヲ採ルコト至當ナラス(富井博士)  
………民法九〇  
◎善意ノ占有者カ過失ナクシテ物ノ引渡  
ヲ受ケ之ヲ占有シタル以上ハ之ヲ保護シ  
占有者ヲシテ其正當ニ豫期シタル權利ヲ  
取得セシムルヲ必要トス(橫田博士)………  
………民法九〇  
◎占有ヲ始メタル時ハ法律上別段ノ制限  
ナキヲ以テ簡易引渡及占有ノ改定アリタ  
ル時ヲ指示スト云フ可シ(松岡學士)………  
………民法九〇  
◎本條ハ所謂容假ノ占有ニ付テ規定セリ  
容假ノ占有トハ所謂代理占有ニシテ他人  
ノ爲ニ占有者ヲ爲スナク(梅博士)………  
………民法二一八  
◎質權者トシテ物ヲ所持スル者ハ其權限  
ノ性質上質置主ニ對シ返還ノ義務ヲ負擔  
シテ物ヲ所持スルモノニシテ質置主ノ爲  
メニハ代理占有者ナリ(橫田博士)………  
………民法二一八  
◎占有妨害ニ因リテ生シタル損害ニ付テ

ハ民法第二〇一條ニヨリ妨害ノ止ミタル  
後一ケ年ヲ經過シタルトキハ之カ賠償ヲ  
請求スルコト能ハス(橫田博士)………  
………民法二六四  
◎一年ノ期間ノ經過シタル後ハ占有者ハ  
保持ノ訴ヲ起スコトヲ得サルノミ他ノ訴  
ニ關シテハ固ヨリ本條ノ關スル所ニ非ス  
殊ニ損害賠償ノ請求ノ如キハ消滅時効ノ  
規定ニ從ヒ一〇年間之ヲ爲スコトヲ得ヘ  
シ(仁井田、仁保、松波諸博士)………  
………民法二六五  
◎占有保全ノ訴ノ行使期間ハ原則トシテ  
妨害ノ存スルトキヨリ始マリ妨害カ止ミ  
タル後一年ノ經過ヲ以テ終ハル損害賠償  
ノ請求ハ此期間ヲ過クルトキハ占有者ノ  
資格ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ許サスト  
スルモ占有者カ眞ニ其權利者ナルコトヲ  
證明スルヲ得タルトキハ一般ノ原則ニ從  
ヒ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得(岡松博士)  
………民法二六五  
◎予ノ信スル所ニ依レハ占有者ニ基キテ  
損害賠償ヲ請求ムルハ專ラ第一九八條ニ據  
ルヘク若シ所有權其他ノ本權ヲ有スルト  
キハ第七〇九條ノ通則ニ依リテ之ヲ求ム

セ 占有

◎古來ノ通説ハ權利ヲ有スルコトノ確信ヲ必要トセルニ在リ固ヨリ反對説ニモ多少ノ理由ナキニ非スト雖モ余輩ハ寧ロ通説ニ從フチ妥當トスル者ナリ(富井博士)……民法五〇二

◎善意トハ惡意ニ對シテ云ヒ自ラ其所有者タルコトヲ信スルヲ云フ(富井博士)……民法五〇二

◎善意ノ占有トハ不正當ノ占有者カ其權原ノ瑕疵アルヲ知ラス正當ノ權利アリト信シテ物ヲ占有スルヲ云フ(横田博士)……民法五〇二

◎不動產ノ占有者カ其占有ノ始善意(所有ノ信念ヲ有シ)ニシテ且ツ過失ナカリシトキ(所有ノ信念ヲ有スルニ至リタルコトカ其不注意ニ基カサルトキ)ハ其期間八十年ナリ(川名博士)……民法五〇二

◎善意ノ占有ハ占有者カ占有ヲ爲スノ權利アリト確信シテ爲シタル占有ナリ故ニ單ニ占有ヲ爲ス權利欠缺ヲ知ラサル事實(不法確信ノ不存在)ハ善意ノ占有者タルニ足ラス(松岡學士)……民法五〇二

◎善意ノ觀念ニ就テハ(一)積極的ニ所有權者トナリタル確信ヲ要ストナシ(二)消

極的ニ不正ニ占有ヲ取得シタリトノ自覺ナキヲ以テ足ルトナシ(三)占有取得ニ付キ實質上不正行爲ヲナストノ積極的確信ヲ要ストナス第三説ヲ正シトナス(中島博士)……民法五〇三

◎汎ク善意ノ占有ト云フハ占有者カ占有ヲ正當トスルノ本權アリト誤信シテ爲セル占有ヲ謂フ然レトモ茲ニ善意ト云フハ之ニ比シ稍狹義ニシテ唯所有權アリト信シテ爲セル占有ノミヲ謂フ(鳩山學士)……民法五〇三

◎善意ハ之ヲ消極的ニ權利取得ヲ妨クル故障ヲ知ラサルノ意義ニ解セサルヘカラス(石坂博士、平沼博士)……五〇四

◎自己ノ爲メニスル意思ト物ノ所持トアレハ占有ヲ取得シ其中ノ一ヲ缺クトキハ占有ハ消滅スルカ故ニ占有ノ要件ハ假リニ此二者ナリト決定スルコトヲ得可シ所謂主觀主義又ハ二個意思主義ニ屬ス(中島博士)……民法五〇四

◎占有ニ付民法力讓渡承繼ヲ認メタルハ之ヲ社會的觀念ト解シタル證據左タラスンハアラス社會觀念トハ一般人カ見テ物ノ支配アリトナストキハ法律上モ亦物ノ支

配アリトナス(中島博士)……民法四四五

◎料理店ニ於テ食器ヲ把持スル客ハ食器ノ占有者ニアラサルコトハ一般ニ認メラル所ナリ之レ他人ノ勢力ノ下ニ物ヲ所持スルカ故ナリ(中島博士)……民法五四六

◎占有ニ必要ナル物ノ所持ハ必スシモ外力ヲ排斥スルニ足ル程度ニ達スルヲ要セス舊説ニ於テハ占有取得ニハ物ニ對スル他人ノ干渉ヲ妨ケ得ルヲ要ストシタリ(中島博士)……民法五四六

◎占有ヲ構成スル爲メニハ物ノ支配力繼續スルヲ要スルヤ否ヤ獨逸ニ於ケル通説ハ之ヲ必要トス然レトモ余輩ハ繼續ノ要件ヲ加フルヲ不可ナリト信ス(中島博士)……民法五四六

◎占有要件タル物ノ所持ハ占有者ノ意思ニ因リテ生シタルコトヲ要セス即チ物ヲ所持セントスル意思ノ發現タルヲ要セス(中島博士)……民法五四六

◎絕對的權利無能力者ハ占有ノ主體タルヲ得スト雖モ意思ヲ以テ權利ヲ取得スル能力ナキモノ即チ所謂無能力者ト雖モ苟モ占有ノ事實ヲ生セシムル能力アルモノハ占有ノ主體タルコトヲ得(中島博士)……

セ 占有

……民法五四八

◎郵便受函ヲ設置スル者ハ其中ニ投入セラレタル郵便物ハ發行者ノ何人タルヲ問ハス又信書ノ内容如何ヲ問ハス凡テ之カ占有ヲ得ントスルノ意思ヲ有スル者ナリ故ニ之ニヨリ占有ヲ取得スルコトヲ得(中島博士)……民法五四八

◎占有ノ繼續ニモ取得ト同シク亦意思ヲ要スルモノト解ス然ラハ即チ事實上意思ヲ失ヒタル場合ニハ拋棄ヲシト雖モ占有ハ消滅スルヤト云フニ否ラス外部ヨリ認メ得ヘキ積極的ノ反對行爲ヲ要ス(中島博士)……民法五四九

◎窃盜カ追捕ヲ恐レ其窃盜シタル指環ヲ他人ノ郵便受函ニ投入シタル場合ニ於テハ其他人ハ指環ノ占有ヲ得ルコトナシ(中島博士)……民法五四九

◎自己ノ利益ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スル場合ハ大別シテ二トナスコトヲ得(一)ハ占有物其物ヨリ利益ヲ得ントスル場合ナリ(二)ハ外部ニ存スル利益ヲ充實センカ爲メニ單ニ物ヲ支配スル場合ナリ(中島博士)……民法五五〇

◎自己ノ爲メニスル意思ノ意義ニ關シ從

來三説アルモ自己ノ利益ノ爲メニスル意思ト解ス(中島博士)……民法五五〇

◎占有ヲ立證セント欲セハ物ノ所持ト所持意思ト同時ニ目的意思ヲ立證スルヲ要ス(中島博士)……民法五五〇

◎占有ニハ二要素アリ一チ心素ト云ヒ一チ體素ト謂フ心素トハ自己ノ爲メニ權利ヲ行使スルノ意思是ナリ體素トハ權利行使ノ事實是ナリ(梅博士)……民法五五一

◎占有ニハ自己ノ爲メニスル意思アルコトヲ必要トスルヲ以テ唯或權利ノ行使トシテ物ヲ所持スル場合ニ於テノミ法律上ノ占有アルコト明カナリ換言スレハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ占有スルコトハ當ニ必ス物ニ關スル或權利ノ行使トシテ實現スルコトヲ要ス(横田博士)……民法五五一

◎占有權ノ取得ニハ自己ノ爲メニスルノ意思アルコトヲ必要トスルモ無能力者ハ其法定代理人ニ依リテ之ヲ取得スヘク法人ニ在テハ占有權ノ取得ニ必要ナル要件ハ總テ理事其他ノ代理人ニ於テ之ヲ充サス(横田博士)……民法五五一

◎人ノ物ニ對スル事實的支配力ノ存否ハ

利害關係人ノ主觀的觀念ニ從テ之ヲ定メスシテ一般取引ノ客觀的觀念ニ從テ之ヲ定ム(松岡學士)……民法五五二

◎自己ノ爲メニスル意思之ヲ占有權成立ノ心素ト稱ス自己ノ爲メニスルト云フハ自己ノ利益ノ爲ニスルト云フノ義ナリ故ニ必スシモ自己ノ所有ト爲ス意思ノ存スルコトヲ要セス(飯島博士)……民法五五二

◎事實上ノ支配ナル觀念ニ付テハ或ハ他人ノ侵害ヲ排斥シ得ル力ナリトシ或ハ事實上ノ處分ヲ爲シ得ル狀態ナリトシ異説ナキニアラスト雖モ寧ロ一般取引觀念ヨリシテ事實上ノ支配ノ何ナルヤヲ定ムルモノト爲スチ正當ナリトス(飯島學士)……民法五五三

◎占有保護ノ理由ハ(一)人格保護説(二)所有權保護説(三)秩序維持説ノ三説アルモ余ハ第三説ノ正當ナルヲ信ス(富井博士)……民法七一〇

◎占有者ハ占有ヲ爲ス基本權ノ存在ヲ證明スルコトヲ要セス唯占有ヲ爲ス一事ヲ以テ何人ニ對シテモ之ヲ主張スルコトヲ得占有者ハ實際占有ヲ爲ス權利ヲ有セサルコトアルヘク又不法行爲ニ因リテ占有

占有

ヲ取得シタル場合之アルヘシ而カモ尙一  
般ニ之ヲ保護ス(富井博士)……………  
○占有ハ一ノ法律事實ニシテ占有者ハ一  
般ノ人ニ對シ其實狀態ヲ保持スル權利  
ヲ有ス民法ニ占有權トハ即チ是レナリ  
(富井博士)……………民法七一  
○占有權ノ特性ハ權利ノ發因タル事實ト  
權利其モノトノ間ニ密接ノ關係アルコト  
ナリ是所有權其他ノ物權ノ如キ法律上ノ  
支配權ト其性質ヲ異ニシ事實上ノ支配權  
ト稱スル所以ナリ(富井博士)……………  
○占有權ハ各種ノ利益物權及擔保權ト相  
異ナリテ他物權ノ部類ニ屬スルモノニ非  
ス(富井博士)……………民法七一  
○現行民法ニ在テハ法律ノ保護スル占有  
ハ自己ノ爲メニスル意思アル占有ナルコ  
ト從テ所有權其他ノ實體權ノ行使トシテ  
物ヲ所持スル場合ニ於テノミ法律上ノ占  
有アリテ占有權ハ結局所有權其他ノ實體  
權ノ形ニ對スル法律ノ保護ナリ(横田博  
士)……………民法七一  
○不動産ニ關スル短期取得時效及ヒ動産

ニ關スル即時取得ノ基本タル占有ハ正權  
原ノ占有タルコトヲ要ス(横田博士)……………  
○無効ナル行爲又ハ取消ノ結果無効トナ  
リタル法律行爲ニ因リテ物ノ引渡ヲ受ケ  
タル占有者ハ相手方ヨリノ原狀回復ノ請  
求ニ對シ民法第九十二條ニ規定スル即  
時取得ヲ對抗シテ占有物ノ返還ヲ拒ムコ  
トヲ得サルモノトス(横田博士)……………  
○民法第九十二條ニ因リ即時取得ノ目  
的物タルコトヲ得ヘキ動産ハ所有者ノ意  
思ニ基キ其占有ヲ離レタルモノナルコト  
ヲ要ス即チ質借人、使用借主又ハ受寄者  
ノ如キ所有者ノ輕信ニ因リテ動産ヲ占有  
又ハ所持スル者ヨリ其占有ヲ取得セル者  
ニ限リ本條ノ保護ヲ受クルモノトス(富  
井博士)……………民法八三〇  
○受取人ノ宛所ヲ誤記セル爲メニ紛失シ  
タル郵便物ノ如キモ遺失品ニ屬ス(富井  
博士)……………民法八三一  
○盜品及ヒ遺失物ノ回復權ヲ以テ即時取  
得ノ例外ト爲スカ故ニ其規定ハ之ヲ制限  
の解釋セサルヘカナス(富井博士)……………

……………民法八三一  
○民法第一九四條ノ規定ハ買主ニ限り之  
ヲ採用スルコトヲ得故ニ例ヘハ貸金ノ擔  
保トシテ其物ノ上ニ質權ヲ取得シタル者  
ノ如キハ質權ヲ受クル權利ナシ(富井博  
士)……………民法八三四  
○民法第一九四條ニ列舉セル購買方法ノ  
如キモ制限的ニ之ヲ解釋スルコトヲ要ス  
故ニ例ヘハ銀行又ハ兩替商カ某店ニ於テ  
有價證券ヲ買取リタル場合ノ如キハ其適  
用ノ範圍外ナルコト疑ヲ存セス(富井博  
士)……………民法八三四  
○競落人ハ平穩且公然ニ物ノ占有ヲ初メ  
タルモノト認ム加之反證ナキ限り善意ニ  
シテ過失ナカリシモノト謂フ至當トス  
(東控)……………民訴二一七  
○一棟ノ家屋ハ之ヲ分有スルコトヲ得ル  
ト同時ニ家屋内ノ一室ハ獨立シテ賃借ノ  
目的タルコトヲ得ルヲ以テ家屋ノ一部ハ  
所有權又ハ質權ノ行使トシテ特別ナル  
占有權ノ目的タルコトヲ妨ケス(横田博  
士)……………民法七三七  
○動物カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニハ  
其ノ占有者ニ過失アルモノト推定ス(長

占有

時控)……………民法六八  
○占有者ト相手方トノ間ニ於テ形式的ニ  
或物ヲ授受シタル場合ト雖モ之カ内容ニ  
錯誤アリタルトキハ其授受ハ當事者ノ眞  
意ニ在ラサルヲ以テ該物件ハ刑法第二五  
四條ニ所謂占有ヲ離レタル他人ノ物ナリ  
(大審院)……………刑法七一  
○偶然又ハ誤テ占有シタル場合例ヘハ自  
己ノ居宅ニ於ケル他人ノ遺忘品層屋ノ買  
受ケタル紙屑中ニ存セシ紙幣若クハ自己  
ノ物ト信シ誤テ持チ來リタル洋傘ノ如キ  
其例ナリ占有離脱物ハ總合行爲者ニ於テ  
之ヲ拾得シ占有ヲ始メタル場合ニ於テモ  
本罪ノ物體トシテ其性質ヲ變スルコトナ  
シ(山岡ドクトル)……………刑法七一  
○物ノ所持ハ畢竟吾人カ物ノ用法上ノ性  
質及日常慣習ニ從ヒ其物ヲ支配スルノ事  
實的關係ナリト認メラルル狀態ニ外ナラ  
ス(泉二學士)……………刑法一三九  
○刑法ニ所謂占有ヲ認ムルニハ物ヲ現實  
ニ支配スル事實アルヲ以テ足り必ラスシ  
モ物ヲ握持スル事實アルコトヲ要スルモ  
ノニ非ラス(大審院)……………刑法一四〇  
○刑法上ノ占有ハ既ニ物ニ對スル事實上

ノ支配即チ事實ナリ(大場博士)……………  
○所持トハ純粹ナル事實關係ニシテ民法  
上ノ占有トハ其意義ヲ異ニス所持ハ瘋癲  
ノ如キモノト雖モ之ヲ有スルヲ得故ニ其  
物ヨリ財物ヲ奪ヒタルトキハ竊盜罪ヲ構  
成ス(山岡ドクトル)……………刑法一四〇  
○從來自己ノ占有セル他人ノ物ヲ詐欺ノ  
方法ニテ横領シタル行爲ニ付テハ横領罪  
ト詐欺罪トヲ構成ス(泉二學士)……………  
○假裝買賣ニ基キ不動産讓渡ノ登記ヲ爲  
シ占有セル假裝買主カ自己ノ爲メニ所有  
權確認ノ訴ヲ提起シ虛偽ノ證據ニ依リ勝  
訴ノ判決ヲ受ケタルトキハ横領罪ノ外詐  
欺罪ヲ成立シ刑法第五四條ニ從フ(泉二  
學士)……………刑法一五八  
○自己ノ占有ニ係ル他人ノ金錢ヲ横領ス  
ルニ當リ詐欺ノ手段ヲ用フルモ其所爲ハ  
横領罪ニシテ詐欺罪ニアラス(大審院)……………  
○所謂占有ハ所持ナリ所持ノ原因如何チ  
問フコトナシ、然レトモ同一物ニ付テ幾  
度モ横領行爲ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ

……………民法八三一  
○民法第一九四條ノ規定ハ買主ニ限り之  
ヲ採用スルコトヲ得故ニ例ヘハ貸金ノ擔  
保トシテ其物ノ上ニ質權ヲ取得シタル者  
ノ如キハ質權ヲ受クル權利ナシ(富井博  
士)……………民法八三四  
○民法第一九四條ニ列舉セル購買方法ノ  
如キモ制限的ニ之ヲ解釋スルコトヲ要ス  
故ニ例ヘハ銀行又ハ兩替商カ某店ニ於テ  
有價證券ヲ買取リタル場合ノ如キハ其適  
用ノ範圍外ナルコト疑ヲ存セス(富井博  
士)……………民法八三四  
○競落人ハ平穩且公然ニ物ノ占有ヲ初メ  
タルモノト認ム加之反證ナキ限り善意ニ  
シテ過失ナカリシモノト謂フ至當トス  
(東控)……………民訴二一七  
○一棟ノ家屋ハ之ヲ分有スルコトヲ得ル  
ト同時ニ家屋内ノ一室ハ獨立シテ賃借ノ  
目的タルコトヲ得ルヲ以テ家屋ノ一部ハ  
所有權又ハ質權ノ行使トシテ特別ナル  
占有權ノ目的タルコトヲ妨ケス(横田博  
士)……………民法七三七  
○動物カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニハ  
其ノ占有者ニ過失アルモノト推定ス(長

七 占有 選任 專賣法 船員 船舶

◎占有離脱物ノ横領ハ拾得ノ當時ヨリ横領ノ意思ナクシテ其後ニ横領ノ意思ヲ生シタルトナ問ハス本罪ヲ構成ス但横領ノ意思ナクシテ拾得スル場合ニ於テハ拾得後横領ノ意思ヲ以テ隱匿スルトキニ於テ罪トナル(泉二學士)...

◎認識ニ係ル處ト實際ノ事實トカ別種ノ犯罪ニ係ル場合ナリ例ヘハ人ノ遺失物ヲ所持物ナリト信シ又ハ人ノ所持物ヲ遺失物ナリト信シタルカ如シ此場合ニ於テ認識ニ係ル處實際ノ事實ヨリ輕キトキハ認識ニ係ル處ノ既遂ヲ以テ論シ其實際ノ事實ニ付テハ別ニ過失ノ問題ヲ生ス之ニ反シ認識ニ係ル處實際ノ事實ヨリ重キトキハ實際ノ事實ニ對スル犯罪ノ既遂ヲ以テ論シ別ニ認識ニ係ル處ニ關シ未遂ノ問題ヲ生ス(牧野學士)...

任テ船舶所有者ニ負ハシメタル例外規定ナリ(大判)...

七 船舶 船舶所有者 先決的訴訟

ル可ラス(東控)...

◎船中ニアル時一定ノ寄港地ニ於テ該船舶ニ一定ノ積荷ヲ爲スヘキ個々ノ運送契約ナ荷主トノ間ニ締結シタル場合ニ船長ハ寄港地ニ至リ右船主ノ運送契約ニ從ヒ積荷ヲ爲スニ於テハ船舶ハ既ニ他ノ荷物ヲ以テ滿載セラレ新ナル運送品ハ之ヲ船舶ニ積入ルコト能スト認メタルトキハ假令該船舶所有者力運送契約ヲ爲シタルモノナリト雖モ船長ニ於テ該契約ヲ解除スルヲ得ヘシ(東控)...

先決的訴訟

船舶

◎航海ノ終リニ於テ船舶修繕費ヲ支拂フヘシトノ契約ニ所謂航海ノ終トハ一定ノ航路ヲ航海シ終リタルトキニシテ貨物積揚終了トキニ非スト解ス(東控)...

全部判決

民事訴訟法第一八條ニヨリ辯論ヲ分離シタル場合ニ請求ノ一ノミニ付テノ判決ハ全部判決ナリ(前田學士)...

全部判決 選定相續 選舉

選定相續
實造カ相續人ニ選定セラレシ後相續財產ニ對シ抵當權ヲ設定シタリトスルモ之ヲ以テ直ニ實造カ相續人トシテ不適當ナリトコトヲ推斷スルニ足ラス(東控)...

選舉

選舉
選舉ニ關シ實應ノ約束ヲ爲シ其實行トシテ實應ヲ爲シタルトキハ單純ナル實應ノ一罪トシテ處斷スヘキモノニシテ刑法第五四條第一項後段ヲ適用スヘキモノニアラス(大判)...

地租ヲ納ムル者トハ土地台帳ニ記入セラレタル納稅義務者ヲ謂フモノト解スルヲ相當トス又所得稅ニ付テハ第三種ノ所得稅ニ關シテハ專ラ前年度ノ納稅額ヲ標準トシテ所謂引續キ納ムル者ナルヤ否ヤヲ決セシムルコトカ右法律ノ律意ナリト解セサル可カラス(東控)...

義ノ何タルヲ問ハス人ヲ實應接待シ又ハ實應接待ヲ受ケタル者トノミアリテ人ニ付キ別ニ何等ノ制限ナシ從テ單ニ選舉人ノミニ限ルニ非ス(大審院)...

裁取

裁取
ニ事件ヲ異ニスルトキハ一回ノ宣誓ヲ爲サシムルヲ以テ足レリトセス(大判)...

選舉 宣誓 裁取

宣誓

宣誓

ス

ス 推定 推定代理 數人 數量不足 數證 數個

推定

○動物カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニハ其ノ占有者ニ過失アルモノト推定ス(長崎控)
○受益者ハ反證ナキ限りハ詐害事情ヲ知リタルモノト推定ス(東控)
○郵便物ヲ發シタルトキハ反證ナキ限り受信人ニ到達シタルモノト認定ス(東控)
○郵便物力戻リ來ラサリシハ到達シタルモノト推定ス(東控)
○證據ニヨリ認定メタルノ事實ヨリ他ノ事實ヲ推定スルハ事實承審官ノ職權ニ屬シ苟モ其推定カ實驗上ノ法則ニ抵觸セサル限り之ヲ非難シ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス(大判)
○座席洋燈ノ位置カ疊ヨリ僅ニ二尺位ノ高サナリシヨトヲ認メテ事實ニヨリ燈光カ其周圍ニ四座セル數人ノ爲メニ遮斷セラレタル事實ヲ推定シタルハ實驗上ノ法則ニ違背シタリト云フヲ得ス(大判)

推定代理

○民法第一一〇條ハ所謂自稱代理人ニ適用ナシ(東控)
○當事者ノ一方ノ爲メニ商行爲タルトキハ双方ニ商法ヲ適用スヘシトスルカ故ニ其當事者中ノ一人ノ爲メニ商行爲タルトキハ其他ノ者及相手方ニ商法ヲ適用ス可シト解スル説アリト雖モ余ハ之ニ贊同スル能ハス(片山學士)
○當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テモ商法ノ規定ヲ適用セシムルノ趣意ト解スルヲ至當トス(竹田學士、志田博士)

數人

○買賣ノ目的物ノ數量不定ニ因ル損害賠償請求權ハ一ケ年内ニ行使スルヲ要ストハ裁判外ノ請求ニテモ可ナリ(東控)
○被害金額ハ罪跡ニ影響ヲ及ボス重要ナル事實ナリ此ノ事實ヲ認定スルニ證據ヲ

數量不足

○森林竊盜ノ如キ贓物ヲ以テ科刑ノ標準ト爲ス犯罪ヲ連續シテ數回ニ實行シタル場合ニ於テ各行爲ノ日時及ヒ其贓物ノ數額カ明カナラサルトキハ裁判所ノ自由ナル裁量ヲ以テ起頭ヨリ終局ニ至ル犯行ノ時期及ヒ贓物ノ總額ヲ判示スルヲ以テ足ルモノトス(大判)
○森林竊盜ニシテ其贓物額ヲ確定セザレハ罰金ノ範圍ヲ定ムルコト能ハサル案件ナルニ贓物ノ價格ヲ明示セスシテ罰金ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ(大審院)

數額

○利害關係人ノ合意アルニ非サレハ數個

數個

以テ説示セサルハ違法ナリ(大判)
○金二二圓二二錢費消シタリヤトノ問ニ對シ被告ハ毫モ争フ處ナク單純ニ「夫レモ費消セリ」ト答ヘタル場合ニ被告カ金二二圓二二二厘(二厘ノ差)ヲモ包含シテ全部其犯行ヲ自認セルモノト爲スモ之ヲ以テ證據解釋權ノ行使ニ付キ想スヘカラサル失當アルモノト斷スルヲ得ス(大判)
○森林竊盜ノ如キ贓物ヲ以テ科刑ノ標準ト爲ス犯罪ヲ連續シテ數回ニ實行シタル場合ニ於テ各行爲ノ日時及ヒ其贓物ノ數額カ明カナラサルトキハ裁判所ノ自由ナル裁量ヲ以テ起頭ヨリ終局ニ至ル犯行ノ時期及ヒ贓物ノ總額ヲ判示スルヲ以テ足ルモノトス(大判)
○森林竊盜ニシテ其贓物額ヲ確定セザレハ罰金ノ範圍ヲ定ムルコト能ハサル案件ナルニ贓物ノ價格ヲ明示セスシテ罰金ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ(大審院)

事項索引 畢

ス 數等

數罪

ノ不動産ハ之ヲ各別ニ競賣セサル可ラス(大阪地)
○刑法第五四條第一項前段ハ單ニ異種類ノ想像數罪ヲ規定シタルモノナルヲ以テ同一罪名ニ觸ルル想像數罪ハ學理上異種類ノ想像數罪ニ關スル規定ノ精神ニ從ヒ具體的ナル被害法益ノ重キモノニ從ヒ處斷スルノ外ナキモノトス(山岡トクトル)
○右ノ外「牽連犯」ヲ見ヨ 刑法二九九

條文索引

一	一九、九四三	四四	二四三、四五〇	九、八九二
二	二九五、六二三	四五	二〇二	九三
三	一一二	四六	二〇二	九四
四	五二	四七	二〇二	九五
五	九	四八	二〇二	九六
六	二五八、六一三	四九	二〇二	九七
七	二五八	五〇	二〇二	九八
八	二五八	五一	二〇二	九九
九	九三七	五二	二〇二	一〇〇
一〇	七〇	五三	二〇二	一〇一
一一	民訴一五	五四	二〇二	一〇二
一二	一九、一九二	五五	二〇二	一〇三
一三	一九、一九二	五六	二〇二	一〇四
一四	一九二	五七	二〇二	一〇五
一五	二〇二、八一四	五八	二〇二	一〇六
一六	六三二	五九	二〇二	一〇七
一七	二二一	六〇	二〇二	一〇八
一八	二二一	六一	二〇二	一〇九
一九	二二一	六二	二〇二	一〇一〇
二〇	二二一	六三	二〇二	一〇一一
二一	二二一	六四	二〇二	一〇一二
二二	二二一	六五	二〇二	一〇一三
二三	二二一	六六	二〇二	一〇一四
二四	二二一	六七	二〇二	一〇一五
二五	二二一	六八	二〇二	一〇一六
二六	二二一	六九	二〇二	一〇一七
二七	二二一	七〇	二〇二	一〇一八
二八	二二一	七一	二〇二	一〇一九
二九	二二一	七二	二〇二	一〇二〇
三〇	二二一	七三	二〇二	一〇二一
三一	二二一	七四	二〇二	一〇二二
三二	二二一	七五	二〇二	一〇二三
三三	二二一	七六	二〇二	一〇二四
三四	二二一	七七	二〇二	一〇二五
三五	二二一	七八	二〇二	一〇二六
三六	二二一	七九	二〇二	一〇二七
三七	二二一	八〇	二〇二	一〇二八
三八	二二一	八一	二〇二	一〇二九
三九	二二一	八二	二〇二	一〇三〇
四〇	二二一	八三	二〇二	一〇三一
四一	二二一	八四	二〇二	一〇三二
四二	二二一	八五	二〇二	一〇三三
四三	二二一	八六	二〇二	一〇三四
四四	二二一	八七	二〇二	一〇三五
四五	二二一	八八	二〇二	一〇三六
四六	二二一	八九	二〇二	一〇三七
四七	二二一	九〇	二〇二	一〇三八
四八	二二一	九一	二〇二	一〇三九
四九	二二一	九二	二〇二	一〇四〇
五〇	二二一	九三	二〇二	一〇四一
五一	二二一	九四	二〇二	一〇四二
五二	二二一	九五	二〇二	一〇四三
五三	二二一	九六	二〇二	一〇四四
五四	二二一	九七	二〇二	一〇四五
五五	二二一	九八	二〇二	一〇四六
五六	二二一	九九	二〇二	一〇四七
五七	二二一	一〇〇	二〇二	一〇四八
五八	二二一	一〇一	二〇二	一〇四九
五九	二二一	一〇二	二〇二	一〇五〇
六〇	二二一	一〇三	二〇二	一〇五一
六一	二二一	一〇四	二〇二	一〇五二
六二	二二一	一〇五	二〇二	一〇五三
六三	二二一	一〇六	二〇二	一〇五四
六四	二二一	一〇七	二〇二	一〇五五
六五	二二一	一〇八	二〇二	一〇五六
六六	二二一	一〇九	二〇二	一〇五七
六七	二二一	一〇一〇	二〇二	一〇五八
六八	二二一	一〇一一	二〇二	一〇五九
六九	二二一	一〇一二	二〇二	一〇六〇
七〇	二二一	一〇一三	二〇二	一〇六一
七一	二二一	一〇一四	二〇二	一〇六二
七二	二二一	一〇一五	二〇二	一〇六三
七三	二二一	一〇一六	二〇二	一〇六四
七四	二二一	一〇一七	二〇二	一〇六五
七五	二二一	一〇一八	二〇二	一〇六六
七六	二二一	一〇一九	二〇二	一〇六七
七七	二二一	一〇二〇	二〇二	一〇六八
七八	二二一	一〇二一	二〇二	一〇六九
七九	二二一	一〇二二	二〇二	一〇七〇
八〇	二二一	一〇二三	二〇二	一〇七一
八一	二二一	一〇二四	二〇二	一〇七二
八二	二二一	一〇二五	二〇二	一〇七三
八三	二二一	一〇二六	二〇二	一〇七四
八四	二二一	一〇二七	二〇二	一〇七五
八五	二二一	一〇二八	二〇二	一〇七六
八六	二二一	一〇二九	二〇二	一〇七七
八七	二二一	一〇三〇	二〇二	一〇七八
八八	二二一	一〇三一	二〇二	一〇七九
八九	二二一	一〇三二	二〇二	一〇八〇
九〇	二二一	一〇三三	二〇二	一〇八一
九一	二二一	一〇三四	二〇二	一〇八二
九二	二二一	一〇三五	二〇二	一〇八三
九三	二二一	一〇三六	二〇二	一〇八四
九四	二二一	一〇三七	二〇二	一〇八五
九五	二二一	一〇三八	二〇二	一〇八六
九六	二二一	一〇三九	二〇二	一〇八七
九七	二二一	一〇四〇	二〇二	一〇八八
九八	二二一	一〇四一	二〇二	一〇八九
九九	二二一	一〇四二	二〇二	一〇九〇
一〇〇	二二一	一〇四三	二〇二	一〇九一
一〇一	二二一	一〇四四	二〇二	一〇九二
一〇二	二二一	一〇四五	二〇二	一〇九三
一〇三	二二一	一〇四六	二〇二	一〇九四
一〇四	二二一	一〇四七	二〇二	一〇九五
一〇五	二二一	一〇四八	二〇二	一〇九六
一〇六	二二一	一〇四九	二〇二	一〇九七
一〇七	二二一	一〇五〇	二〇二	一〇九八
一〇八	二二一	一〇五一	二〇二	一〇九九
一〇九	二二一	一〇五二	二〇二	一〇一〇〇
一一〇	二二一	一〇五三	二〇二	一〇一〇一
一一一	二二一	一〇五四	二〇二	一〇一〇二
一一二	二二一	一〇五五	二〇二	一〇一〇三
一一三	二二一	一〇五六	二〇二	一〇一〇四
一一四	二二一	一〇五七	二〇二	一〇一〇五
一一五	二二一	一〇五八	二〇二	一〇一〇六
一一六	二二一	一〇五九	二〇二	一〇一〇七
一一七	二二一	一〇六〇	二〇二	一〇一〇八
一一八	二二一	一〇六一	二〇二	一〇一〇九
一一九	二二一	一〇六二	二〇二	一〇一〇一〇
一二〇	二二一	一〇六三	二〇二	一〇一〇一一
一二一	二二一	一〇六四	二〇二	一〇一〇一二
一二二	二二一	一〇六五	二〇二	一〇一〇一三
一二三	二二一	一〇六六	二〇二	一〇一〇一四
一二四	二二一	一〇六七	二〇二	一〇一〇一五
一二五	二二一	一〇六八	二〇二	一〇一〇一六
一二六	二二一	一〇六九	二〇二	一〇一〇一七
一二七	二二一	一〇七〇	二〇二	一〇一〇一八
一二八	二二一	一〇七一	二〇二	一〇一〇一九
一二九	二二一	一〇七二	二〇二	一〇一〇二〇
一三〇	二二一	一〇七三	二〇二	一〇一〇二一
一三一	二二一	一〇七四	二〇二	一〇一〇二二
一三二	二二一	一〇七五	二〇二	一〇一〇二三
一三三	二二一	一〇七六	二〇二	一〇一〇二四
一三四	二二一	一〇七七	二〇二	一〇一〇二五
一三五	二二一	一〇七八	二〇二	一〇一〇二六
一三六	二二一	一〇七九	二〇二	一〇一〇二七
一三七	二二一	一〇八〇	二〇二	一〇一〇二八
一三八	二二一	一〇八一	二〇二	一〇一〇二九
一三九	二二一	一〇八二	二〇二	一〇一〇三〇
一四〇	二二一	一〇八三	二〇二	一〇一〇三一
一四一	二二一	一〇八四	二〇二	一〇一〇三二
一四二	二二一	一〇八五	二〇二	一〇一〇三三
一四三	二二一	一〇八六	二〇二	一〇一〇三四
一四四	二二一	一〇八七	二〇二	一〇一〇三五
一四五	二二一	一〇八八	二〇二	一〇一〇三六
一四六	二二一	一〇八九	二〇二	一〇一〇三七
一四七	二二一	一〇九〇	二〇二	一〇一〇三八
一四八	二二一	一〇九一	二〇二	一〇一〇三九
一四九	二二一	一〇九二	二〇二	一〇一〇四〇
一五〇	二二一	一〇九三	二〇二	一〇一〇四一
一五一	二二一	一〇九四	二〇二	一〇一〇四二
一五二	二二一	一〇九五	二〇二	一〇一〇四三
一五三	二二一	一〇九六	二〇二	一〇一〇四四
一五四	二二一	一〇九七	二〇二	一〇一〇四五
一五五	二二一	一〇九八	二〇二	一〇一〇四六
一五六	二二一	一〇九九	二〇二	一〇一〇四七
一五七	二二一	一〇一〇〇	二〇二	一〇一〇四八
一五八	二二一	一〇一〇一	二〇二	一〇一〇四九
一五九	二二一	一〇一〇二	二〇二	一〇一〇五〇
一六〇	二二一	一〇一〇三	二〇二	一〇一〇五一
一六一	二二一	一〇一〇四	二〇二	一〇一〇五二
一六二	二二一	一〇一〇五	二〇二	一〇一〇五三
一六三	二二一	一〇一〇六	二〇二	一〇一〇五四
一六四	二二一	一〇一〇七	二〇二	一〇一〇五五
一六五	二二一	一〇一〇八	二〇二	一〇一〇五六
一六六	二二一	一〇一〇九	二〇二	一〇一〇五七
一六七	二二一	一〇一〇一〇	二〇二	一〇一〇五八
一六八	二二一	一〇一〇一一	二〇二	一〇一〇五九
一六九	二二一	一〇一〇一二	二〇二	一〇一〇六〇
一七〇	二二一	一〇一〇一三	二〇二	一〇一〇六一
一七一	二二一	一〇一〇一四	二〇二	一〇一〇六二
一七二	二二一	一〇一〇一五	二〇二	一〇一〇六三
一七三	二二一	一〇一〇一六	二〇二	一〇一〇六四
一七四	二二一	一〇一〇一七	二〇二	一〇一〇六五
一七五	二二一	一〇一〇一八	二〇二	一〇一〇六六
一七六	二二一	一〇一〇一九	二〇二	一〇一〇六七
一七七	二二一	一〇一〇二〇	二〇二	一〇一〇六八
一七八	二二一	一〇一〇二一	二〇二	一〇一〇六九
一七九	二二一	一〇一〇二二	二〇二	一〇一〇七〇
一八〇	二二一	一〇一〇二三	二〇二	一〇一〇七一
一八一	二二一	一〇一〇二四	二〇二	一〇一〇七二
一八二	二二一	一〇一〇二五	二〇二	一〇一〇七三
一八三	二二一	一〇一〇二六	二〇二	一〇一〇七四
一八四	二二一	一〇一〇二七	二〇二	一〇一〇七五
一八五	二二一	一〇一〇二八	二〇二	一〇一〇七六
一八六	二二一	一〇一〇二九	二〇二	一〇一〇七七
一八七	二二一	一〇一〇三〇	二〇二	一〇一〇七八
一八八	二二一	一〇一〇三一	二〇二	一〇一〇七九
一八九	二二一	一〇一〇三二	二〇二	一〇一〇八〇
一九〇	二二一	一〇一〇三三	二〇二	一〇一〇八一
一九一	二二一	一〇一〇三四	二〇二	一〇一〇八二
一九二	二二一	一〇一〇三五	二〇二	一〇一〇八三
一九三	二二一	一〇一〇三六	二〇二	一〇一〇八四
一九四	二二一	一〇一〇三七	二〇二	一〇一〇八五
一九五	二二一	一〇一〇三八	二〇二	一〇一〇八六
一九六	二二一	一〇一〇三九	二〇二	一〇一〇八七
一九七	二二一	一〇一〇四〇	二〇二	一〇一〇八八
一九八	二二一	一〇一〇四一	二〇二	一〇一〇八九
一九九	二二一	一〇一〇四二	二〇二	一〇一〇九〇
二〇〇	二二一	一〇一〇四三	二〇二	一〇一〇九一
二〇一	二二一	一〇一〇四四	二〇二	一〇一〇九二
二〇二	二二一	一〇一〇四五	二〇二	一〇一〇九三
二〇三	二二一	一〇一〇四六	二〇二	一〇一〇九四
二〇四	二二一	一〇一〇四七	二〇二	一〇一〇九五
二〇五	二二一	一〇一〇四八	二〇二	一〇一〇九六
二〇六	二二一	一〇一〇四九	二〇二	一〇一〇九七
二〇七	二二一	一〇一〇五〇	二〇二	一〇一〇九八
二〇八	二二一	一〇一〇五一	二〇二	一〇一〇九九
二〇九	二二一	一〇一〇五二	二〇二	一〇一〇一〇〇
二一〇	二二一	一〇一〇五三	二〇二	一〇一〇一〇一
二一一	二二一	一〇一〇五四	二〇二	一〇一〇一〇二
二一二	二二一	一〇一〇五五	二〇二	一〇一〇一〇三
二一三	二二一	一〇一〇五六	二〇二	一〇一〇一〇四
二一四	二二一	一〇一〇五七		





民法

四九六 ..... 六七三  
 四九七 ..... 二八五、六七三  
 四九八 ..... 六七三  
 五〇〇 ..... 商二九二  
 五〇五 ..... 二一、一六九、三一七、四〇  
 六、六二六、商二一一  
 五〇九 ..... 二二  
 五一三 ..... 一〇七、四三四、五九一、六  
 七一、商一七一、二八一、二九五、三  
 二七  
 五一四 ..... 一一九、二一、四三二  
 五一九 ..... 四三二  
 五二〇 ..... 一二二  
 五三三 ..... 二二六、七一八、八八七  
 五四〇 ..... 七八、三一四、五〇九、六四  
 四、商二七  
 五四一 ..... 一五四、三一四、六四四、七  
 一四、七三一  
 五四二 ..... 一五四  
 五四三 ..... 二六一、七五一  
 五四四 ..... 六四四  
 五四五 ..... 二四、三九〇、五七二、八六九  
 五四九 ..... 五九六  
 五五〇 ..... 一一三、四五五  
 五五五 ..... 一二八、一三〇、一五三、一  
 六一、一八二、二五五、六〇七、六三  
 九、七五一、七八五  
 五五六 ..... 三四五、三九六、七五一、七  
 九一  
 五五七 ..... 一〇〇、五〇九  
 五六〇 ..... 二六一、刑八  
 五六一 ..... 二七七  
 五六四 ..... 三三三  
 五六六 ..... 商三六七  
 五六八 ..... 三八六  
 五七〇 ..... 商一、三六七  
 五七九 ..... 一、二八、四五六、五五七  
 七九一  
 五八〇 ..... 六四、一〇九、五八八  
 五八一 ..... 四五六  
 五八七 ..... 八三、九四、一八五、二七三  
 四一六、五七九、七五〇、民訴四三  
 五八八 ..... 五七、一五五、六六一、七五  
 〇、商二八一、民訴四三、三三三  
 五九一 ..... 八四、五三五  
 六〇一 ..... 三、一五六、一八八、一九四  
 五三三、七四八、七四九、七六一、七  
 七四、七八〇、七九九、九二〇  
 六〇二 ..... 四一〇  
 六〇四 ..... 二一九  
 六〇五 ..... 三七七  
 六一二 ..... 一五六  
 六一四 ..... 三  
 六一七 ..... 二二八  
 六二二 ..... 七八七、九二〇  
 六三二 ..... 二九八、五九六、六〇〇、九  
 二〇、民訴二一五  
 六三三 ..... 二九八  
 六四二 ..... 五九六  
 六四三 ..... 一二七  
 六四六 ..... 三九九  
 六五一 ..... 八七、四一九  
 六五三 ..... 五六一、五九六、商三五九  
 六六七 ..... 六四二  
 六六八 ..... 二九四  
 六七〇 ..... 六四四  
 六七六 ..... 四二六  
 六八八 ..... 刑訴一三三  
 六九五 ..... 三一四  
 七〇三 ..... 一六二、三四二、四〇六、四  
 〇八、五二五、八〇四  
 七〇八 ..... 二六、二五五、三〇八、五二

民法

七〇九 ..... 三、六四三、刑二六三  
 四三、二七一、二七四、三三六、四二  
 一七、四三七、四三八、四七〇、五二二  
 一〇、五三二、六五二、七二四、七四二、七  
 八七、八一七、商五〇、一八九、四  
 七、三四〇、三九三、四〇五、四三五  
 〇、刑訴五、一四二  
 七二〇 ..... 商一四七  
 七二一 ..... 四三七、七八七、商五〇、一  
 〇〇、四七  
 七二二 ..... 四四五  
 七二三 ..... 四四五  
 七二四 ..... 四四五  
 七二五 ..... 六一、二四三、三〇〇、四三  
 八、四五〇、七四二、商五〇、二一〇  
 三八〇  
 七二七 ..... 四四一、五三二、六五二  
 七二八 ..... 六八、三五三  
 七二九 ..... 四四五、七二四、商一二九  
 七三一 ..... 七二七、九四三  
 七四三 ..... 四〇九  
 七四九 ..... 六〇三  
 七五〇 ..... 五三、二二二、六〇三、七〇  
 七五二 ..... 二二二  
 七五三 ..... 六五〇  
 七五四 ..... 七五三  
 七五九 ..... 二二一  
 七六二 ..... 二二一  
 七六五 ..... 五三  
 七八〇 ..... 民訴六  
 七九〇 ..... 一八〇  
 七九二 ..... 一八三、五六七  
 八一三 ..... 二一六、四〇一、四八八、五  
 一三、七九八  
 八一五 ..... 二一六  
 八一七 ..... 四〇一  
 八三一 ..... 一八〇  
 八三五 ..... 一八〇、五六二  
 八四三 ..... 二二一  
 八四六 ..... 二二一  
 八六一 ..... 六五一  
 八六六 ..... 五一四  
 八七八 ..... 六一二  
 八八四 ..... 三九一  
 八八六 ..... 三七三、四一〇、六一二、六  
 六八  
 八八七 ..... 二九五  
 八八八 ..... 五四、二二二、七〇四  
 八九五 ..... 七〇四  
 九〇八 ..... 二一五、六一六  
 九〇九 ..... 二一五  
 九一五 ..... 四三九  
 九二九 ..... 二九五、六六九  
 九三六 ..... 二九五  
 九四四 ..... 一五八、七〇七  
 九四五 ..... 五九四  
 九四六 ..... 五九四  
 九四七 ..... 六〇九  
 九四八 ..... 二三〇  
 九四九 ..... 六〇、四九〇、五二七  
 九五二 ..... 六〇、一五八、二三〇、三一  
 五、七〇七、七〇九、七九七  
 九五三 ..... 四五三、四九〇  
 九六四 ..... 二七九、五六八、六一八  
 九六六 ..... 六、二七九、六六九、民訴二  
 七七  
 九六八 ..... 五一九、七二七、九四三  
 九六九 ..... 五二七  
 九七〇 ..... 五一九、六一九、七五三  
 九七三 ..... 六一九

民法

九七四 ..... 二七九、三八五、六一九  
 九七五 ..... 三三三、三八五、五七三、八一〇  
 九七九 ..... 六二三、八八二  
 九八二 ..... 四九〇、五二七  
 九八三 ..... 三一五  
 九八六 ..... 二九四、四五五、五六八、五九六、七五三、商五〇、四〇五、民訴三六一  
 九八八 ..... 六三五、七一五  
 九八九 ..... 民訴三六一  
 九九三 ..... 七二七、九四三  
 一〇〇一 ..... 一八九、二六七、二七九  
 一〇〇三 ..... 一八九  
 一〇〇四 ..... 一八九  
 一〇二八 ..... 四四四  
 一〇六四 ..... 三二三  
 一〇六五 ..... 七二七、九四三  
 一〇六八 ..... 七七六  
 一一〇八 ..... 四九五  
 一一一一 ..... 四九五

民法施行法

六一九、七一五、七五三  
 民一八七、三八二、五六七

民法條文索引舉

二 ..... 民二〇五  
 三 ..... 民一二  
 九 ..... 民五六四  
 二八 ..... 民一一〇  
 三〇 ..... 民一二  
 三一 ..... 商一〇四、二八二、四〇三  
 三二 ..... 民五八八、商一〇四  
 三四 ..... 民五八八  
 三六 ..... 民四九二  
 五三 ..... 民三八二  
 六八 ..... 民七五四  
 八五 ..... 民六一九

商法

一 ..... 三五二、三五八  
 三 ..... 一〇三、一一一、三三三  
 四 ..... 九、四六〇、四九三  
 一六 ..... 八七、四九七、民訴三九七  
 一九 ..... 四九七  
 二二 ..... 一四一  
 二三 ..... 一四一  
 二九 ..... 一四一  
 三三 ..... 九  
 三三 ..... 七四、四四一  
 四二 ..... 三一〇、三五〇、三六六  
 四四 ..... 二〇四  
 四五 ..... 一八七  
 四六 ..... 一四九  
 五一 ..... 一〇〇  
 五八 ..... 四  
 五九 ..... 四四六  
 六三 ..... 二八五  
 七一 ..... 四四六  
 七四 ..... 三五、三五九  
 七五 ..... 三六  
 八四 ..... 三五九  
 八五 ..... 二一六

商法

九一 ..... 八、二〇、一一一、一九三、四〇四、四六四  
 九二 ..... 一八  
 一〇五 ..... 二一六  
 一一九 ..... 一八七、二三〇、三三六  
 一二〇 ..... 四、二一、六七、一八七、二二〇、二三四、二五二、三一六  
 一一三 ..... 三二一  
 一一三 ..... 三五〇  
 一一六 ..... 一一四、二五二  
 一二七 ..... 一四  
 一三一 ..... 民訴  
 一三一 ..... (改正前) 一六六  
 一三三 ..... 四五  
 一三六 ..... 六五、一二六、一八六、三五七  
 一三八 ..... 八九、三七五  
 一三九 ..... 三五〇  
 一四二 ..... 一八六、三五八  
 一四二 ..... 二五三、二六三  
 一四三 ..... 二三七、三五八  
 一四四 ..... 六八、七六、二三四、二三七  
 三五六、四六七

一四七 ..... 五九  
 一四九 ..... 五九、三五六、民四〇八  
 一五〇 ..... 五九、二四七  
 一五一 ..... 九  
 一五二 ..... 三九、一〇九、三三〇、三五六、四六五  
 一五三 ..... 二七、三四、四〇、三三一、三五六、四六五  
 一六三 ..... 二一六、三七七、民訴七  
 一六四 ..... 二九四、三五九  
 一六六 ..... 一三四  
 一六七 ..... 四三三  
 一六七 ..... 四三三  
 一六八 ..... 五九  
 一六九 ..... 三一〇  
 一七〇 ..... 六五  
 一七二 ..... 四〇、一〇九  
 一七六 ..... 四六、二九四、四四三  
 一七七 ..... 三四〇  
 一七九 ..... 八九、三七五  
 一八三 ..... 三四〇

商法

一八九	二九四、三四〇、三五九、三	二七三	三三七、民七七〇	三六二	四三五
一九一	七五、一三三	二八二	四四九、民八三〇、八四四	三七四	三〇四
一九五	二八九、三八九、四六七	二八五	二〇六、二八二、三六七、四	三七九	四三五
一九六	二八九、三九二	二八八	〇二、四四四	三八四	四八八
一九七	二四、三八九、民訴一九七	三〇八		三九七	四一二
二一〇	一〇二、四六七、四八七	三一三		三九九ノ二	三九六、四二〇
二二二		三一四		三九九ノ三	三九六、四二〇、五〇一
二二〇ノ二		三二二		四〇三	五四三
二二一	三六、三五九	三二四		四一四	四二四
二二七	二一六、三七八	三二五	五六、一六七、三五二	四一五	三八六
二二八	一七八、二六一	三二九	五六一、六七一	四一六	三八七
二二九		三三三	一三四、四〇、二二三、二七四	四一七	三八七
二三四	八、一一二、一五五、三五九	三三四	四五五、刑九九	四二八	四八八
二三八	四〇四、四六四	三三九	二七四、三一九、四五五	四二九	(改正前)一五五、四八九
二五八		三四〇	二七四、三一九、四五五	四二九	三九六、四二〇、五〇一
二六二ノ二	民六三二	三四一	一五〇、三九三、四一八	四三〇	(改正前)四八、一六五
二六三	九九、一〇〇	三四二	二七一	四三三	七、一五八、一七〇、一七一
二六四	三六六、五二五	三四三ノ二	三五二	四三六	三〇八、三二二、五三九
二六四	一六〇、三〇四、三六六、四	三四四	二九二	四三七	三〇八、三七三
二六五	九三、五二五	三四五	五〇、一四七、四〇五	四三八	五三九
二六五	一一一、三〇四、四四四、民	三四七	二六六	四三九	三二四
二六六	一五五	三四八	一二九、二九八、四三五	四四〇	七、一〇、一五八、四三九、四
二六七	刑訴七四	三五九		四四一	七二
	七四				

商法

四四二	九三	五二六ノ二	一一三、一六四	九七八	三一
四四三	三二二	五二九	九七、二七八、三一五、三四	九九〇	二一一
四四四	四四、一三二、三三四	五三〇	八、四四五	九九二	一三一
四四三	九四	五三三		一〇三八	一三六
四五三	一五三、二四五、四四五	五三四		一〇四九	民一三
四五七	二九七、五二九	五三七	二九七、三八二	一〇五〇	刑訴七一
四六一	一〇七、五二九	五四四	一九五、二一〇、三八〇	一〇六三	三八五
四六二	一四四、四七三	五四四ノ二	一九五	一三七	商二八二、四〇三
四六三	二七八	五五七	一九五	二四	商一二三
四六四	一〇七、三一五	五六六	八〇		
四六五	一五四	五六九	一九五		
四七〇	一二四	六〇五	二七一、二八七		
四七三	九四	六〇六	二八七		
四八三	一五四	六〇七	二八七		
四八七	九七、一五三	六〇九	八〇		
四九〇	九五	六一三	八〇、二五九、三三五、四五三		
四九一	一二四	六三七	二九七		
四九二	一二四	六五三	三八七、四二四		
五一四	三七九	六五四	四二四		
五一五	四二、八六、三四八、三七九	六六七	四二四		
五一五ノ二	九七、三四八	六七七	三八七		
五二五	六、九八、一五二、一六一、一	九六八	一二三		
五二六	六四、一七七、三二六				
	一六三、二四五、四四五				

商法條文索引舉



刑 法

一九〇 ..... 三一九  
 一九七 ..... 八九、二六二、二八六  
 一九八 ..... 二六三  
 一九九 ..... 一六、一九六  
 二〇四 ..... 六九、一七、二三五  
 二〇五 ..... 一八三  
 二〇七 ..... 二〇、二三五  
 二〇八 ..... 一一七  
 二一〇 ..... 二四三  
 二一一 ..... 七一、八一  
 二二〇 ..... 九七、三九一  
 二二三 ..... 七、三三九  
 二二三 ..... 五、九、九五  
 二三〇 ..... 三四、二三九  
 二三五 ..... 一一、三三、三九、一一、三  
 二三六 ..... 一三、三二五  
 二三八 ..... 二〇七  
 二四〇 ..... 二〇八  
 二四二 ..... 七八  
 二四五 ..... 四四、五九  
 二四六 ..... 二、一一、一四、二六、三九、  
 一〇六  
 四七、五四、七八、一〇〇、一一〇、  
 一五五、一七四、二二一、二二八、二  
 二九、二四六、二六八、二七〇、二九  
 五、四三一、刑訴四九、七四、諸六二  
 二四七 ..... 二二三、二四六、二九五、三  
 〇五、五八五、刑訴四九  
 二四八 ..... 二二七  
 二四九 ..... 二七、九三、二六、二六六  
 二七〇  
 二五〇 ..... 四七、一〇〇  
 二五二 ..... 一、八、三三、五六、九一、  
 五五、一七三、二〇一、二二三、二  
 二、二七六、二九五、三〇〇、三二三  
 五五  
 三三二、刑訴一三  
 二五三 ..... 三二、五六、七〇、八七、一  
 〇、二七六、三〇〇、三一一、三三二  
 刑訴一四、一四九  
 二五四 ..... 七〇、一三八、三三  
 二五六 ..... 三一、四四、九一、一九、二  
 五二  
 一〇、二二七、二八一、三〇二  
 二五七 ..... 四四、二〇二  
 二六〇 ..... 二二一  
 二六一 ..... 二五八、二七六  
 二六九 ..... 刑訴一二八

刑 法 施 行 法

一八五 ..... 刑四  
 二九 ..... 刑四七、三〇一、刑訴一四  
 三〇 ..... 刑訴一四  
 六七 ..... 刑訴一〇七  
 一八六  
 一八七  
 一八八  
 一八九  
 一九〇  
 一九一  
 一九二  
 一九三  
 一九四  
 一九五  
 一九六  
 一九七  
 一九八  
 一九九  
 二〇〇  
 二〇一  
 二〇二  
 二〇三  
 二〇四  
 二〇五  
 二〇六  
 二〇七  
 二〇八  
 二〇九  
 二一〇  
 二一一  
 二一二  
 二一三  
 二一四  
 二一五  
 二一六  
 二一七  
 二一八  
 二一九  
 二二〇  
 二二一  
 二二二  
 二二三  
 二二四  
 二二五  
 二二六  
 二二七  
 二二八  
 二二九  
 二三〇  
 二三一  
 二三二  
 二三三  
 二三四  
 二三五  
 二三六  
 二三七  
 二三八  
 二三九  
 二四〇  
 二四一  
 二四二  
 二四三  
 二四四  
 二四五  
 二四六  
 二四七  
 二四八  
 二四九  
 二五〇  
 二五一  
 二五二  
 二五三  
 二五四  
 二五五  
 二五六  
 二五七  
 二五八  
 二五九  
 二六〇  
 二六一  
 二六二  
 二六三  
 二六四  
 二六五  
 二六六  
 二六七  
 二六八  
 二六九  
 二七〇  
 二七一  
 二七二  
 二七三  
 二七四  
 二七五  
 二七六  
 二七七  
 二七八  
 二七九  
 二八〇  
 二八一  
 二八二  
 二八三  
 二八四  
 二八五  
 二八六  
 二八七  
 二八八  
 二八九  
 二九〇  
 二九一  
 二九二  
 二九三  
 二九四  
 二九五  
 二九六  
 二九七  
 二九八  
 二九九  
 三〇〇  
 三〇一  
 三〇二  
 三〇三  
 三〇四  
 三〇五  
 三〇六  
 三〇七  
 三〇八  
 三〇九  
 三一〇  
 三一  
 三一二  
 三一三  
 三一四  
 三一五  
 三一六  
 三一七  
 三一八  
 三一九  
 三二〇  
 三二一  
 三二二  
 三二三  
 三二四  
 三二五  
 三二六  
 三二七  
 三二八  
 三二九  
 三三〇  
 三三一  
 三三二  
 三三三  
 三三四  
 三三五  
 三三六  
 三三七  
 三三八  
 三三九  
 三四〇  
 三四一  
 三四二  
 三四三  
 三四四  
 三四五  
 三四六  
 三四七  
 三四八  
 三四九  
 三五〇  
 三五  
 三五二  
 三五三  
 三五四  
 三五五  
 三五六  
 三五七  
 三五八  
 三五九  
 三六〇  
 三六一  
 三六二  
 三六三  
 三六四  
 三六五  
 三六六  
 三六七  
 三六八  
 三六九  
 三七〇  
 三七一  
 三七二  
 三七三  
 三七四  
 三七五  
 三七六  
 三七七  
 三八〇  
 三八一  
 三八二  
 三八三  
 三八四  
 三八五  
 三八六  
 三八七  
 三八八  
 三八九  
 三九〇  
 三九一  
 三九二  
 三九三  
 三九四  
 三九五  
 三九六  
 三九七  
 三九八  
 三九九  
 四〇〇  
 四〇一  
 四〇二  
 四〇三  
 四〇四  
 四〇五  
 四〇六  
 四〇七  
 四〇八  
 四〇九  
 四一〇  
 四一一  
 四一二  
 四一三  
 四一四  
 四一五  
 四一六  
 四一七  
 四一八  
 四一九  
 四二〇  
 四二一  
 四二二  
 四二三  
 四二四  
 四二五  
 四二六  
 四二七  
 四二八  
 四二九  
 四三〇  
 四三一  
 四三二  
 四三三  
 四三四  
 四三五  
 四三六  
 四三七  
 四三八  
 四三九  
 四四〇  
 四四一  
 四四二  
 四四三  
 四四四  
 四四五  
 四四六  
 四四七  
 四四八  
 四四九  
 四五〇  
 四五  
 四五二  
 四五三  
 四五四  
 四五五  
 四五六  
 四五七  
 四五八  
 四五九  
 四六〇  
 四六一  
 四六二  
 四六三  
 四六四  
 四六五  
 四六六  
 四六七  
 四六八  
 四六九  
 四七〇  
 四七一  
 四七二  
 四七三  
 四七四  
 四七五  
 四七六  
 四七七  
 四七八  
 四七九  
 四八〇  
 四八一  
 四八二  
 四八三  
 四八四  
 四八五  
 四八六  
 四八七  
 四八八  
 四八九  
 四九〇  
 四九一  
 四九二  
 四九三  
 四九四  
 四九五  
 四九六  
 四九七  
 四九八  
 四九九  
 五〇〇

刑 法 條 文 索 引 畢

民 事 訴 訟 法

三〇五 ..... 一六七  
 一〇 ..... 民三八二  
 一〇 ..... 三三〇、三四五  
 一六 ..... 一六八  
 一八 ..... 七六、九二、一三五、二七五、三  
 八〇、民三八二  
 二九 ..... 二四二、二六九、二九九  
 三〇 ..... 二九九  
 三三 ..... 三六一、諸四九  
 四三 ..... 一三六  
 四四 ..... 一四、商三五九  
 四六 ..... 三四三  
 四八 ..... 三三  
 五〇 ..... 九五、一〇一、二九七、民七〇  
 九  
 五一 ..... 四六  
 五二 ..... 三八五  
 五三 ..... 七三  
 五五 ..... 一五六、二〇七、二九三  
 七二 ..... 二九四  
 七四 ..... 二六七  
 八二 ..... 五一  
 八四  
 八七 ..... 二一一  
 一〇五 ..... 三九五、商八七  
 一〇八 ..... 一〇七  
 一一〇 ..... 一〇七  
 一一一 ..... 六一、三二三  
 一一二 ..... 六〇、二四四、三二四  
 一三〇 ..... 四四  
 一三八 ..... 一二九  
 一五七 ..... 八二  
 一六二 ..... 三一七  
 一六七 ..... 五三、二七四、三〇八、三一  
 四  
 一七八 ..... 六七、一〇六、一五四  
 一七九 ..... 三六一  
 一八三 ..... 四〇九、民三九三  
 一八七 ..... 四二  
 一八八 ..... 二三四  
 一八九 ..... 六一  
 一九〇 ..... 一五一、三九六、商八七  
 一九一 ..... 三〇五  
 一九五 ..... 四三、九七、一四七、二二七、  
 二六〇、三四四、商三三一

民 事 訴 訟 法

一九六 ..... 一一五、一七一、二二二、二  
 七、三四五、商三三一  
 一九七 ..... 一九三、二四五、三一六  
 一九八 ..... 四〇三  
 二〇〇 ..... 一七四  
 二〇一 ..... 一五、一七四  
 二〇六 ..... 一五八、一六九、一九二、二  
 八六、二九五、三二六、民二七六  
 二〇九 ..... 七三、一七五  
 二一一 ..... 一五  
 二二六 ..... 三五七  
 二二七 ..... 五二、七〇、七九、八一、一一  
 四、三一、三七、民一一二、六三  
 九  
 二二八 ..... 五二  
 二二九 ..... 三一七、三二〇  
 二三五 ..... 一〇七  
 二二六 ..... 一〇七  
 二二七 ..... 八六、一三二  
 二二九 ..... 一四、二一、二〇六、二五八  
 三三一 ..... 民七六一  
 三三三 ..... 四四、三五七、三七四、商一









諸法

官有地取換規則	民一六
華族世襲財產法	民四四四
建物保護法	民一六五
臺灣民事令	商二〇四
農會令	一五五
一四〇	一五五
二〇〇	一五五
三三三	一五五
藥品營業並藥品販賣規則	一一九
三三五	一一九
憲法	八〇
警察犯戒罰令	八〇
一〇〇	八〇
二二二	九七
三三三	刑訴一六三
連署罪判決例	刑訴一八七
二二二	刑訴一八七
三三三	刑訴七八、同九五
五〇〇	刑訴七八
六	刑訴七八
府縣制	刑訴七八
國庫	刑二六三
不動產登記法	民五八四
二	一三〇
七	民二三
二六	七
二九	七
三〇	七
三一	八
三六	民訴三九七
四六〇	九六
四九	民三七五
五六	七八
六三	七八
一四七	六七
一五〇	七八
一五五	六七
戶籍法	四一
一五	四一
四四	一七、四二
一六	四五
一三五	民七二七
一三六	民七二七
一六七	四二
一七九	民七二七
二〇三	一一五
二〇八	一一五
二二八	一七
國稅徵收法	三、二七
三、三三	三、二七
鑛業法	九
七	九
一七	二一
一九	一九、八九、民訴三四九
二〇	二〇、八九
九四	民訴三五〇
一〇四	九、二〇
鑛業法施行細則	二一
五四	二一
工場抵當法	二四
一三	二四
國有土地森林原野下戻法	民訴三七
二	民訴三七
四	刑訴六四
六	刑訴六四
電信法	八八
三三	八八

諸法

裁判所籌成法	民訴一五八、一六九
二	民訴二九一、二二三
一四	刑三〇一
一六	民訴三七四
四〇	一四四、刑訴二七
四八	一二六
四九	刑六八
六四	刑五三
一一九	民訴六〇、刑訴五三
一二三	民訴三七四
〇〇	五三
一七	三三、五三、一〇、民訴一四五
二五	五三、一六〇
二六	一六〇、一六一
二七	二九、三〇、民訴二
三三	七四、一六、一七一、五七、
六	一六一、民五一六
三三	七五
四〇	民六二九
四二	民六三〇
供託法	民六三〇
一	民六七四
八	民六七四
一〇	民六七四
九	民一九五
一〇	民一九五
一一	民一九六
行政裁判法	民訴三二六
一八	一五二、商一六〇、二五七
銀行條例	一五三、商三五〇
漁業法	一〇四
三五	一〇五
三六	一〇五
五九	一〇五
舊漁業法	一四六
三	一四六
漁業登錄令	民訴七二
一	民訴七二
牛乳營業取締規則	一一二
二〇	一一二
齊耕地整理法	六四
五	六四
四三	六五
四四	六五
六四	六五
郵便法	刑三九
五一	刑三九
輸出物法	刑一三八
一〇	刑一三八
人事訴訟手續法	三三
七	民訴六
一八	民訴六
二〇	民訴六
三九	三三
五五	民訴六
六六	民訴六
七八	民訴六
市制	刑二七六
八七	刑二七六
九六	刑二七六
衆議院議員選舉法	四
八	四
八七	八四、一〇〇、一〇六、一二三、
刑二六二	刑二六二
衆議院選舉法施行令	五
三三	五

諸法

出版法	一三三
一	一三三
二	一三三
三	一三三
七	一三三
九	一三三
二四	一五二
商標法	一五二
二	一〇七
一九	一二六
二一	一二六
新聞紙法	一二六
一九	五九、一三四、一三五
四一	一四〇
實用新案法	刑三四
一八	四四
森林法	四四
八三	一二五
銃砲火藥取締法	三六、九一
二二	三六
銃砲火藥類取締法施行規則	三六
六	三六
酒類及酒精含有飲料稅法	三六

非訟事件手續法

一六	一三九
一	民訴一五
二	四九
一八	民七〇七
一九	民五九四
二〇	四二七三
三八	民訴一五
一〇一	民訴五九四
一〇二	一九
一〇三	一九
一四九	民訴三九六
水利組合法	三三
五六	三三
五七	三三

法律

明治二十二年法律第三十四號一	刑二〇
明治二十二年法律第三十四號二	刑二〇
明治二十二年法律第三十四號三	刑二〇
明治三十二年法律第四十號	刑二〇

勅令

明治三十三年法律第十七號	民六二、三〇一
明治三十三年法律第五十二號一	商二九七、二九八
明治三十三年法律第五十二號二	刑一八六
明治三十三年法律第七十二號一	刑一八六
明治三十九年法律第三十一號一	民一九〇
明治四十二年法律第二十二號一	商二〇四
明治四十二年法律第四十號一	民三四一
明治四十二年法律第五十一號一	諸九六
明治四十二年法律第五十一號二	民六三二
明治二十四年勅令第三號一	民六三二
明治三十五年勅令第六號一	民六三二

..... 民訴三四五

明治四十三勅令第三百三十一號一..... 刑五

布告

明治十年布告第四十三號..... 諸一五

大政官布告

明治六年太政官布告第二百四十九號.....

..... 諸四五、民三九六

明治十年太政官布告第四十三號.....

..... 民一〇、商七六、諸四六

太政官達

明治九年太政官第五十八號達.....

..... 民五六四、五六七

省令

明治二十五年大藏省令第三號.....

..... 民訴三四六

明治三十一年農商省令第一號.....

..... 民訴三三〇

明治三十三年內務省令第三六號.....

..... 諸一五九

達

明治二十二年內務省達乙第三十九號..... 諸四六

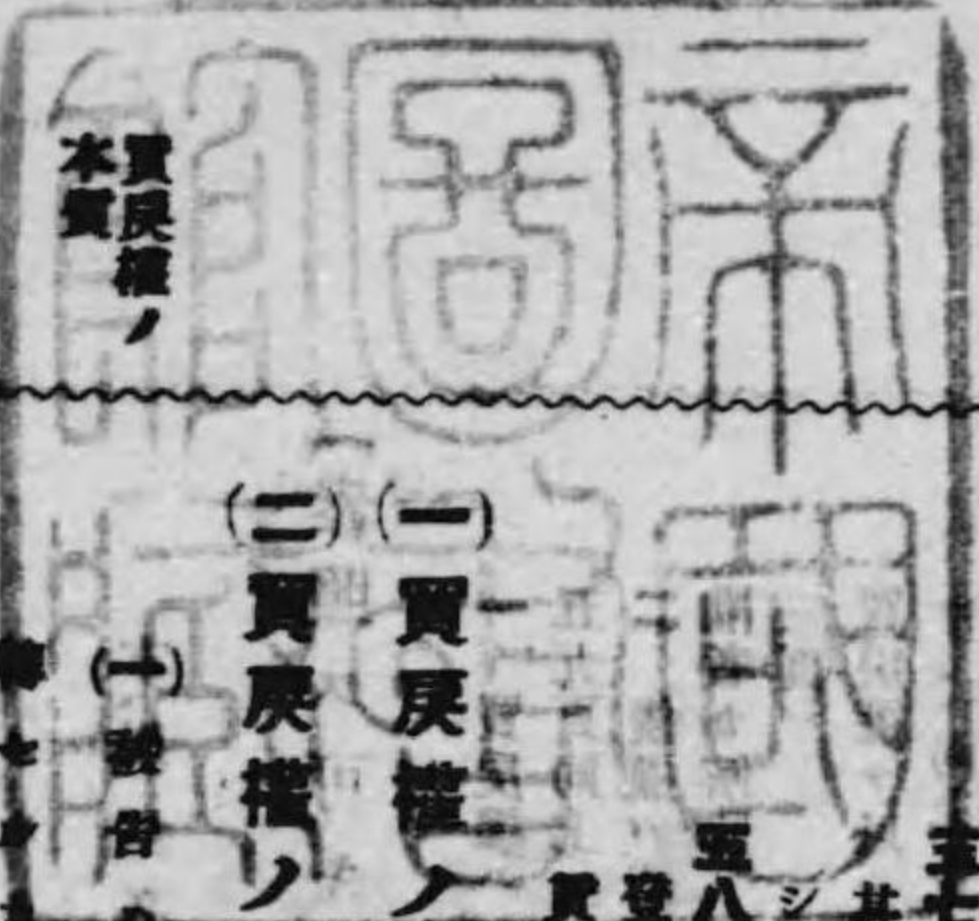
明治十六年司法省達丁第九號..... 諸八〇

諸法條文索引畢





五 當事者ノ一方カ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方チ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フ但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス  
 前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金銭ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス  
 解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス  
 七九 不動産ノ賣主ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル買戻ノ特約ニ依リ買主カ拂ヒタル代金及契約ノ費用ヲ返還シテ其買戻ノ解除ヲ爲スコトヲ得但當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ不動産ノ果實ト代金ノ利息トハ之ヲ相殺シタルモノト看做ス  
 八〇 賣買契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルトキハ買戻ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ生ス  
 登記ヲ爲シタル賃借人ノ權利ハ其殘期一ヶ年間ニ限り之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得但賣主チ賣スル目的ヲ以テ買戻債ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス



【一 買戻權ノ本質ハ債權ナリヤ將タ其他ノ權利ナリヤ】  
 【二 買戻權ノ行使ト賣買契約トノ關係】

(一) 法律上ノ抗辯トシテ其買戻ノ目的タル保爭不產ハ既ニ訴外金居仙助ヘ移  
 故ニ其所有者ニアラサル被告ニ對シ直接ニ之カ移轉登記ヲ爲スヘキコトヲ  
 求ムル本請求ハ不當ナリト論争スルモ買戻權ハ讓ハ留保セラレハ賣買契約ハ解除  
 ニシテ一種ノ債權ナルカ故ニ賣主ニ於テ之ヲ行使スルトキハ  
 (二) 買主ハ其相手方ニ對シ原狀ニ回復セシムル義務ヲ負フニ止マリ其目的物ノ所有權  
 カ當然賣主ニ復歸スルモノニアラスシテ唯賣主ハ買主ニ對シ其所有權ヲ移轉セシム  
 ル所有權ヲ有スルニ過キス而シテ買戻ノ登記ヲ缺キタル爲メ第三者ニ對シ其解除ノ  
 效力ヲ及ホスコト能ハサル場合ニ於テハ買主ニ於テ轉得者ヨリ再賣買又ハ其他ノ方

本頁

【參照ス可キ學說判例】

法ニ依リテ所有權ヲ取得スル途ナキニアラサルヲ以テ買主ハ原狀回復ノ義務ノ本旨ニ從ヒ賣主ヲ原狀ニ回復セシムル爲メ此等ノ方法ニ依リ更ニ轉得者ヨリ其所有權ヲ取得シ以テ之ヲ賣主ニ移轉スヘキコトヲ勸メサルハカラス又買主ハ轉得者ヨリ所有權ヲ取得シテ賣主ニ移轉スルコトヲ得サルトキハ結局賣主ニ對シ其損害ヲ賠償スルキ筋合ニ歸スルハ故ニ賣主カ買戻ノ結果トシテ單ニ移轉登記ノ手續ヲ求ムルト又主位的ニ之ヲ求ムルト同時ニ履行スルコトヲ得サル場合ニ於ケル損害賠償ヲ副位的ニ求ムルトハ固ヨリ其自由ニ屬スルモノト謂ハサルヲ得ス(奈良地方民事部藤裁判長松本、川口各判事、大正二年一月二十八日宣告法律新聞第八四五號二七頁以下要領)

一 買戻權ハ一ノ債權ニシテ財產權ナルヲ以テ之ヲ他人ニ讓渡シ得ヘキハ多言ヲ要セサル所ナリ(大審院民事判決錄四一年八五九頁同上三三三頁一二頁)

二 債權ハ請求權ナリト雖モ解除權ハ請求權ニ非ス債權ハ特定人ヲシテ特定ノ行為ヲナサシムル權利ナリト雖モ解除權ハ解除權者カ解除ノ意思表示ヲナスノ權利ナリ債權ニ對スル義務アリト雖モ解除權ニ對スル義務ナシ(石坂博士民法研究第一卷一九三頁)

三 買戻權ヲ以テ解除權ナリトナストキハ買戻權行使ノ效果ハ各當事者ニ於テ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負ハシムルニ過キス(同上三〇三頁)

四 買戻權ヲ行使シ買賣契約ヲ解除シタルトキハ其結果トシテ不動産ノ所有權ハ當然讓受人ニ歸屬ス可キハ辯テ俟タサルナリ(大審院四二年八九頁以下)

五 解除ハ債權ノ原因タル契約ヲ既往ニ溯リ除去スルモノニシテ之カ爲メニ其間接ノ效力トシテ未ダ履行サレサル債務ヲ消滅シ既ニ給付セザルモノハ原因ナキ給付トナル(岡松博士法學新報第一九卷三號八二頁)

六 契約ノ解除ハ契約ノ效力ヲ消滅セシメ當事者ノ地位ヲ契約以前ノ舊體ニ復スルヲ目的トス(廣田博士債權各論一九〇頁)

然リ買戻權カ一ノ財產權ニ屬スルコトハ疑ヒナシ然レトモ之ヲ債權ナリト斷スルニ至リテハ殆ント反駁ノ要ヲ見ス何トナレハ債權ト買戻權トハ其内容ニ於テ均シカラサルニ徴シテ之ヲ知ルニ難カラサレハナリ此點ハ前掲ノ各學說ニヨリ其性質ヲ知り得可キヲ以テ爰ニ詳論セス

(一) 賃借料支拂請求ト支拂時期ノ立證責任  
 (二) 民法第六一四條ノ借賃支拂時期ノ解釋  
 (三) 債務不履行ノ場合ニ於ケル履行ノ請求ト賠償請求

一五 債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲サザルトキハ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

一六 損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ其目的トス特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシトキハ債權者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

六〇 賃借借入當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及ヒ収益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其賃金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

六一 借賃ハ動産建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ毎年末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但シ收獲季節アルモノニ付テハ其季節後遲滞ナク之ヲ拂フコトヲ要ス

(一) 本件ノ如ク賃借借入ニ於ケル賃料ノ支拂時期ニ付キ賃借人ナル被上告人(被控訴人)ニ於テハ賃料ノ支拂期日ヲ毎年一月二日ニ定メテ主張シ賃借人タル被上告人(控訴人)等ニ於テハ賃料ノ支拂期日ニ付キ何等イ定メナカリシ旨ヲ抗辯シタル場合ニアリテ

ハ貸貸人タル被上告人(被控訴人)ニ於テ先ツ其主張ノ事實ヲ立證セサルヘカラス換言  
スレハ此場合ニ於ケル立證責任ハ貸貸人タル被上告人(被控訴人)ニアル者トス故ニ貸  
貸人タル被上告人(被控訴人)ニ於テ其主張ノ事實ヲ立證セサルハ假令貸借入タル上  
告人(被控訴人)等ニ於テ自己ノ主張事實ヲ立證セザリシトスルモ貸貸人タル被上告人(被  
控訴人)ノ主張ヲ排斥シ賃借人タル上告人(被控訴人)等ノ抗辯ヲ採用シテ賃料ノ支拂時期  
ニ付テハ何等期日ノ定メナカリシコトノ事實ヲ確定セサルヘカラス然ラハ原裁判所  
ニ於テ本件小作米ノ支拂時期ニ付キ當事者双方ノ主張ヲ排斥スヘキモノト爲シタル  
ハ立證責任ニ關スル法則ヲ無視シタル違法ナリト雖モ原判決カ本件小作米ノ支拂時  
期ニ付テハ何等ノ定メナカリシ旨ヲ抗辯セルモノナレハ原判決ハ結局上告人(被控訴人)  
等ノ主張ト同一ノ事實ヲ確定シタルモノニ外ナラス

(二) 原判決カ本件小作米ノ支拂時期ニ付テハ何等ノ契約ナカリシ旨ノ事實ヲ確定シ  
借賃支拂ノ時期ニ付キ何等ノ契約ナキ場合ニ適用スヘキ民法第六一四條ヲ適用シテ  
宅地外ノ土地ノ賃借借タル本件賃借借ノ借賃ノ仕拂期日ヲ毎年末ヲリト斷定シタル  
ハ違法ニアラス又民法第六一四條ハ宅地外ノ土地ノ借賃ハ毎年末ニ之ヲ支拂フコト  
ヲ要シ收穫季節アル場合ニ於テハ年末前ト雖モ其季節後遲滞ナク之ヲ支拂フコトヲ  
要スル旨ヲ規定シタルモノナレハ同條ニ依レル宅地外ノ土地ニ對スル借賃ノ支拂時  
期ハ常ニ其年ヲ越ユルコトナキモノトス

(三) 案スルニ債務者カ債務ノ履行ヲ爲ササルニ依リ債權者ニ生シタル損害カ債務ノ  
不履行ニ因リ通常生スヘキ損害ナルトキハ債權者ハ債務者ニ對シ其損害ノ賠償ヲ求

【本件ニ關スル學說】

▲ルヲ得ヘシ而シテ此損害賠償ノ請求權ハ債務ノ履行ヲ求メタル後ニアラサレハ之  
ヲ行使シ得サル旨ノ規定ナキヲ以テ債權者ハ債務ノ履行ヲ求メスシテ直チニ債務者  
ニ對シ右ノ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(東京控訴院大正元年(ナ)第八四號大正二  
年一月二日第一民事部鈴木裁判長成道、瀧田、鈴木、水口各判事宣告)

一 宅地外ノ土地ハ毎年末ナリ年末トハ曆年ノ終リヲ言フ但收穫季節アルモノハ其季節後トス蓋シ米麥等ノ收穫物ヲ得ル爲メ  
ニ土地ヲ賃借シタル者ハ其季節後借賃ヲ拂フヲ最便トシ賃借人ニアリテモ此際ニ得ルチ容易トスルヲ以テナリ(民法正解債權  
編一四五〇頁)

二 收穫季節アルモノニ關シ特例ヲ設ケ此場合ニ於テハ其收穫季節後遲滞ナク借賃ヲ拂フ可キモノトセリ……一切ノ收穫ヲ  
了ルハ大抵同時期ニ在ル可キヲ以テ又一一月乃至二月ニ其借賃ヲ支拂フヲ例トスルカ如シ(梅博士著民法要義債權六六四、六  
六五頁)

(一) 就テ 賃借借ノ借賃支拂請求事件ニ於テ借賃支拂時期ノ立證責任ハ賃借人  
ニ在リト判示シタルハ正當ナリ此點ニ就テノ詳説ハ本書第一卷(一〇頁)ヲ參照セ  
ラル可シ

(二) 就テ 契約ニ於テ借賃支拂時期ノ定メナキトキハ民法第六一四條ニ依リ決  
定ス可キハ判旨ノ如シ而シテ同條ノ但書ニ所謂收穫季節後遲滞ナクトハ同條本  
文末段ノ範圍内ニ於テ適用アルニ過キサルヤ換言スレハ右判示ノ如ク其年内ニ  
於ケル收穫季節トナシ之ヲ超ユルトキハ但書ノ適用ナキモノト解ス可キヤ吾人  
ノ見解ニ依レハ但書ハ單ニ收穫季節後ト謂フノミ敢テ何等ノ制限ヲ爲サス加之

本條本文ニ對シテハ此但書ハ全然例外的規定ニシテ制限的例外ニ非サルハ同條ノ文理上並ニ實際上ヨリ之ヲ知ルニ難カラス又立法ノ趣旨ヨリ解スルモ如上ノ制限ヲナスノ理由アルコトナシ故ニ此點ニ付テノ右判旨ハ不當ト信ス

(三)ニ就テハ債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲナササルトキハ債權者ハ債務者ニ對シ履行ノ請求並ニ其遲延ニ基ク損害賠償ヲ請求スルト又單ニ履行ニ替ハル損害ノ賠償ヲ請求スルトハ債權者任意ニ之ヲ選擇スルヲ得可シ蓋シ債權者ノ權利ナルヨリ生スル當然ノ結果ナリトス此點ニ關スル右判旨ノ正當ナルヤ勿論ナラズ

九六六 家督相續回復ノ請求權ハ家督相續人又ハ其法定代理人カ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

- (一) 民法施行前ニ於ケル廢嫡ノ方法
- (二) 家督相續ノ回復請求權ハ之ヲ拋棄シ得ルヤ
- (三) 右回復請求ヲ爲ササル旨ノ合意ハ公秩良俗ニ反セサルヤ

原告ハ亡中村七兵衛ノ長男(明治一一年二月一日生)ナルコト並ニ被告先代武吉ハ他家ヨリ(同一二年五月)入籍シ同一三年五月五日七兵衛死亡ニヨリ其家督相續ヲナシタルコト及被告ハ四一年九月中夫ノ死亡ニ因リ選定セラレテ其家督相續ヲナシタルコトハ當事者間ニ爭ナキ事實ナリ

(一) 家督相續ヲ爲ス可キ長男ハ即チ嫡男ト記載スヘキ當時用例ナルコト明瞭ナルニ依リ推究スレハ武吉ヲ明治一二年中中村家ノ養子ト爲スト同時ニ家督相續ヲ爲サシムル目的ヲ以テ特ニ嫡男ト記載セラレタルモノナルコト毫モ疑テ容レズ然レトモ元來廢嫡ニ付テハ士族ハ縣廳平民ハ郡役所ニ於テ特許ヲ受クヘキ成規ナルコトハ是亦右甲號證ニ依リ明瞭ナリ故ニ其特許ヲ受ケサル以上ハ原告長男ニ於テ爾後入籍シタル養子武吉ノ爲メ家督相續權ヲ剝奪セラルヘキ謂レナキモノトス然ルニ中村家ハ平民籍ナルニ拘ハラズ當時所轄阿武郡役所ニ對シ長男政雄ノ廢嫡願出ハ勿論許可アリタル事跡ナキコトハ證人堀美輔ノ供述ニ徴シテ信憑シ得ヘキニ依リ偶々武吉ノ冒頭ニ嫡男ト記載アレハトテ直ニ長男政雄ニ對シ當時廢嫡ノ手續ヲ了レタルモノナリト斷定スルニ足ラス

(二) 原告ハ當時被告及先代武吉カ爲シタル本家相續ヲ承認シ最早異議ヲ申立タルコトナク本訴請求權ヲモ拋棄シタルモノト認メ得ヘク左スレハ即チ原告ノ本訴請求權ハ已ニ消滅ニ歸シタルモノト判定スルニ足ルヘキニ依リ此點ニ關スル被告ノ抗辯ハ許シ得由アルモノトス

(三) 抑モ家督相續回復ノ請求權ニ付テハ法定家督相續人ノ相續權ノ如キ民法上拋棄ヲ禁シタル規定ナキハ勿論公秩良俗ニ違背スヘキ理由ナキカ故私權ノ性質トシテ享有者ニ於テ自由ニ拋棄シ得ヘキモノト解スルヲ妥當トス(山口地方民事部廣田裁判長小西、金森各判事宣告法律新聞第八四四號二七頁以下要領)

【本件ニ關スル學說】



一 相續回復請求權ハ相續ノ效力トシテ相續人カ相續ノ目的ノ主體ト爲リタルコトニ因リテ生シタル相續法上ノ特別ノ權利ナリ此權利ハ裁判上又ハ裁判外ニ於テ之ヲナスコトヲ得可ク相續人カ此請求ヲナスニハ一定ノ要件ヲ具備セザル可カラズ(島田法學士明治大學相續法講義二四六頁)

二 他人ノ不法相續ヲ排斥セントスルニハ必ス相續回復ノ訴ニ依ル可キモノニシテ……而カモ法律上相續人ノ資格相續ノ順位等ニ付テ強行ノ規定ヲ設クル以上ハ公私ノ利益ノタメ相續ノ回復ヲ得セシムルハ海ニ相當ナリ(牧野法學士日本相續法講義九一頁)

三 大審院民事判決錄三八年一六六二頁

右判旨第一點ニ就テハ異論ナシ第二、三點ハ誤謬ノ見解ナリト信ス

相續回復請求權ハ其内容相續ヲ回復スル權利ニシテ相續權ニ對シテハ救濟權又ハ第二權ノ關係ニアリ原權ト全然別異ノモノニ非ス又無關係ノモノニモ非ス則チ相續權アル者ノミ此回復請求權ヲ有スルモノナルニ徴シ蓋シ疑無カラム果シテ然ラハ私權ナルヲ以テ任意ニ之カ拋棄ヲナシ得可シトノ結論ハ誤謬ニ非スシテ何ソヤ

或曰相續權ノ拋棄ニ付テハ特ニ禁止ノ明文アルモ回復權ニハ之レナシ故ニ之ヲ是認ス可シト絶對ニ非ナリ相續權ニ禁止ノ明文ヲ設クレハ之カ回復請求權ハ右ニ述ヘタル當然ノ結果トシテ其拋棄ヲ認メサルモノナルハ兩者相互ノ關係上之ヲ窺知シ得ヘシ若シ之ヲ反對ニ解センカ相續權拋棄禁止ノ規定ハ單ニ形式上ノ存在ニ止マリ回復請求權ノ拋棄ニヨリテ其實ナキニ至ルヘシ豈ニ正當ノ見解ト謂フ可ケンヤ

又或曰相續權侵害ノ事實ヲ知ルモ回復請求ヲ爲ササルハ拋棄ナラスヤト當ラズ蓋シ拋棄ノ意思表示ノ效力トシテ相續權カ消滅スルニ非ス時効ニ因リテ之カ消滅ノ結果ヲ來スニ止マル要スルニ右ノ判旨ハ如上ノ理由ニヨリ不當ノ見解ナリト信ス

(四)

- 一 準禁治産者ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
- 二 元本ヲ領收シ又之ヲ利用スルコト
- 三 借財又ハ保證ヲ爲スコト
- 四 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
- 五 訴訟行爲ヲ爲スコト
- 六 贈與、和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト
- 七 贈與、若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔付ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト
- 八 新築、改築、増築、大修繕ヲ爲スコト
- 九 第六〇二條ニ定メタル時間ヲ越ユル貸借ヲ爲スコト
- 十 裁判所ハ場合ニ依リ準禁治産者カ前項ニ掲ケサル行爲ヲ爲スニモ亦其保佐人ノ同意アルコトヲ要スル旨ヲ宣言スルコトヲ得
- 十一 前二項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スルコトヲ得
- 十二 商法二九商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムルコトヲ得

商人タル準禁治産者ノ支配人選任

法律ハ保佐人カ準禁治産者ニ代リテ商業ヲ營ムコトヲ認メサルヲ以テ準禁治産者ハ保佐人ノ同意ヲ得テ支配人ヲ選任シ之ヲシテ商業ヲ營マシメ實際上ニ於テ商人タル

ノ機能ヲ全クスルノ外途ナキナリ  
此説ニ對シ或ハ疑ヲ抱ク者アリ即チ支配人ノ選任ニ同意ヲ與フルヲ得ルモノトセハ  
商人包括的ノ同意ヲ與フルヲ得ルト同一ノ結果ト爲ルヘシト謂フヲ其論據トス然レトモ  
同條ノ列舉ハ極メテ不完全ニシテ之ヲ嚴格ニ制限ノ列舉ト解スルトキハ甚シキ不  
都合ヲ生ス加之同條第二項カ裁判所ニ保佐人ノ同意ヲ必要トスル行爲ノ範圍ヲ擴張  
スルノ機能ヲ認メタルニ對シ類推ヲ以テ保佐人ノ同意ヲ必要トスルモノト解釋スル  
ヲ妨ケス(松本博士法學志林第一五卷二號七〇頁以下要領)

【同説】

青木博士商法總論一六二頁松本博士商法原論一〇五頁參照詳説アリ

【異趣旨ト認ム可キ學説】

一 準禁治産者ニ付テハ營業許可ノ制度アルナク又保佐人モ之ヲ代理スルコトヲ得ルニ非サルカ故ニ商業ヲ營ムニ付テハ準禁  
治産者ハ無能力者中最不利益ナル地位ニ立ツモノト云ハサル可ラス(竹田法學士商法總論二二三頁)  
二 準禁治産者ハ各種ノ行爲ニ付豫メ保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ妨ケス然リト雖モ本條第何號ノ行爲ト謂フカ如キ目的ノ確定  
セサル事項ニ對スル概括的同意ハ其效力ナキモノトス(富井博士民法原論一四二頁)  
吾人ハ理論上反對論ノ妥當ナルヲ信ス則チ未成年者及妻ニ付テハ營業許可ナル  
制度ヲ認ムルニ拘ハラズ準禁治産者ニ付何等ノ規定ヲ設ケス之ヲ設ケサリシハ  
蓋シ其制度ヲ認メサル趣旨ナルヲ知ルニ足ル而シテ未成年者及妻ニ對シ包括的  
同意ヲ認ムルハ右ノ制度ヨリ生スル結論ニシテ從テ其比較解釋上準禁治産者ニ  
對スル保佐人ハ概括的同意權ナキモノト斷定スルノ已ムナキナリ故ニ支配人選

任ニ同意スル權限ナキモノト云ハサルヲ得ス(注意 支配人ハ裁判上裁判外ノ事項  
ノ三〇 準禁治産者) 法典ノ不備宜シク改正ス可シ之ヲ理由トシテ理論ヲ枉ク可カ  
ラス

(五)

一〇〇 代理人ハ其權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ  
前條ノ規定ヲ準用ス

民法第一一〇條ハ所謂自稱代理人ニモ其適用アリヤ

黑澤次郎ハ控訴會社ノ代理人トシテ自己ノ名ヲ署シ以テ控訴會社ノ爲メニ小切手ヲ  
振出シタルモノニアラスシテ却テ控訴會社ヲ代表スヘキモノノ名ヲ以テ小切手ヲ振  
出スコトヲ委任セラレ居タルニ過キスト認ムルヲ相當トス從テ上記中島久米象ノ小  
切手振出ノ委任ニ關スル供述記載ニヨリテハ黑澤次郎ニ小切手振出ノ代理權アルコ  
トヲ認ムルヲ得ス且此他甲號證ニヨリテハ黑澤次郎ハ控訴會社ノ代理人タルコトヲ認ム  
ルニ足ルヘキモノナキヲ以テ黑澤次郎ハ控訴會社ノ代理人ニアラスト云ハサルヲ得ス  
故ニ代理人カ權限超越ノ行爲ヲナシタル場合ニ限リ之カ適用ヲ見ルヘキ民法第一一  
〇條ハ本件ノ場合ニ適用ナキコト言テ俟タス隨テ被控訴人ニ於テ黑澤次郎ニ甲第一  
號證約束手形ノ振出ニツキ控訴會社ヲ代理スル權限アリト信スヘキ正當ノ理由アリ  
ヤ否ヲ判斷スルノ必用ヲ見ス(東京控訴院四五年(ホ)三七五號大正元年一月二七日第  
二民事部松岡裁判長野田、長谷川、前田、高瀬各判事宣言)

【本件ニ關スル判例學說】

- 一 民法第一〇條ハ代理人カ權限外ノ行爲ヲナシタル場合ニ關スル規定ナルカ故ニ後見人カ其權限内ノ行爲ヲナシタル場合ニハ之ヲ適用ス可キモノニ非ス(大審院民事判決錄三九年七五八頁)
- 二 然ラハ又單純ノ無權代理ニ非スシテ表見代理ナリトス(中島博士民法釋義第一卷六一六頁)
- 三 代理人カ其權限外ノ行爲ヲナシタルコトヲ要ス去レハ代理人ナルコトヲ要シ又權限アルコトヲ要ス(鳩山法學士註釋民法全書三二八頁)
- 四 岡松博士民法理由二四五頁民法正解六一頁四九〇頁同趣旨

民法第一〇條ハ代理人タル資格(又ハ權限)ヲ與ヘラレタル者カ其行爲ヲナスニ當リ權限超越ノ行爲ヲナシ而カモ相手方ニ於テ其權限アリト信ス可キ正當事由ノ存スル場合ニ適用アル可キ規定ナルハ第一一三、一一八條ニ照シ疑ヒナシトス

(六)

- 一四七 時效ハ左ノ事由ニ因リテ中斷ス
  - 一 請求
  - 二 差押假差押又ハ假處分
  - 三 承認
- 一五二 破産手續参加ハ債權者カ之ヲ取消シ又ハ其請求カ却下サレタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス
- 一五七 中斷シタル時效ハ其中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム裁判上ノ請求ニ因リテ中斷シタル時効ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム
- 民法施行法三 身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其債務ヲ完済スルマテハ之ヲ破産者ト看做ス
- 同 三〇 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セザル債權ニ付テハ民法中時效ニ關スル規定ヲ適用ス
- 舊商法九八七 各債權者ハ優先權ノ存スルニ非サレハ破産處分中破産者ノ財産ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

身代限リノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタル其殘額債務ニ對シテ民法時効ノ適用アリヤ

民法時効ノ規定ヲ適用スルハ勿論ナリ舊法時代ノモノニ付テモ民法時効ノ規定ノ適用アリトス舊商法一〇四九條ニ其債務ヲ債權者ニ對シテ無限ニ行フコトヲ得トハ時効ノ規定ノ適用ナク永久ニ行ヒ得トノ主旨ニ非ス其理由ハ(一)破産手續ニ於テ全部ノ辨濟ヲ受ケサリシ殘額ニ付テハ債權者ノ尙ホ無限責任ヲ以テ其責任ヲ負フコトヲ明カニシ(二)舊商法九八七條ノ關係消滅シ各債權者カ自由ニ其權利ヲ行使シ得ル旨ヲ明カニシタルモノナリ我國ニハ確定判決アリタル場合ニ特別ノ時効期間ヲ設ケサルカ故ニ破産手續終結後各債權ニ付キ依然トシテ本來ノ債權ノ性質ニ依リテ定マレル時効期間ノ規定ノ適用アリ從テ其經過ニ因リテ該債權消滅スルモノトス(加藤博士法學志林第一五卷第二號七二頁以下要領)

【同一學說】

法曹會決議(法曹記事二七號一〇頁)大阪控訴院判決(法律新聞七〇七號二五頁)中島博士著民法釋義(八四〇頁)鳩山法學士註釋民法全書(六四九頁)參照

【反對學說】

判事今村信行民法律新聞二九五號(一九頁)參照

右ノ所論ハ正當ナリ即チ舊商第一〇四九條ハ時効ノ規定ノ適用ヲ排除セシムル

律意ニ非ス若シ反對ニ解スルトキハ時効制度ヲ設ケタル立法ノ趣旨ニ背馳スルニ至レハナリ故ニ吾人ハ多數説ト共ニ右所論ニ賛同スル所以ナリ尙ホ本書第一卷民法(三三八頁)ヲ參照セラレンコトヲ望ム

七

三七六 前條ノ場合ニ於テハ第四六七條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ抵當權ノ處分ヲ通知シ又ハ其債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ其債務者保證人抵當權設定者及ヒ其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス  
主タル債務者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ爲シタルトキハ抵當權ノ處分ノ利益ヲ受クル者ノ承諾ナクシテ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ其受益者ニ對抗スルコトヲ得ス  
四七七 主タル債務者ニ對スル履行ノ請求其他時効ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス  
保證人ハ主タル債務者ノ債權ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得  
四六七 指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

債權ノ讓渡ハ主タル債務者ニ對スル通知又ハ其承諾ノミヲ以テ保證人ニ對抗スルヲ得ルヤ

債權讓渡人カ債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者カ之ヲ承諾シタル以上ハ特ニ保證人ニ其通知ヲ爲ササルモ之ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ルハ當院判例ノ存スル所ナリ而シテ其然ル所以ハ保證債務ハ主タル債務ニ附從シ之ト其運命ヲ共ニスヘキモノニシテ主タル債權ヲ讓渡シタルトキハ其讓渡ノ效力ハ保證人ニ對スル債權ニモ及ブコトハ保證債務ノ性質上當然ノ結果ナルカ故ナルヲ以テ隨テ主タル債務

債權ノ讓渡  
保證人ノ地位  
債權ノ讓渡  
保證人ノ地位

債權ノ讓渡  
保證人ノ地位

者ニ對スル通知又ハ其承諾ノ事實ニシテ存在スル以上ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サルモ之ヲ以テ從タル保證人ニ對抗シ得ルコトモ亦當然ナリ民法第三七六條ハ抵當權ノ處分ヲ以テ對抗セラルル者ヲ制限的ニ列舉シタル趣旨ナレハ同條ニ主タル債務者ノ外保證人ヲ指定シアルヲ採用シテ同第四六七條第二項ノ債務者以外ノ第三者中ニ保證人ヲ包含スルモノト論斷スルコトヲ得ス(大審院大正元年(一)一四號同年一月二七日民二判決)

【同趣旨判例】

一本書一卷民法三八二頁判例參照  
二 債權讓渡人カ民法四六七、ニ依リ主タル債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シタル以上ハ特ニ保證人ニ其通知ヲ爲ササルモ主タル債權讓渡ノ效力トシテ保證人ニ對シ當然從タル債權ノ讓渡ヲ主張シ得ルモノトス(大審院四二年六月判決錄六四一頁三九三年三月四三五頁四〇年一〇月判例彙報二卷五頁長崎控訴院判決)

【同一學說】

一 法曹會決議(法曹記事第一九卷第四號四〇頁參照)  
二 橫田法學博士債權各論七七〇(梅博士法學志林第五五號一頁)

【反對學說】

一 保證附債權ヲ讓渡シタルトキハ保證人ニ對シ其保證カ主タル債權ト共ニ讓渡セラレタルコトヲ通知スルカ保證人カ承諾スルニ非サレハ其讓渡ヲ保證人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス(法學士池田寅二郎氏法學新報第一六卷一二號一八頁)  
二 入江、須賀各法學士法曹記事第一九卷四號四〇頁少數意見參照

【反對判例】

民法四六七、ニ所謂債務者トハ單ニ主タル債務ノミヲ指示スルニ非ス保證人モ亦包含ス故ニ債權ノ讓渡ヲ以テ保證人ニ對抗セントスルトキハ必ラスヤ該條所定ノ要件ヲ具備セサル可カラス(三九年四月大阪控訴院判決法律新聞三五六號六百同上法律新

附一七一號八頁七六號七頁

然リ主タル債權ノ讓渡ハ特別ノ意思表示ナキトキハ當然其從タル保證債權ノ處分ヲ伴フコト判旨(民八七條)ノ如シ然レトモ之カ處分ト其對抗要件ノ問題トハ全然別箇ノ觀念ニ坐スルコトハ第四六七條ヲ一讀スレハ明瞭ナリ而シテ保證人ニ其保證債權ノ讓渡ヲ對抗スルニハ均シク第四六七條所定ノ手續ヲ履踐セサル可カラズ民法カ主タル債務者ニ對シテ爲シタル通知又ハ承諾即チ其一身ニ生シタル事項ヲ以テ直チニ保證人ニ其效力ヲ及ホサシメサルノ精神ナルハ第四五七條ニ照シ之ヲ窺知シ得可シ故ニ右判旨ハ此點ニ於テ不當ヲ存スルモノナリト信ス

八

二六三

共有ノ性質ヲ有スル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本節ノ規定ヲ適用ス

二九四

共有ノ性質ヲ有セサル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本章ノ規定ヲ準用ス

官有地取扱規則一 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニ非サレハ賣拂、讓與、交換又ハ貸附スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害ト爲ラサル限ハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得  
明治七年太政官布告一二〇號地所名稱區別參照

- (一) 所謂國家ノ收益財產ハ民法ノ適用アリヤ
- (二) 所謂收益財產タル山林ニ對シテ入會權ノ存在ヲ認ムルヲ得ルヤ
- (三) 共有地地盤所有者ノ取得時効期間ノ經過ト入會權(所有者ノ取得時効ニヨリ入會權ハ當然消滅スルヤ否)

一凡ソ國有財產ニ關シテハ通例公法ノ規定ヲ設ケ專ラ行政ノ範圍形式ニ於テ取扱ハ

レ其ノ支配及處分ハ即チ一面ニ於テ常ニ公法的ノモノニ屬スルカ故ニ原則トシテ私法ノ適用外ニ措カレ其ノ適用アルハ特ニ國家ノ意思表示アルコトヲ要スルモノノ如ク從テ特ニ行政法規ニ於テ認許シタル事項ノ外ニ於テ民法上ノ權利ハ當然總テ國有財產ノ上ニ成立スルコトナキニ似タリト雖モ國有財產中ニハ國家カ主トシテ行政ノ目的ノミニ供用スル所謂公用財產ナルモノアリ又專ラ其ノ收入ヲノミ目的トスル所謂收益財產ナルモノアリ而シテ其收益財產ニ在リテハ公用財產ナルモノト異リ其實國家ノ私產タルニ過キスシテ私人ノ所有スル財產ト其ノ性質觀念ニ於テ敢テ差異アルコトナク何等國家カ特別ナル權力關係ニ立ツヘキ謂ハレナキカ故ニ此權利關係ニ於テハ國家モ亦私人ト同様ナル法律上ノ地位ニ在ルモノニシテ當然民法ノ適用ヲ受クルモノト解スルヲ相當トス而カモ國家ハ其ノ財產ノ管理處分ニ關シテ特別ノ行政法規ヲ設ケ依テ以テ之レカ支配ヲ爲スコト國家ノ權力トシテ固ヨリ自由ナルヲ以テ之レニ依リテ民法ノ適用ヲ排斥スルコト亦毫モ妨ケナシト雖モ其ノ特別ナル規定ナキ限リハ單ニ其地盤カ國家ニ屬スルノ故ヲ以テ直チニ民法ノ適用外ニ措カルルモノニシテ私權ノ目的タラスト云フコト能ハス而シテ國有林野ナルモノハ直接ニ行政ノ目的トシテ公用ニ供セラレルモノニアラスシテ專ラ國家ノ收入ヲ目的トスル財政的資產ニ屬スルコト敢テ疑フ容レス已ニ國有林野ハ收益財產ニシテ原則トシテ民法ヲ適用スヘキ財產ニ屬シ入會權亦我邦古來認メタル民法上ノ權利ナリトセハ國有林野ノ上ニ入會權ノ存在ヲ認許セサルヘカラサルコト復タ論ヲ俟タス左レハ被告カ置ニ國有林野カ國有財產タルノ故ヲ以テ當然民法ノ適用ヲ除外セサルヘカラスト云フ

カ如キハ其當チ  
 (二) 明治九年ニ於ケル同規定ハ其ノ各條何レモ山林原野所有權ノ官民何レニ歸屬スル  
 カニ付キ其所有權ノ範圍及ヒ所在ヲ査定シタルニ過キスシテ入會權ノ存廢ニ關シテ  
 何等規定スル所ナク國有林野法其ノ他ノ法令亦入會權消滅若クハ解除ニ關スル法意  
 ノ見ルヘキ規定存スルコトナシ當ニ之レナキノミナラス是等古來ノ入會權ニ關シ民  
 法ノ適用ヲ阻却セル條規アルコトナシ而シテ其ノ會テ入會ノ慣行アリタル林野ニ付  
 テハ緣故者ニ賣拂ヲ爲シ得ヘキ規定ノ如キハ之レヲ以テ入會ヲ消滅セシメタルモノ  
 ト爲スニ足ラス左レハ國有林野ノ上ニ入會權ノ存在ヲ許サストノ抗辯ハ全ク其ノ根  
 據ナキ主張タルヲ免レス

(三) 凡ソ地盤ノ所有者ニ於テ相當ノ期間入會者ノ權利ト相容レサル使用收益ヲ爲シ來  
 リ而カモ入會者ニ何等異議ヲ留メサリシトセハ入會者ハ之レニ基ク或ル他ノ事由ニ  
 ヨリテ其ノ入會權ノ喪失ヲ來スヘキ場合アルヘク從テ所有者ハ此ノ場合ニ於テ其ノ  
 入會權ヲ回收シタリト云フコトヲ得ヘキモ其ノ入會者ノ權利不行使カ未タ入會權ノ  
 消滅時効ニ達セサルニ先タテ單ニ所有權取得時効ヲ經過シタルノ故ヲ以テ直チニ所  
 有者カ完全ナル所有權ヲ取得シタリトナシ當然其ノ入會權ヲ回收シタリト爲スコト  
 能ハス而シテ被告ハ元來本案入會地ノ所有者ニシテ原告カ十數年來其ノ土地ニ對シ  
 入會的使用ヲ爲ササリシコト當事者間ニ爭ナキ所ナレトモ未タ入會權消滅時効成就  
 ニ至ラス又其ノ間被告自ラ原告ノ入會權ト相容レサル使用收益ヲ爲シタル事實ヲ認  
 ムヘキモノナシ左レハ原告ノ入會權ハ時効ニ因リ消滅シタルコトナク從テ被告ハ之

【參考判例】

本書第一卷諸法一一六頁同趣旨大審院判決參照  
 蓋シ正當ノ見解ト信ス

- 一 私權ノ享有ハ出生ニ始マル
- 二 不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得
- 三 戰場ニ臨ミタル者沈没シタル船舶中ニ在リタル者其他死亡ノ原因タルヘキ危難ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭ノ止ミタル後船舶ノ沈没シタル後又ハ其他ノ危難ノ去リタル後三年間分明ナラサルトキ亦同シ
- 三二 失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ前條ノ期間滿了ノ時ニ死亡シタルモノト看做ス
- 三三 失踪者ノ生存スルコト又ハ前條ニ定メタル時ト異ナリタル時ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ裁判所ハ本人又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ取消スコトヲ要ス但失踪ノ宣告後其取消前ニ善意ヲ以テ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セス
- 三四 失踪ノ宣告ニ因リテ財產ヲ得タル者ハ其取消ニ因リテ權利ヲ行フモ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ其財產ヲ返還スル義務ヲ負フ

失踪宣告ト權利能力トノ關係

失踪宣告ハ權利能力喪失ノ原因タリ是第三一條ニ依リ明カナリ唯同條ハ之ヲ制限シ  
 失踪者ハ其期間滿了ノ時ニ於ケル法律關係ニ付テノミ死亡シタルモノト看做サルル

【同一學說】

ノミ故ニ或ハ失踪宣告ハ單ニ法律關係消滅ノ原因ニアラサルカノ疑ヲ生ス然レトモ法律關係カ消滅スルハ失踪者カ死亡シタルモノト看做サル結果ナリ失踪宣告其モノカ法律關係消滅ノ原因ニアラス(石坂博士法學志林一五卷二號六七頁以下要領)

- 一 失踪ノ宣告ハ即チ死亡ノ宣告ニシテ失踪者ハ死亡者ト看做サル、然ラハ如何ナル範圍ニ於テ死亡者ト看做サルルヤ數説アリ(中島博士民法釋義第一卷二〇頁)
- 二 松本博士民法釋義全書二七五頁、川名博士民法總論一四九頁、富井博士民法原論二五四頁、岡松博士民法理由上卷六六頁、民法正解二四一頁、松岡法學士民法論總則二四六頁同趣旨

吾人モ亦本論旨ニ賛同ス則チ失踪ノ宣告ハ死亡者ト看做ス效果ヲ生スルモノナレハ生存ヲ其要件トシテ享有セシムル權利能力ナキハ當然ノ結論ニシテ反對ノ見解ヲ容ルルノ餘地アルコトナシ而シテ如何ナル範圍ニ於テ權利能力ヲ喪失スルニ至ルヤハ民法第三一條ノ決定スル所ナリトス

(一〇)

三三三 隣地ノ竹木ノ枝カ疆界線ヲ踰ユルトキハ其竹木ノ所有者チ其枝ヲ剪除セシムルコトヲ得隣地ノ竹木ノ根カ疆界線ヲ踰ユルトキハ其竹木ノ所有者チ其根ヲ剪除セシムルコトヲ得

隣地ニ侵入シタルニ依リ截取シタル竹木ノ根ノ歸屬權者

民法第二三三條第二項ニ截取トアルヲ截斷シテ之ヲ取得スト解ス可シトノ理由ノモニテハ余ハ前説ヲ改メス同條第一項ニ示シタル枝ニ付テハ其所有權ハ所在ニ關シ何等規定スルコトナカトテ通常ノ理論ニ從ハシメ第二項ニ於テハ其截斷者ト所有權ハ所在

截取シタル竹木ノ根ノ歸屬權者

トハ截取ナル字句ニ依リテ同時ニ示シタリト云フ可カラス法令ノ文字文章ハ別段ノ理由ナキ限リハ通常ノ意義ニ解スヘシ截取ナル字句ヲ截斷シテ之カ所有權ヲ取得スト解センヨリ寧ロ「截リトル」ト見ルナ正當トス或ハ立法ノ趣旨ヨリ反對ニ推論スルモ贊成スルコト能ハス尙各國ノ立法例沿革等ニ付テハ拙著註釋民法全書第四卷第一讀セラレタシ(法學士三澤信三氏法學志林一五卷二號六九頁以下要領)

【本問ニ關スル學說】

- 一 本書第一卷民法二七五頁横田博士反對
- 二 條文ニハ……竹木ノ根ヲ自カラ截取スルコトヲ得トセリ竹木ノ所有者チ其根ヲ截斷セシムルコトヲ得サル乎截取ト云ヘリ截ルノミニテ截リ離レタル根ノ所有權ヲ取得スルヤ等ノ問題ハ未決ナリ(民法正解債權編五六九頁)

吾人ハ右所論ニ相反スル見解ヲ提唱スル者ナルハ曾テ論シタル所ナリ(前掲頁)而シテ今尙ホ其非ナルヲ知ル能ハス何トナレハ第一項ニ於テハ單ニ剪除ト云フノミナルモ第二項ニ於テハ特更ニ截取スルコトヲ得ト規定セルニ徴シ反對説ノ是ナラサルヲ知ルヲ得ヘケレハナリ

(一一)

九〇 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス

九一 法律行為ノ當事者カ法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

五〇五 二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ双方ノ債務カ辨濟期ニ在ルトキハ各債務者ハ其對當額ニ付キ相殺ニ因リテ其債務ヲ免ルルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

不法行為ニ因リテ生ズル損害ニ對シテは債務者ハ其對當額ニ付キ相殺ニ因リテ其債務ヲ免ルルコトヲ得

五〇九 債務カ不法行為ニ因リテ生シタルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス  
七〇九 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス  
不法行為ニ因ル債務ハ相殺ヲ主張スル能ハサルモ相殺ノ契約ハ法ノ禁スル所ニ  
アラズ』

貸地料ノ延滞等有之候ヘハ差引殘金返戻可致候猶貴殿ニ於テ別紙契約ニ背キ勝手ノ  
行為アリタルトキハ違約金トシテ拙者ヘ沒收シ毫モ返金ノ義務無之契約ナリトアル  
モ乙第一號證末尾ノ文言ヲ以テ敷金ノ沒收ヲ約シタル者ト解スヘキヤ或ハ之ヲ以テ  
不法占有ニ因ル損害賠償ニ充當スヘキコトヲ約シタルモノト解スヘキヤハ契約ノ解  
釋ニ關スル原院ノ職權ニ專屬スル事項ニシテ上告人ハ之ニ對シ不服ヲ唱フルコトヲ  
得ス又不法行為ニ因ル債務ノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得サルハ民法第五  
〇九條ノ規定スル所ナリト雖トモ當事者ノ契約ヲ以テ之ヲ約スルハ法律ノ禁スル所  
ニ非ス(大審院大正元年(オ)三八號同年一月一六日民二判決)

【同一學說】

一本條(五〇九)ハ不法行為ノ債務者ニ限り相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得サルノミナリ(松波、仁保、仁井田三博士  
合著民法正解債權編七〇二頁)  
二 岡松法學博士民法理由下卷三三〇頁、横田博士債權各論九五二頁、川名博士債權總論三六〇頁、梅博士民法要義債權編三  
四二頁同趣旨說明

然リ不法行為ノ債務者(加害者)ニハ相殺ヲ認許セサルモ被害者即チ債權者ニハ之  
ヲ禁シタルニアラス故ニ債權者ヨリ任意ニ之ヲ約スルハ固ヨリ不法ナル可キ筈

ナキナリ

(一一)

一七七 不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變換ハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲナスニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ  
對抗スルコトヲ得ス  
不動産登記法二六 登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス  
同二七 判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得  
同四〇 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請者ノ副本ヲ提出ス  
ルコトヲ要ス

未登記不動産ノ買取ニハ如何ナル登記ヲ爲ス可キヤ(移轉登記ニテ可ナルヤ)

本件ノ如ク原告カ未登記建物ヲ買取シタル場合ニハ必スシモ被告主張ノ如ク所有權  
移轉登記ノ形式ニ因ルヲ要セス直ニ自己ノ名義ヲ以テ保存登記ヲ爲シ得ヘキモノナ  
ルヲ以テ該登記ハ有效ニシテ原告ハ該建物ノ所有權取得ヲ何人ニ對シテモ之ヲ主張  
シ得ヘシ(東京地方大正元年(ワ)第一二六〇號第四民事部田山裁判長里見、下田各判事宣  
告)

右ノ判旨ハ不當ナリ何トナレハ讓受人カ自己ノ名義ニテ保存登記ヲナスハ事實  
ニ反スル登記即チ所有權移轉登記ヲナス可キ場合ニ之ヲナスモノナレハ其登記  
ハ無効タリ從テ其不動産取得ヲ第三者ニ對抗スル能ハス故ニ之ヲナスモ結局其  
登記ヲナシタル目的ヲ達スル能ハサルハ當然ナリ此點ニ就テハ吾人カ曾テ詳論  
シタル所ナリ(本書第一卷民  
法一三五頁)



【本問ニ就テノ判例】

一 大審院判決録四三年一頁  
 二 未登記ノ建物ヲ買得シタル者ハ其移轉ニ關スル登記ヲナスニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(大審院四三年民事判決録一頁同上三八年六四七頁)  
 三 新築ニ依リテ始メテ其家屋ノ所有權ヲ得タル者ハ該物件ニ對シ假令所有權保存ノ登記ヲ爲ササレハトテ之カ爲メニ其所有權ヲ侵害セラルル謂ハレナク該物件ニ付所有者カ所有權ノ保存登記ヲ爲スニ先ダテ所有者ニ非サル他人カ所有權保存登記ヲナスモ何等ノ效力ナク從テ其者ヨリ順次ニ轉讓シテ該物件ヲ買受ケタル者又ハ其買受者ヨリ抵當權ヲ取得セル者ハ各其取得ノ當時善意ナリシト否トニ拘ラス其所有權移轉若ハ抵當權設定ノ登記ハ何等ノ效力ナシ之ヲ以テ所有權ニ對抗スルヲ得サルモトス(大阪控訴院第二民事判決法律新聞四三五號五頁所載)

三

四二二 債務ノ履行ニ付キ確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタルトキヨリ遲滞ノ責ニ任ス  
 債務ノ履行ニ付キ不確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタルコトヲ知リタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス  
 四二五 債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ  
 四一六 損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ其目的トス特別ノ事由ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシトキハ債權者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得  
 四一九 金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル  
 前項ノ損害賠償ニ付テハ債權者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得  
 四四五 當事者ノ一方カ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フ但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス  
 前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金錢ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス  
 解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

買得契約ノ解除ト損害賠償

買得契約ノ不履行ニ因ル損害賠償ハ該契約ノ解除ノ前後ニヨリ賠償請求額ニ差異アリヤ

控訴人カ契約解除ノ通知ヲ爲シタル爲メ保身ノ買得契約カ解除セラレタルコト明白ナレハ被控訴人ノ不履行アリタル爲メ控訴人ノ蒙リタル損害ハ被控訴人ニ於テ之ヲ賠償スヘキ責任アリ而シテ控訴人ハ契約解除前ノ相場ト賣約ノ價額トノ差ヲ損害額ナリトシテ請求スレトモ契約解除前ニ在リテハ控訴人ニ於テ代金ノ請求ヲ爲シ得可キモノニシテ被控訴人ハ單ニ履行ノ遲滞ニ在ルモノニ過キサレハ時價ト賣得價額トノ差カ控訴人ノ蒙リタル損害ナリト謂フヲ得ス左レトモ賣得價額ニシテ解除セラレタル以後ニ在リテハ控訴人ニ於テ代金ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノナルカ故ニ契約解除當時ノ相場ニシテ賣得價額以下ニ低落スルニ至リタルトキハ相場ト賣得價額トノ差額ハ被控訴人ノ不履行アリタル爲メ控訴人ノ蒙リタル損害額ナリト爲ササル可カラス(大正元年大阪控訴院第二民事部濱田裁判長、吉村、三浦、井上、黒木、各判事一月一四日言渡法律新聞第八四四號二五頁以下要領)

【同趣旨判例】

一 本書第一卷民法八四、一四九、一九一頁參照  
 二 大審院民事判決録四三年九五九頁四一年二九〇頁三八年一六〇七頁三八年一一五〇頁

【學說】

一 履行遲滞ノ場合ニ於テモ亦請求ノ時又ハ判決ノ時ニ於ケル價額ヲ標準トシテ賠償ヲナスコトヲ要ス然レトモ遲滞後價格カ減少シタルトキハ遲滞發生ノ時ニ於ケル價格ニ依ル(石坂博士日本民法第三編債權三〇頁)

二 債務者カ目的物ヲ引渡シ遲滞シタル場合ニ於テハ債權者ハ判決ノ當時其物ノ有スル價額ヲ標準トシテ賠償ヲ請求スルコトヲ要シ其以前高價ニ賣却シ得可カリシ事實ヲ證明スルニ於テハ其價額ヲ請求シ得ヘシ(横田法學博士債權各論三二九頁)  
右ノ判旨ニ就テハ吾人ハ會テ同一事件ニ付賛同ヲ表シタル所ナルヲ以テ茲ニ贊言セズ讀者第一卷ヲ參照セラレンコトヲ切望ス

(一四)

- 九〇 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス
- 五一七 更改ニ因リテ生シタル債務力不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リテ成立セズ又ハ取消サレタルトキハ舊債力ハ消滅セズ
- 五八八 消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタルモノト看做ス
- 七〇八 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

賭博ノ敗者カ其負分ヲ消費貸借ノ目的トナスノ合意ハ有效ナリヤ

被上告人カ證人寺内三吉其他ノ者ト賭博ヲ爲シテ失敗シ寺内三吉ヲ經テ上告人先代ヨリ金圓ヲ借受ケ其支拂ヲサシカ爲メ同人ニ宛テ負分ニ相當スル七〇圓ノ借用金證書(甲第一號證)ヲ作成シテ寺内三吉ニ交付シ同人ハ被上告人ノ爲メ該證書ニヨリ上告人先代ヨリ玄米四俵ヲ借受ケタリト云フニアルヲ以テ此證書ニシテ信ヲ措クニ足ルモノナラシメハ甲第一號證ニ因ル消費貸借ノ一部即チ玄米四俵ノ價額ニ相當スル部分ニ付テハ成立シタル者ト認ムルヲ妥當トス何ントナレハ賭博ノ負分ヲ支拂ハシカ爲ナリトノ事ハ右消費貸借ノ緣由ニ過キスシテ直接本件被上告人ト上告人先代トノ貸借ニ關係ナキヲ以テ賭博ナル不法原因ニ基クモノト云フヲ得ス且玄米四俵ヲ借

賭博ノ負分ト準消費貸借

受ケタリトノコトヲ以テ直ニ甲第一號證ニヨル金錢ノ消費貸借成立シタリト爲スコトヲ得スト雖該玄米ヲ賣却シテ得ヘキ代金ヲ以テ目的トナシ其代金ヲ得タル時ハ恰モ上告人先代ヨリ之カ給付ヲ得タルト異ラス爰ニ消費貸借成立ス然ルニ原判決ハ本件ハ不法ノ原因ニ基ク債務ヲ消費貸借ト爲シタル法律上無効ノモノナリトシテ上告人ノ請求全部ヲ排斥シタル不法アルヲ以テ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス(東京控訴院四五年(チ)第四九號元年一月二一日第一民事部鈴木裁判長、瀧場、成道、鈴木市、水口各判事宣言)

「本件ニ參考ト爲ル可キ學說」

- 一 石坂博士本書第一卷民法六六四頁民法五八八ニ依ル消費貸借ノ成立論
- 二 岡松博士法學新報二〇卷一號更改論七七頁以下

正當ノ見解異論アルコトナシ

(一五)

- 九〇 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス
- 一九九 占有者カ其占有ヲ妨害セララルル虞アルトキハ占有保全ノ訴ニ依リ其妨害ノ豫防又ハ損害賠償ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得
- 四一四 債務者カ任意ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其強制履行ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス
- 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ササル場合ニ於テ其債務力作爲ヲ目的トスルトキハ債權者ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但法律行為ヲ目的トスル債務ニ付テハ裁判ヲ以テ債務者ノ意思表示ニ代フルコトヲ得
- 不作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタルモノヲ除却シ且將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス  
 四一五 債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債務者  
 ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ  
 四一六 債權者ハ之ヲ讓渡スコトヲ得但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス  
 前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗  
 スルコトヲ得ス  
 四一七 債務ノ辨濟ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得但其債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキ又ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示  
 シタルトキハ此限ニ在ラス  
 利害ノ關係ヲ有セサル第三者ハ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス  
 民訴五一四 外國裁判所ノ判決ニ因レル強制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ曾渡シタ  
 ルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得  
 全五一五 執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲スコトヲ得  
 執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ  
 第二 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ  
 全七三三 民法第四一四條第二項及三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ  
 決定ヲ爲ス債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラシ  
 ト申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニヨリ此因リ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス  
 全七三四 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ  
 債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遅延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直ニ損害ノ賠償ヲ爲  
 スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス  
 全七三五 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

強制履行及強制執行

第一款 強制履行及ヒ其制限

學者ノ多數ハ強制履行ヲ解シテ強制執行ト同意職ナリトシ從テ本項(四一四條一項)但  
 書ヲ以テ強制執行ニ對スル制限ヲ規定シタルモノトス我大審院ハ之ヲ解シテ強制履

行ノ訴ヲ規定シ從テ其權利保護要件ヲ定メタルモノトナス吾人ハ強制履行ヲ解シテ  
 民訴法ノ定ムル所ニ從ヒ國權ニ依リテ原債務ノ履行ヲ強制シ得ルコトヲ概括的ニ定  
 メタルモノトナス

第一項 學說及ヒ判例批評

我邦多數ノ學者ハ強制履行ヲ以テ強制執行ト同一ノ意義ナリト解ス然レトモ其理由  
 ニ至リテハ必シモ相一致セス(一)或ハ強制履行ナル文字ハ其意義明確ナラサルカ故ニ  
 強制執行ナル文字ヲ用フルヲ適當トス(二)說キ且之ヲ解シテ原債務ノ履行ヲ強制スル  
 モノトナストキハ此規定ハ債權ノ本來ノ給付請求權以外ノ請求權ニ適用スルヲ得サ  
 ルニ至ルト難ス然レトモ強制履行ナル觀念カ不明確ナリト云フ理由ノ下ニ直チニ強  
 制執行ナリトスルハ速斷ニ失ス且強制履行ヲ解シテ原債務ノ履行ヲ強制スルモノト  
 ナストキハ民法第四一四條ハ債權ノ本來ノ給付請求權以外ノ請求權ニ適用スルヲ得  
 サルニ至ルト云フハ批難トナラス是レ同條一項ハ恰モ債權ノ本來ノ給付請求權ノ強  
 制的履行ニツキテ規定シタルモノナレハナリ物權的請求權其他ノ請求權ヲ滿足スル  
 コトヲ得ルヤ否ヤハ各其規定ニ依ルヘク同條ノ規定セントスル範圍内ニハ非ス  
 右所論ノ批難ハ大審院カ本項ヲ以テ給付判決請求權及ヒ其要件ヲ規定シタルモノト  
 爲ス見解ニ對シテ爲サレタルモノナリ吾人ハ是レヲ以テ狭ニ失ストシ見解ナリト  
 ト雖トモ右ノ批難ノ當ヲ得タルヤヲ疑フ(1)強制執行ハ未ニシテ債務名義ハ本ナリ體  
 裁ヨリ云フモ先ツ原債務ノ給付ヲ命スル判決ヲ要求シ得ヘキコトヲ規定シタル後其  
 判決ノ執行方法ニ付キテ規定ヲ設クルヲ可トス吾人ハ大審院ノ如ク本項ヲ以テ直ニ  
 給付判決請求權ノ權利保護要件ヲ定メタル規定ナリトセス然レトモ本項ヲ以テ權利  
 保護要件ヲ明ニスヘキ重要ナル淵源ナリトナス夫レ確認判決請求權ノ權利保護要件  
 ヲ定ムル規定ノ存セサルコトハ我現行法ノ一大不備ナリ然ルニ論者ハ給付判決請求

權利保護要件ヲ明ニスルニ付キ重要ナル淵源タル本項ノ規定ヲモ不必要ナラズトシ現行法ノ不備ヲシテ一層甚シカラシメントス(2)他ノ理由ハ加藤博士ノ主張セラルル所ニシテ反對説ノ最も有力ナル根據タリ

加藤博士ハ裁判所ハ債務ノ性質カ強制履行ヲ許スヤ否ヤハ斟酌セズ常ニ給付判決ヲ爲スヘシト然レトモ(1)博士ノ論旨ハ債務者カ任意ニ履行スヘキコトヲ理由又ハ條件トシテ給付命令スル判決ヲ爲スヘシト云フニハアラサルヘシ何トナレハ如斯ハ命令ナル觀念ト相容レス給付判決ニ包含セラレル給付命令モ亦國家ノ命令ナル以上ハ之ヲ受クル者ノ意思如何ニ拘ハラズ履行セラルルコトヲ必要トス故ニ判決裁判所カ給付判決ヲ爲スニ當リテハ債務者カ任意ニ履行スヘキコトヲ以テ其理由又ハ條件トナスコトヲ得ス(2)而カモ其命令ノ内容ハ之ヲ履行スル場合ニハ公序又ハ良俗ヲ害ス事言セハ其命令ノ内容ハ性質上之ヲ履行スルコトヲ許サスト蓋シ法律ノ許ササル事項ヲ命スル給付判決カ違法ノ判決ニシテ少クモ上訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルヲ得ヘキ判決ナルコトニツキテハ疑ナシ故ニ判決裁判所ハ債務ノ性質カ強制履行ヲ許スヤ否ヤハ斟酌スルコトナク又假令強制履行ヲ許サスト認ムル場合ニテモ猶給付判決ヲ爲スヘシトハ判決裁判所ニ強ユルニ法ノ禁止ニ反シ從テ絕對ニ無効ナルカ少クモ違法ナル判決ヲ爲スヘキヲ以テ吾人ハ之ヲ正當トスルヲ得且訴訟法ノ正條ニ於テモ性質上執行スルコトヲ得サル給付ハ判決ヲ以テ命スルヲ得サルコトヲ間接ニ示ス可キ規定アリ民法第五一五條第三號ノ規定之レナリ如上博士ノ所説ニシテ若シ債務ノ性質カ強制履行ヲ許ササルヤ否ハ判決裁判所ニ於テハ斟酌スルヲ要セス執行手續ニ於テ執行機關カ初メテ調査スヘキ事項ナリト云フニアラハ吾人ハ其當否ヲ疑フ何トナレハ如此ハ訴訟法全體ノ精神ニ反ス訴訟法ハ強制執行力迅速ニ行ハレンコトヲ期スルカ爲メ執行機關ニ於テ調査スヘキ事項ヲ證書ニ基キテ知ルヲ得ヘキ簡易ノ調査ニ止メントス而カモ債務ノ性質カ強制履行ヲ許スヤ否ヤハ法律上至難ノ問題ニ屬シ

執行機關ニ於テ爲ス調査ニ適ヤス尤モ民法第七三三條及七三四條ハ執行機關トシテノ第一審ノ受訴裁判所ニ作爲又ハ不作爲ノ債務カ性質上強制履行ヲ許スヤ否ヤノ問題ヲ裁斷セシメントス然レトモ吾人ハ立法論トシテ此規定ニ贊セサルノミナラス解釋論トシテモ第一審ノ受訴裁判所カ此點ヲ調査スルノ要アルハ判決其他ノ債務名義ニ於テ給付命令スルコトハ公秩良俗ニ反セサルニ拘ハラズ之ヲ執行スルコトハ公秩良俗ニ反スル例外ノ場合ニ限ルモノト信セントス故ニ債務ノ性質カ強制履行ヲ許スヤ否ヤノ調査ハ執行機關ニ於テ爲スヘキモノニシテ判決裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ得ストスル一般論ニハ贊スル能ハス

第二 判例批評

大審院ハ本項ヲ解シテ給付判決請求權及ヒ其權利保護要件ヲ規定シタルモノトシテ債務ノ性質カ強制履行ヲ許スコトヲ以テ判決請求權ノ權利保護要件ニ屬スルモノトナス(1)此見解ハ債權ノ強制履行ニ先ツ給付判決ヲ受ケ次テ之ヲ執行スルコトヲ要スル通常ノ場合ノミヲ視タルモノトシテハ正當ナリ然レトモ債權ノ強制履行ノ爲メニ給付判決ヲ受クルヲ要セサル場合アルカ故ニ(2)前掲ノ判例ニ於テ債務ノ性質カ強制履行ニ適用セザルヘキ見解トシテハ狹ニ失ス(2)前掲ノ判例ニ於テ債務ノ性質カ強制履行ヲ許サスト云フ制限ヲ極メテ廣義ニ解シ苟クモ作爲ノ給付請求ムル債權ハ債務者カ任意ニ之ヲ履行セサル場合ニハ直ニ債務者ノ身體ノ自由ヲ拘束スルニ非サレハ履行セシムルヲ得サルカ如クニ解シ民法第七三三條ノ規定アルコトヲ忘却シタルカ如キ觀アルハ吾人ノ贊スル能ハサル點ナリ

第二項 第一 強行履行ノ意義

吾人ハ本項ヲ以テ債務者カ任意ニ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テモ債權者ハ金錢賠償ニ甘スルコトヲ要セス國權ニ依リテ原債務ノ履行(Notnahrleistung)ヲ強要スルヲ得ハ







執行ノ債務名義タル判決ハ給付判決ニ限ルコトハ論ヲ俟タス而カモ問題ノ場合ニハ  
 金錢債權ヲ執行スルモノニシテ狭義ノ強制執行ナルコトハ疑ナク且後ノ見解ニ  
 從ヒ創設判決ヲ以テ直チニ債務名義ト爲スコトヲ得ルモノトモ該判決ニ於テハ  
 費用額ヲ定メサルカ故ニ費用額ヲ確定スルノ手續ナカルヘカラスト雖トモ斯ル手續  
 ハ現行法ノ認メサル所ナリ故ニ支拂フコトヲ要スル費用ノ若干ナルヤハ更ニ判決ヲ  
 以テ定ムルコトヲ要ス

I (二) 民法第四一四條第三項  
 本項ニハ單ニ不作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ... 請求スルコトヲ得... 規定シタル  
 本於ケルカ如ク裁判所ニ請求スルコトヲ得... 然レトモ(イ)第三項ノ規定タル  
 本來第二項第二段ノ規定タルヘキモノナルハ其文意ニ依リテ知ルコトヲ得立法者ハ  
 單ニ第二項ノ條文カ長キニ失スルヲ避ケンテ第二段タルヘキ規定ヲ分テ第三  
 項トシタルモノナリ故ニ第三項ニハ單ニ請求スルコトヲ得... 雖トモ第二項ト  
 ハ關係上裁判所ニナリ文字ナ省略シタルモノト解セサル可カラズ又民訴第七三條  
 ニハ代替作爲ノ債務タルト不作爲ノ債務タルトニ區別ナク第一審ノ受訴裁判所カ民  
 法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲スト規定スルヨリ類推スルモ猶第三項ノ場合ニ於テモ  
 判所ニ請求スルコトヲ得... 規定モ亦タ創設判決及ヒ其權利保護要件ヲ定メタルモ  
 吾人ハ右ノ前提ノ下ニ本項ノ規定モ亦タ創設判決及ヒ其權利保護要件ヲ定メタルモ  
 ノト解セントス其理由ハ

(1) 債權者カ債務者ノ費用ヲ以テ債務者ノ爲シタル結果ヲ除却スルコトヲ得ルハ判  
 決ヲ以テ斯ル權利ヲ授與スルカ故ナリ判決ハ債權者ノ除却權及ヒ費用ノ請求權ヲ創  
 設スルモノナリ從テ債權者ハ授與セラレタル除却權ニ基キ或ハ自ら債權者ノ爲シタ  
 ル結果ヲ除却シ或ハ第三者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得除却行爲ハ代替シ得

キ作爲タルニ過キス債權者ハ又除却ノ爲メ必要ナル費用ノ請求權ヲ判決ニヨリテ創  
 設セラレタルカ故ニ債權者ニ對シテ其費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得債務者カ任意  
 ニ其費用ヲ支拂ハサル場合ニハ右費用ノ支拂ヲ命スル給付判決ヲ受ケ之ヲ債權名義  
 トシテ金錢債權ノ執行ヲ爲スヘキモノナリ

(2) 將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得「ト云フモ亦適當  
 ノ處分ヲ爲ス權利ヲ債權者ニ授與スル判決ヲ請求スルモノト解セサルヘカラスト如何  
 ナル處分カ適當ナルヤハ場合ノ事情ニヨリテ裁判所カ自由裁量ヲ以テ定ム可キモノ  
 ナリト雖モ該處分ヲナス權利ハ判決ヲ以テ創設セラレ

II 債權者ニ除却權又ハ將來ノ爲メ適當ナル處分ヲナス權利ヲ授與スル判決請求權  
 ノ權利保護要件

(1) 除却權ヲ授與スヘキ判決請求權ノ權利保護要件ハ(イ)債權者カ不作爲ノ債權ニ違  
 反シテ作爲ヲナシ其結果カ外界ニ顯ハレタルコトヲ要ス(ロ)除却判決ヲ受クルニ付法  
 律上ノ利益ヲ有スルコトヲ要ス(ハ)正當ナル原告及被告ナルコトヲ要ス

(2) 將來ノ爲メ適當ナル處分ヲナス權利ヲ創設スヘキ判決請求權ノ權利保護要件  
 (イ)不作爲債權ノ違反アリ而カモ該違反ニ因リテ不作爲ノ債務ノ全部カ履行不能トナ  
 ラサリシコトヲ要ス(ロ)法律上ノ利益アルコト(ハ)原告カ正當ナル原告ニシテ被告モ亦  
 正當ナルコトヲ要ス

二 民訴法第七三條ノ性質並ニ第四一四條第二項及第三項トノ關係  
 (一) 民訴法第七三條ノ性質  
 學者ハ本條ノ規定ヲ以テ強制執行ノ方法ヲ定メタル規定ナリト解スルヲ常トス吾人  
 ハ此點ニ於テモ亦見解ヲ異ニシ小數ノ學者ト共ニ本條ヲ以テ強制執行ニ關スル規定  
 ナリト雖トモ執行方法ヲ定メタル規定ニハアラズ強制執行ノ代用トナリ之ヲ省略ス  
 ル方法ナリトス

執行ノ債務名義タル判決ハ給付判決ニ限ルコトハ論ヲ俟タス而カモ問題ノ場合ニハ  
 金錢債權ヲ執行スルモノニシテ狭義ノ強制執行ナルコトハ疑ナク且後ノ見解ニ  
 從ヒ創設判決ヲ以テ直チニ債務名義ト爲スコトヲ得ルモノトモ該判決ニ於テハ  
 費用額ヲ定メサルカ故ニ費用額ヲ確定スルノ手續ナカルヘカラスト雖トモ斯ル手續  
 ハ現行法ノ認メサル所ナリ故ニ支拂フコトヲ要スル費用ノ若干ナルヤハ更ニ判決ヲ  
 以テ定ムルコトヲ要ス

I (二) 民法第四一四條第三項  
 本項ニハ單ニ不作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ... 請求スルコトヲ得... 規定シタル  
 本於ケルカ如ク裁判所ニ請求スルコトヲ得... 然レトモ(イ)第三項ノ規定タル  
 本來第二項第二段ノ規定タルヘキモノナルハ其文意ニ依リテ知ルコトヲ得立法者ハ  
 單ニ第二項ノ條文カ長キニ失スルヲ避ケンテ第二段タルヘキ規定ヲ分テ第三  
 項トシタルモノナリ故ニ第三項ニハ單ニ請求スルコトヲ得... 雖トモ第二項ト  
 ハ關係上裁判所ニナリ文字ナ省略シタルモノト解セサル可カラズ又民訴第七三條  
 ニハ代替作爲ノ債務タルト不作爲ノ債務タルトニ區別ナク第一審ノ受訴裁判所カ民  
 法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲スト規定スルヨリ類推スルモ猶第三項ノ場合ニ於テモ  
 判所ニ請求スルコトヲ得... 規定モ亦タ創設判決及ヒ其權利保護要件ヲ定メタルモ  
 吾人ハ右ノ前提ノ下ニ本項ノ規定モ亦タ創設判決及ヒ其權利保護要件ヲ定メタルモ  
 ノト解セントス其理由ハ

(1) 債權者カ債務者ノ費用ヲ以テ債務者ノ爲シタル結果ヲ除却スルコトヲ得ルハ判  
 決ヲ以テ斯ル權利ヲ授與スルカ故ナリ判決ハ債權者ノ除却權及ヒ費用ノ請求權ヲ創  
 設スルモノナリ從テ債權者ハ授與セラレタル除却權ニ基キ或ハ自ら債權者ノ爲シタ  
 ル結果ヲ除却シ或ハ第三者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得除却行爲ハ代替シ得

キ作爲タルニ過キス債權者ハ又除却ノ爲メ必要ナル費用ノ請求權ヲ判決ニヨリテ創  
 設セラレタルカ故ニ債權者ニ對シテ其費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得債務者カ任意  
 ニ其費用ヲ支拂ハサル場合ニハ右費用ノ支拂ヲ命スル給付判決ヲ受ケ之ヲ債權名義  
 トシテ金錢債權ノ執行ヲ爲スヘキモノナリ

(2) 將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得「ト云フモ亦適當  
 ノ處分ヲ爲ス權利ヲ債權者ニ授與スル判決ヲ請求スルモノト解セサルヘカラスト如何  
 ナル處分カ適當ナルヤハ場合ノ事情ニヨリテ裁判所カ自由裁量ヲ以テ定ム可キモノ  
 ナリト雖モ該處分ヲナス權利ハ判決ヲ以テ創設セラレ

II 債權者ニ除却權又ハ將來ノ爲メ適當ナル處分ヲナス權利ヲ授與スル判決請求權  
 ノ權利保護要件

(1) 除却權ヲ授與スヘキ判決請求權ノ權利保護要件ハ(イ)債權者カ不作爲ノ債權ニ違  
 反シテ作爲ヲナシ其結果カ外界ニ顯ハレタルコトヲ要ス(ロ)除却判決ヲ受クルニ付法  
 律上ノ利益ヲ有スルコトヲ要ス(ハ)正當ナル原告及被告ナルコトヲ要ス

(2) 將來ノ爲メ適當ナル處分ヲナス權利ヲ創設スヘキ判決請求權ノ權利保護要件  
 (イ)不作爲債權ノ違反アリ而カモ該違反ニ因リテ不作爲ノ債務ノ全部カ履行不能トナ  
 ラサリシコトヲ要ス(ロ)法律上ノ利益アルコト(ハ)原告カ正當ナル原告ニシテ被告モ亦  
 正當ナルコトヲ要ス

二 民訴法第七三條ノ性質並ニ第四一四條第二項及第三項トノ關係  
 (一) 民訴法第七三條ノ性質  
 學者ハ本條ノ規定ヲ以テ強制執行ノ方法ヲ定メタル規定ナリト解スルヲ常トス吾人  
 ハ此點ニ於テモ亦見解ヲ異ニシ小數ノ學者ト共ニ本條ヲ以テ強制執行ニ關スル規定  
 ナリト雖トモ執行方法ヲ定メタル規定ニハアラズ強制執行ノ代用トナリ之ヲ省略ス  
 ル方法ナリトス







ルモノトセンカ單ニ債權者ハ債務者カ履行ヲ爲スヘコキトナ裁判所ニ請求スルコトヲ得ト規定セハ足レリ強制履行ナル文字ヲ用ユル必要ナシ法典カ特ニ強制履行ト云ヘルハ特別ノ意義ヲ附シタルモノト解スヘシ博士自ラ認ムルカ如ク國家ノ權力ヲ以テ債務者ノ意思ニ反シテ履行スルコトヲ得ト請求スルコトヲ得ナル文字ヲ解シテ給付判決ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ト解スルコトキハ給付判決其モノカ國家ノ權力ヲ以テ債務者ノ意思ニ反シテ履行スルコトヲ得ト請求スルコトヲ得シ然レトモ給付判決ヲ以テ債務者ヲ強制スルモノトナスハ給付判決ノ性質ニ反ス給付判決ハ債務者ニ對シ履行ヲ爲スコトヲ命スルナラシムルコトヲ從テ(イ)判決ハ博士自ラ認ムルカ如ク國家ノ命令ナリ然レトモ給付判決アルモ直ニ履行ノ強制アリト云フナ得ス判決ノ内容カ國家ノ權力ニ依テ債務者ノ意思ヲ問フ所ナク實現セラレル場合ニ強制履行ト稱スルヲ得ヘシ(ロ)更ニ給付判決ヲ以テ強制履行ト爲スコトヲ得ス履行ハ同義ニシテ債務者ノ意思ニ基キテ債務ノ内容ヲ實現セラレタル場合ニ於テハ履行ト稱スルコトヲ得債務者ノ意思ヲ問ハス外部ヨリ強制シ債務ノ内容ヲ實現セシムル場合ニハ履行ト云フナ得ス然ルニ給付判決ハ債務者カ任意ニ其債務ノ内容ヲ實現スヘキコトヲ命スルニ止マル故ニ單ニ給付判決ヲ下スニ依リ債務者ニ對シ強制的ニ債務ノ内容ヲ實現セシムルモノトナスヲ得ス或ハ強制履行ナル文字ヲ債務者ヲ拘束又ハ壓迫スト云フカ如キ意義ニ解スルトキハ給付判決其モノカ債務者ヲ強制スト云フコトヲ得ヘキモ斯クノ如キ意義ニ於テハ判決ヲ受ケサル以前ニ債務者ハ債權關係ニ基キ強制ヲ受ケ故ニ無意義ニ歸スヘシ如上吾人ノ見解ヨリスレハ博士カ第四一四條本文ヲ解シテ債權者ハ民法ノ定ムル所ニ從ヒ國權ニ依リ債務者ノ意思ニ反シテ履行ヲ強制シタル云々ト云ヘルハ大ナル矛盾ヲ含ムト云ハサルヘカラス

或ハ曰ハン強制履行ヲ強制執行ノ意義ニ解スルトキハ單ニ強制履行ナル文字ノミニ重キナ置キ履行ナル文字ヲ無視スルモノナリ強制履行ハ強制履行ナル文字ヲ云フモノナルカ故ニ給付判決ヲ下スコトノ意義ニ解セサルヘカラスト其非ナルハ既ニ論シタルカ如シ以上ハ專ラ給付判決ヲ下スコトヲ以テ強制履行ト解スルノ不當ナルヲ論セリ更ニ給付判決以外ノ債務名義ヲ作ルコトヲ以テ強制履行ト稱スルヲ得サルハ尙一層明カナリ或ハ曰ハン給付判決支拂命令ヲ下シ公正證書ヲ作成シ訴訟上ノ和解ヲ約スルハ直ニ強制履行ト稱スルヲ得サルモ給付判決支拂命令公正證書訴訟上ノ和解等ハ債務名義トシテ強制執行ノ要件ヲ爲シ其一部ヲ爲スモノナルカ故ニ強制履行ト稱スルヲ妨ケスト然レトモ給付判決等ハ獨立ノ存在ヲ有ス唯債務名義トシテ認メラレ強制執行ノ要件ヲ成スニ過キス且強制執行ノ要件タルカ爲メニ直ニ強制執行若クハ強制履行ト稱スルヲ得ス

博士カ本文ヲ以テ原債務ノ給付判決其他ノ債務名義ヲ請求スルコトヲ得ヘキ旨ヲ定メタルモノトナス根據ニ付キ批評ヲ試ミム(一)博士ハ債權者カ原債務ノ給付判決ヲ國家ニ對シテ請求スルコトヲ得ヘキコトヲ明ニスルカ爲メニ本文ヲ必要トナス然レトモ債權者カ給付判決ヲ國家ニ請求スルコトヲ得ルカ爲メニ本文ノ規定アルヲ必要トセス蓋債權者カ國家ニ對シテ給付判決ヲ請求スルヲ得ヘキコトヲ問接ニ示シタル規定ハ民法ニ於テカラス又第四一四條ノ規定民訴ニ於ケル強制執行ニ關スル規定等ヨリ間接ニ推論スルコトヲ得ヘシ且又我法典カ訴權ヲ以テ債權ノ效力トナス私法ノ規定ニ從ヒ起草セラレタル見レハ第一項カ給付判決請求ヲ規定セル者トナス見解ノ認ムヘカラスハ明カナリ更ニ博士ハ給付判決請求權ノ權利保護要件ヲ明カニスキ重要ナル淵源トシテ本文ノ規定ヲ必要トナス然レトモ此規定ハ「請求權ノ存在



秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルヲ云フモノトナス  
 (一)博士ハ此ノ如キ解釋ヲ爲ス根據ニ付キ殆ト學クル所ナシ唯「債務ノ性質カ強制執行ヲ許スヤ否ヤハ強制履行ヲ行ハントスル各場合ノ事情ニ關係ナク抽象的ニ初ヨリ一定セサルヘカラス」トナシ其所謂ノ根據ト爲ス然レトモ強制履行ヲ許スヤ否ヤカ抽象的ニ一定スルコトヲ要ストノ理由アルカ爲メ何故ニ「債務ノ性質カ強制履行ヲ許サス」トノ文字ハ強制履行カ公序良俗ニ反ストノ意義ニ解スヘキモノナリヤ吾人不敏ニシテ其理由ヲ解スルヲ得ス(二)博士ノ見解ハ我法典ノ文字ノ解釋上及ヒ論理解釋上何等ノ根據ナシ(三)更ニ博士ハ給付判決ヲ下スコト又ハ強制執行ヲ爲スコトカ公序良俗ニ反スル場合ヲ以テ強制履行ヲ許ササル場合ナリトナスカ故ニ實體法上ニ於テ債務カ發生セルコトハ前提トセサルヘカラス債務カ有效ニ發生シ而モ其債務ノ強制履行カ公序良俗ニ反スル場合アリヤハ疑問ナリ(四)博士カ但書ノ所謂債務ノ性質カ強制履行ヲ許ササルトキ「法律上許ス可カラサル場合」トナシ更ニ急轉シテ「強制執行カ公序良俗ニ反スル場合」トナセルハ頗ル人ナシテ其斷定ノ突飛ナルヲ感セシム如何ナル根據ニ依リテ此ノ如キ解釋ヲ爲スニ至リシヤ博士自ラ之ヲ論證セサルカ故ニ之ヲ知ルコト難シ

第三 第四一四條第二項ノ規定

博士ハ第四一四條第二項ヲ以テ作爲債務ニ關シ創設判決請求權及ヒ其權利保護要件ヲ定メタル規定ナリトナス吾人ハ之ニ反ス  
 吾人カ第二項ヲ以テ強制執行ノ規定トナス根據ハ簡單ナリ即第一ハ第一項カ強制執行ノ規定タルカ故ナリ更ニ第二項民訴第七三三條トノ關係上同項ハ強制履行方法ヲ規定シタルモノト解セサルヘカラス  
 吾人ハ強制執行ニ關スル規定ヲ民法中ニ規定シタルハ理論上當チ失スルモノトナス

然レトモ訴權及ヒ強制執行請求權ニ關スル我民法制定當時ノ學說特ニ佛法ノ見解ニ據リタル我民法カ強制執行ニ關スル規定ヲ民法中ニ設ケタルハ毫モ怪シムヲ要セサル所ナリ

二

更ニ博士ハ第二項ヲ以テ創設判決請求權ヲ定メタルモノト主張スル其要點ハ債務者カ作爲債務ヲ實行セサル場合ニハ債權者ハ原債務ノ給付判決ヲ裁判所ニ請求シ又ハ債權者ハ原債務ノ給付ノ訴ニ依ラス直ニ代替權及ヒ費用請求權ノ創設判決ヲ請求スルコトヲ得ヘシ此場合ニハ民訴第七三三條ニ依ルチ要セス其授與セラレタル代替權ニ基キ自ラ作爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ作爲ヲ爲サシムルコトヲ得唯其費用ノ請求ノ爲メニ更ニ給付ノ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此ノ如ク解シ我民法及ヒ民訴ノ規定ヲ評シテ立法上一特色ヲ爲シ用意周到ナルモノト云ヘリ然レトモ博士ノ見解ノ非ナル所以ハ(一)既ニ原債務ノ判決ニ基キ第三者ヲシテ代替執行セシム且其費用ヲ取立ツルコトヲ得ルモノトセハ第二項ニ於テ博士ノ所謂創設判決請求權ヲ認ムル必要アリヤ吾人ハ其理由ヲ知リヤ同一ノ目的ノ爲メニ二箇ノ重複セル方法ヲ認ムル必要アリヤ吾人ハ其理由ヲ知ルニ苦シム(二)更ニ第二項ニ依リ創設判決請求權ヲ認ムルチ得ヘキ實體法上ノ根據如何創設請求權ヲ認ムルカ爲メニハ實體法上形成權ノ存在スルコトヲ要ス然レトモ債權ノ效力トシテ此ノ如キ形成權ヲ認ムルコトヲ得ヘキヤ博士ハ此點ニ關シ何等説明スル所ナシ(三)博士ハ原債務ノ給付判決ニ基キテ爲ス民訴第七三三條ノ決定ノ内容ハ代替權及ヒ費用ノ請求權ヲ生スル創設判決請求權ニ關係スル民法第四一四條第二項ノ規定ニヨリテ定マル不當ノ結果ヲ生ス即第四一四條第二項ハ一方ニ於テ創設判決請求權ノ要件ヲ定メ他方ニ於テハ原債務ノ給付判決ノ執行方法ヲ定ムルコトトナリ一  
 個ノ條文ニシテ二個ノ異ナリタル内容ヲ有スル「スフレンクス」然タル規定トナルヘシ吾人ハ博士ノ所説カ論理上果シテ當チ得タルヤチ疑フ

民法三三三  
四一四  
一四七  
非ハ七

第四 第四一四條第三項ノ規定  
博士ハ第三項モ同シク不作爲債務ニ關シ創設判決請求權及其權利保護要件ヲ規定シタルモノトナス吾人亦此見解ニ反ス而シテ吾人カ此見解ヲ主張スル理由及ヒ博士ノ請求權ヲ定メタル理由ハ前段ニ述ヘタリ博士ハ第三項ニ關シ同項ヲ以テ創設判決請求權ニ關スル規定タル理由トシテ「裁判所ニナル文字ヲ缺ケリト雖トモ第三項ノ規定タルヤ本來第二項第二段ノ規定タルヘキモノナルコトハ其文意ニ依リテ知ルコトヲ得故ニ單ニ請求スルコトヲ得ト爲スト雖トモ裁判所ニナル文字ヲ省略シタルモノト解セサルヘカラスト是レ實ニ奇妙ナル解釋方法ト云フノ外評スル語ナシ」(2)第二ノ理由トシテ「民訴第七三三條ニハ代替作爲ト不作爲トニ區別ナク第一審ノ受訴裁判所カ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲スト規定スルヨリ類推スルモ猶第三項ノ場合ニ於テモ裁判所ニ請求スルコトヲ得トアルカ如何ク解スヘキモノタルコトヲ知ルヘシトナス然レトモ此見解ハ民訴第七三三條トハ何等關係ナキ條文トナル故ニ此理由ハ全ク根據ナシ」(3)又第三項カ創設判決ヲ定メタルモノトナス理由トシテ「民法ニハ債務者ニ命スルコトヲ得ト規定セリト雖トモ第三項ニハ此ノ如キ文字ナシト然レトモ第三項ニ於テハ裁判所カ債權者ニ此ノ如キ權利ヲ授與スヘキコトヲ明カニ定ムル所ナシ故ニ博士ノ解釋ハ曲解ニ類ス」  
第三項ヲ以テ除却權適當ノ處分ヲ爲ス權利ヲ創設スヘキ判決請求權ヲ定メタルモノト爲ス其根據如何前ニ論セル如ク債權者ハ債權ノ效力トシテ履行ノ請求權及債務者ノ不履行ニ對スル救済權トナ有スルノミ而シテ創設判決請求權ハ履行請求權マダハ損害賠償請求權ニ基クモノニアラス從テ債權ノ如何ナル效力ニ基クモノトナスヘキカ博士ノ所說ハ全ク其根據ヲ缺ク強テ其根據ヲ求ムレハ債務者カ不作爲債務違反アリタル場合ニ始メテ第三項ノ適用アルカ故ニ同項ハ損害賠償請求權以外ニ債務不履行

行ノ救済方法トシテ創設判決請求ヲ認メタルモノト解スヘキカ非ナルコト多辯ヲ要セス  
第五 餘 論  
吾人ハ尙枝葉ノ點ニ付キ疑問ヲ懷クモ斯ハ暫ク措キ尙重大ナリト信スル一箇ノ疑點アリ即博士ハ民訴第七三三條ニ規定スル所謂威嚇強制ノ性質ヲ如何ニ解スルヤ是ナリ吾人ハ從來我國ノ通説カ同條ヲ獨民訴第八八條ニ依リタルモノト解スルニ反シ同條ハ佛法ノ強迫(astreints)ニ基クモノトナス故ニ博士ノ如何ナル見解ヲ有セラルヤヲ示サレサリシテ遺憾トス(法學博士石坂香四郎氏京都法學會雜誌第八卷三號一頁以下要領)

【參照スヘキ學說判例】

前掲維本博士ノ評論ニ參照セルモノ

強制執行ヲ許ササル給付判決カ道德上債務者ヲ強制スト謂フハ解スル能ハス法律上ハ勿論道德上ニ於テ其拘束ヲ受クルコト所論ノ如シトスルモ判決ノ前後ニ依リ之カ厚薄輕重ノ差アル筈ナシ何トナレハ道德上ノ強制(拘束)ハ給付判決ト何等交渉アル可キモノニ非サレハナリ  
然レモ維本博士ノ提唱セララルル如ク強制執行ヲ許ササル債務ニ對スル給付判決ハ給付命令トシテ何等ノ效力(實益)ナシト謂フ可カラス該確決ハ其確定ニヨリ當事者ヲ絕對ニ拘束スルノミナラス第四一四條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ請求スルニ當リ其基本トナル又命令ノ内容其モノヲ強制スル能ハサルモ之カ爲メニ其

性質ヲ阻却スト云フ可カラサルハ勿論ナリ斯ノ如キハ他ノ法規ニ於テ多數ニ其事例ヲ存ス行政執行法第五條ノ如キ即チ其一例トナス故ニ其非難ノ當ラサルハ明カナリ

石坂博士ハ民法第四一四條第二項ノ債務ノ性質カ強制履行ヲ許ササル場合ニ於テナル語ヲ無視ス可シト提唱セラルル(日本民法第三編九四頁參照)モ斯ノ如キハ解釋論ニ非スシテ立法論タリ故ニ吾人ハ之ニ反對ス

又博士ハ民法第四一四條ノ強制履行ナル語ト民訴第七三四條ノ強制履行ナル語トハ同意義ナリト解セラルルカ如シ吾人ハ亦此見解ニ反ス此點ハ曾テ評論シタル所ナリ

要之以上ニ述フルカ如ク數多ノ點ニ付吾人ハ博士ト其見解ヲ異ニス然レトモ唯本博士ノ所論ニ對スル石坂博士ノ右駁論ハ大ニ吾人ノ意ヲ得タル所アリ而シテ些末ノ點ニ關スル異見ハ思想ノ錯雜ヲ避クル爲メ茲ニ之ヲ論究セズ讀者之ヲ諒セラレンコトヲ乞フ

一七

一七 心神耗弱者、癡者、啞者、盲者、及浪費者ハ準禁治產者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得

禁治產ノ原因トナルヤ(浪費者ト云フ)

禁治產ノ原因トナルヤ(浪費者ト云フ)

禁治產ノ原因トナルヤ(浪費者ト云フ)

至當ノ解釋異論アルコトナシ

一八

レヲ增加シ現今三〇〇〇圓餘ノ資金ニ達セルコトハ甲第一四號及甲第一七號證原審證人秋山源五郎ノ證言ニヨリ之レヲ認定シ得ヘシ而シテ控訴人カ消防事務又ハ烟草耕作ニ勉勵シ明治三四年以降大正元年一二月ニ至ル迄屢々其筋ヨリ受賞セシコトハ甲第七號證(控訴人ノ履歷書)及第二三號證(控訴人ニ對スル栃木縣警察部長ノ賞狀)ニヨリ之レヲ認ムルコトヲ得控訴人カ大坪ハツナル者ト情ヲ通シタルコトハ控訴代理人ノ是認スル處ニシテ控訴人カ右ハツチ妾トナシ居リシコトハ原審證人秋山源五郎關三之助ノ證言ニヨリ之ヲ認ムルコトヲ得ト雖モ前認定ノ如キ控訴人ノ財產狀態ニ於テ單ニ控訴人カ右ハツチ妾トナシタリトノ點ヲ以テ直チニ控訴人ヲ浪費者ナリトナスヲ得ス其他控訴人ヲ浪費者ナリト認ムハキ點ナキヲ以テ眞岡區裁判所カ被控訴人ノ申立ニ依リ控訴人ヲ浪費者ナリト認定シ控訴人ニ對シ準禁治產ノ宣告ヲ與ヘタルハ失當タルヲ免レス(東京控訴院元年(ホ)第六七三號民四岩田裁判長二年二月二二日判決要領)

七五〇

七五〇 家族カ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

家族カ前項ノ規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキハ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年内ニ離婚ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ得

八八七

八八七 親權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第一九條ノ規定ヲ準用ス

前條ノ規定ハ第一二一條乃至一二六條ノ適用ヲ妨ケス





リ法律關係ヲ成立セシム可キモノナレハ則チ所謂形成權ノ性質ヲ有スルト同時ニ財產權ノ一種ニ屬ス然リ而シテ財產權ハ原則トシテ消滅時効ノ目的タルコトヲ得ヘキカ故ニ此權利モ亦消滅時効ニ罹ルモノト論結シテ可ナラン然ラハ其時効ノ起算點如何願フニ權利ノ不行使ハ毎ニ消滅時効完成ノ原因トナリ其不行使ノ理由ハ權利者カ知テ行ハサルモ將タ知ラスシテ行使セサルモ敢テ問フ所ニアラス苟モ繼續的ニ權利ヲ行使セサル事實アルトキハ茲ニ時効ヲ完成ス而シテ條件ヲ成就シタリト看做スヘキ權利ハ條件ノ成就ヲ妨害シタル事實ノ存在ト同時ニ發生シ相手方ハ此時ヨリ其權利ヲ行使スルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ妨害行為ノアリタルニ拘ハラズ相手方カ右權利ヲ行使セサルトキハ遂ニ消滅時効ニ罹ルモノト謂フヘシ(法學士西川一男氏法學新報第二三卷第二號八一頁要領)

【參照ス可キ學說判例】

- 一 本書第一卷民法二九、五五四、五八九頁
- 二 希望權ハ形成權ニ屬セス蓋シ條件成就スルトキハ當然權利ヲ發生スルモノニシテ單獨行為ニ依ル權利ノ行使ヲ必要トセサルカ故ナリ：形成權ノ消滅ハ通常其行使ニ依リテ消滅ス又其不行使ニ依リテ消滅ス即チ法律ハ權利ノ行使期間ヲ定メ又ハ相手方ニ之ヲ定メシメ其期間内ニ之ヲ行使セサルトキハ消滅スルモノトス其他當事者ノ死亡、混同、行使不能等ニ依リ消滅ス(石坂博士民法研究四五、五一頁)
- 三 其法律關係ニ付テハ甚ダ明瞭ナリト謂フコトヲ得ス之ヲ看做スカ爲メニ相手方ニ對スル意思表示ヲ必要トスルヤ其意思表示ハ何時迄ニ爲スヘキヤ相手方ハ其意思表示ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ノ催告ヲナシ得ルヤ又之ヲ看做スヘキ權利ハ時効ニ因リテ消滅スルヤ等種々ノ問題ヲ生スヘシ余ハ之ヲ解スルニ債權者ノ選擇債權ノ理ヲ以テセント欲ス：但シ此權利ハ純粹ナル選擇債權ト謂フコト能ハス(鳩山學士民法註釋全書五二五頁)

然リ條件ノ成就ヲ妨害セラレタル場合ニ之ヲ成就シタルモノト看做スコトヲ得

ル相手方ノ權利カ所謂形成權ナルコトハ一般ニ是認セララル然レトモ果シテ財產權ナルヤ否ヤハ研究ニ値スル問題タラスンハアル可カラズ則チ此權利ハ其流出シタル基本關係ノ物權タルト債權タルト將タ其他ノ權利タルトヲ問ハス總テイ場合ニ於テ常ニ財產權ナリト斷定スルハ聊カ速斷ノ譏ヲ辭スル能ハス從テ時効ニ關スル右所論モ亦必スシモ正解ト云フコト能ハサルヘシ

(110)

- 三六九 抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サスシテ債務ノ擔保ニ供シタル不動産ニ付他ノ債權者ニ先テ是已ノ債權ノ清償ヲ受ケル權利ヲ有ス
- 三七〇 地上權及永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本章ノ規定ヲ準用ス
- 三七一 前條ノ規定ハ果實ニハ之ヲ適用セス但抵當不動産ノ差押アリタル後又ハ第三取得者カ第三八一條ノ通知ヲ受ケタル後ハ此限ニ在ラス
- 三七二 第三取得者カ第三八一條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其後一年内ニ抵當不動産ノ差押アリタル場合ニ限リ前項但書ノ規定ヲ適用ス
- 三九五 第六〇二條ニ定メタル期間ヲ超ヘサル貸借ハ抵當權ノ登記後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得但其實債力抵當權者ニ損害ヲ及ホストキハ裁判所ハ抵當權者ノ請求ニ因リ其解除ヲ命スルトヲ得
- 五七 更改ニ因リテ生シタル債務力不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セス
- 五八八 消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタルモノト看做ス
- 民訴六五一 裁判所ハ該費手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ該費ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入スヘキ旨ヲ登記列事ニ囑託ス可シ
- 登記列事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

競賣申立  
者ノト  
立  
分  
所  
有  
者  
ノ  
處  
分

同六五〇 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ  
其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス  
若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限り新所有者其取得  
ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ  
競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

- (一) 抵當權實行ニヨリ競賣申立ヲ登記シタル後所有者カ第三者ニ對シテ目的物上ニ設定シ且其登記ヲ爲シタル債權ノ效力如何
- (二) 準消費貸借ハ如何ナル債務ヲ目的トスルモ其成立ヲ妨ケサルヤ

(一) 抵當權者カ抵當權ノ實行ニ着手シ抵當不動産ニ付競賣申立ノ登記ヲ爲シタルトキハ之ト同時ニ其不動産ノ所有者ハ其不動産ニ付抵當權者ノ權利ニ影響スル一切ノ處分行爲ヲ爲スコトヲ禁セラル故ニ不動産ノ所有者ハ其不動産上ニ地上權其他ノ物權ノ設定登記ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論賃貸借契約ヲ登記シ之ヲ不動産ノ競賣後ニ存續セシムルヲ得ス從テ不動産所有者カ競賣申立ノ登記前ニ於テ第三者ト賃貸借契約ヲ締結シタル場合ト雖モ其申立ノ登記後ニ至リ之カ登記ヲ爲シタルトキハ第三者ハ其賃借權ヲ以テ抵當權者及不動産ノ競賣人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス而シテ所論ノ民法第三九五條ノ規定ハ不動産ノ所有者カ未ダ其行爲ノ制限ヲ受ケサル通帯ノ場合ヲ規定セルモノニシテ本件ノ如ク不動産ノ所有者カ競賣ノ申立ニ依リ其行爲ヲ制限セラレタル場合ハ同條ノ規定外ニ屬スルヲ以テ同條ニ基キテ本件賃貸借ノ效力有数ナルコトヲ主張スルヲ得サルモノトス

債權如何  
債務何  
ナルモ  
ナスルヤ  
ナスルヤ  
可ト

(二) 當事者及互間ニ於テ既ニ金錢其他ノ代替物ノ給付ヲ目的トスル債務カ存在スル場合ニ當事者カ之ヲ消費貸借ノ債務ニ變スルハ毫モ妨ケナク既存ノ債務カ消費貸借以外ノ原因ニ基キテ消費貸借ニ基キテトハ之ヲ問フコトヲ要セス換言スレバ當事者自由トス唯民法第五八八條ニ「消費貸借ニ因ラスシテ云々」ノ文詞アルヲ以テ反對推理ノ解釋ニ依リ消費貸借ニ因リテ當事者間ニ債務關係ノ存在スル場合ハ同條ノ規定外ニ屬シ當事者カ之ヲ變シテ新ナル消費貸借ト爲スコトハ法律上不可能ナリト論スヘキニ似タリト雖モ消費貸借ニ因リテ金錢其他ノ物ノ給付ヲ爲スノ義務ヲ負フ場合ト其以外ノ原因ニ基キテ同種ノ給付義務ヲ負擔スル場合トハ區別スヘキ何等法理上及民事政策上ノ理由ナク畢竟第五八八條ハ通常ノ場合ニ着眼シタルモノニ外ナラスシテ消費貸借ニ因リ金錢其他ノ物ヲ給付スルノ債務存在スル場合ニ當事者ノ意思ヲ以テ之ヲ新ナル消費貸借ト爲スコトハ第五八八條ヨリ推理シ所謂勿論解釋ニ依リ法律上可能ナリト判斷スルヲ以テ其當ヲ得タルモノトス(大審院元年(オ)第一三二號二年一月二四日民二宣告)

吾人ハ嘗テ詳論シタル(本書第一卷民)カ如ク右判旨第一點ニ反對スル者ナリ則チ差押ハ絕對ニ債務者ノ處分ヲ禁止スルモノニ非ス唯タ差押債權者ノ權利ヲ保全シ且ツ之ヲ實行スルニ必要ナル限度ニ於テ債務者ノ行爲ヲ制限スルノミ敢テ絶對ニ債務者ノ處分能力ヲ剝奪スルノ必要ヲ存スルコトナシ是レ吾人カ右判旨ニ



失火ニ因  
火災ニ因  
他ノ物ヲ  
爆発シテ  
損傷ヲ生  
シタル場  
合ニ於テ  
賠償ノ責  
任ヲ負フ

(一) 失火ニ因リ火災其他ノ物ヲ爆発セシメ因テ損害ヲ生セシメタル場合ノ賠償責任

(二) 被用者ニ對スル監督ノ委託ト使用者ノ責任(不法)

前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス  
明治三二年法律第四〇號 民法第七〇九條ノ規定ハ失火ノ場合ニハ之ヲ適用セス但失火者ニ重大ナル過失アリタルト  
キハ此限ニ在ラス

(一) 明治三二年法律第四〇號ニ所謂失火トハ人ノ過失ニ因リ火災ヲ惹起スノ意ニシテ  
過テ火ヲ失シ火力ノ單純ナル燃燒作用ニ因リ財物ヲ損傷滅盡セシメタル場合ハ總テ  
其中ニ包含スト雖モ火災其他ノ物質ヲ爆発セシメ其爆發ヨリ生スル強壓力ノ作用ニ  
因リ財物ヲ破砕破壊スルノ所爲ハ其爆發力火力ノ燃燒作用ニ起因スル場合ト雖モ別  
種ノモノニ屬シ失火ヲ以テ之ヲ見ルコトヲ得サルモノトス唯失火ニ因リテ生シタル  
火災力延燒シテ火災其他ノ物ヲ爆発セシメタル所論ノ如キ場合ニ於テハ其爆發ハ要  
スルニ火災中ニ於ケル一ノ事變ニ過キサルヲ以テ失火者ハ單ニ失火ノ責任ヲ負擔シ  
其爆發ニ付特ニ其責任ニ任セサルハ勿論ナリ而シテ本件ニ在テハ火災ノ爆發ヨリ生シ  
タル損害ノ賠償ノ目的トスルモノニシテ火災ノ爲ニ財產ノ損傷滅盡ヲ來シタル場合  
ニアラサルコトハ當事者ノ主張並原院ノ確定シタル事實關係上洵ニ明白ナルヲ以テ  
本件請求ノ當否ヲ判斷スルニ付失火者ノ責任ニ關スル明治三二年法律第四〇號ノ規  
定ヲ適用シ加害者ニ重大ナル過失アリタルヤ否ヤヲ審査スルノ必要ナク不法行為ニ  
關スル一般ノ原則ニ從ヒ加害者ニ過失ノ責アリヤ否ヤヲ判斷スルヲ以テ足レリトス

被用者ニ  
對スル監  
督ノ委託  
ト使用者  
ノ責任(不  
法)

民法第七  
一五條ノ  
規定

況ンヤ明治三二年第四〇號ノ法律ハ失火者其人ノ責任條件ヲ規定シタル者ニシテ之  
ヲ履使スル人ノ歸責條件ヲ規定シタル者ニアラザレハ失火者ニ重大ナル過失アリテ之ヲ履  
使スル者ニ於テ其責任監督ニ關スル不注意ノ責アルニ就テハ民法第七一五條ノ規定  
ニ從ヒ後者ニ於テ賠償責任ヲ負擔スヘク其責任監督ニ付重大ナル過失アリタルヤ否ヤハ其  
賠償責任ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ

(二) 或業務ノ爲ニ他人ヲ使用スル者ハ被用者ヲ監督シ其業務ノ執行ニ關シテ他人ニ  
對シ加害行為ヲ爲スコトヲ事前ニ於テ豫防スルノ責任アルハ民法第七一五條ノ規定  
ニ徴シテ明カニシテ使用者カ自己ノ職務ニ屬スル被用者ノ監督ニ付特ニ第三者ヲ履  
使シ又ハ其監督ヲ之ニ委託シタルトキハ是等ノ監督ノ過失懈怠ハ使用者ノ過失懈怠  
トシテ法律上其效ヲ生スヘク使用者カ其履使又ハ委託シタル監督者其人ノ選任監督  
ニ付不注意ナカリシコトヲ理由トシテ其責任ヲ辭スルコトヲ得ス何トナレハ是等監督  
者ハ要スルニ使用者ニ代リテ監督ノ責任ヲ負ハサルヘキ理由ナク監督者ノ行為ニ對シテハ自  
己ノ行為ニ於ケル同一ノ責任ヲ負ハサルヘキ理由ナク監督者ノ行為ニ對シテハ自  
單ニ其業務ノ執行ニ關シテ加害行為ヲ爲シタル場合ト責任條件ヲ異ニスル者ナレハ  
ナリ故ニ上告人カ其履使スル總監督以下ノ職員ノ選任監督ニ付自カラ相當ノ注意ヲ  
爲シタルヲ理由トシテ免責ヲ主張スル論旨モ亦理由ナキニ歸ス(大審院四五年(一)第二  
六四號大正二年二月五日民二宣告)

判旨第一點ノ火災ノ爆發(本件事實)ハ火災ニ非ヌト判定シタルハ不當ナリ抑火

藥ノ爆發ハ燃燒作用ニヨリテ滅盡セントスル場合ニ生スル現象ニシテ換言スレハ其爆發ハ火藥其モノノ燃燒セル結果ニ外ナラス火藥ハ燃燒スル場合ニ於テ常ニ爆發ス燃燒セシテ爆發ノ現象ヲ生スルコトナシ而シテ判旨前段ニ於テハ火災ヲ定義シテ云ハク……火力ノ燃燒作用ニ因リ財物ヲ損傷滅盡スル總テノ場合ヲ云フトナス果シテ然ラハ此定義ハ前述シタル火藥ノ爆發ト全然別個ノ觀念ニ非スシテ其定義ニ包括セラルヘキモノタリ而カモ判決ハ之ヲ別個ノモノト判示シ前後矛盾ノ觀念ヲ以テシタルハ甚タ惜ム可シ從ツテ賠償責任ニ關スル判旨モ亦誤謬ニ坐スルハ當然ナリ

三三

民法第八〇條  
買戻期間ハ一〇年ヲ超スルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ一〇年ニ短縮ス

民法第五八〇條ニ所謂買戻期間ハ買戻權ノ存續期間ナリヤ

民法第五八〇條第三項ハ當事者カ何等ノ意思表示ヲササリシ場合ニ適用スヘキ規

五八〇 買戻ノ期間ハ一〇年ヲ超スルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ一〇年ニ短縮ス  
買戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス  
買戻ニ付キ期間ヲ定メザリシトキハ五年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
民法施行法三一 民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

同三二 前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス  
同三四 第三〇條乃至第三二條ノ規定ハ時効期間ノ性質ヲ有セザル法定期間ニ之ヲ準用ス

定ニシテ荷クモ前記ノ如ク契約ヲ以テ買戻シノ時期ニ關スル定メテ爲シタル場合ニ於テハ同條第三項ヲ適用スヘキモノニアラスシテ同條第一項ヲ適用スヘキ者トス其理由ハ以下之レヲ說明セン抑々民法第五八〇條第一項ニ買戻シノ期間トアルハ買戻權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ期間ノ謂ニアラサシテ買戻權ヲ存續セシムルコトヲ得ヘキ期間ノ謂ナリ何トナレハ民法ハ永ク買戻權ヲ存續セシムルトキハ其間不動產ノ改良融通ヲ妨ケ經濟上ノ不利益尠カラサルコトヲ應リ假令當事者間ノ契約ヲ以テ一〇年算シテ一〇年間ニ短縮シ其以上存續セザラシメタル者ナレハナリ故ニ若シ民法施行後本件ノ如キ買戻約款ヲ爲シ賣買契約ノ日ヨリ六年間据置キ其後何時ニテモ買戻權ヲ行使シ得ヘキコトヲ定メザリトモ買戻權ヲ行使スルコトヲ得サル期間ト雖モ又買戻權存續スルモノナレハ民法第五八〇條第一項ニ依リ買戻權存續ノ期間ハ賣買契約ノ日ヨリ右据置期間ヲ通算シテ一〇年ニ短縮セラレヘキナリ又民法施行法第三四條ニハ第三〇條乃至第三二條ノ規定ハ時効期間ノ性質ヲ有セザル法定期間ニ之ヲ準用ストノ規定アルヲ以テ第三一條第三二條準用ノ結果ハ民法ニ法定期間ノ定メアリテ舊法ニ其定メナキ權利ニ付テハ民法施行ノ日ヨリ民法第一項ニ依リ一〇年ニ短縮セラレタル權利トナルヘシ然ラハ民法第五八〇條第一項ニ依リ一〇年ニ短縮セラレタル期間ハ該法定期間ト云フコトヲ得ヘキヤチ案スルニ時効期間ノ性質ヲ有セザル法定期間トハ法律カ公益保護ノ必要上一定ノ期間ノ經過ニ依リ又ハ其期間内權利ヲ行使セタルニ依リ權利ヲ消滅セシムル目的ヲ以テ特ニ定メタル不變期間ト云フモノナリト

ス故ニ當事者ノ契約ヲ以テ定メタル期間ハ法定期間ニアラス民法第五八〇條第三項ニ定メタル五年ノ期間ハ當事者ノ意思ニ基ツクモノニアラスシテ法律カ公益保護ノ必要上其期間内ニ權利ヲ行使スヘキコトヲ要求シ之ヲ行使セサルニ因リ買戻權ヲ消滅セシムル目的ヲ以テ定メタルモノナルヲ以テ法定期間ナレトモ當事者カ契約ヲ以テ一〇年以上買戻權ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ民法第五八〇條第一項ニ依リ一〇年ニ短縮セララルルモ此期間ハ依然トシテ契約期間ニシテ法定期間タル性質ニ變スルモノニアラス故ニ前段ノ如キ買戻約款ニハ同條第一項ヲ適用スヘキモノニシテ同條第三項ヲ適用スヘキモノニアラスナリ然ラハ民法施行前右ノ契約ヲ爲シタル本件ノ場合ニ於テハ民法施行法第三四條第三二條第三一條但書ヲ適用スヘキモノニアラスコト明カナリ而シテ民法施行法第一條ニハ民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セスト規定シアリテ同法中本件ノ如キ買戻約款ニ適用スヘキ特別ノ規定ナキヲ以テ舊法ノ規定ヲ適用セサルヘカラス而ルニ民法第五八〇條ノ如キ規定アルコトナク且當時ノ法律中一モ此ノ如キ買戻約款ヲ禁シタルモノナク又當時ノ慣行ニ於テモ一般ニ之ヲ是認シ公ノ秩序ニ反シタルモノニアラスナリ以テ本件ノ買戻約款ハ今日ニ於テモ依然其效力ヲ有スルモノト謂フヘキナリ從ツテ原審確定ノ事實ノ如クスレハ上告人ハ明治三一年四月一七日ヲ經過シタル後ハ何時ニテモ買戻ヲ行使スルコトヲ得ヘキモノナレハ今日ニ於テモ尚ホ買戻權ヲ喪失セサルモノト謂ハサルヘカラス而ルニ原裁判所カ本件ニ付民法第五八〇條第三項民法施行法第三四條第三二條第三一條但書ヲ適用シ民法施行ノ

モ五年内ニ買戻權ヲ行使セサルニヨリ權利ヲ失ヒタリトシテ上告人ノ請求ヲ棄却シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ上告ハ結局其理由アリ(東京控訴院元年(大)第九八號元年一月二一日民一判決鈴木裁判長成道滿田鈴木水口各判事言渡)

【參照ス可キ判例學說】

- 一 民法施行前ニ於テハ買戻期限ニ付法律上何等ノ規定ナク期限後何時ニテモ買戻シ得可シトノ條件ヲ以テ自由ニ賣買ヲ爲シ來レル慣習アリテ裁判上ニ於テモ一般ニ之ヲ認許セリ(大審院判決錄三五年五頁同題旨三四年三七頁)
- 二 法律カ除斥期間ヲ定メタルハ一定ノ期間ヲ超ヘテ權利ヲ存續セシメザラント欲スルニ在リ買戻權、婚姻取消權、相續拋棄等ニ於テ其旨意最モ明瞭ナリ(中島博士民法釋義卷二、八七七頁)
- 三 除斥期間ハ不變期間ニシテ何等ノ事由ニ依ルモ延長セラルルコトナシ：時效期間ト除斥期間ト區別スル標準ハ法文ノ字句ニヨルノ外無シ民法カ「時效ニ因リテ」ト云フ文字ヲ使用シタルモノハ前者ニ屬シ此文字ナキモノハ後者ニ屬ス(鳩山法學士民法註釋全書五九五頁同說富井博士民法原論第一卷五三一頁梅博士民法要義第六章總說)

右ノ判決ハ結論ニ於テ不當ナリ則チ買戻權ハ總テ一〇年以内ノ法定期間内ニ於テ存續ス換言スレハ第五八〇條第三項ハ勿論第一項ノ一〇年ノ期間モ亦法定期間ナリ右判決ハ其前段ニ於テ此理論ヲ認メナカラ後段ニ至リ之ヲ豹變シ同第一項ノ適用ヲ受クルハ當事者カ具體的ニ意思表示ヲ以テ定メタル場合ニ限ル從テ常ニ約定期間ナリト解シタルハ失當ナリ此一〇年ノ期間ハ約定期間ニ非スシテ法定期間ナルハ同項ヲ一讀スレハ明瞭ニシテ敢テ續述スルノ要ヲ見ス而シテ本間ハ舊法ニ規定ナク現行法ニ法定期間ノ定アルモノナレハ民法施行法第三二條ニ依リ民法施行ノ日ヨリ民法ノ適用アルモノトス如此解シテ理論上正當ナル

動物占有者  
及共同過失  
責任

キナラズ實際上ノ不條理ヲ避ケ以テ民法カ買戻權ニ法定期間ヲ設ケタル立法ノ趣旨ヲ貫徹セシムルヲ得可シ右判旨ノ如クシハ買戻權ハ或場合ニ法定期間ヲ存シ或場合ニ之ヲ存セサルニ至ル豈ニ不當ニ非スシテ何ソヤ

(二四)

七〇九 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ス

七一〇 他人ノ身體、自由、又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財產權ヲ害シタル場合トヲ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責任ニ任スル者ハ財產以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

七一〇 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及子ニ對シテハ其財產權ヲ害セザラシシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

七一八 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ス但動物ノ種類及性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ

(一) 動物カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ其占有者ニ過失アルコトハ何人ニ於テ立

置スヘキモノナリヤ(不法)

(二) 動物占有者ノ賠償責任ト財產以外ノ損害賠償

(一) 動物ノ占有者ハ其動物ノ種類及性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルコトヲ證明スルニ非サレハ動物カ他人ニ損害ヲ加ヘタル事實ノミニヨリ占有者ノ常ニ過失アルモノト推定スヘキモノナルコトハ民法第七一八條ノ法意ニ依リ明カナリ故ニ占有者カ加害ノ事實ニ付其責任免レントスルニハ先ツ其動物ノ保管上相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明セザルニ非ス

(二) 民法第七一八條ニハ他人ノ生命ヲ害シタルモノハ被害者ノ父母配偶者及子ニ對シテハ其財產權ヲ害セザラシシ場合ニ於テモ損害賠償ノ責任ニ任ス

同第七一八條ニハ動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ス云々ト規定シテ第七一八條ニ基ク損害賠償ノ責任ハ他人ノ財產權ヲ害シタル場合ニ限ルヘキ理由ナシ(長崎控訴院四五年(ホ)第一二九號民一判決法律新聞第八四九號二三以下要領)

動物占有者  
ノ賠償責任

【參照ス可キ學說】

意ヲ爲シタルコトヲ證明セサルヘカラス然ラサレハ被害者ニ對シ損害賠償ノ責任カサルコトヲ得サルモノトス而シテ家畜ノ犬ハ狂性又ハ犽猛性ヲ有セサル以上ハ之ヲ放飼スルモ普通其保管ニ付相當ノ注意ヲ缺キタルモノト認ムルコトヲ得サルモ飼養者ハ該犬ノ行動ニ付テハ常ニ他人ニ損害ヲ加ヘサル豫相當ニ之ヲ監視スヘキ責任アルモノトス

【參照ス可キ學說】

一 占有者及保管者ノ責任モ亦一般ノ原則ニ從ヒ其過失ヲ豫想スルモノナレハ此等ノ者カ動物ノ種類性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ何等過失ノ責ムヘキモノナキヲ以テ賠償ノ責任ヲ負ハサルモノトス(横田博士債權各論八八三頁)

二 動物ノ保管ニ付租税ナカリシコトヲ認ムルニハ單ニ動物ノ種類ヲ標準トシテ之ヲ判定スルコトヲ得ス各動物ノ性質如何ニヨリテ保管ノ注意ヲ異ニセサル可ラス本條第一項但書ハ特ニ之ヲ明ニシタリ(民法正解債權編一四八七頁)

右ノ判旨ニ付テハ吾人カ嘗テ詳論シタル所ニシテ結果ニ於テハ大差ナキモ其理由ニ付テハ聊カ之ヲ異ニス其詳細ハ本書第一卷民法六六九頁ヲ參照セラレヘシ

詐術ノ意

詐術ノ意

無能力者  
カ代理人

二〇 無能力者カ能力者タルコトヲ信セシムル爲メ詐術ヲ行ヒタルトキハ其行爲ヲ取消スコトヲ得ス  
九九 代理人カ其權限内ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ爲シタル意思表示ハ直接ニ本人ニ對シテ其效力ヲ生  
ス  
二一〇 取消シ得ヘキ行爲ハ無能力者若クハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者、其代理人又ハ承繼人ニ限リ之ヲ取消  
スコトヲ得

(一) 無能力者カ能力者タルコトヲ信セシムル詐術ノ意義(代理人ニ與ヘタル委任狀ニ  
如シ)

(二) 無能力者本人カ代理人ヲシテ爲サシメタル法律行爲ハ本人ニ於テ之ヲ取消シ  
得ヘキヤ

(一) 民法第二〇條ニ「無能力者カ能力者タルコトヲ信セシムル爲メ詐術ヲ用キタルトキ  
トハ無能力者カ單ニ相手方ニ對シ自己ノ能力者タルコトヲ陳述シタルノミヲ以テ足  
レリトモス尙進シテ自己ノ能力者タルコトヲ信セシムル爲メ特ニ或ル策略ヲ施シ之  
ニ因リテ相手ヲ錯誤ニ陥ラシメタルコトヲ必要トスヘキハ同條ノ法意ニ照シ明カナ  
ルヲ以テ假リニ被控訴人主張ノ如ク控訴人カ本件公正契約ヲ締結セシムル際其代理  
人眞山嘉吉ニ與ヘタル委任狀ニ自己ノ年齢ヲ二一歳ト記載シタル事實アリトスルモ  
是レ單ニ控訴人カ自己ノ成年者タルコトヲ書面ヲ以テ表示シタル事實ニ過キスシテ  
控訴人自ラ口頭ヲ以テ自己ノ成年者タルコトヲ陳述シタルト一般モ成年者タルコ  
トヲ信セシムル爲メ策略ヲ施シタルモノト云フヲ得ス  
(二) 未成年者カ代理人ニ依リテ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ未成年者ハ其法律行爲

詐術ノ意  
カ代理人

【判旨一點ニ付テノ學說判例】

ノ效力ヲ受ケル直接ノ當事者ナレハ未成年者タル本人ハ表意者ト法律上同一ノ地位  
ニ在ルモノニシテ自ラ表意シタル場合ト等シク其法律行爲ノ取消權ヲ有スルモノト  
云ハサル可ラス蓋シ此點ニ關シテハ民法上特ニ明文ノ徵スヘキモノナシト雖モ未成  
年者カ自ラ法律行爲ヲ爲シタルトキハ民法第一二〇條ニ依リ取消權ヲ與ヘテ之ヲ保  
護スルニ拘ラス代理人ヲシテ法律行爲ヲ爲サシメタルトキハ其取消權ヲ與ヘス之ヲ  
保護セサルカ如キハ彼是其權衡ヲ失スルノミナラス若シ未成年者タル本人ニシテ取  
消權ヲ有セサルモノトセンカ取消ノ意思表示ヲ他人ニ委任スルノ權能ナク代理人自  
身モ亦本人ノ委任ヲ受ケスシテ其法律行爲ヲ取消シ得ヘキ規定ナキヲ以テ未成年者  
カ代理人ヲシテ法律行爲ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ該法律行爲ハ結局之ヲ取消ス  
コトヲ得サル奇怪ナル結果ヲ生シ未成年者保護ニ關スル前記法條ヲ設ケタル立法ノ  
趣旨ニ反スルニ至ルヘケレハナリ(四五年(本)一四九號長崎控訴民、一、富田裁判長、東本達  
藤、村部、中根各判事宣告)

一 單純ナル陳述ヲ以テ足レリトモス積極的ニ或ル策略ヲ用ヒタルコトヲ要ス(松本博士人法人及物二〇頁)、中島博士民法釋  
義卷ノ二、一六八頁(富井博士民法原論總論一五七頁)、平沼博士民法總論二〇五頁(松岡學士民法論總則二二五頁)

二 同趣旨(大阪地方民三部判決)

(一) 付テハ異論ナシ

(二) 付テハ賛同ヲ表スル能ハス蓋シ無能力者ノ代理人ヲ爲シタル行爲ハ何等



ノ瑕疵ヲ存セズ瑕疵ナキ行爲ノ取消ハ法ノ認メサル所ナリモシ無能力者ニシテ  
代理人ノ行爲ノ效果ヲ排斥セント欲セハ代理人トノ間ニ爲シタル委任ヲ取消ス  
ヘシ之ヲ取消サスシテ代理人カ有效ニ爲シタル行爲ヲ取消スコトヲ得本件ハ  
代理人カ詐欺強迫ヲ受ケタル場合ノ如キ代理行爲其モノニ瑕疵アルカ爲メ本人  
カ之ヲ取消シ得ル場合トハ全然其性質ヲ異ニスルモノナリ

(二六)

三四 債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但  
其行爲ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行爲又ハ轉得ノ當時債權ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトモ此限  
ニ在ラス  
前項ノ規定ハ財産權ヲ目的トセサル法律行爲ニハ之ヲ適用セス

- (一) 債權者ノ債權ハ廢罷セントスル行爲前ニ發生シタルコトヲ要スルヤ
- (二) 辨濟期ノ如何ハ廢罷訴訟ノ行使ニ影響セス
- (三) 單一ナル詐害行爲ト雖モ目的ニシテ分割シ得ルトキハ一部ノ取消ヲ爲シ得ヘキヤ
- (四) 抵當不動産ト雖モ其債權額ヲ控除シタル殘額ハ一般擔保トナルカ故ニ詐害行爲ノ目的トナルモノトス
- (五) 受益者ハ反證ナキ限りハ詐害事情ヲ知りタルモノト推定スヘキヤ

詐害行爲  
前ノ取消  
權ト

辨濟期前  
ノ取消  
權ト

債權者  
ノ取消  
權ト

(六) 受益者ニ對シテ取消ノ訴ヲ起ストキハ債務者ニ對シ其法律行爲ノ取消ヲ求ムル必要ナキヤ

(一) 右賣買ハ明治四三年五月二六日ニ成立シタルモノト認定スヘキモノトス仍テ控訴人ノ有スル債權ハ右賣買ニヨリ詐害セラレタルヤ否ヤヲ案スルニ、控訴人ハ被控訴人松三郎ニ對スル元金四二〇〇圓及ヒ之レニ對スル利息ノ債權ヲ詐害セラレタル旨主張スルモ右債權ノ内元金一三〇〇圓ノ分ハ明治四三年六月三日ノ貸付ニ係ルコトハ控訴人ノ主張ニ依リ明瞭ニシテ該債權ハ本件地所賣買ノ日附タル同年五月二六日後ニ成立シタル債權ナルカ故ニ右賣買ハ該債權ニ對シ詐害行爲ト爲ラサルコト勿論ナルヲ以テ元金一三〇〇圓及ヒ其利息ノ點ニ關スル被控訴人只次ノ抗辯ハ理由アリ

(二) 被控訴人只次ハ控訴人主張ノ金二、〇〇〇圓金一、〇〇〇圓ノ二口ノ債權ハ本件地所賣買ノ行ハレタル迄ニ未タ辨濟期到來セサルモノナルニヨリ法律上本件地所賣買ニ對シ取消ヲ請求シ得ヘキモノニアラサル旨抗辯スルモ右二口ノ債權ハ本件地所賣買前即チ明治四三年四月二三日ニ成立シタルモノナルコトハ前記認定ノ如クニシテ本件ノ地所カ右債權ノ一般擔保トナリ得ルニ於テハ賣買カ債權ノ辨濟期到來前ニ行ハレタルト否トニ拘ハラス債權者ノ債權ヲ詐害スル行爲タル場合ニ於テハ債權者ヨリ該行爲ノ取消ヲ請求シ得ヘキモノナルニヨリ右二口ノ債權ニ付キ詐害行爲ノ取消權ハ存在スルモノト云ハサルヘカラス從テ右ニ關スル被控訴人只次ノ抗辯ハ理由ナシ

(三) 被控訴人只次ハ本件地所ニ對シテハ松三郎ニ於テ明治四二年九月二一日加茂銀行

抵當不動産  
取消  
訴權

○金六〇〇〇圓同年一〇月二三日加茂實業銀行ヨリ金二〇〇〇圓ヲ各借リ受ケ  
 何レモ抵當權ヲ設定シ置キタルノミナラス本件地所賣買代金一〇〇〇〇圓ノ内ヨリ  
 右二口ノ元利合計金八八七三圓五〇錢ヲ辨済シタルモノナレハ控訴人ノ債權ヲ詐害  
 シタル事實ナキノミナラス抵當權ハ其目的タル不動産ノ全部ニ及ビ不可分ナルヲ以  
 テ假令其不動産カ數筆ノ地所ニシテ容易ニ分割シ得ヘキモノナリトスルモ之レヲ分  
 割シ其一部ニ對シ詐害行爲ニ因ル所有權移轉ノ登記抹消ヲ許スヘキ者ニアラスト抗  
 辯スルモ抑モ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ハ其結果ノ全  
 部ニ於テ債權者ヲ害スル一部ニ於テ害スルコトヲ問ハス單一ナル詐害行爲ナリト雖  
 モ詐害行爲ノ取消ノ目的トスル所ハ該行爲ニ因リ債權者ノ被ムリタル損害ヲ救済ス  
 ルニアルヲ以テ其行爲ノ目的ニシテ分割シ得ルトキハ債權者ノ損害ヲ救済スル程度  
 ニ於テ其一部ノ取消シヲ爲シ得ルモノトス  
 (四) 詐害行爲ノ目的タル不動産ノ上ニ他ノ債權ノ爲メ抵當權設定セラレ取消訴權ノ原  
 告タル債權者ニ優先スヘキ場合ニ於テモ不動産ノ價格ヨリ抵當債權額ヲ控除シタル  
 殘餘ニ付テハ總債權者ノ一般擔保トナルヘキモノナレハ此部分ニ付テ詐害行爲ノ事  
 實アレハ同行爲ノ取消訴權ハ成立スルモノト云ハサルヘカラス故ニ數多ノ不動産ヲ  
 目的トスル本件賣買ノ如キモ債權者タル控訴人カ之レニ因リ損害ヲ被リタリトモハ  
 之レヲ救済スル爲メ取消訴權ヲ行使シ得ヘキモノナリトス故ニ本件抵當物件ノ實際  
 價格一〇二三五圓八七錢以上ヨリ抵當權者カ優先辨済ヲ得ヘカリシ前ノ八八七三圓  
 五〇錢ヲ控除シタル地所ニ付キテノミ詐害行爲ノ事實アルニ於テハ取消訴權行ハル

受意者  
推ノ

取消訴權  
ノ被告

ルモノト云ハサルヘカラス  
 (五) 進ンテ詐害ノ事實アリヤ否ヤヲ案スルニ債務者タル松三郎ハ前記認定ノ如キ資産  
 状態ニアリナカラ價格一〇二三五圓八七錢以上ノモノヲ僅カニ七四六〇圓ニテ賣却  
 シタルト證人佐藤大六ノ第一回證言ニヨリ認メ得ヘキ松三郎カ明治四三年七月八日  
 文部省ヨリ新潟第六醫學專門學校ノ工事請負代金一〇四六〇圓ヲ受領スルト同時ニ  
 逃亡シタル事實トテ參酌スレハ松三郎ハ債權者タル控訴人ヲ害スヘキ事情ヲ知リツ  
 ツ本件地所ヲ被控訴人只次ニ賣渡シタルモノト認ムルヲ得ヘク而シテ反證ナキ限り  
 ハ只次ニ於テモ右詐害事情ヲ知り之レヲ買受ケタリトノ推定ヲ受クヘキコトハ民第  
 四二四條ノ解釋上洵ニ明瞭ナリトス  
 (六) 被控訴人松三郎ハ詐害行爲取消シノ訴ニ於テハ債務者ヲ被告トシテ訴フルヘキモ  
 ノニアラサルニ因リ同人ニ對スル本訴ハ不適法ナリト抗辯スルニ付キ此點ニ付キ案  
 スルニ債權者カ債務者ノ財産ヲ讓リ受ケタル受益者又ハ轉得者ニ對シテ訴ヲ提起シ  
 之レニ對スル關係ニ於テ法律行爲ヲ取消シタルトキハ該財産ノ回復又ハ之レニ代ハ  
 ルヘキ賠償ヲ得ルニ因リ其擔保權ヲ確保スルニ足ルヲ以テ特ニ債務者ニ對シテ訴ヲ提  
 起シ其法律行爲ノ取消シヲ求ムルノ必要ナキモノナルカ故ニ債務者ハ其訴訟ノ對手  
 人タルヘキ資格ヲ有セス而シテ本件ニ於テ松三郎カ債務者タル地位ニアラコトハ控  
 訴人ノ主張スルトコロナレハ松三郎ニ對スル本訴ハ其請求ヲ是認スヘカラサルヤ勿  
 論ナリ(四五年(ホ)一四六號東京控訴民三岩田裁判長、野田、松山、三橋、有竹各判事大正元年  
 二月二四日宣告)

【判旨第一點ニ關スル判例學說】

- 一 詐害行為ノ當時少クモ一人ノ債權者カ存スル以上ハ行為後ノ債權者ト雖モ其行為ヲ取消スコトヲ得(石坂博士日本民法債權第二卷七一八頁)
- 二 債權者ノ詐害行為ハ債權發生後ニ爲サレタルコトヲ要ス(横田博士債權總論四二五頁) 同趣旨(岡松博士民法理由下卷一三三頁)、川名博士債權總論二〇三頁)
- 三 廢罷訴權ハ原則トシテ其目的タル債權者ノ行為當時已ニ債權存在スルコトヲ要ス(四三年(六九二號大正元年九月二四日東京控訴院民二判決)
- 四 本書一卷民法一三一頁五〇二頁六九六頁

【判旨第二點ニ關スル學說】

- 一 我法典ハ何等制限スル所ナキカ故ニ履行期前ノ債權モ亦取消權ヲ行使スルコトヲ得ルモノト解セサルヘカラス唯履行期前ノ債權ニアリテハ債務者カ其財產ヲ處分スル行為アルモ債權者ハ損害ヲ受クルモノト云フヲ得サルカ爲メ取消權ヲ行使スルヲ得サルヲ適當トス(石坂博士日本民法第三編第二卷七一六頁)
- 二 同趣旨(岡松博士法學新報一一九號二二頁廢罷訴權論)

【判旨第三點ニ關スル判例學說】

- 一 詐害行為ノ取消ハ其目的該行為ニ因リテ生シタル債權者ノ損害ヲ救済スルニ在リ從テ其行為ノ目的カ分割シ得ルモノナルトキハ債權者ノ損害ヲ救済スル程度ニ於テ其一部ヲ取消スコトヲ得(四二年大審院判決錄五七九頁)
- 二 法律行為ハ其全部ノミ之ヲ取消スコトヲ得蓋取消權ハ行為チ一個ノ行為トシテ全部ヲ取消ス權利ナルカ故ナリ故ニ行為ノ一部若クハ一降項ノミ之ヲ取消スコトヲ得ス故ニ行為ノ物體カ分割シ得ヘキモノナル場合ニ於テモ行為ノ一部ノミヲ取消スコトヲ得ス(石坂博士日本民法債權第二卷七二四頁)
- 三 詐害行為取消ノ目的トスル法律行為中ニ包含セラレタル賣買地所カ數筆ニ涉リ容易ニ分割シ得ヘキ場合ナリトスルモ苟モ法律行為ニシテ一箇ナル以上ハ債權者ハ其全部ニ對シ之カ取消ヲ請求シ得ヘキハ取消權ノ性質上固ヨリ當然ナリ(名古屋控訴院判決法學新報第七二五號所載)

【判旨第四點ニ關スル判例】

詐害行為ノ目的タル不動産ノ上ニ他ノ債權者ノ爲メ抵當權設定セラレ取消訴權ノ原告タル債權者ニ優先スヘキ場合ニ於テハ其不動産ノ價格ヨリ抵當債權額ヲ控除シタル殘額ニ付テハ詐害行為ノ取消訴權成立ス(四四年一月二〇日大審院民二判決)

【判旨第五點ニ關スル判例學說】

- 一 相手方ナル受益者若クハ轉得者モ亦其情ヲ知リタルモノト推定シ此推定ニ反スル但書ノ場合ニ於テハ受益者又ハ轉得者ヲシテ其情ヲ知ラザリシコトノ立證責任ヲ負ハシメタルモノトス(三九年大審院判決錄八〇〇頁)
- 二 受益者轉得者ハ債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ此訴權ノ適用ヲ免ルコトヲ得ス民四二四條一項末段ノ暗示スル所ナリ(川名博士債權總論一九八頁) 同趣旨(石坂博士日本民法債權第二卷七一三頁)(梅博士民法要義債權編八三頁)
- 三 知ラザリシトハ即チ善意ナルトキハト規定シタルトモ異ナル所ナシ第三者カ債權者ヨリ廢罷ノ請求ヲ受クルニ當リ其請求ヲ拒ムニハ其善意ナリシコトヲ抗辯スルコトヲ必要トスヘキモ善意ハ當然推定セラルルヲ以テ特ニ之ヲ立證スルノ責ナシ(横田博士債權總論四三四頁)

【判旨第六點ニ關スル判例學說】

- 一 契約ナルトキハ債務者及ヒ其相手方タル受益者ヲ以テ共同被告ト爲スコトヲ要ス反之轉得者ハ如何ナル場合ニ於テモ被告タルコトナシ(石坂博士前掲七三七頁)
- 二 廢罷ノ訴ハ債務者受益者及ヒ最後ノ轉得者ヲ共同被告トス(横田博士前掲四五〇頁)
- 三 債權者ハ債務者ノ行為ノ相手方タル者ヲ被告トナスヘシ債務者ヲ共同被告ト爲スノ要ナシ(岡松博士廢罷訴權論法學新報第一一九號三〇頁)
- 四 債務者ハ其訴訟ノ對手人タルヘキ適格ヲ有セス(四四年三月二四日大審院民聯合判決)

(一) 吾人ハ曩ニ詐害行為ノ當時少クトモ一人ノ債權者カ存在スルニ於テハ債務者ノ行為以後ニ債權者トナリタル者モ亦廢罷訴權ヲ有スト述ヘタリ(本書一卷民法五〇三頁)

- (二) 辨濟期ノ至ラサル債權ト雖モ已ニ成立セル債權ニシテ債務者ノ行為ニ因リテ損害ヲ蒙ルコトアルカ故ニ辨濟期ノ如何ハ訴權ノ行使ニ影響セストナスハ正當ナリ
- (三) 廢罷訴權ハ詐害行為ヲ取消スニ在リ故ニ假令數箇ノ不動産ノ賣買ナリト雖モ賣買契約ニシテ一個ナル以上ハ其一部ヲ取消スコトヲ得ス吾人ハ判旨ニ賛スル能ハス
- (四) 五ニ付テハ異議ナシ(四)ノ後段一部取消ニ反對ナルハ勿論ナリ
- (六) 吾人ハ判旨ニ反對ナルコト嘗テ論シタル所ナリ(本書一卷民法二〇五頁)

(二七)

三六四

指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ第四六七條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(下略)

四六七

指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

五二五

債權者ノ交替ニ因ル更改ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

- (一) 債權讓渡契約ノ解除ハ債務者ニ通知スルカ承諾ヲ得ルカ何レカノ手續ヲナスニ非サレハ對抗シ得サルヤ(指名債權ノ場合)
- (二) 通知ノ欠缺ヲ主張スルニハ之ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル者ニ限ルヤ

指名債權ノ讓渡契約ノ解除ハ債務者ニ通知スルカ承諾ヲ得ルカ何レカノ手續ヲ得ルヤ

通知欠缺ヲ主張シ得ル者

(一) 指名債權ノ讓渡契約カ解除セラレタル場合ニ於テ債務者ノ承諾若クハ之ニ對スル通知ニ付特別ノ明文存セスト雖モ其債權者ノ轉換スル事實ハ讓渡ノ場合ト異ナラサルヲ以テ之ヲ民法ノ精神ニ考ヘ第四六七條ノ規定ヲ準用シ債務者ノ承諾アルカ若クハ之ニ通知スルニ非サレハ讓渡契約ノ解除ヲ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノト爲スナリ

(二) 指名債權ノ讓渡契約解除ノ通知欠缺ヲ主張セント欲スル者ハ必ス之ヲ主張スルニ正當ノ利益ヲ有スルコトヲ要ス何トナレハ正當ノ利益ヲ有セサル第三者ハ之ヲ保護ス可キ理アラサレハナリ本件ニ於テ上告人ハ被上告人カ齋藤長吾ニ對シテ有スル債權ハ假裝ニシテ其抵當權ノ設定登記ハ虛偽ナル旨主張シタルコト原判決ニ援用シタル第一審判決ノ事實摘示ニ明示スル所ナリ然レハ關テ原院カ上告人ト五十嵐彌三郎トノ間ニ爲シタル債權讓渡契約ノ解除ハ未ダ債務者ノ承諾アラズ又之ニ對シ通知アラサレハ理由トシテ被上告人ニ對抗スルコトヲ得サル旨判斷セント欲セハ必ス先ツ被上告人ハ眞實ノ債權者若クハ抵當權者ナルヲ否ヤテ判斷スルヲ要ス(大審院大正元年(オ)第二三號同二年三月八日民一宣告)

吾人ハ嘗テ右判決ト同一判旨ノモノニ付詳論シタリ本書第一卷民法(二〇、二七〇)ヲ參照セララルヘシ

(二八)

九七

隔地者ニ對スル意思表示ハ其通知ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ其效力ヲ生ス

郵便物ヲ發シタルトハ反證ナキ限り受信人ニ到達シタルモノト認定スヘキヤ

該業書カ被控訴會社ニ戻リ來ラサリレコトヲ認メ得ヘキヲ以テ反證ナキ限り右各郵便業書ハ何レモ遅クトモ發信ノ翌々日ニハ其受信人タル鈴木春吉ニ到達シタルモノト認定セサルヲ得ス何トナレハ書狀タルト郵便業書タルト問ハス凡郵便ニ付シタルモノハ天災事變ノ發生若クハ郵便物ノ紛失等配達不能ナラシムヘキ特別ノ事情ナキ限り常ニ其宛所ニ配當セラルルヲ普通ノ狀態トシ又東京ヨリ横濱市神奈川町ニ至ル郵便物ハ發信ノ當日若クハ翌日ニ宛所ニ配達セラレルコトハ著名ナル事實ニシテ縱令其宛所ニ受取人ノ所在不明其他ノ事由ニ依リテ配達不能タルコト能ハサルトキハ配達シ能ハサル郵便物トシテ直ニ差出人ニ還付セラルヘキモノナレハナリ(四四年(ホ)二三三號東京控訴民二松岡裁判長有竹江崎長谷川前田各判事大正元年一月二〇日宣告)

普通郵便物カ單ニ戻リ來ラサリシ一事ヲ以テ其到達ヲ認定セルハ聊カ賛同ニ躊躇ス蓋シ普通郵便物ノ紛失又ハ不着ハ吾人ノ往々耳ニスル所ニシテ現今ノ郵便制度ヲ以テシテハ未タ以テ到達ノ完全ヲ期スヘカラス故ニ之ヲ以テ權利義務ノ得喪ニ關シテ到達セリト判斷スルハ頗ル危險ノ感ナクンハアラス

一四七 時效ハ左ノ事由ニ因リテ中斷ス  
一 請求

(二九)

支拂命令ハ何時ヨリ消滅時効ヲ中斷スルヤ(即チ申請ノ日カ送達ノ日カ申請ノ日ニ及スルカ)

支拂命令ノ申請ハ一種ノ裁判上ノ請求ナルカ故ニ該命令ニシテ適法ニ送達セラレ且其權利拘束ノ效力存續スル以上ハ支拂命令申請ノ日ニ遡リ時効中斷ノ效ヲ生スルヤ論テ俟タス控訴代理人ハ右時効ノ中斷ハ支拂命令申請ノ日ニ其效力ヲ生スルモノニアラスシテ該命令送達ノ日ニ其效力ヲ生スルモノナリト論スルモ支拂命令ノ送達ハ裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ爲スモノナレハ若シ支拂命令送達ノ日ヲ以テ時効中斷ノ效

- 二 差押、假差押又ハ假處分
- 三 承認
- 一四八 前條ノ時効中斷ハ當事者及承繼人ノ間ニ於テノミ其效力ヲ有ス
- 一五〇 支拂命令ハ權利拘束カ其效力ヲ失フトキハ時効中斷ノ效力ヲ生セス
- 民訴三八六 支拂命令ハ豫メ債務者ヲ訊問セスシテ之ヲ發ス
- 支拂命令ニハ第三八四條第一號及第二號ニ掲ケタル申請ノ要件ヲ記載シ且即時ノ強制執行ヲ避ケント欲セハ此命令送達ノ日ヨリ一四日ノ期間内ニ請求ヲ満足セシメ及其手續ノ費用ニ付定ムル數額ヲ債權者ニ辨濟スヘク又ハ裁判所ニ異議ヲ申立ツ可キ旨ノ債務者ニ對シテ命令ヲ記載スヘシ
- 前項ノ期間ハ爲替ヨリ生スル請求ニ付テハ二四時間其他ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ三日マテニ之ヲ短縮スルコトヲ得
- 同三八七 權利拘束ノ效力ハ支拂命令ヲ債務者ニ送達スルヲ以テ始マル
- 支拂命令ノ送達ハ之ヲ債權者ニ通知スヘシ
- 同三八八 債務者ハ支拂命令ニ對シ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ヲ申立ラナスコトヲ得
- 同三八九 債務者カ請求ノ全部又ハ一分ニ對シ適當ナル時間ニ異議ヲ申立ツルトキハ支拂命令ノ效力ヲ失フ然レトモ權利拘束ノ效力ハ存續ス
- 前項ノ請求中或モノニ對シ異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其他ノ請求及之ニ相當スル費用ノ部分ニ付效力ヲ有ス

力生スルモノトセンカ支拂命令申請後其送達前時効完成スルカ如キ場合ニ於テハ債權者ハ自己ノ過失ニ因ラスシテ其權利ヲ失却スルニ至リ頗ル不條理ノ結果ヲ生スルヲ以テ斯ル解釋ハ到底是認スルヲ得ス

支拂命令ノ送達アリタルトキ時効期間中斷ノ效力ハ送達ノ日ヨリ始メテ生スルモノニアラスシテ支拂命令申請ノ日ニ遡リテ生スヘキコトハ出訴期限ノ中斷ニ付テ本院ノ判示シタル所ナリ而シテ消滅時効ノ中斷ニ付テモ亦其論決ハ同一ナラサルヲ得ス何トナレハ出訴期限ノ滿了ト消滅時効ノ完成トハ權利不行使ノ結果タルコト彼是異ナル所アラサレハナリ抑債權者カ支拂命令ノ申請ヲ爲スハ即チ權利行使ニ外ナラスシテ債權者ハ支拂命令ノ送達アラサル限ハ之ニ關シテ復爲スヘキ行爲アラサルヲ以テ之ヲ目シテ權利ノ行使ヲ怠リタル者ト云フヲ得ス故ニ支拂命令ノ送達アリタル場合ニ於テ時効中斷ノ效力ハ其送達ノ日ニ生スルモノニ非スシテ申請ノ日ニ遡リテ生スルモノト爲スハ最モ法律ノ精神ニ適合シタルモノト謂フ可シ(大審院大正二年(オ)第五五號同年三月二〇日民一判決同趣旨三四年九卷六頁三二年一卷二二頁)

【參照スヘキ學說】

- 一 支拂命令ノ申請ハ時効中斷ノ效力ヲ生ス裁判所カ支拂命令ヲ發シ又ハ送達スルコトカ中斷ノ效力ニ非ス(川名博士日本民法總論二九一頁)
- 二 請求ニ付區裁判所ノ發スル命令ニシテ其送達ニ依リ時効中斷ノ效力ヲ生ス而シテ其效力ハ申請ノ日ニ遡リテ效力ヲ生ス(富井博士民法原論五六四頁)
- 三 督促手續ニ依ル中斷ハ支拂命令ノ送達ニ依リテ其效力ヲ生ス(梅博士民法要義一卷三四九頁)
- 四 督促手續ハ又以テ時効中斷ノ效力ヲ生ス此中斷ハ債務者ニ支拂命令ヲ送達スルニ因テ生ス(岡松博士民法上卷三八二頁)

五 時効ノ中斷ハ支拂命令ノ送達ノ時ニ生シ支拂命令ノ申請ノトキニ生スルニ非ス即チ法文ニハ「支拂命令」ニ因リ生セルモノナルコト明カアリ而シテ申請ノトキニハ未ダ支拂命令ナシ故ニ其申請ニヨリ效力ヲ生ストナスハ法文上ノ根據ナシ況ンヤ法典ニ根據ナクシテ遡及效ヲ認ムルハ不可ナリ(中島博士民法釋義卷一、八二七頁)

右判決ノ前段即チ支拂命令ニ因ル時効中斷ハ何時ヨリ其效力ヲ生スルヤ此點ニ付キ學說岐ルルモ要ハ民法ニ於テ第一四七條ト第一五〇條トノ二個ノ不調和ナル規定ヲ置キタルヨリ生スル結果タリ故ニ何レノ規定ヲ其根據ト爲スカニヨリ結論ヲ異ニス而シテ兩說何レモ伯仲ノ間ニアリテ今俄カニ之カ是非ノ斷定ヲナス能ハス尙ホ充分研究ノ餘地アル問題ナリト信ス(本書第一卷民法四九五頁參照)然レトモ判決後段ニ判示セル支拂命令ニ遡及效アリトノ點ハ法典ニ根據ナキ不當ノ見解ナリト信ス

(三〇)

五八七 消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類、品等及ヒ數量ノ同シキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約シ相手方ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

前拂ノ利息ニ相當スル金額ニ付テハ現金ノ授受ナキモ尙ホ消費貸借成立スルモノナリヤ

貸主ニ於テ一旦借主ニ貸與金額全部ヲ交付シタル上更ニ借主ヨリ前拂ノ利息金ヲ受取ル手續ヲ省略シタルニ外ナラスシテ右前拂ノ利息ニ相當スル金額ニ付テハ現實ニ

金錢ノ授受ナキモ又貸主カ現ニ之ヲ所持スル場合ニ非サルモ借主ナシテ現實ノ授受アリタルト同一ノ經濟上ノ利便ヲ得セシムルニ於テハ同金額ノ消費貸借ノ成立スルモノナルコトハ當院判例ノ存スル所ナリ(大正元年(オ)一二六號同二年一月二二日大審院民二判決)

【同趣旨判例】

金錢其他ノ物ハ現實ノ引渡ノ外ニ尙之ト同視スルコトヲ得ヘキ各種ノ行爲殊ニ簡易ノ引渡ノ方法ニ依リテ當事者ノ財產ニ歸屬スルモノヲモ合ム(四四年六月八日大審院民一判決)

取引ノ實際ニ適セル判決ナリト信ス

(三一)

五九一

當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スコトヲ得借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得

無期限ノ消費貸借ニ付貸主カ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ請求ヲ爲スコトハ返還請求權ノ行使ニ付貸主ノ遵守スルコトヲ要スル絕對的必要條件ニアラスシテ借主ニ屬スル一ノ抗辯方法タルニ過キス從テ裁判所ハ借主ノ抗辯アリタル場合ニ此條件ノ充タルヤ否ヲ審判スルヲ以テ足り職權ヲ以テ此點ノ調査ヲ爲スノ責務アルコトナシ(大正二年(オ)二號同年二月一九日大審院民二判決)

無期限ノ消費貸借ノ抗辯主ノ

法律行爲ノ無効ヲ爲ス可キ要素ノ意義

法律行爲ノ無効ニ歸ス可キ錯誤ノ意義

九五

意思表示ハ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス但表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得

九六

詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得或人ニ對スル意思表示ニ付第三者カ詐欺ヲ行ヒタル場合ニ於テハ相手方カ事實ヲ知りタルトキニ限り其意思表示ヲ取消スコトヲ得詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得

(三二)

被上告人(キ)ハ右土地ヲ賣却スルニ該リ訴外龜太郎カ全代金ノ内一〇〇〇圓ハ現金ニテ支拂ヒ殘代金三、八〇〇圓ハ消費貸借ト爲シ本件賣渡地所全部ヲ直ニ一番抵當ニ差入ル可シト申込タル詐言ニ措信シ右條件ヲ賣買契約ノ内容ト爲シ本件ノ契約ヲ締結シタルモノナレハ右訴外龜太郎ノ申込カ全ク詐欺ニシテ其實代金支拂等ノ意思ナク單ニ本件ノ土地ヲ騙取スルノ手段ニ外ナラサリシモノナル以上被害者(キ)ニ在リテハ本契約ノ要素ニ錯誤ヲ來シタルモノナルコト勿論ナリトス何トナレハ右龜太郎ノ申込タル條件無カリセハ(キ)ハ決シテ該賣買契約ヲ締結スルニ至ラサルモノナレハナリ換言スレハ本件賣買ハ其契約自體ノ法律上ノ要件ニ錯誤アリタルカ爲メ全部無効ニ歸ス可キモノニシテ緣由ニ錯誤アルカ爲メ單ニ取消シ得可キニ止マル可キモノニ非サルコト洵ニ明白ナリ(大審院大正二年(れ)第二五六號同年四月一日刑一私訴判決)

第九五條ノ適用ヲ受ク可キ所謂要素ノ意義ニ關シテハ學說岐ル之ヲ大別シテ三

ト爲ス左ニ其重ナルモノヲ紹介セム

【所謂主觀說】

- 一 何カ要素ナルカハ各法律行為ニ依リテ之ヲ決ス可シ行為者ニ於テ其法律行為ニ缺ク可カラサルモノト爲シタリト認ム可キ要素ナリ(岡松博士民法理由上卷一九二頁)
- 二 法律行為ノ要素トハ表意者カ其意思ノ必要の内容ト爲シタルモノト解ス安ニ意思ノ必要の内容トハ表意者カ其内容ト爲セルモノヲ包含スル意思ニ非サレハ絕對ニ之ヲ表示セサル可シト爲シタルモノヲ謂フ(川名法學博士民法總論三五三頁)

【所謂客觀說】

- 一 法律行為ノ要素ハ客觀的ニ取引上ノ觀念ニ從ヒ行為者カ法律行為ノ成立ニ必要ナル要素ト爲ス意思ヲ有シタリト認ム可キ事項ニシテ主觀的ニ意思ヲ有シタリト認ム可キ事項ニ非ス(松岡法學士民法論總則四六〇頁)

【所謂折衷說】

- 一 法律行為ノ要素トハ其内容ノ要部ト云フト同一ニシテ畢竟表意者カ其或點ニ付有スル利益ノ輕重ニ依リテ之ヲ決スルノ外無カルヘシ即チ利益カ意思表示ノ内容ニ關係シ若シ其點ニ於テ錯誤無カリセハ意思表示ヲ爲ササルモノト認ム可ク且之ヲ爲ササリシコトハ一般ノ觀念ヨリスルモ正當ト認ム可キ場合ニ限リ法律行為ノ要素ニ錯誤アリタルモノト解スヘシ(富井博士民法原論第一卷三六六頁)
- 二 主觀的ニ要素ナリトスル點チ客觀的ニ見テ要素ニ非サレハ意思表示ニ影響ヲ及ボサス故ニ大體客觀主義ト結果ヲ一ニス其異ナル點ハ客觀的ニ要素アリトスルモ主觀的ニ要素ニ非ストセハ其意思表示ヲ有效ト爲スニ在リ(中島博士民法釋義五〇四頁)
- 三 民法ハ主觀的標準及客觀的ノ標準ヲ併用スルコト後ニ述フル所ニ依リテ知ルヘシ(民法正解總則編五八三頁)
- 四 普通ノ智識經驗ヲ有スル者ヲ表意者ノ地位ニ置キ之ヲシテ合理的判斷ヲ下サシムルモ錯誤ト意思表示トノ間ニ因果關係アリト認ム可キ場合ニ於テ其錯誤ヲ重大ナルモノト解ス(鳩山法學士法律行為乃至時效一四二頁以下)

本件ニ於ケル所謂要素ハ主觀的意義ニ於ケルモノナルカ客觀的觀念ニ坐スルモノナルカ將タ又折衷的觀念ニ解シタルモノナルカ判決ニ於テハ何レノ意義ニ解

シタルヤ甚タ明瞭ヲ缺ク判文全體ノ趣旨ヨリシテ寧ロ主觀說ト見ルヲ妥當トス可シ果シテ然ラハ吾人ハ之ニ反對セサルヲ得ス何トナレハ法律行為ノ無効トナル可キ要素ヲ主觀的意義ニ解シ之ヲ適用センカ社會ノ實際取引上不條理ノ結果ヲ生スルハ之ヲ豫知スルニ難カラサレハナリ又右判決ニシテ然ラサンカ此點ニ付キ何等ノ判示ナキヲ以テ理由不備ノ譏ヲ辭スル能ハス故ニ吾人ハ何レニ解スルモ不當ノ判決ナルコトヲ信シテ疑ハス吾人ハ嘗テ此點ニ關シ本書第一卷民法(三六〇五頁)ニ於テ折衷說ヲ提唱セリ參照セラレンコトヲ望ム

(三三)

九〇 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス

六四三 委任ハ當事者ノ一方カ法律行為ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其效力ヲ生

六五一 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得

委任契約ノ當事者カ其解除權ヲ拋棄スル合意ヲ爲スハ有效ナリヤ

控訴人ハ陸軍兵器本廠ヨリ彈藥ノ拂下ヲ受ケントシタルモ銃砲彈藥ノ免許商人ニ非サレハ其拂下ヲ受クルコトヲ得サルヲ以テ銃砲ニ關スル免許商人タル被控訴人及彈藥ニ關スル免許商人タル訴外小松崎ヲシテ拂下人トナリテ陸軍兵器本廠ト契約ヲ締結シ拂下ヲ受ケシムルコトト爲シタルモ此兩名ト控訴人トノ内部關係ニ於テハ銃砲



火藥類取締法ニ抵觸セサル範圍ニ於テ拂下契約ヨリ生シタル權利義務ヲ更ニ右兩者ヨリ控訴人ニ移轉シ引受シムヘキコトトナシ控訴人ノ計算ノ爲メニシタルヲ以テ之ヲ遂行スルノ方法トシテ控訴人ナシテ拂下物件代金ノ納入、拂下物件ノ受領及保證金ノ領收ノ行爲ヲ爲サシムルヲ適宜トシ兩者ヨリ控訴人ニ是等ノ行爲ヲ爲スヘキ代理權ヲ與フルノ委任ヲナシタルモノト認ムルコトヲ得即チ其委任ハ專ラ控訴人(受任者)ノ利益ノ爲メニシタルモノニシテ控訴人ナシテ拂下ヨリ生スル實益ヲ得セシムルノ趣旨ニ出テタルモノナレハ若シ被控訴人カ何時ニテモ委任ヲ解除スルコトヲ得ルモノトセハ控訴人ノ利益ノ爲メニシタル趣旨ヲ貫徹スルコトヲ得サルニ至ルヘシ故ニ被控訴人及小松崎カ前示ノ行爲ヲ控訴人ニ委任シタル當事者ノ意思ヲ契約證ノ全趣旨及作成當時ノ狀況ニ照ラシテ積フルトキハ暗黙ニ其委任ヲ解除セサル約ヲ爲シ以テ被控訴人等ニ於テ解除權ヲ拋棄シタルモノト認ムルヲ相當トス蓋シ民法第六五一條ノ規定ハ公益規定ニ非サルヲ以テ委任者ハ何時ニテモ解除ヲ拋棄スルコトヲ得ルモノナレハナリ(東京控訴院四五年(ネ)第八四號大正二年二月四日民二判決鈴木裁判長、成道、鈴木、高橋、水口各判事宣言)

【參照ス可キ判例學說】

- 一 民法上委任ノ規定ハ公ノ秩序ニ關スルモノト認ム可カラサルヲ以テ委任契約ニ付テハ民法ノ規定ニ異ナリタル特約ヲ爲スコトヲ得ルモ或期間内委任ヲ解除セスト云フカ如キ約定ハ委任者ニ於テ解除ノ意思表ヲ爲シタル以上受任者ヨリ其特約ヲ強要スルコトヲ得ス(大審院民事判決錄三六年五三頁)
- 二 受任者ノ利益ノ爲メ又ハ受任者ト委任者トノ利益ノ爲メニ結セタル委任契約ニ解除ヲ爲サスト云フ特約力在ツタナラハ委任者ヨリ其解除ヲ爲スコトヲ得サルコトハ明カテアル(梅田博士法學志林第四六號九頁)
- 三 委任者ノ爲シタル解除權拋棄ハ委任者ヲ羈束スルコトナク委任者ハ常ニ契約ヲ解除シ受任者ノ手ヨリ其事務ヲ回收スルノ

完全ナル自由ヲ享有セサル可カラズ之ニ反シテ受任者カ委任事務ノ處理ニ付其固有ノ利害關係ヲ有スルトキハ委任契約ヲ解除セサル特約ハ有效ニシテ謂レナク委任契約ヲ解除スルコトヲ得ス(横田博士債權各論六四七頁)

四 解除權ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得(岡松博士民法理由下卷次二九五頁)

五 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得然レトモ當事者カ別段ノ意思表示ヲ以テ隨意ニ解任又ハ辭任ヲ爲ササル旨ヲ約シタルトキハ其契約ニ拘束セラルルハ勿論ナリ(民法正解債權編二二八五頁)

右判決前段ハ事實認定ノ問題ニシテ深ク論スルノ要ナシ判決後段ニ付テハ一般學說ノ是認スル所ニシテ吾人亦之ニ左祖ス其理由ハ前掲各學說ニヨリ之ヲ知り得可シ故ニ茲ニ詳説セズ

三四

一八三 代理人カ自己ノ占有物ヲ爾後本人ノ爲メニ占有スヘキ意思ヲ表示シタルトキハ本人ハ之ニ因リテ占有權ヲ取得ス

一九二 平穩且公然ニ動産ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

(一) 動産賃借人カ其賃借物ヲ第三者ニ賣却シ尙ホ其物ヲ買主ヨリ賃借シテ之カ占有ヲ持續セリ此場合ニ所有權ハ何人ニ歸屬スルヤ

(二) 權利者ノ同意ヲ得テ無權利者ノ爲シタル處分行爲ノ效果如何

本問ハ占有改定ニ依リテ占有權ヲ取得セシ者ニモ第一九二條ノ適用アリヤ否ヤニ依リテ決セラル

(一) 先ツ買主賣主間ニ占有改定カ成立スルヤ否ヤヲ定ムル必要アリ占有改定ハ從來ノ占有者カ新ナル占有取得者ノ爲メ其代理占有者トシテ物ノ所持ヲ爲スニ依リテ成

立ス故ニ從來ノ占有者ノ單ニ物ノ所持ヲ爲スニ過キス然ルニ本問ノ場合ニ賣主ハ賃借人ナルカ故ニ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ賃借物ヲ所持ス買主ノ爲メニ其代理占有者トシテ所持ヲ爲ス者ニアラス從テ本問ハ占有改定ナシ買主ハ第一九二條ニ依リ所有權ヲ取得スルモノトナスヲ得ス故ニ從前所有者ハ依然トシテ所有權ヲ保有スルモノトス吾人ハ第一九二條ハ現實ニ所持ヲ爲ス占有者ノミニ適用アルモノト解スル者ナリ

【參照ス可キ學說判例】

- 一 本書第一卷民法五五、六四八頁
二 本條(一九)ニ因ル權利取得ノ要件タル占有ハ現實ノモノニ限ルヤ法律ニ特別ノ規定ナキ限りハ此見解(現實占有)ヲ採ルコト至當ナラス(富井博士法學協會雜誌第三一巻二號一四頁)
三 占有ヲ始メタル時ハ法律上別段ノ制限ナキヲ以テ簡易引渡及占有ノ改定アリタル時ヲ指示スト云フ可シ(松岡法學士民法論物權一七九頁)
四 善意ノ占有者カ過失ナクシテ物ノ引渡ヲ受ケテ之ヲ占有シタル以上ハ之ヲ保護シ占有者ナシテ其正當ニ豫期シタル權利ヲ取テセシムルヲ必要トス(横田博士物權法二二〇頁)

(一) 然リ本問ノ場合ニ於テハ占有改定ヲ成立セシメヌ何トナレハ賃借人ハ自己ノ

爲メニノミ其占有ヲ爲シ貸主ノ代理トシテ間接占有ヲ爲スモノニ非サレハナリ故ニ此點ニ付テハ贊同ヲ表スルモ第一九二條ハ現實占有者ノミニ適用アリトノ斷定ニハ左祖セス此點ハ前掲出ノ所ヲ參照セラルヘシ

(三五)

(二) 至當ノ見解贊同ヲ表ス則チ自己ノ處分シ得可キ權利ノ主體カ之ヲ處分スルノ權能ヲ他人ニ與ヘタルトキハ他人カ之ヲ處分スル行爲ノ有效ナルハ蓋シ疑問ノ餘地アルコトナシ

九〇 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ハ無効トス
九一 法律行爲ノ當事者カ法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從テ物權ノ設定及移轉ハ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其效力ヲ生ス
二〇六 所有者ハ法令ノ制限内ニ於テ自由ニ其所有物ヲ使用、收益及處分ヲ爲ス權利ヲ有ス
三九六 債權ハ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得
三五九 實買ノ一方ノ豫約ハ相手方カ實買ヲ完結スル意思ヲ表示シタルトキヨリ實買ノ效力ヲ生ス
三五〇 前項ノ意思表示ニ付期間ヲ定メザリシトキハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ實買ヲ完結スルヲ否ヤチ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ豫約ハ其效力ヲ失フ

一定ノ期間自己ノ所有物ヲ處分セザル旨ノ契約ハ公序良俗ニ反セザルヤ否ヤ

控訴人ノ主張スル契約ノ内容ヲ檢スルニ二個ノ約款即チ明治五六年七月ニ至リ其日ヨリ翌年七月迄ノ間ニ控訴人カ本件ノ土地ヲ買受ケンコトノ意思表示ヲ爲ストキハ被控訴人ハ之ニ應ス可キコトノ約款ト契約締結ノトキヨリ明治五七年七月迄ノ間ハ控訴人ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ被控訴人ハ其所有ニ係ル本件ノ土地ヲ他人ニ讓渡



所謂藝妓身代金ノ意義

四五四 保證人カ主タル債務者ト連帯シテ債務ヲ負擔シタルトキハ前二條ニ定メタル權利ヲ有セス  
五八七 消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類品等及數量ノ同シキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢其他  
ノ物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

本件公正證書ノ作成ニ先チ控訴人ト須藤「ヤイ」トノ間ニ金四〇〇圓ノ授受アリタルコトハ被控訴人ノ争ハサル所ナレトモ該金員ノ授受カ控訴人ト須藤「ヤイ」ノ間ニ藝妓營業契約ノ成立シタル際ニ爲サレタルモノナルコトハ控訴人ノ認ムル所ニシテ控訴人ハ右金員「ヤイ」ノ藝妓稼高ヲ以テ辨濟ヲ受クヘキ約定ノ下ニ前借金トシテ「ヤイ」ニ交付シタルモノニシテ其金員カ本件公正證書ニ於ケル消費貸借ノ目的トナリタルモノナル旨主張シ被控訴人ハ右金員ハ身代金即チ藝妓抱料トシテ控訴人ヨリ「ヤイ」ニ交付セラレタルモノニシテ控訴人ト「ヤイ」ノ間ニ於ケル藝妓稼業契約ニ於テ「ヤイ」ノ營業上ノ收入ハ全部控訴人ニ於テ取得スルト同時ニ其ノ收入絶無ナルモ「ヤイ」ニ於テハ前示金員ノ辨濟ヲ爲スコトナク全然控訴人ノ損失ニ歸スルモノナレハ該金員ハ藝妓カ其ノ營業上ノ收入ヲ以テ漸次辨濟スヘキ前借金トハ其ノ性質ヲ異ニシテ從テ消費貸借ノ目的トシテ授受セラレタルモノニ過キサル旨主張スルヲ以テ案スルニ藝妓營業ニ關スル契約ニ表示ヲ爲シタルモノニ過キサル旨主張スルヲ以テ案スルニ藝妓營業ニ關スル契約證書原本ニ依レハ其第一項ニハ須藤「ヤイ」ハ控訴人方ニ寄留シ明治四〇年一月一日ヨリ向フ五年間藝妓營業ヲ爲スコトヲ認諾シタル旨第三項ニハ「ヤイ」カ營業上得タル收益ハ歸頭親儀トシテ賞ヒ受ケタル者ヲ除キ其他ハ全部控訴人ノ取得タルヘキ旨第四

項ニハ「ヤイ」ハ契約年期中ハ正當ノ理由ナク且控訴人ノ承諾ナク廢休業又ハ他ニ移轉等ヲ爲ササル旨記載アルヲ以テ此記載ト原審證人今村房吉ノ甲第一號證ノ一ノ公正證書ノ金四〇〇圓ハ實際之ヲ借リ受ケタル者ニアラス須藤「ヤイ」カ五年間ノ約束ニテ三條番吉方ニテ藝妓營業ヲ爲ス身代金トシテ受取リタルヨリ右公正證書ヲ作成シタル次第ナルカ當時證人ハ須藤「ヤイ」ノ身代金ナルヨリ公正證書ノ作成ヲ拒絶シタル處番吉ハ若シ逃亡セラレテハ困ルト云ヒ只形式的ニ作成スルモノニテ別ニ心配ニ及ハサルモノナリト申シタルニ依リ本人カ五年間勤続スルトキハ無効トナル返リ證ヲ取リテ作成シタリ四〇〇圓ハ「ヤイ」カ五年間勤続シタルトキハ辨濟シタルコトトナリ消滅スル約束ナリトノ旨ノ供述并ニ原審證人須藤八十英ノ須藤「ヤイ」ハ被告(控訴人)方ニ行キ藝妓トナリタルコトアリテ身代金トシテ金四〇〇圓ヲ受取リシカ被告(控訴人)ハ「ヤイ」ノ足止ノ爲メ必要ナルヨリ二月ノ期限トシテ公正證書ヲ作り吳レト申シタルニ依リ公正證書ヲ作り證人ハ借リ主トナリ原告(被控訴人)ハ連帯借用人トナリタリ但右金額ハ借リ受ケタルモノニアラスシテ身代金トシテ受取リタルモノナリトノ旨ノ供述トナリ綜合シ甲第一號各證ニ控訴人カ「ヤイ」ニ貸與シタルモノナリト主張スル金四〇〇圓ト「ヤイ」カ藝妓稼業ニ依リテ得ヘキ收益トノ計算ニ付キ何等ノ約款ノ存セザルトニ照ラシテ考覈スレハ前示ノ金四〇〇圓ハ須藤「ヤイ」カ明治四〇年一月一日ヨリ五年間控訴人方ニテ藝妓營業ヲ爲シ之ニ因リテ控訴人ヲシテ收益ヲ得セシムヘキコトヲ控訴人ト約シ其對價トシテ控訴人ヨリ須藤「ヤイ」ニ給付シタルモノニシテ右期間中「ヤイ」ニ於テ擅マニ廢業若クハ家出ヲ爲ササル限り之ヲ返還スル義務ヲ負ハサル約旨ノ

下ニ之ヲ授受シタルモノニ係リ其ノ名稱如何ニ拘ハラズ之ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲シタルモノニアラサルコトヲ認メ得ルト同時ニ被控訴人カ前示ノ如ク須藤「ヤイ」等ト連帶責任ヲ以テ金四〇〇圓ヲ控訴人ヨリ借り受ケタリトシ本件公正證書ヲ作成セシメタルハ控訴人ニ於テ須藤「ヤイ」カ控訴人方ヨリ逃亡センコトヲ憂ヒ斯ル公正證書ヲ作成シ置クトキハ其憂ヒナカルヘシト爲シ被控訴人カ「ヤイ」等ト連帶シテ前示ノ金員ヲ借り受ケタル者ノ如ク形式的ニ公正證書ヲ作成シ置カレタキ旨被控訴人ニ求メシヨリ前額金四〇〇圓ノ消費貸借ハ眞實成立シタルモノニハアラサルニ被控訴人ハ控訴人ノ求ムルママニ右金員ヲ「ヤイ」等ノ連帶責任ヲ以テ借り受ケタルモノノ如ク假裝シ前記公正證書ヲ作成セシメタルモノナルコトヲ認ムルニ足ル (東京控訴院四四年(本)第一〇一號元年一〇月一日民二判決松岡裁判長、江崎、長谷川、前田、鈴木、各判事宣言)

【參照可キ判例】

- 一 本書第一卷民法六四一頁
- 二 金員ヲ借受ケタル債務者カ債權者ニ對シ債務辨濟ノ爲メ一定ノ年限中藝妓營業ヲ爲シ其所得金ヲ擧ケテ債權者ニ交付ス可ク若シ契約ニ違背シ年限内廢業ヲ爲ストキハ元利金ヲ償還スルノ外尙ホ違約過怠料トシテ一定ノ金額ヲ辨償ス可キコトヲ約スルカ如キハ身體ヲ目的トスル契約ニシテ無効ナリトス (大審院民事判決三七年一六八七頁)
- 三 我邦古來ノ藝妓ヲルモノハ雇主ヨリ身ノ代金ト稱スル一定ノ金員ヲ支給スル對價トシテ或年限内一身ヲ投ケ出シテ雇主ノ使役ニ任セ雇主ハ自己ノ使役ノ下ニ之ニ藝妓ヲ稼カシムル其收益ノ全部ヲ自己ニ領得スルヲ以テ生計ヲ爲スモノニシテ其約定ノ年限中待遇冷酷ヲ極メ甚シク其自由ヲ束縛スルモノナレハ民法第九〇條ニ依リ無効ノ契約ナリ (大阪地方民二判決法律新聞第三七〇號五頁)

右ノ判決ハ事實認定ノ問題ニ屬シ深ク論スルノ要ヲ認メス故ニ所謂身代金ニ付

一言スルニ止ム

吾邦古代ヨリ慣用セララル所謂身代金トハ藝妓稼業ヲ爲ス可キ人其者ノ身體ノ對價ナルカ將タ又一定ノ期間内藝妓稼業ヲ爲ス可キ債務負擔ノ對價ヲ指稱スルモノナルカ若シ前者ノ意義ナラハ其契約ノ無効ナルコト多言ヲ要セス之ニ反シテ後者ノ意味トセハ其契約ヲ無効ト爲ス可キ理由アルコト無シ何トナレハ藝妓營業ハ勿論娼妓稼業モ亦場所ニ於テコソ制限ヲ存スルモ稼業其モノハ法令ノ公認スル所ナレハナリ從テ之ヲ契約スル何ノ不法カ是レアラム果シテ然ラハ其債務ニ對シテ一定ノ報酬ヲ支拂フ契約ヲ爲スモ無効ニ非サルハ當然ノ結論タリ或ハ冷遇酷待ヲ爲スノ理由ヲ以テ無効ト解スル者アルモ非ナリ其契約ト冷酷ナル待遇ヲ爲ス行爲トハ全然別箇ノモノニシテ之アルカ爲メ契約其モノヲ無効ト解スルカ如キハ吾人ノ採ラサル所ナリ

- 九〇 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス
- 五一三 當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債務ハ更改ニ因リテ消滅ス
- 條件附債務ヲ無條件債務トシ無條件債務ニ條件ヲ附シ又ハ條件ヲ變更スルハ債務ノ要素ヲ變更スルモノト看做ス債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ發行スル亦同シ
- 五一七 更改ニ因リテ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタ

偽造ノ銅貨  
ノ買入ハ  
有効ナリ  
ヤ  
右買入ハ  
約ト準  
約ト準  
ノ買入ハ  
關係ト  
消

偽造シタル韓國白銅貨ノ買入代金ヲ準消費貸借ト爲スハ有效ナリヤ

明治三十五年一月七日公布セラレ同月一五日ヨリ施行セラレタル韓國白銅貨偽造ニ  
關スル勅令以前ニ在リテハ韓國白銅貨ノ偽造ハ吾國領土内ニ行ハレタル場合ト雖モ  
尙吾國法ニ依リ犯罪トシテ處罰スルコトヲ得サルヤ明カナリト雖モ如斯物件ヲ目的  
物トセル買入行爲ヲ目シテ直ニ民法上有效ノ法律行爲ト謂フコト能ハス如斯行爲ノ  
有效無効ハ公秩良俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ナリヤ否ヤニ依リテ之ヲ決  
定スルヲ要ス蓋シ韓國ニ在リテモ貨幣ノ偽造並ニ偽造貨幣ノ流通ヲ禁止シ居ルコト  
論無カルヘキ所ナルヲ以テ若シ我國法ニ於テ偽造貨幣ヲ目的トセル買入行爲ヲ有  
效ナリトシテ之カ法律上ノ保護ヲ許容スルニ於テハ其結果韓國貨幣ノ偽造ナシテ益  
益盛ナラシムルニ至ルヘク之カ爲メニ國際上ノ障害ヲ生スル虞ナシト云フコト能ハ  
ス故ニ如斯目的物ニ關スル買入行爲ハ公ハ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスル民法上無  
效ノモノト謂ハサルヘカラス本件消費貸借ノ基因タル買入行爲ニシテ無効タル以上  
ハ本件消費貸借ノ不成立ニ歸スヘキコト多言ヲ要セザル所ナリ(東京地方四四年(ワ)第  
一六四四號民三判決元年八月二四日西郷裁判長、高橋、高井各判事宣告)

【參照可キ學說】

- 一 公ノ秩序ニ反スルトハ國家ノ生存ヲ維持スルニ必要ナル秩序ニ背反シ其利益ヲ害スルヲ謂フ善良ノ風俗ニ反スルトハ德義上ノ義務ニ反スルヲ謂フ(民法正解債權編五三三頁)
- 二 公ノ秩序ニ關スル法規トハ公共ノ秩序又ハ利益ノ維持、増進ヲ目的トシテ作ラレタル法規ナリ善良ノ風俗トハ法律行爲當時ニ於ケル善良ノ風俗ヲ云フ(中島博士民法釋義四六五頁)
- 三 公ノ秩序ニ反スルトハ國家ノ公共利益ニ反スル場合ヲ謂ヒ善良ノ風俗ニ反スルトハ道德ニ反スルコトノミニ非ス正實ナル人ノ爲サカカ如キモノハ凡テ之ヲ包含ス(岡松博士民法理由上卷一六八頁)
- 四 公ノ秩序ナル觀念ヲ用ヒタルモ亦國家ノ一般ノ利益ヨリ觀察シテ共同團體ノ維持發達ノ要件ニ反スル法律行爲ヲ無効トスルノ謂ナリ善良ノ風俗ノ觀念ヲ以テ法律行爲ノ範圍ヲ制限スルモ公ノ秩序ノ場合ト同シク國家社會ノ健全ナル狀態ヲ保護スルヲ目的トスルモノナリ(鳩山法學士法律行爲乃至時效六一、六二頁)

然リ其當時ニ於テ當該行爲ニ對スル處罰法規ヲ存セサルモ而カモ偽造貨幣ノ取引(偽造貨幣トシテノ取引ニ非ス)ヲ目的トスル法律行爲ノ無効ナルハ右判示ノ如シ從テ其代金ヲ準消費貸借ト爲スモ契約ノ成立セサルハ論ナシ然レトモ果シテ右判旨ノ如ク公ノ秩序ニ反スルモノトシテ無効ト爲ス可キヤ否ヤ疑ナキ能ハス吾人ハ寧ロ善良ノ風俗ニ反スル行爲トナシ之カ無効ヲ主張セント欲ス則チ韓國貨幣ヲ偽造スルモ之カ爲メ直接ニ我帝國ノ生存ヲ維持スルニ必要ナル秩序ヲ破壞シ其利益ヲ害スルモノト謂フヲ得ス之ニ反シテ縱令外國ノ貨幣ト雖モ偽造シタルモノヲ取引スルハ道德上許ス可カラズ故ニ吾人ハ判決ノ理由ニ付反對ノ見解ヲ採ル者ナリ

公序ト別良

舊民二九章

法律ニ於テ家督相續人ト爲ル可キ者ノ順位ヲ定ムルコト左ノ如シ

(三八)

民法施行前ニ於ケル  
遺産相續ノ順位

- 第一 被相續人ノ家族タル卑屬親中親類ノ最モ近キ者
- 第二 卑屬親中親類ノ男子ト女子トアルトキハ男子
- 第三 男子數人アルトキハ其先ニ生レタル者但嫡出子ト庶子又ハ私生子トアルトキハ嫡出子
- 第四 女子ノ數人アルトキハ其先ニ生レタル者但嫡出子ト庶子又ハ私生子トアルトキハ嫡出子
- 第三四 卑屬親カ遺産ヲ相續スル場合ニ於テ第二九五條ノ規定ヲ適用ス

民法施行前ニ於ケル家族ノ遺産相續ノ順位

松岡法學士ハ之ニ答ヘテ云ハク男子カ女子ニ先チテ相續スヘシ其理由ハ民法施行前ニ在リテハ家族ノ遺産ハ同一家族團體ニアル卑屬親之ヲ相續シ若シ同等親ノ男子ト女子トアルトキハ男子カ女子ニ先チテ相續ス是本邦古來ノ慣例ニシテ遺産相續ノ順位ヲ家督相續ノ順位ニ準シタルニ由ル(法學志林第一五卷第三號六五頁以下要領)

然リ吾邦古來(民法施行前ニ於テ)ノ慣例ハ家督相續ト遺産相續トノ區別ニ付明確ナル觀念ヲ存セスシテ兩者同一ノ規矩ニ則トリシコトハ右所論ノ如シ左ニ同趣旨判例ヲ紹介セム

一 死亡者ノ遺産ハ其尊屬ナル戸主ニ屬スヘキモノニ非ス死亡者ノ卑屬ナル長男ニ於テ相續ス可キモノトス(大審院民事判決 錄二六年二卷二一頁同二八年二卷九四頁)

(三九)

五五七 買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ着手スル迄ハ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ヲ解除ス可トヲ得  
主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ヲ解除ス可トヲ得  
第五四五條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

所謂手附金ノ法理

買主契約  
手附金  
解除

民法第五五七條ニハ買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ着手スル迄ハ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ヲ解除ス可トヲ得トアリ手附ヲ以テ契約解除ノ方法トナシタルコト明カナルヲ以テ當事者ニ之ト異リタル特約ヲ爲スカ又ハ特別ノ慣習存在セサル以上手附ヲ以テ契約解除ノ方法ニ過キサルモノト爲ササルヘカラス(東京控訴院元年(ホ)第五七七號民三、判決二年一月二三日岩田裁判長、野田、松山、三橋、三輪各判事宣言)

【參照ス可キ學說】

- 一 手附ハ有體ノ有價物ナリ賣主ニ交付シテ初メテ手附タルノ效チ生ス其有體物タルヲ要スルハ交付ノ文字ヨリ之ヲ知ル(民法正解債權編九七四頁)
- 二 買主カ賣主ニ交付スルハ是レ實際上最モ多數ノ場合ナリ而シテ賣主ヨリ買主ニ手附ヲ交付シタル場合ニモ亦賣主ハ手形ヲ拋棄シ買主ハ其倍額ヲ償還シテ解除ヲ爲スコトヲ得又双方ヨリ手附ヲ交付シタルトキト雖モ双方共ニ其手附ヲ拋棄シテ解除ヲ爲スコトヲ得ルモノト解釋スヘシ(岡松博士民法理由下卷次二六頁)
- 三 當事者カ特ニ意思表示ヲ爲ササルトキハ民法ハ我邦ニ於テ從來一般ニ行ハレタル手附損倍戻ノ慣習ニ着眼シ之ヲ以テ當事者ノ意思ヲ推測スヘキ唯一ノ標準ナリト認メ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリ(横田博士債權各論二八一頁)

當然ノ解釋異論アルコトナシ

(四〇)

四二四 債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行為ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但  
其行為ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行為又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此  
限ニ在ラス  
前項ノ規定ハ財產權ヲ目的トセサル法律行為ニハ之ヲ適用セス

一) 詐害行為廢罷ノ訴ニ於テハ債務者ヲ共同被告ト爲ス必要ナキヤ

(二) 相當ノ對價ヲ以テ土地家屋ヲ賣却スルモ他ニ資力無キトキハ詐害行爲ト云フヲ得可キヤ

(一) 民法第四二四條ニ依ル詐害行爲取消ノ訴ハ惡意ノ受益者又ハ轉得者ニ對シ之ヲ行フヘキモノニシテ債務者ハ相手方タルヘキ適格者ニ非サレハ債務者タル島田治吉ト控訴人中島伴藏トハ必要的共同訴訟タル關係ヲ有セス

(二) 債務者カ本件土地家屋ノ外ニ債務ヲ辨濟スヘキ資力ヲ有セサルニ拘ハラス該不動産ヲ賣却シテ消費シ易キ金錢ニ代ヘタルハ債權擔保ヲ消滅セシムルモノト謂フヘク其代價ノ相當ナルト否トヲ問ハス債權者ヲ害スル行爲タルコト固ヨリ論ヲ俟タス而シテ其買受代金中抵當債權ノ辨濟ニ充ツル爲メ未支拂ニ係ルモノヲ除キ他ノ金圓債務者ノ手裡ニ存スルカ又ハ有益ニ轉換利用シアラハ格別斯ル事實ノ存スルコトハ控訴人ノ主張セサル所ニシテ之ヲ認ムルヲ得ス故ニ評價額ニ關スル書類取寄ノ必要ナシ(東京控訴院四三年(ネ)第一四七號民一判決四五年三月一九日鈴木裁判長、瀨端、成道、鈴木吉田各判事宣言)

【判旨一點ニ付テノ判例學說】

一 本書第一卷民法二〇五頁第二卷七二頁  
二 債權者カ民法四二四ニ依リ請求シ得可キ詐害行爲ノ取消ハ絕對的ニ非スシテ其取消請求權ハ惡意ノ受益者又ハ惡意ノ轉得者ノミニ對シテ存シ債務者ニ對シテハ之ヲ行コトヲ得サルモノトス(大審院民事判決録四四年五九三頁)  
三 取消ノ物體タル行爲カ債務者ノ單獨行爲ナルトキハ債務者ヲ被告ト爲スコトヲ要シ契約ナルトキハ債務者及受益者ヲ以テ共同被告ト爲スコトヲ要ス(石坂博士日本民法債權七三七頁)  
四 詐害行爲廢止ノ訴ハ債務者受益者及最後ノ轉得者ヲ共同被告トス(橫田博士債權總論四五〇頁)

【判旨第二點ニ付テノ判例學說】

五 法律行爲カ單獨行爲ナルナラハ單ニ債務者又ハ其相續人ニ對シテ取消權ヲ行ヒ、契約ナラハ債務者及相手方ニ對シテ取消權ヲ行ヘヨイノテアル、唯其行爲ニ因テ第三者カ利益ヲ受ケテ居ルナラハ之ニ判決ヲ對抗スルニハ之ヲ共同被告ト爲ス必要アル(梅博士法學志林第一卷六號二頁)

六 訴訟ヲ以テ主張スルニハ債權者ハ通常債務者ノ行爲ノ相手方タル者ヲ以テ被告トシ債務者ヲ共同被告トナスノ要ナシ(岡松博士法學新報第一一九號三〇頁)

一 民法四二四ノ規定ニ有價行爲ノ取消サルル場合ハ其對價カ格外ニ低廉ナルトキノミニ限ラス相當ノ對價ヲ以テセラレタルトキト雖モ亦之ヲ適用ス可キモノナリ(大審院民事判決録三九年一三六頁同趣旨同年一三三頁三六一年一七〇頁)

二 債務者ノ出捐アルトキハ出捐其モノニ依リテ損害ヲ受ケタリト云フヲ得可キカ故ニ債權者ハ單ニ之、基キ取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘク反對給付アリシヤ否ヤハ問フ所ニ非ス(石坂博士日本民法債權七〇四頁)

三 債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ處分行爲ヲシタル場合ニ其行爲カ全體ニ於テ債權者ニ不利ナル結果ヲ生シタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得(橫田博士債權總論四五五頁)

四 債權者ニ害ヲ及ボスコトヲ知リタル場合ニ於テハ相當ノ賣買代金ヲ拂ヒタルトキト雖モ債權者ノ取消ニ應セサルヲ得ス(岡松博士民法理由二一五頁)

詐害行爲取消ノ訴ニ於テハ常ニ債務者ヲ被告ト爲ス可キモノト解ス何トナレハ此訴ハ債務者ノ爲シタル行爲ノ取消ノミヲ請求スルモノナレハ他人ヲ被告ト爲ス可キモノニ非サレハナリ其行爲ヲ取消ス訴ニ於テ債務者ヲ被告ト爲スノ要ナシト云フカ如キハ沒理タルヲ免レス故ニ吾人ハ判旨一點ニ贊同セス

詐害行爲ハ其有價ナルト無價ナルトヲ問ハサルコトハ一般學說ニ於テ是認セラレル所ナリ而シテ如何ナル狀態ニ於テ債權者ヲ害スルモノト謂フ可キカハ全然事實問題ニ屬シ抽象的ニ定義ヲ爲ス可キニアラス故ニ判旨二點ニ付テハ深ク茲



二論セス

(四一)

三六九 抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サスシテ債務ノ擔保ニ供シタル不動産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

地上權及ヒ永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本章ノ規定ヲ準用ス

三九四 抵當權者ハ抵當不動産ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ抵當不動産ノ代價ニ先チテ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但他ノ各債權者ハ抵當權者チシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムル爲メ之ニ配當ス可キ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

抵當權者ハ抵當不動産ヨリ辨濟ヲ受クルニ先チ債務者ノ他ノ財產ニ對シ強制執行ヲ爲シ得ルヤ

抵當權者ハ當ニ抵當權ノミナラス債權ナモ併有ス故ニ其債權ニ基キ普通債權者ト同シク債務者ノ抵當不動産以外ノ財產ニ對シ強制執行ヲ爲シ得ルヤ論ヲ俟タス民法第三九四條ハ抵當權者カ抵當不動産ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサル場合ニ於テ如何ナル要件ノ下ニ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得サルカヲ定メタル規定ニ過キス敢テ抵當權者ハ抵當不動産ニ對シ權利ヲ實行シタル後ニアラサレハ他ノ財產ニ對シ強制執行ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノニアラサルナリ(法曹會決議法曹記事第二三卷第三號六七頁以下要領)

然リ抵當權者ト雖モ債務者ノ他ノ財產ニ對シ強制執行ヲ爲ス權利ナキモノニ非ス債務者ノ財產ハ債權者ノ一般擔保ヲ爲スモノナレハ之ニ付辨濟ヲ受クル能ハ

抵當權者ハ他ノ財產ニ對シ強制執行ヲ爲シ得ルヤ

ナル理由ナキノミナラス第三九四條第二項ノ注意ニ見ルモ亦抵當權者ニ其權利ナキモノト解ス可キニ非ス之ヲ債務者ニ他ノ債權者ナキ場合ニ想到セハ思半ニ過キム之レ吾人カ右決議ニ賛同スル所以ナリ

【參照ス可キ學說】

一 抵當權者モ一ノ債權者ナリ唯彼ノ普通ノ債權者ニ比シテ特別ノ擔保ヲ有スルノミ(民法正解物權編一七七頁)

二 他ノ債權者ニシテ希望スルトキハ抵當權者チシテ抵當不動産ノ代價ヲ配當ス可キ場合ノ規定ニ從テ辨濟ヲ受ケシムルカ爲メニ豫シメ之ニ配當ス可キ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ(岡松博士民法理由中卷五七九頁)

三 抵當物ノ代價ニ先チ他ノ財產ノ代價ヲ配當ス可キ場合ニ於テハ抵當權者ハ其債權金額ノ配當ヲ求ムルコトヲ得(馬場法學博士中央大學講義物權法二八六頁)

(四二)

四三二 數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

四四六 保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責ニ任ス

四五八 主タル債務者カ保證人ト連帶シテ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ第四三四條乃至第四四〇條ノ規定ヲ適用ス

四六四 連帶債務者又ハ不可分債務ノ一人ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ對シテ其負擔部分ノミニ付求價權ヲ有ス

四六五 數人ノ保證人アル場合ニ於テ主タル債務力不可分ナルタメ又ハ各保證人カ金額ヲ辨濟スヘキ特約アル爲メ一人ノ保證人カ金額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四四二條乃至第四四四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ非スシテ互ニ連帶セサル保證人ノ一人カ金額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四四六二條ノ規定ヲ準用ス

辨濟ヲ爲シタル連帶保證人カ其請求ヲ爲スニハ主債務者又ハ他ノ連帶保證人ノ

何レニ對シテモ任意ニ之ヲ選擇スルコトヲ得ルヤ

凡ソ數人ノ保證人カ主債務者ト各自連帶シテ債務ヲ負擔シタル場合ニ於テ其保證人ノ一人カ債務ヲ全部辨濟シタルトキハ其者カ主債務者ニ對シテ求償權ヲ有スルコトハ論テ俟タズト雖モ右辨濟ニ因リ他ノ保證人ハ自己ノ保證債務ヲ免カレタルモノナレハ右辨濟ヲ爲シタル保證人ハ他ノ保證人ニ對シテ其者ノ負擔部分ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ヘキハ民法第四六五條第二項第四六二條第一項ノ法意ニ徴シ明カナリ又債務ヲ辨濟シタル保證人ハ必ラス先ツ主債務者ニ對シテ求償權ヲ行使シタル後ニ非サレハ他ノ保證人ニ對シテ其者ノ負擔部分ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得サル規定ナキヲ以テ主債務者ニ對シテ求償スルト他ノ保證人ニ對シテ其者ノ負擔部分ノ辨濟ヲ求ムルトハ辨濟ヲナシタル保證人ノ任意ニ選擇シ得ヘキ所トス而シテ數人ノ債務者アル場合ニ於テハ各債務者ノ負擔部分ハ相等シキモノト推定スヘキコトハ民法第四二七條ニ依リ明カナレハ前示ノ場合ニ於ケル各保證人ノ負擔部分モ相等シキモノト推定ス(東京訴訟院四五年(ホ)第三號大正二年二月八日民四判決岩田裁判長野田、松山、三橋、三輪各判事宣言)

【參照ス可キ學說】

- 一 第四六五條ニハ保證人間ニ連帶アル場合ニ付何等ノ規定ナシト雖モ連帶保證人ニ關シテハ連帶債務ニ關スル規定ハ當然適用セラル(横田博士債權各論七四四頁)
- 二 保證債務カ連帶ナル場合ニ付明言セザル所以ノモテ敢テ言テ俟タサルヲ以テナリ(岡松博士民法理由下卷二一八頁)
- 三 數人ノ保證人カ連帶シテ債務ヲ負擔シタル場合ニ於テハ一人ノ保證人カ全部又ハ自己ノ負擔部分ヲ超ユル辨濟ヲ爲シタルトキハ連帶債務ニ關スル第四四二條乃至第四四四條ヲ適用ス(民法正解債權編三九六頁)

保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ主債務者ニ對シテ求償權ヲ有スルト同時ニ連帶保證人ニ對シテ各自負擔部分ノ求償ヲ爲シ得可キハ多辯ヲ要セス而シテ其何レニ對シテ求償權ヲ行使スルヤハ全ク任意ナリ是レ權利ナルヨリ生スル當然ノ結果ナリ吾人ハ右判旨ニ贊同ヲ表ス

(四三)

- 一九 無効ノ行為ハ追認ニ因リテ其效力ヲ生セス但當事者カ其無効ナルコトヲ知リテ追認ヲ爲シタルトキハ新ナル行為ヲ爲シタルモノト看做ス
- 二〇 當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債務ハ更改ニ因リテ消滅ス
- 二一 條件附債務ヲ無條件債務トシ無條件債務ニ條件ヲ附シ又ハ條件ヲ變更スルハ債務ノ要素ヲ變更スルモノト看做ス
- 二二 務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ發行スル亦同シ
- 二三 更改ニ因リテ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セス
- 二四 消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタルモノト看做ス
- 二五 商法五二五 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ署名スルコトヲ要ス
  - 一 其約束手形タルコトヲ示スヘキ文字
  - 二 一定ノ金額
  - 三 受取人ノ氏名又ハ商號
  - 四 單純ナル支拂ノ約束
  - 五 振出ノ年月日
  - 六 一定ノ満期日
  - 七 振出地
- 二六 同五二六ノ二 振出地ハ之ヲ振出人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス

要件ノ欠缺(振出地ノ記載ナキ)ニ因ル無効ノ約束手形債務ヲ更改シタルトキハ新債務發生

スルヤ

更改契約ナルモノハ舊債務ヲ消滅セシムルヲ以テ目的トスルモノナルカ故ニ舊債務存在セザルトキハ消滅セシムヘキ目的物ナク從テ更改契約ハ成立セザルモノナルヲ以テ本件ノ如キ舊債務タル手形債務カ成立セサル以上ハ更改契約モ又成立セザルモノトス被控訴代理人ハ假リニ更改契約ノ基本タル手形債務カ手形ノ振出地記載ノ欠缺ニヨリ手形カ無効ナル爲メ不成立ナリトスルモ控訴人ハ更改契約ニヨリ之カ追認ヲナシタルモノニシテ該無効ハ法律ノ規定ニ基クモノナルカ故ニ控訴人モ其無効ナルコトヲ知リテ追認ヲナシタルモノトナスヘキヲ以テ民法第一一九條ニ依リ更改契約ハ有效ナリト抗辯スト雖モ更改契約ハ舊債務ノ消滅ヲ目的トスルモノナルカ故ニ控訴人カ單ニ更改契約ヲナシタリトノ事實ヲ以テ直チニ前記約束手形ノ欠缺ヲ追認シタルモノト認メ難キノミナラス手形ノ振出ニハ一定ノ要件ヲ必要トスルカ故ニ其振出行爲ヲ追認セントスルニハ更ニ適式ナル振出行爲ヲナスヘキ方法ニ依ラサルヘカラサルヲ以テ本件ノ如キ更改契約ヲ以テ其追認ヲナシタルモノト爲スコトヲ得ス(東京控訴院四五年(ホ)第四三一號二年一月一日民三判決岩田裁判長、野田、松山、三橋、三輪各判事)

【參照ス可キ學說】

- 一 更改トハ舊債務ヲ消滅セシメ新債務ヲ發生セシムルコトヲ内容トスル契約ナリ(川名博士債權總論三六九頁)
- 二 更改ハ債權ノ要素ヲ變更シ因リテ以テ新債務ヲ發生セシメ舊債務ヲ消滅セシムル契約ナリ(横田博士債權總論九六五頁)
- 三 更改ハ舊債務ヲ消滅セシムル目的ヲ以テ新債務ヲ發生セシムル契約ナリ(岡松博士民法理由下卷三三五頁)

然リ舊債務ノ無効ナル場合ニ於テハ更改契約トシテハ成立セス從テ新債務ヲ發生セシムルコト無キハ詢ニ右判示ノ如シ但注意ヲ要スルハ手形ノ無効ナルヲ知リテ而カモ新債務發生ノ契約ヲ爲シ單ニ更改ト命名シタルモノナランニハ更改トシテ無効ナルハ前述シタルカ如キモ新債務負擔ノ意思表示トシテハ無効ナルノ理由ナキハ蓋シ疑問ノ餘地ナカラム

四四

至當

五八〇

買戻ノ期間ハ一〇年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之チ一〇年ニ短縮ス

買戻ニ付期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス

買戻ニ付期間ヲ定メザリシトキハ五年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

民法施行法三一 民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從テ但其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

同三二 前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

同三四 第三〇條乃至第三二條ノ規定ハ時効期間ノ性質ヲ有セザル法定期間ニ之ヲ準用ス

不動産ノ買戻期間

大正元年(ナ)第九八號一二月二十一日言渡東京控訴院民事第一一〇部ノ判決ニ依レハ民法施行前ノ買戻契約ニ付据置期間ヲ設ケ其後何時ニテモ買戻シ得ヘキコトヲ定メタル場合ニ於テハ民法第五八〇條第三項ヲ適用スヘキニアラス同條第一項ヲ適用スヘキモノトス而シテ同法第一項適用ノ結果据置期間經過後ハ何時ニテモ買戻權ヲ行フコトヲ得ヘキモノナレハ今日ニ於テモ尙買戻權ヲ喪失セザルモノト謂ハレタリ此判決ハ前

段ニ於テ吾曹ノ贊同スル所ナルモ後段ノ理由ニ至リテハ遽ニ贊同スルコト能ハス  
 民法第五八〇條第一項ハ同條第三項ノ期間ト何故ニ異ナリタル性質ヲ有シテ法定  
 期間ト解シ一ヲ契約期間ト解セサル可カラサルヤ蓋シ當事者カ契約ヲ以テ定ムルカ  
 故ニ契約期間ト爲スモノノ如シ然レトモ同條第一項ノ期間ハ抽象的ニ定メタル期間  
 ニシテ當事者ノ意思ニ基クモノニアラス法律カ公益保護ノ必要上權利行使ノ時期ヲ  
 其期間内ニ定ムヘキコトヲ要求シ其期間以外ニ權利行使ノ時期ヲ定メタルトキハ其  
 超過部分ノ效力ヲ阻却セシメタルモノトス然ラハ共ニ當事者ノ意思ヲ以テ左右スル  
 コトヲ得サル不變期間ニシテ第一項ノ期間ト第三項ノ期間ト別種ノ性質ヲ有スルモ  
 ノト解スルヲ得ス單ニ一ハ當事者カ買戻權行使ノ時期ヲ定メタル場合ノ制限期間ニ  
 シテハ何等行使ノ時期ヲ定メサル場合ノ制限期間ナリト解シ共ニ民法施行法ニ所  
 謂法定期間ナリト信ス辯護士古屋三氏第法律新聞第八五一號第六頁以下要領)

至當ノ見解贊同ヲ表ス其詳細ナル理由ニ付テハ本書第二卷民法六四頁以下ヲ參  
 照セラル可シ

五二 法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クコトヲ要ス  
 理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ別段ノ定メナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス  
 五三 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ス又社團法人  
 ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス  
 民法施行法二八 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及佛堂ニハ之ヲ適用セス  
 明治一〇年太政官布告第四三號 神社寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルコトキ若クハ金穀ヲ借入ルル爲メ社寺

(四五)

檀家ナキ寺院カ貸借ヲ爲ス方法

附地所(除稅地ヲ除クノ外)建物什器(實物古文書類ヲ除クノ外)等ヲ抵當トナストキハ必ラス氏子檀家ト協議シ總代  
 二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ  
 モノトナスヘシ此旨布告候事

檀家ナキ寺院ノ住職カ信徒總代ノ連署ヲ以テ貸借ヲ爲スハ寺借トシテ有效ニシテ明  
 治一〇年布告第四三號ニ依リ住職ノ私債ト看做スヘキモノニ非サルコトハ當院判例  
 ノ存スル所ナリ蓋シ寺院ハ法人タル實質ヲ具有シ適法ノ代表機關ヲ以テスレハ特ニ  
 法令ノ禁止セサル限り通常法人ノ爲シ得ヘキ法律行爲ハ總テ之ヲ爲ス能力ヲ有ス可  
 キナリ而シテ明治一〇年布告第四三號カ寺院ノ貸借ニ付檀家總代ノ連署ヲ要スルハ  
 寺院ノ財産ヲ保全スル爲メ代表者タル住職ノ私擅行爲ヲ防遏シ其利益ヲ保護スル趣  
 旨ニ出テタルモノナルヲ以テ檀家ナクシテ信徒ノ連署ヲ以テ貸借ヲ爲スニ於テハ寺借トシ  
 テ享受セザル理由アル可カラス信徒總代ノ連署ヲ以テ貸借ヲ爲スニ於テハ寺借トシ  
 テ有效ナルモノト謂フ可ク寺院カ檀家ヲ有スル日ヲ特チテ僅カニ法律行爲ヲ爲シ得  
 ルモノト論スヘキモノニアラス又寺院ノ財産ハ檀家信徒等ノ寄附ニ成ルコト多キヲ  
 以テ檀家ト信徒トハ其性質ニ於テ異ナル所アルモ寺院ノ財産ヲ保全スル關係ニ於テ  
 ハ彼是區別ヲ設クヘキモノニアラス(大審院元年(一)第一一〇號判決二年一月三日民二  
 宣告)

當然ノ解釋異論アルコト無シ其詳細ハ本書第一卷民法(六三)ヲ參照セラル可シ